

総合分析実験センター 自己点検評価報告書

平成29年度

目次

1. 部局等の目的・目標	2
2. 部局等の概要	3
3. 領域別の自己点検評価	5
(1) 教育支援の領域	5
(2) 研究支援の領域	7
(3) 国際交流・社会貢献の領域	9
(4) 組織運営の領域	11
(5) 施設の領域	12
4. 外部評価	13
5. 明らかとなった課題および課題に対する改善の状況・方策	14
6. 総括	17
7. 業務等集計データ	18
8. センター利用実績	21
(1) 平成29年度利用実績の概要	21
(2) センター利用実績の動向	21
(3) センター施設、設備・機器利用数および利用機器	26
(4) センター利用者の業績および外部資金	31
・ 表彰一覧	31
・ 著書	32
・ 原著論文	34
・ 総説・資料・解説・論説・研究報告・総合雑誌の論文	56
・ 症例報告	59
・ 一般講演・招待講演・特別講演	64
・ 外部資金	148
(5) センター教職員による業績および外部資金	152

1. 部局等の目的・目標

佐賀大学総合分析実験センターは本学における教育研究の総合的支援を目的とした全学共同施設である。本庄地区と鍋島地区それぞれに「生物資源開発部門」、「機器分析部門」、「放射性同位元素利用部門」および「環境安全部門」の4部門を設置しており、これらの4部門が機能的に連携して学内の研究教育を総合的に支援することで、本学における生命、環境、材料等の研究およびこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を目指している。

総合分析実験センターの目標は、本学の第3期中期目標・中期計画として、以下の項目が定められている。

■教育環境の整備に関する目標

中期目標:学内共同利用施設として、学部教育ならびに大学院教育に対する支援を行う

中期計画:センター専任教員が学部・研究科および全学教養機構での講義の一部を支援ができるようにする、または、これまで行ってきた講義に加えて、新たに講義を受け持つ

■研究成果の地域・社会への還元に関する目標

中期目標:地域・社会に対する機器・設備開放と技術支援

中期計画:学部、産学・地域連携との共同作業による研究技術拠点化。共同研究提案の核となる

■研究の質の向上にシステムに関する目標

中期目標:部門再編と人員再配置（新規配置ならびに職位見直しを含む）によるセンター研究体制の増強

中期計画:具体的な部門再編と人員再配置を検討する。検討項目の中には、①支援内容とその分担の見直し、②専任教員が配置されていないため業務に支障を来している環境安全部門業務への対応、③本学の教育・研究レベル強化・上昇へこれまで以上に積極的な形で貢献できる新たなプロジェクト部門の設置、④前項と関連して、トップジャーナルに論文が発表でき、大型予算が確保できる可能性の高い人材の確保（例えば特任教員の採用など）、などが含まれる。検討の後、現在の部門体制を時代にマッチしたものに再編し、それに見合う教職員配置（担当）を見直す。特に技術系職員の再配置により、教員と職員の職務分担の見直しを行い、教員はより研究に、職員はより支援に特化して業務を行うことにより、センターの研究能力を強化する。また、新たな教職員配置ならびに職位見直しを行い、より一層の研究能力増強を行う

■研究環境の整備に関する目標

中期目標:より高度かつ先進的な研究支援体制の構築

中期計画:老朽化・陳腐化機器の更新ならびに新規機器の獲得等による研究支援環境の整備。新規研究手法の獲得と発信による研究支援能力向上。必要性が高いサービスへの集中と必要性が低いサービスの廃止による支援業務の効率化（外部委託との調和を含む）。本学に必須の研究環境の維持・改善（RI 実験）。RI 実験施設利用者減少への対応（老朽化した機器・設備の更新、新規機器導入による利用の呼び起こし、新たな RI 実験手法の紹介・提案と、共同・受託研究の実施によるサービス向上など）

■地域を志向した教育・研究に関する目標

中期目標:地域・社会への機器・設備開放と技術支援による地域の学術拠点としての、また技術習得拠点としての確立

中期計画:研究技術拠点としての産学官包括連携協定への参画、協力。地域（企業、NPO、他大学等を含む）向け公開技術講座の開催

■教育研究組織編成の見直しに関する目標

中期目標:部門再編と人員再配置（新規配置ならびに職位見直しを含む）によるセンター研究体制の増強

中期計画:現在の部門体制を時代にマッチしたものに再編し、それに見合う教職員配置（担当）を見

直す。特に技術系職員の再配置により、教員と職員の職務分担の見直しを行い、教員はより研究に、職員はより支援に特化して業務を行うことにより、センターの研究能力を強化する。また、新たな教職員配置ならびに職位見直しを行い、より一層の研究能力増強を行う

■財務内容の改善に関する目標

中期目標:大型研究機器設備のセンター集中管理の推進による財務改善（予算最適化）

中期計画:業務運営の改善及び効率化（1. 組織運営改善）:施設整備関連経費の重点的集中による学内資産（研究機器・設備関連）の重複・冗長化見直しによる財務改善（予算最適化）。具体的には、大型研究機器設備予算申請のセンター集中化、既存学部等管理機器・設備の情報収集と、センターへの管理運営権限委譲

■情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標:国民への説明責任を果たす情報公開

中期計画:情報公開の必要な項目について調査を行う。学内の関連委員会等と連携し、情報公開項目の項目・内容等について見直し、多様な手段で学外への情報発信を行う。また、特に動物実験については、第三者による検証を受ける

■法令遵守に関する目標

中期目標:法令を遵守した遺伝子組換え実験、動物実験、RI 実験、化学実験等に対する適切な支援の実施

中期計画:法令遵守の推進。教育訓練体制の充実。教職員への啓蒙活動。関連業務への専任教職員の配置ならびにセンター業務体制の見直し

2. 部局等の概要

佐賀大学総合分析実験センターは、社会的な要請度の高い生命、環境、材料等の研究やこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を総合的かつ効果的に支援する体制を構築するために、平成 14 年 4 月 1 日に、「機器分析センター」、「放射性同位元素実験室」を、それぞれ「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、さらに、新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立された。平成 15 年 10 月 1 日の佐賀医科大学との統合にあたり、同医科大学の動物実験施設、実験実習機器センター、RI 実験施設を加え、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」および「放射性同位元素利用部門」の 3 部門からなる全学的な研究教育支援施設となった。さらに、平成 18 年度に「環境安全部門」を新設し、これらの 4 部門が連携して学内の理工、農、医、文化教育学分野の研究教育を総合的に支援している。各部門は、佐賀大学の本庄地区と鍋島地区にそれぞれに配置されており、平成 29 年度はセンター長（兼任）、副センター長（兼任）、准教授 4 名、助教 2 名、教務員 2 名、技術専門職員 2 名、技術員 5 名（うち 1 名は再雇用）、非常勤職員 4 名、研究支援推進員 1 名から構成されている（次ページ図：平成 28 年度総合分析実験センターの構成および人員配置を参照）。

総合分析実験センター4部門が担当する支援業務を以下に列挙した。また、各部門において最も深く関与する学部について示した

生物資源開発部門

遺伝子組換え実験等と動物実験に関する教育、研究、講習、教育訓練および安全管理ならびに動物福祉に配慮した実験動物の飼育管理
本庄地区:農学部、鍋島地区:医学部

機器分析部門

大型高性能分析機器類の維持管理、総合的な分析・測定に関する教育と研究、分析機器の使用講習会および教育訓練
本庄地区:理工学部、鍋島地区:医学部

放射性同位元素利用部門

放射性同位元素等の利用に関する教育と研究、放射性同位元素等安全取扱講習会および安全管理
本庄地区:農学部、鍋島地区:医学部

環境安全部門

環境分析機器の安全管理と教育講習、環境整備および環境分析に関する研究の支援、環境問題に関する共同研究の受入れおよび相談窓口、環境問題についての教育および情報提供、および学内環境安全業務
本庄・鍋島地区(両地区):全学部(リサイクルファシリティ、作業環境測定(有機溶剤))

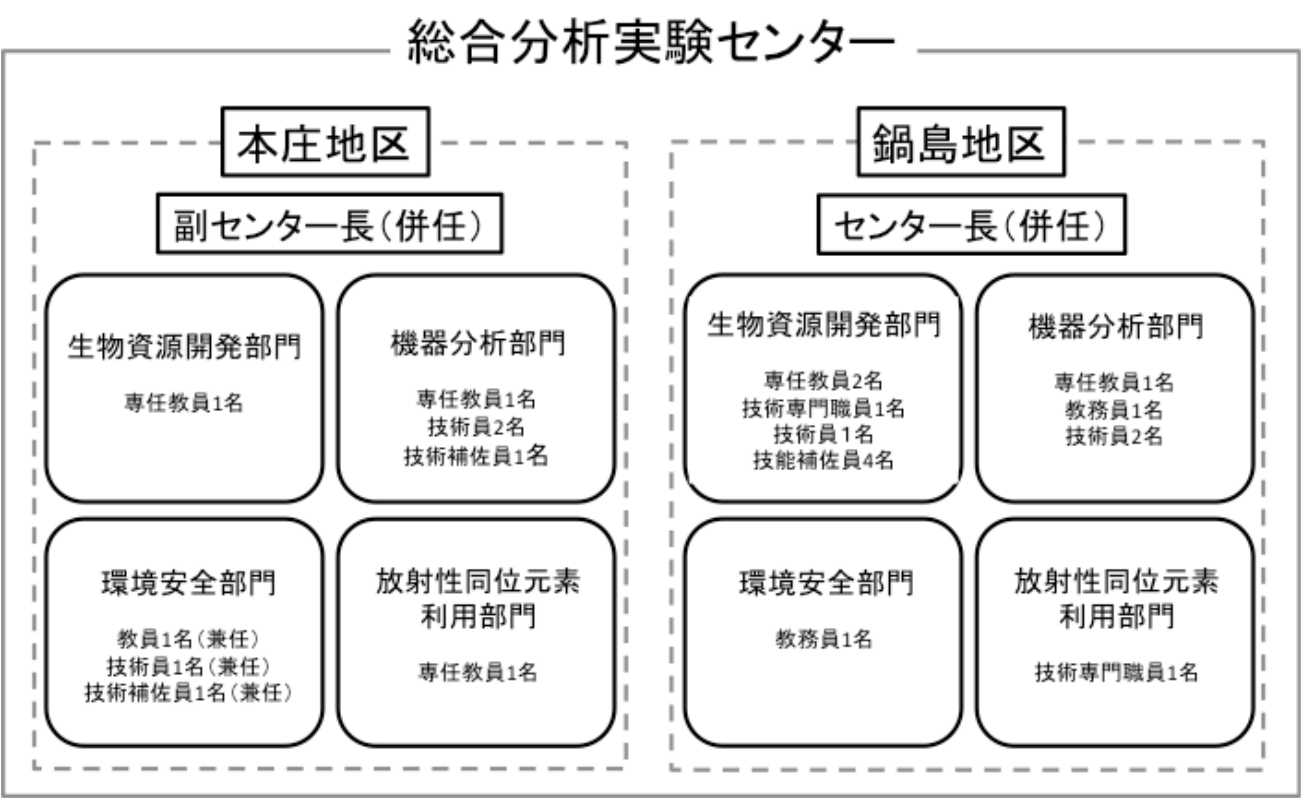


図:平成 29 年度総合分析実験センターの構成および人員配置

3. 領域別の自己点検評価

(1)教育支援の領域

ア 教育支援環境に関する事項

総合分析実験センターを基盤として、実験機器類および生物資源の維持・開発と放射性同位元素利用に関する設備の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備するため、以下の事項を中心に取り組んだ。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 共同利用可能機器に関する情報をウェブページに公開し、共同利用機器の予約申込み、予約状況ならびに運用状況の確認をオンラインでできる体制を整えている。また、機器分析部門鍋島地区においては利用者メーリングリストを構築し、機器運用に関して迅速な情報提供を行う体制を整えている。機器分析部門本庄地区においても、平成 28 年度から利用者メーリングリストを構築し運用を開始している。
- 2) 学外研究機関に所属する教職員等が総合分析実験センターを利用できるよう、平成 19 年度より本庄地区において「受託試験」(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)を開始している。また、平成 22 年度からは鍋島地区の機器分析ならびに放射性同位元素利用両部門においても「受託試験」を開始した。今後も情報の周知と、受託可能な機器の拡充を図っていく予定である。
- 3) 機器利用システムのさらなる改善および共同利用機器数の増加を図るため、共同利用可能機器の調査依頼を全学に対して行い、共同利用可能機器の増加に努めるとともに、老朽化等により利用できなくなった機器については整理を行っている。平成 29 年度末現在の共同利用可能機器は全 147 台であり、そのうち本庄地区に 40 台、鍋島地区(鍋島機器部門と鍋島放射性同位元素利用部門) 107 台が設置されている(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>)。
- 4) センター機器および施設を利用する教員、学生等の研究成果、外部資金獲得状況に関する情報収集を毎年度行っている(8 センター利用実績を参照)。
- 5) センター利用状況を毎年度集計し、その集計結果をもとにセンターにおける教育訓練環境の整備、改善を図っている。

イ センターが行う教育に関する事項(使用法、安全、規則等に関する教育)

総合分析実験センターが関わる施設・機器の使用法や法令・規則等の教育に関して、教職員や学生及び関係者に対して必要な教育活動を行い、その教育訓練体制の整備・改善を図るため、以下の事項に取り組んだ。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 放射線および放射性同位元素の取扱に必要な放射線業務従事者講習会は、本庄地区と鍋島地区でそれぞれ行っている。受講者への便宜を図るため、どちらの地区でも受講できるようにしている。
- 2) 放射線業務従事者登録の便宜を図るため、本庄地区では、新規登録申込者に対する教育訓練は年 2 回行っており、さらに 5 名以上の希望者がいる場合には随時教育訓練を実施している。更新者用の教育訓練は、12 月から 3 月にかけて年 4 回開催している。鍋島地区では 4、5、8、9 月にそれぞれ新規および更新教育訓練を行うことに加え、要請に応じて随時、教育訓練を実施している。
- 3) 動物実験に関する教育訓練を学内の「動物実験委員会」と連携し、年 2 回、本庄地区と鍋島地区で実施している。これ以外にも、希望者に対しては随時、教育訓練を実施している。また、動物実験の実験計画書の作成の相談、指導、事前審査、受付業務を行っている。
- 4) 本庄地区および鍋島地区における遺伝子組換え実験に関する教育訓練を主導している。平成 21 年度からは新たに、英語による教育訓練も開始している。また、遺伝子組換え実験申請書の提出前の内容確認を行い、申請者への便宜を図っている。
- 5) センターが直接または間接的に関与して行われる教育訓練の際、アンケート調査を行い、利用

- 者のニーズの把握に努めている。
- 6) 機器分析部門鍋島地区では、適宜、利用者ミーティングを開催し、利用者からのニーズを把握するとともに円滑な共同利用環境の醸成を図っている。
 - 7) 環境安全部門を統括する本庄地区機器分析部門の専任教員は、本庄地区環境安全衛生委員会メンバーとして安全巡視や簡易作業環境測定業務を実施しており、理工学部循環物質化学科安全衛生委員会メンバーとして同学科の安全衛生管理に貢献している。同部門鍋島地区を担当する教務員は医学部安全衛生委員会メンバーとして鍋島キャンパスの安全衛生管理に貢献している。
 - 8) 既に作成済みのマニュアル・手引きについて、更新が必要なものは随時更新を行なっている。
 - 9) 機器分析部門鍋島地区では、機器導入機器の説明会や最新研究動向を知るための説明会およびデモンストレーションを 8 回、設置機器利用の習熟度向上のための機器利用講習会を 1 回行っている。
 - 10) ウェブページ(http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/Nagoya_Protocol/) 等など様々な方法で名古屋議定書についての本学の対応を周知している(H29 年度～開始)。

(本年度事項)

- 11) 動物実験に関する教育訓練について、定期に実施される教育訓練に加え、利用者の希望に応じて教育訓練を計 26 回実施し、利用者の便宜を図るとともに、動物実験計画書 89 件の作成指導・事前審査を実施した。
- 12) 生物資源開発部門本庄地区の教員1名が、今後の教育訓練に活かすために、「第 10 回遺伝子組換え実験安全研修会」に参加して、遺伝子組換え実験の安全管理に関する情報を収集した。
- 13) 環境安全部門「衛生管理士受講者講習会」の講師を務め、各部局の衛生管理士増加への補助を実施。
- 14) 生物資源開発部門鍋島地区の教員 1 名が、今後の教育訓練に活かすために、「日本実験動物協会主催の教育セミナーフォーラム「実験動物の飼養及び保管等に関する基準解説書改訂の背景並びに基準の適正な理解と運用のために」」に参加し、実験動物の適切な飼育管理に関する情報を収集した。
- 15) 名古屋議定書を周知するイベントを二回開催した(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/20170421.pdf>、<http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/20170512.pdf>)。

ウ センター教職員が行う、学部等における教育活動に関する事項

専任教員および技術職員は、センター利用者に対する教育訓練などの支援だけでなく、教養教育運営機構及び関連学部と協力し学部および研究科の教育にあたっている。以下に専任教員が担当する講義名を示す。

機器分析部門(本庄) 専任教員 1 名	全学「佐賀環境フォーラム(インターフェース)」 「佐賀環境フォーラム I(インターフェース)」 「教員のための環境教育」 「環境保全(概論 II)」 「作業環境測定概論」 「環境教育 II(インターフェース)」 「学内活動実習 I」 「学内活動実習 II」 「実験化学 I(分担)」 理工学部「分離化学」 「環境化学」 「循環物質化学」 「大学入門科目(分担)」 「機能物質化学実験 I(分担)」 「循環物質化学特別実習・演習(前後期)」 大学院工学系研究科博士前期課程「物質環境化学特論」 「融合循環物質化学特論」 「基礎反応化学特論(分担)」 「循環物質化学セミナー(分担)」 「循環物質化学特別演習(分担)」 「基礎反応特論(分担)」 「Advanced Environment Chemistry of Material」
生物資源開発部門(本庄) 専任教員 1 名	基本教養科目「生命科学の世界 B」 農学部「分子細胞生物学」 「生化学実験(分担)」 「専門外書講読(分担)」 「演習(分担)」 大学院農学研究科「分子細胞生物学特論」 「細胞情報学特論」 「先端分析科学特論 II(分担)」 「生命機能科学特論(分担)」 「生命化学演習(分担)」 「農学総合講義(分担)」

放射性同位元素利用部門 (本庄) 専任教員 1 名	農学部「生化学実験(分担)」 「専門外書講読(分担)」 「演習(分担)」 「生命化学概説(分担)」 「基礎放射線科学」 大学院農学研究科「先端分析科学特論Ⅱ(分担)」
機器分析部門(鍋島) 専任教員 1 名	基本教養科目「インターフェース～現代社会と医療Ⅳ」 大学院医学研究科修士課程「生体傷害分析法」「実験検査・機器特論」 大学院医学研究科博士課程「機器分析法」「アイソトープ実験法」 環境キャリア教育プログラム「環境科学Ⅰ」、「環境科学Ⅲ」、「環境対話Ⅱ」、「環境教育Ⅱ」
生物資源開発部門(鍋島) 専任教員 2 名	基本教養科目「生命科学の基礎B(実験動物学)」 医学部「基礎科系実習(分担)」、「基礎系選択科目(発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製)」、「研究室配属プログラム(発生工学手法を用いた疾患モデル動物の作製)」 大学院医学研究科修士課程「実験動物学特論」、「基礎生命科学研究法」、「基礎生命科学研究実習」 大学院医学研究科博士課程「動物実験法」

(2) 研究支援の領域

ア 学術・研究活動に関する事項

センターの活動を通じて本学における学術・研究の推進を図るため、学内外との共同研究の推進、学外研究プロジェクトへの参画、シンポジウム等の開催を中心に取り組んでいる。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 生物資源開発部門鍋島地区では、医学部、および農・理工・文教学部とも連携できる研究テーマの一つとして、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子改変ウサギの開発とそれを用いた分子病理学的研究を行っている。これに関して、総合分析実験センターにおいて開発・維持されている遺伝子改変ウサギを他の研究機関に分与するとともに共同研究を推進している。
- 2) 機器分析部門鍋島地区では、教員 1 名が放射線医学総合研究所(平成 20 年度～)、ならびに京都大学原子炉実験所(平成 21 年度～)で共同利用研究員として活動し、放射線がん治療の基礎研究をテーマに共同研究を行っている。また、学外では広島大学大学院医歯薬学研究科教員ならびに近畿大学工学部教員と、学内では理工学部教員と共同研究を行い、論文発表1件、学会発表 5 件を報告した。また、今年度より、放射線災害・医科学研究拠点事業の共同研究に採択されている(受入機関、広島大学)。
- 3) 生物資源開発部門本庄地区では、開発したプラスミド DNA の分与を行っている。
- 4) センター各部門共同でセミナーを開催し、センター専任教員を中心とした部門間連携を強めるとともに、センターを中心として学内外との連携が可能な研究プロジェクトの検討を行っている。
- 5) 機器分析部門本庄地区専任教員 1 名が長崎県商工連携ファンド事業助成金を受け、長崎大学、京都工芸繊維大学、および一般企業とともに藻場再生に関する共同研究を行なっている。

(本年度事項)

- 6) 生物資源開発部門鍋島地区で開発・維持している遺伝子改変ウサギを分与した(国内 1 機関、計 24 匹)。
- 7) 生物資源開発部門本庄地区で開発したプラスミドを国内の研究者(2 件)に分与した。なお、これらプラスミドは研究成果有体物として佐賀大学に知的財産登録しており、分与を希望する研究者との交渉は産学・地域連携機構の知財戦略・技術移転部門(TLO)が行った。
- 8) 総合分析実験センターセミナーとして、外部講師を招き 5 回のセミナーを開催した(7.業務等集計データを参照)。

イ 研究支援環境に関する事項

本学全体およびセンターにおける研究環境の改善、また、大学間の連携を高めて情報共有や機器の相互利用を推進のため、次のことに取り組んでいる。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 3. (1)アー4)に示すように、共同利用可能機器に関する調査結果に基づいて、共同利用可能機器の増加を図っている。また、機器の運用状況がインターネットを通じて確認できるようにするなど、ホームページの改善も図っている。
 - 2) 低利用頻度機器および譲渡希望機器の収納スペースを整備し(リサイクルファシリティ)、譲渡を希望する機器について情報を収集しホームページで情報開示するシステムの運用を開始している。また、HP やメールを利用してリサイクルファシリティの周知を図り、年度末などに向けてファシリティの活用を案内している。運用開始から平成 29 年 3 月 31 日までに 102 物品の譲渡を完了している。
 - 3) 大学連携研究設備ネットワークに 3 台の機器を登録しネットワーク利用機器の充実を図り、共同利用機器の利用活性化に協力している。
 - 4) 動物実験に関して、研究テーマに即した飼育室・実験室の改善を図っている。特に、遺伝子組換えマウスの飼育スペースの不足に対して、設備や飼育器材の充実に向けて可能な限り対応している。
 - 5) 生物資源開発部門鍋島地区では、学内研究者への研究支援としてマウス精子・胚の凍結保存、体外受精胚移植による個体作製、遺伝子改変動物の作成、動物実験手技の技術指導等を行っている。
 - 6) 学外研究機関等による総合分析実験センター利用のために、本庄・鍋島両地区機器分析部門において「受託試験」を行なっている(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
 - 7) 他大学の共同利用可能機器に関する情報を大学内に発信している。
 - 8) 他大学へ総合分析実験センター内の共同利用可能機器に関する情報を発信している。
 - 9) 国立大学法人生命科学研究機器施設協議会に参画し、設備の大学間相互利用をはじめとした活動に協力している。
 - 10) 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会に参画し、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」へ対応するための活動に協力した。
 - 11) 「国立大学法人動物実験施設協議会」に参加し、動物実験および実験動物に関連する情報収集、意見交換を行なった。また、協議会の調査等に協力した。
 - 12) 平成 21 年度から研究支援推進員1名を継続して採用している。
- (本年度事項)
- 13) 総合分析実験センターQ&A を改訂し、センターユーザーだけでなく学内に広くセンター業務を周知するとともに、教職員ならびに学生に対する研究情報支援を行った。さらに、Q&A 英語版を作成、発行し(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>)、留学生に対するセンター業務の周知および支援を行っている。本 Q&A については、毎年改訂を行い、アップデートな情報提供を行なっている。
 - 14) 環境安全部門鍋島地区では、前項2)に関連して、鍋島地区ユーザーの利便性を高めるため、平成 23 年度より鍋島地区リサイクルファシリティを運用している。平成 29 年度の譲渡実績は 5 物品であった(施設利用実績を参照)。
 - 15) 生物資源開発部門鍋島地区の技術職員 1 名が、「第 23 回高度技術研修会(ゲノム編集マウス・ラット作製)」に参加し、最先端技術の習得を行った。

ウ センター職員による研究活動に関する事項

センターでは、研究支援活動と並行して、教職員がそれぞれ独自の研究テーマを持ち研究を行っている。個々の専門分野で高いレベルの研究に携わり、その研究活動や研究交流を通じて最新の研究成果や情報を入手することにより、センターの教育研究支援の向上と、本学の研究教育の推進に貢献している。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 生物資源開発部門本庄地区では、様々な生物のオミックスをテーマに研究を行っている。鹿児島大学農学部、鹿児島大学理学部、琉球大学農学部、熊本大学薬学部、京都大学生態学研究センター、龍谷大学農学部、Renewable Natural Resources Research Centre Wengkhaw (ブータン)、マンドレー大学(ミャンマー)、雲南農業大学(中国)、お茶の水女子大学、佐賀県果樹試験場、佐賀大学農学部などと共同研究を行っている。
- 2) 生物資源開発部門鍋島地区では、部門の研究テーマとして、1)ヒト疾患モデルとしての遺伝子改変ウサギの開発と医学研究への応用、2)ウサギ精子および胚の凍結保存に関する研究に取

組んでいる。共同研究先:山梨大学、神戸大学、秋田大学、ミシガン大学(アメリカ)、西安交通大学(中国)。

- 3) 機器分析部門本庄地区では、自然界の土壌や水中に存在する腐植物質の構造特性、機能特性に関する研究を地球科学分野、原子力開発分野、農業分野等の研究者と共同して行っている。
- 4) 佐賀県医療法人「好生館」、佐賀大学、佐賀県、リサイクラー等との協働プロジェクト「医療機器リサイクル処理標準化プロジェクト」を立ち上げ、地域創生への取り組みをサポートしている。
- 5) 機器分析部門鍋島地区では、放射線や環境因子による DNA 傷害とその修復機構を生化学的、分子遺伝学的に検討し、生物の遺伝情報維持機構を明らかにするべく、准教授 1 名、教務員 2 名、技術員 1 名が協力して研究を行っている。また同准教授 1 名は、放射線医学総合研究所ならびに京都大学原子炉実験所の共同研究員として、放射線がん治療に関する基礎研究をテーマに共同研究を行うとともに、学内外の教員と共同研究を行っている(佐賀大学理工学部、広島大学、近畿大学)。また、今年度より、放射線災害・医科学研究拠点事業の共同研究に採択されている(受入機関、広島大学)。
- 6) 放射性同位元素利用部門本庄地区では、昆虫の味覚・嗅覚機能の解明および摂食行動調節メカニズムに関する研究を行っている。
- 7) 各部門に配置されている技術系職員(含教務員)の研究への参画を促進しており、一部の技術系職員は独自の研究テーマに取り組んでいる。さらに、共同研究員として分析、調査を担当している。

(本年度事項)

- 8) 平成 29 年度の研究成果は、原著論文 5 報、総説・資料・解説・論説・研究報告・総合雑誌の論文 0 報、学会発表・招待講演など 30 件、外部資金獲得は 7 件であった。研究成果の詳細は「8. センター利用実績」に記す。
- 9) 継続事項(4)において、現在医療機器循環システム協議会の立ち上げ作業を実施している。

(3)国際交流・社会貢献の領域

ア 教育における社会連携・貢献に関する事項

センターでは各センター教員の専門研究分野および各部門の特色を活かした社会貢献、地域社会との連携、他大学との教育における連携および地域に貢献する教育活動として以下の事項に取り組んでいる。

(継続して取組んでいる事項)

- 1) センター教員が担当する講義インターフェース課目「佐賀環境フォーラム I,II の一環として、学内に整備運営したビオトープを用い鈴虫のイベントを実施し、保育園スタッフを含む地域市民と連携して、佐賀環境フォーラムワークショップ“環境教育”グループによる紙芝居を通じた地域の幼稚園児や小学生への環境教育を行い、同時に市民への憩いの時間を提供した。学生運営スタッフを指導しながら年 2 回(春と秋)の大学構内および近隣を流れるクリークの河川清掃を近隣自治会と協力して実施、運営しており毎回 60~100 名程度の参加者とともに社会へ貢献している。
- 2) センター職員が理事を務めるNPO主催で佐賀の伝統的な農業イベント「ごみくい」を企画し、学生約 40 名とともに参加した。
- 3) 本庄地区環境安全部門専任職員は学内を流れる河川清掃を近隣自治会(佐賀大学前自治会)とともに、年 2 回企画実施している。
- 4) 学生活動「チャリさがさいせい(チャリさ)」の顧問として、学内、および周辺アパートの放置自転車の回収・修理・販売・譲渡を行い、学内や近隣地域の放置自転車撲滅運動に貢献している。また同グループは地域のイベント「佐賀城下ひな祭り」「さがバルーンフェスタ」の期間中に再生自転車を用いたレンタサイクルを実施し、一般市民に①放置自転車の撲滅、②循環型社会の推進、③自動車を使わない省資源・健康な観光を提案し環境に関する啓蒙活動に貢献している。
- 5) 平成 22 年度より、本学文化教育学部附属中学校育友会が行なっている「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」に協力し、センター教員が講義を行なっている。
- 6) 産業環境管理協会が実施する「公害防止管理者等資格認定講習」において「大規模水質特論」を2回行った。

(本年度事項)

- 7) センター教員は、他大学・研究教育機関などでの講義・実習も担当している。広島大学大学院理学研究科における講義「遺伝子化学Ⅱ」、大川看護福祉専門学校における講義「生化学」、武雄看護リハビリテーション学校における講義「解剖生理学」を担当した。群馬大、実験動物学 非常勤講師
- 8) 本学文化教育学部附属中学校育友会が行っている「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」では、「分析機器の世界をのぞいてみませんか」を開講した。
- 9) 佐賀県教育センターの講座「高校生物Ⅰ講座」に協力して、高校理科教員を対象にして、DNA配列決定を指導した。
- 10) 「ものづくり技術者育成講座」の講義を担当した。
- 11) 科学研究費における研究成果の社会還元・普及事業「ひらめきときめきサイエンス」に採択され、講義および実験を行った。
- 12) センター教員が共同で公開講座「一緒に研究しませんか～佐賀大学総合分析実験センターの紹介～」を実施した。
- 13) センター教員が公開講座「DNAの世界 遺伝子をその化学構造から探る」を実施した。
- 14) 佐賀大学で開催された「平成 29 年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修 B」に鍋島地区教職員が講師として参加・協力した。
- 15) 佐賀大学の平成29年度研究者海外派遣事業に「ミャンマーにおけるカンキツの探索と現地研究機関での DNA 分析」という課題名で採択され、ミャンマーのマンドレー大学の学生に DNA 分析実験を指導した。

イ 研究における社会連携・貢献に関する事項

学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図るため、また学外の研究者との連携を深めるとともに、地域社会の研究推進や学会活動に貢献するため、以下のことに取り組んだ。

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 平成 19 年度から「受託試験」を開始している (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
- 2) 地域に貢献する研究支援活動を行うために、佐賀大学産学連携推進機構を活用し、同機構のホームページからの情報発信に協力している。
- 3) 産学官連携機構「徐福ラボ」との連携により、地域の民間会社からの技術的相談に対応している。

(本年度事項)

- 4) センター教員(生物資源開発部門鍋島地区の教員)が平成 30 年度に開催予定の国内学会のアドバイザーとして参加、学会の開催準備に協力した。

ウ その他国際交流・社会貢献に関する事項

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) ホームページを通じて、開発したベクターDNA を国内外に分与する活動を行っている (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/pSU0/>)。
- 2) 日本腐植物質学会副会長として、学会の運営に貢献している。
- 3) 環境関連の三つの NPO の理事として活動に協力している。
- 4) 毎年開催される韓国・大邱大学校とのジョイントセミナーに協力している。
- 5) 佐賀市環境審議会のメンバーとして佐賀市の環境行政に助言を行っている。
- 6) 佐賀市水質調査専門委員として佐賀市の環境行政に助言を行っている。

(本年度事項)

- 7) センター教員 1 名が佐賀市の委託を受け、佐賀市空き家等審議会委員として活動した。
- 8) センター教員 1 名が佐賀市の委託を受け、佐賀市環境マネジメントシステムにおける内部環境監査委員として活動した。
- 9) センター教員(生物資源開発部門鍋島地区の教員)が The 7th International Congress on Rabbit Biotechnology Forum (25-27 Aug 2017) 参加し、研究発表を行うとともに同学会に参加した研究

者と意見交換を行った。

- 10) センター教員1名が佐賀県立図書館協議会委員として佐賀県立図書館の運営に対し助言を行っている。
- 11) 佐賀大学の平成29年度研究者海外派遣事業に「ミャンマーにおけるカンキツの探索と現地研究機関での DNA 分析」という課題名で採択され、ミャンマーのミッチーナ大学の教員と共に探索すると共に、マンダレー大学において DNA 分析実験を行った。

(4)組織運営の領域

ア 教育研究組織の編成

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 本庄地区と鍋島地区のテレビ会議システムを活用して会議を行っている。
- 2) 年間数回のスタッフ会議を開催し(本年度は2回開催)、研究支援、財務、組織運営などに関する方針や問題について討論している。

イ 管理運営に関する事項

(継続して取組んでいる事項)

- 1) 自己収入の増加を図ることも一つの目標として、学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「受託試験」を行っている(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
- 2) 平成 19 年度からセンター教員が本庄地区 RI 実験施設の作業環境測定を行っている。
- 3) 環境安全部門本庄地区は理工学部の実験実習、および大学入門課目において安全教育を担当し、安全教育に対する啓蒙をはかっている。
- 4) 環境安全部門鍋島地区は業務委託費の節約を図るため、必要箇所における作業環境測定(有機溶剤)を自ら実施している。

ウ その他組織運営に関する事項

(継続して取組んでいる事項)

- 1) センター教員 2 名が「佐賀大学版環境教育」の実行委員として活動している。
- 2) 環境安全管理に関して、機器分析部門鍋島地区准教授1名が危険物取扱者資格取得および特別管理産業廃棄物主任の資格を取得し、鍋島地区のこれら業務を担当している。
- 3) 化学物質管理システム(CRIS)の全学運用に関して、鍋島地区機器分析部門准教授1名が管理主担当となり、環境安全衛生管理室と協力している。
- 4) 機器分析部門鍋島地区准教授1名は鍋島地区の国際規制物資管理者として関連業務を担当している。
- 5) 鍋島地区 RI 実験施設の作業環境測定を自ら行うため、同施設放射線取扱主任者である機器分析部門鍋島地区教員が資格を取得した。鍋島地区では、教務員1名が同資格(有機溶剤)を取得し、作業環境測定に協力するとともに、衛生工学衛生管理者を取得し、同資格が要求される附属病院衛生管理者を複数名確保することに協力し、同衛生管理者として選任されている。
- 6) その他、大学運営に関わる事項として、センター各教員が、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会、放射性同位元素等安全管理委員会、鍋島キャンパスエネルギー管理協議会、環境安全衛生室会議、医学部安全衛生委員会、エコアクション全学委員会、同医学部委員会委員、医学部エネルギー対策委員会などに参画し、また、様々なワーキンググループに参画するなどして、その専門知識を活かして大学運営に貢献している。

(5)施設の領域

ア 施設、設備等に関する事項

(継続して取り組んでいる事項)

- 1) 総合分析実験センターとしての「災害対策マニュアル」を全学的なマニュアルと整合性をとりながら作成し、ホームページ上で公開している(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>)。なお、放射線施設に関しては、放射線障害予防規程に「地震等の災害時における措置」について定めている。また、動物実験施設においても動物実験における「緊急時対応マニュアル」を作成している。
- 2) 近年の研究方法の進歩により、動物実験施設の利用形態も多様化してきている。また、法令遵守、動物福祉の観点から実験動物の飼育環境の整備・改善も重要な課題となってきた。利用者からのニーズに合わせ先端的研究の効率な推進、法令遵守、動物福祉への対応等を考慮し施設設備の整備・更新等の予算措置を申請している。
- 3) 平成 24 年度鍋島地区放射性同位元素利用部門の改修を行い、管理区域を 2/3 に縮小し、管理区域解除部分を鍋島地区共用スペースとして整備した。
- 4) 放射性同位元素利用部門(本庄地区)では、実験施設の有効活用のため、故障等によって使用できなくなった大型機器を順次廃棄処分している。

(本年度事項)

- 5) 放射性同位元素利用部門(鍋島地区)では、8 月に定期検査・定期確認を実施した。

4. 外部評価

平成29年度の外部評価は実施しない(隔年実施が可能になったため)。

5. 明らかとなった課題および課題に対する改善の状況・方策

平成 28 年度の自己点検・評価書において「新たな改善すべき点」として記載した項目、およびその改善状況(部局内で対応すべき課題のみを抜粋)

機器分析部門(本庄地区)

課題:機器分析部門(本庄地区)では紫外可視近赤外分光光度計や核磁気共鳴装置等の共同利用汎用機器の老朽化・陳腐化が進んでいる。設備更新の努力を重ねるとともに、実験設備の機能を維持できるようにメンテナンスに配慮が必要である。

改善の状況および対策:共同利用機器の機能維持へのメンテナンスの必要性について、ユーザーへの負担、相互扶助への理解を求めるとともに、概算要求等での機器の更新を図る。

改善状況:学内措置として、NMR 装置の修理を実施する予定。

生物資源開発部門(本庄地区)

課題:DNAシーケンサー(サンガー法によるもの)による研究支援を行っている。この研究手法が陳腐化した。改善の状況および対策: 新技術・次世代シーケンサーに関する講習会を行った。また、平成27年度連合農学研究科先進的研究推進事業(2,000千円)(代表者:永野)を獲得し、学内研究者の新研究手法への参入を促進した。(2015年6月20-21日 第一回総合分析実験センター実習コース「次世代シーケンサーで得られたデータの解析の実践」を開催。農学系四名、基礎医学二名、臨床一名の参加者。90分×10回。)(2015年7月12日および26日 第二回総合分析実験センター実習コース「次世代シーケンサーで得られたデータの解析の実践」を開催。農学系七名、臨床一名の参加者。90分×10回。)

改善状況:国内の多くの大学に先駆けて、名古屋議定書およびそれに対応する国内指針に対応する体制を整えた。

環境安全部門(鍋島・本庄両地区)

課題:再活用室を含むリサイクルファシリティの稼働率が悪いこと。自前作業環境測定対応が遅れていること。

改善の状況及び対策:部門運営を鍋島地区と統合し、課題解決に務める。担当職員に資格取得を行わせるために環境安全衛生室と検討を行う。

改善状況:部門運営を鍋島地区と統合し、鍋島地区担当職員と本庄地区担当職員の2名体制で課題解決に努める。尚、前年度の課題であった再活用室を含むリサイクルファシリティ運用については鍋島地区と統合し、鍋島地区担当職員が統括することにより改善された。

放射性同位元素利用部門(本庄地区)

課題:実験施設および設備機器の老朽化・陳腐化が顕著であり一部の機器は故障により利用不可能であるため、設備更新を図りユーザーが利用しやすい実験環境を整備する必要がある。特に放射線環境モニタリング装置(水、ガスモニタ)、液体シンチレーションカウンタ、X線照射装置などの機器の更新が必要と考えられる。これらの設備は、施設の管理運営、作業環境測定、並びに放射性同位元素を利用した研究において必須な機器である。

改善の状況および対策:放射線を利用した研究に必要な機器について、概算要求を行っている。また施設の老朽化についても、学内営繕により改修を行う予定である。

改善状況:放射線を利用した研究に必要な機器について概算要求等の資金獲得を目指す、また、汎用的な実験機器の整備を行い、研究環境の整備を引き続き行う。放射線管理に関する会議等に参加し情報の収集を行う。

機器分析部門(鍋島地区)

課題:研究設備の更新が滞っているため、老朽化・陳腐化、または故障して利用不能なものがあり、それらの更新が必要である。また、研究手段の進化により、新たな研究設備の導入も必要である。

改善の状況及び対策:利用料金の見直しによる受益者負担原則の実施と予算要求による設備の更新整備の実現。教職員のトレーニングを行い、自前メンテナンス、自前修理を実施することによる経費節減。利用状況ならびに利用者の要望を把握することによる必要な研究設備への資源投入の集中とその結果としての経費節減。

改善状況:修理費用の軽減については、学外研修への参加ならびに学外講師招聘等により教職員のトレーニングを行い、自前メンテナンス、自前修理を実施できる研究設備を増やすことにより対応することができた。老朽化設備の更新については、利用料金の見直し、学外利用を可能とするシステムの構築、学内余剰設備の調査と共同利用化、大学連携研究設備ネットワークの効率的利用、競争的外部資金等の獲得等の活動を行って、目的を果たそうとしている、学外利用を可能とするシステムの構築については現在関係部署と検討を行っており、来年度を目処に実施できる予定である。大学連携研究設備ネットワークに同ネットワーク共用機器としての修理費用を申請したが採択されなかった。競争的外部資金等については先端研究基盤共用促進事業ならびに設備サポートセンター事業に申請したが採択されなかった。今後もこれらの資金獲得に注力する。

平成 29 年度の自己点検・評価書に「改善すべき点」として記載、および平成 29 年 12 月までの改善状況を暫定として記載(平成 30 年 3 月までの状況は平成 29 年度の自己点検・評価書に記載する)

機器分析部門(本庄地区)

課題:発光量子収率測定装置、水平型 X 線構造回折装置などが故障しているので、更新再生の努力が必要である。

改善の状況および対策:H30 年度から採択された JST の先端研究基盤共用促進事業(新たな共用システム導入支援プログラム)の経費や学内装置により、これら機器を修理できた。

生物資源開発部門(本庄地区)

課題:遺伝子組換え実験の安全管理に携わっている。本学でこれまで前例がなかった大臣確認実験を行いたいと要望があったために、それに対応する体制を整える必要がある。

改善の状況および対策:体制を整えた。また、文部科学大臣に提出した書類は承認された。

環境安全部門(本庄地区)

課題:有機溶剤・特化物の自社作業環境測定を本庄地区で行うには、2 名以上の作業環境測定士の有資格者が本庄地区に必要であるが、有資格者がおらず、鍋島地区の有資格者に頼っている。そこで、新たに本庄地区の技術員 1 名が資格取得を行い、円滑に実施できる体制を整備する必要がある。

改善の状況および対策:本庄地区の技術員 1 名が新たに有機溶剤・特化物の資格を取得した。現在、作業環境測定については鍋島地区担当職員と本庄地区担当職員が相互に連携して、作業を行っている。しかし、代理となる者がいないこと、及び、過剰負担が課題である。

放射性同位元素利用部門(鍋島・本庄両地区)

課題:放射線利用研究における昨今の変化に対応し、当部門が担当する教育訓練の見直しが必要である。来年度の法改正に合わせて見直しを実施し、ユーザーが研究しやすい環境を整備することが重要である。また、引き続き、放射線管理に関する会議等に参加し情報の収集を行う。

改善の状況および対策:研究環境整備のため、汎用機器の更新を行った。9 月に東京大学で開催された大学等放射線協議会に参加し、来年度に迫った予防規程改正に関わる情報を得るとともに、今後の放射線業務管理のありかたについての情報も収集した。

機器分析部門(鍋島地区)

課題:新規導入および更新設備に対する取扱い説明や運用ルール策定など体制整備を行う。また、他大

学での研究設備に関する事故例を受けて、学内利用者へ対しての安全講習が必要である。

改善の状況及び対策:老朽化設備の更新のために、医学部と連携し、一部の設備は更新を行う事が出来た。新規導入設備および更新設備に対して、随時、取扱い説明を行い、利用者への周知と利用体制整備を積極的に行った。今後は、研究の幅に応じた設備の拡張が課題である。

学内余剰設備の調査を行い、研究設備データベースを作成・公開し、共同利用設備の拡充をおこなった。また、学外利用を可能とするため、学外者利用規程、学外者利用料金等を制定し H30 年 4 月より一部の設備で学外利用を開始した。学外利用対象設備の拡充は、今後の課題である。

学外利用体制が整ったことで、今後、大学連携研究設備ネットワークを今後効率的に利用し、修理費用の軽減、技術職員のスキルアップ等に努める。

事故報告を受けて、学内利用者へ対し遠心機の安全講習を実施した。

生物資源開発部門(鍋島地区)

課題(継続):平成 25 年度に受けた動物実験に関する外部評価において、「ウサギの飼養保管状況において、ケージサイズが小さいため、一部のウサギが日常的な動作を行うための空間が十分に確保できていない懸念がある。」との指摘があり、国際基準に対応した大型ケージへの更新が課題となっている。

改善の状況および対策:既存の設備も老朽化しており、大型ケージへの改修転用は不可であり、器材の更新のための予算措置が必要である。しかし、高額な費用が必要なため、センターの運営費からの支出は困難。更新のための費用獲得に向けて予算申請に努めたが、予算獲得に至っていない。引き続き予算獲得に努める。

課題(新規):外部からの動物搬入増加、生殖工学支援サービスの開始に伴い動物の検疫隔離室が不足しており、動物搬入の遅延、支援サービスの順番待ちなどから利用者の研究の速やかな遂行に支障が生じてきている。

改善の現状および対策:効率よく検疫隔離が実施できるよう、部屋単位の検疫隔離飼育からビニールアイソレータを使用した器材単位での飼育に変更することを検討している。そのためには、器材の更新が必要となる。設備マスタープランにあげてある導入年度の前倒し、必要器材の再検討等の見直しを行っている。

課題(新規):動物実験施設の排水処理設備は、貯水槽、汲み上げポンプ、固液分離装置、これらの自動運転の制御システム(制御配電盤)よりなるが、設置年数が 39 年となり、配電盤の不具合により、マグネットスイッチ不良、過電流等による運転停止が頻発している。制御配電盤は、これまでの修理、配線変更の繰り返しにより現状の配線図面が不明となっており、これ以上の修理が不可能となっている。また、貯水槽にオーバーフロー管が設置されておらず、満水エラー・故障などの警報も中央監視室へ通知される仕様となっていないことから、緊急停止後、貯水槽が満水を超えるとそのまま汚水が動物実験施設の南側の歩道まであふれ出す状況となっている。

改善の現状および対策:故障時は、施設職員が業務の合間に手動で対応しているが、対応に時間をとられ施設の日常業務に支障を来している。マスタープランに挙げた更新予定年度を見直し(早める)、早急に更新のための費用獲得に向けた予算申請を行う。

6. 総括

平成 29 年度は教員の一般運営費が大幅に削減されてから2年目であり、ユーザーによるセンター利用動向が大きく変動することが予想され、結果として各部門により差はあるものの利用数の減少が確認された。運営費の削減は継続されており、今後も利用者の動向を注意深く確認して行く必要がある。しかし、平成 28 年度の運営費削減より、利用数が減少しているものの、依然としてセンターによる支援が学内の研究活動に恒常的に寄与していることは明らかである。また、センター利用によって得られた業績数は依然として多く、本センターが教育・研究支援組織としての役割を十分に果たしていることがわかる。本年度の外部資金獲得件数および総額は大幅に減少している。しかし、センター利用状況は昨年度と大きな変動はなく、センターの研究教育支援との因果関係は不明である。本年度の外部資金獲得の減少は、来年度のセンター利用に大きな影響を及ぼす可能性があるため、引き続きデータの収集を行うことが重要と言える。

本センターに所属する教員はそれぞれ独自の研究テーマを持ち、各教員がそれぞれ研究成果を挙げている。さらに、こうした研究活動や研究交流を通じて、センターの研究支援レベルの向上に寄与するとともに、その専門知識・技能・資格あるいは保有設備を活かして講義・実習を担当することにより、教育に直接関わるほか、委員会活動を通じて本学の運営にも貢献している。また、センターでは、学会活動や地域社会の研究推進や環境保全活動などに積極的に参加・協力しており、これらの活動が、地域社会あるいは国内外における本学に対する評価を高めている。

しかしながら、センターの保有機器、あるいは施設の老朽化が顕著であり、教育・研究の支援に支障を来していることは大きな問題となっている。本問題は、概算要求による大型機器の更新および施設の改修によって徐々に改善されているものの、まだ充分とは言えない。従って、施設の改修や新しい機器の導入のための概算要求などを継続して行い、それに加えて、現有の機器の保守・施設の維持管理に関わる学内の予算措置の要求を行っていく必要がある。さらに、機器の保守管理に必要な技術職員が不足しており、施設の大きさおよび保有機器数に見合った人員の確保が重要と考えられるが、昨今の大学環境の状況を鑑みれば、人員増はかなり困難なことであることが予想されることから、業務ならびに設備の現状を的確に把握し、その改善、見直しを図ることにより、人的資源を投入する業務ならびに設備の取捨選択と集中化が必要であり、そのことについて重点的に取り組む事が重要である。また、センターの予算的自立による設備更新費用や修理費用の確保については、利用者数増加の取り組みや学外利用、受託試験の増加計画等により取り組む必要があると考えられる。以上の自助努力を行った上で、佐賀大学における教育・研究支援組織の中核として位置づけられている総合分析実験センターの支援環境整備に、大学全体のご理解とご協力をお願いしたい。

7. 業務等集計データ(センター教職員が実施・開催したもの)

(1) 研修・作業環境測定の集計データ

(2) 研修等

研修名	開催日	参加人数
動物実験に関する教育訓練(定期)	H29.7.13、7.14	17
動物実験に関する教育訓練(不定期)	H29.4.16、4.17、4.19、5.1、6.14、6.20、6.21、6.23、7.13、7.18、7.31、8.8、9.4、9.5、9.9、10.2、10.23、10.31、12.25、H30.1.15、1.25	25
動物実験に関する教育訓練(学部実習)	H29.10.16、10.17	106
動物実験に関する教育訓練(大学院講義等)	H29.6.5-7.31、9.7、H30.3.8	13
放射線障害防止法に基づく教育訓練	H29.4.11、12	39
放射線障害防止法に基づく教育訓練(不定期)	H29.5.12、6.12、9.12、11.29	8
第1回衛生管理担当者説明会	H29.7.18	53
第2回衛生管理担当者説明会	H30.2.5	50
第1回 CRIS 利用講習会	H29.5.30	35
第2回 CRIS 利用講習会	H30.2.5	30

作業環境測定

単位作業場所	回数	対象物質
附属病院 中央診療棟 1 階 材料部 オートクレープ室	2	エチレンオキシド
附属病院 中央診療棟 2 階 検査部血液生化学検査室	2	キシレン
附属病院 中央診療棟 2 階 検査部血液生化学検査室	2	メタノール
附属病院 中央診療棟 2 階 検査部血液生化学検査室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟 3 階 病理検査室内(検体処置室)	2	キシレン
附属病院 中央診療棟 3 階 病理検査室内(迅速・手術臓器処置室)	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟 3 階 病理検査室内(固定臓器切出し室)	2	ホルムアルデヒド
附属病院 中央診療棟 3 階 病理検査室内(特定化学物質廃液類保管庫)	2	キシレン
附属病院 中央診療棟 3 階 病理検査室内(特定化学物質廃液類保管庫)	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟 1 階病理解剖部 解剖室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟 1 階病理解剖部 固定室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟 1 階病理解剖部 切出し室	2	ホルムアルデヒド
附属病院 東病棟 1 階病理解剖部 材料保存室 3	2	ホルムアルデヒド
基礎研究棟 1 階 病因病態科学病理学 標本作製室 2126	2	ホルムアルデヒド
基礎研究棟 1 階 病因病態科学病理学 標本作製室 2126	2	キシレン
院生研究棟 4 階 内科学 内科共同第 2 研究室 2454	1	ホルムアルデヒド
基礎実習棟 1 階 生態構造機能学(解剖学・人類学)処置室	2	ホルムアルデヒド
基礎実習棟 1 階 生態構造機能学(解剖学・人類学)系統解剖実習室	1	ホルムアルデヒド
院生研究棟 3 階 胸部心臓血管外科	2	キシレン
基礎研究棟 3 階 分子医化学 大実験室 2335	2	メタノール

基礎研究棟 3 階 分子医化学 小実験室 2351	2	キシレン
基礎研究棟 3 階 総合分析実験センター機器分析部門超遠心機室	2	メタノール
理工学部 1 号館 1 階 物理科学科 研究実験室 A 107	2	ノルマルヘキサン
理工学部 9 号館 4 階 機能物質化学科 共同実験準備室 (2)406	2	アセトン ノルマルヘキサン メタノール クロロホルム イソプロピルアルコール
理工学部 9 号館 5 階 機能物質化学科 合成化学実験室 (4)513	2	アセトン ノルマルヘキサン ジクロロメタン 酢酸エチル メタノール エチルエーテル トルエン
理工学部 9 号館 6 階 機能物質化学科 合成化学実験室 (2)608	2	N,N-ジメチルホルムアミド
理工学部 9 号館 6 階 機能物質化学科 合成化学実験室 (2)611	2	アセトン ノルマルヘキサン ジクロロメタン 酢酸エチル メタノール N,N-ジメチルホルムアミド
理工学部 9 号館 7 階 機能物質化学科 無機化学実験室 (1)709	2	アセトン ジクロロメタン ノルマルヘキサン
理工学部 9 号館 7 階 機能物質化学科 分析化学実験室 (1)711	2	アセトン
理工学部 9 号館 7 階 機能物質化学科 分析化学実験室 (2)712	2	アセトン
理工学部 9 号館 8 階 機能物質化学科 無機化学実験室 (2)810	2	メタノール
理工学部 9 号館 8 階 機能物質化学科 無機化学実験室 (3)811	1	アセトン ノルマルヘキサン メタノール クロロホルム N,N-ジメチルホルムアミド
理工学部 9 号館 8 階 機能物質化学科 無機化学実験室 (3)811	1	アセトン ノルマルヘキサン メタノール N,N-ジメチルホルムアミド
農学部 1 号館 2 階 機能高分子化学 機能高分子化学実験室 1S-220	2	酢酸エチル メタノール
農学部 1 号館 2 階 機能高分子化学 機能高分子化学実験室 1S-231	2	アセトン
農学部 1 号館 2 階 環境分析化学実験室 1P-302	2	アセトン ノルマルヘキサン ジクロロメタン

(2)開催セミナー・機器利用説明会・取扱説明会・デモ機設置の実績

総合分析実験センター開催セミナー

開催番号	演者	演題	場所	日時
第 1 回	ベックマンコールター株式会社	遠心機ロータの安全な使用方法 ハンズオントレーニング	医学部院生研究棟 2 階 2287 室 医学部基礎研究棟 3 階 2326 室	H29.6.8
第 3 回	ミルテニーバイオテック(株) フィールドサービス部門 中山創平	フローサイトメーターの測定原理とその多様な応用例	医学部院生研究棟 2 階 2287 室	H29.11.14
第 5 回	ベックマン・コールター株式会社	新型フローサイト アプリケーションセミナー	医学部院生研究棟 2 階 2287 室	H30.3.13

機器利用講習会（学内限定）

機器名	メーカー	場所	開催日
共焦点走査型レーザー蛍光顕微鏡 LSM 5 PASCAL	カールツァイス	医学部基礎研究棟 2 階 2234 室	H29.4.24～25
マルチラベルプレートリーダー EnVision	パーキンエルマー	(セミナー)医学部院生研究棟 2 階 2287 室 (講習会)医学部臨床研究棟 4 階 2432 室	H29.7.21・25
ケミルミイメージングシステム FUSION	エムエス機器	医学部臨床研究棟 4 階 2432 室	H29.11.20～21
共焦点レーザー蛍光顕微鏡 LSM880+Airyscan Fast 蛍光画像解析ソフトウェア Imaris	カールツァイス	医学部基礎研究棟 2 階 2234 室	H29.12.7～8・13～14

デモ機設置（学内限定）

機器名	メーカー	場所	開催日
共焦点レーザー走査型蛍光顕微鏡 A1+	ニコンインステック	医学部基礎研究棟 2 階 2234 室	H29.5.16～19
共焦点レーザー走査型蛍光顕微鏡 LSM880+Airyscan Fast	カールツァイス	医学部院生研究棟 2 階 2282 室	H29.6.28～7.5
微量分光光度計 NanoPhotometer	ワケンビーテック	医学部基礎研究棟 3 階 2327 室	H30.1.16～19
細胞自動解析装置 CytoFLEX S	ベックマン・コールター	医学部院生研究棟 2 階 2286-2 室	H30.3.14～16
デジタルマイクロスコープ	Hirox	理工学部 9 号館 1 階 106 号室	H29.9.14

8. センター利用実績

(1) 平成29年度利用実績の概要

平成 29 年度のセンター施設利用者は、延人数 53,377 名であり、センターに設置している設備・機器利用回数は、延 35,275 回であった。また、センター利用者の業績は、著書 27 報、原著論文 246 報、総説、解説、資料など 35 報、受賞 8 件、症例報告 58 報、学会発表、招待講演など 872 件、外部資金獲得は、42 件で総額 78,343,000 円である。センター専任の教職員の業績は、原著論文 5 報、総説・資料・解説・論説・研究報告・総合雑誌の論文 0 報、学会発表・招待講演など 30 件、外部資金獲得は 7 件で総額 9,100,000 円であった。

(2) センター利用実績の動向

センター利用実績およびユーザー業績の集計値および年次変動を表および図にまとめた。

まず、センターの利用実績について、今年度の施設利用数(のべ人数)は、53,377 人であり多くのユーザーに利用されていることがわかる(表 1)。平成 25 年度から鍋島地区機器分析部門ののべ利用人数を集計値に加えたため、当年度以降に大幅にユーザー数が増加した(表 1、図 1)。本庄地区機器分析部門および本庄地区生物資源利用部門においては出入管理システムを所有していないため、のべ人数を把握することは困難であるが、本庄地区の機器利用数は 5,198 件(のべ使用回数)であることから、多数のユーザーによって利用されていることは明らかである(表 1)。本庄地区の機器利用数(のべ回数)は例年と比較し大きく減少しているが、これは平成 27 年度から生物資源開発部門における DNA シークエンサーの利用回数の算出方法を総シークエンス数からのべ利用回数に変更したためである。しかし、平成 27 年度と比較し、機器利用数(のべ回数)および生物資源開発部門における総シークエンス数は減少傾向(約 2000 サンプルほど減少)にあるといえる。RI 実験施設は本庄・鍋島の両地区とも他部門と比較しユーザーのべ利用回数は少ないが、年次変動を見る限り、常に一定の研究活動を支援していることがわかる(表 1、図 2)。近年、学外の放射線施設を利用するユーザーが増加し、それらユーザーの放射線業務従事者登録に必要な教育訓練を両地区 RI 施設ともに実施している。よって、数字としては表示されにくいものの、本学の放射線利用研究に貢献していると言える。学内で唯一の実験動物飼育施設を有する鍋島地区生物資源開発部門における飼育頭数は、ウサギを除き減少しているものの、昨年同様に多数の実験動物の使用保管がなされており、本学の研究教育に大きく貢献していることがわかる(図 7、8)。鍋島地区機器分析部門は大幅にユーザー数を増加させている。業務の見直しや改善等により、利用数や利用率を向上させ、さらなる支援の強化が進んでいるといえる。ユーザー利用実績の年次変動は大きいものの、常に一定の業績が維持されていることから、センターが本学の教育・研究において恒常的に支援センターとしての役割を果たしていると考えられる(表 1、図 1、図 2、図 3)。

昨年度から新たに鍋島地区環境安全部門が担当するリサイクルファシリティ、再活用室の集計値を加えた(表 1)。リサイクルファシリティおよび再活用室が利用されることで、各教員・研究室が所有する設備・機器の有効利用が促進されており、学内の資産運用に大きく貢献している。

次に、ユーザー業績について、外部資金の総額を除きユーザー業績は昨年度から大きく増加している(表 2、図 4、図 5、図 6)。このことについて、センター利用実績は例年とはほぼ変動がないため、その理由の詳細については把握が困難である。主として各ユーザーの努力の賜物と考えられるが(表 1、表 2、図 1、図 4、図 5、図 6)、センターはそれらユーザーの研究・教育を支援していることから、学内の研究活動に貢献し、ユーザーの研究資金獲得に間接的に寄与していると言える。また、学会発表などの研究業績に多くの学生(博士・修士課程、および学部学生)が関与しているため、センターの支援業務は本学の研究教育に貢献していることが分かる(データ未記載)。しかしながら、平成 28 年度は教員の一般運営費(研究費)が大きく削減された初年であり、一部のユーザー利用においては明らかな減少が確認できる。現在も運営費削減が継続されているため、今後も注意深くユーザー利用状況を確認し、支援センターとして本学の研究教育に貢献する方策を検討することが最重要課題といえる。

表 1. センター利用実績の集計値

1) 利用実績の動向											
		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	備考
施設利用	動物実験施設	10,559	11,491	12,862	10,855	12,922	12,165	12,865	10,949	10,370	のべ人数
	鍋島地区機器分析部門					37,662	33,412	26,952	43,045	41,153	のべ人数
	IR実験施設(鍋島)	1064	1407	1066	937	1071	847	911	538	1,216	のべ人数
	IR実験施設(本庄)	800	750	487	452	475	489	494	830	638	のべ人数
	合計	12,423	13,648	14,415	12,244	52,130	1,336	41,222	55,362	53,377	のべ人数
機器利用	鍋島	24,289	13,261	14,759	14,981	19,446	11,818	21,070	31,042	30,077	のべ回数
	本庄	11,418	18,597	21,736	21,327	21,001	17,995	6,979	5,317	5,198	のべ回数
	合計	35,707	31,858	36,495	36,308	40,447	29,813	28,049	36,359	35,275	のべ回数
リサイクルファシリティ	環境安全部門	23	3	9	26	16	1	6	5	13	件数
再活用室	環境安全部門					1	17	36	7	9	件数
動物実験飼育頭数	マウス	2,711,530	2,587,800	2,592,215	2,838,345	2,840,095	2,543,299	2,143,610	1,344,255	1,274,225	のべ頭数
	ラット	38,887	40,860	50,004	56,592	64,628	71,823	79,095	49,567	53,015	のべ頭数
	ハムスター	0	0	0	0	5,129	2,667	2,674	1,609	6,885	のべ頭数
	ウサギ	65,358	73,454	75,239	61,240	59,300	46,958	21,654	24,567	36,213	のべ頭数
	イヌ	5,736	5,388	229	5	0	0	0	0	0	のべ頭数
	ブタ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	のべ頭数
	モルモット	30	101	366	180	273	0	0	0	0	のべ頭数

表 2 ユーザー業績の集計値

		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	備考
業績	著書	7	19	42	23	38	16	63	30	27	のべ件数
	学術論文	119	161	268	211	215	109	273	315	246	のべ件数
	総説・解説・その他	25	45	97	62	56	22	112	63	35	のべ件数
	学会発表など	452	462	637	599	622	381	1,282	1,209	872	のべ件数
	受賞							11	8	8	のべ件数
	症例報告							41	43	58	のべ件数
外部資金	件数	88	67	89	149	109	65	135	116	42	のべ件数
	総額	179,250	140,780	213,555	382,782	243,433	126,009	235,904	201,966	78,343	千円

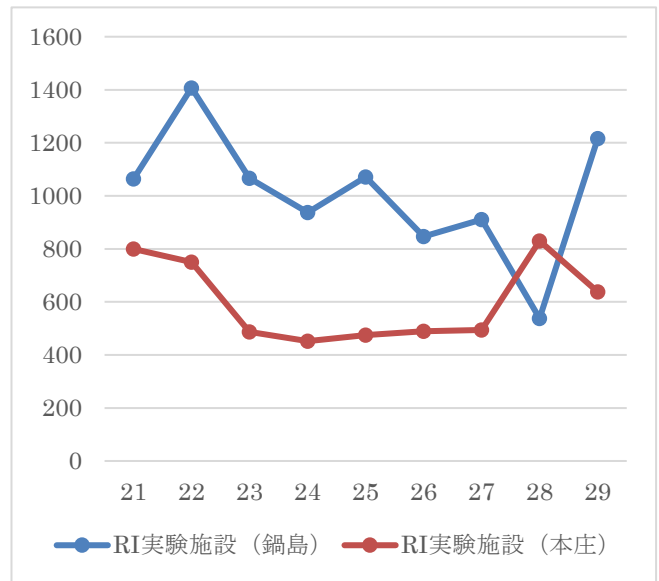
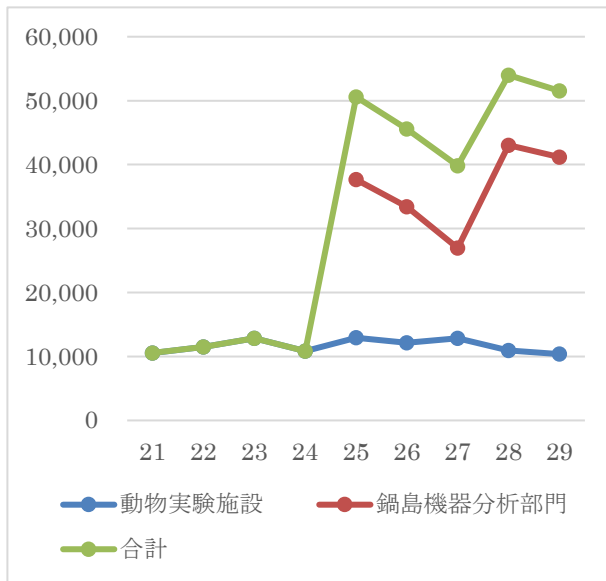


図1 施設利用者数の年次変化 図2 施設利用者数の年次変化(RIのみ)

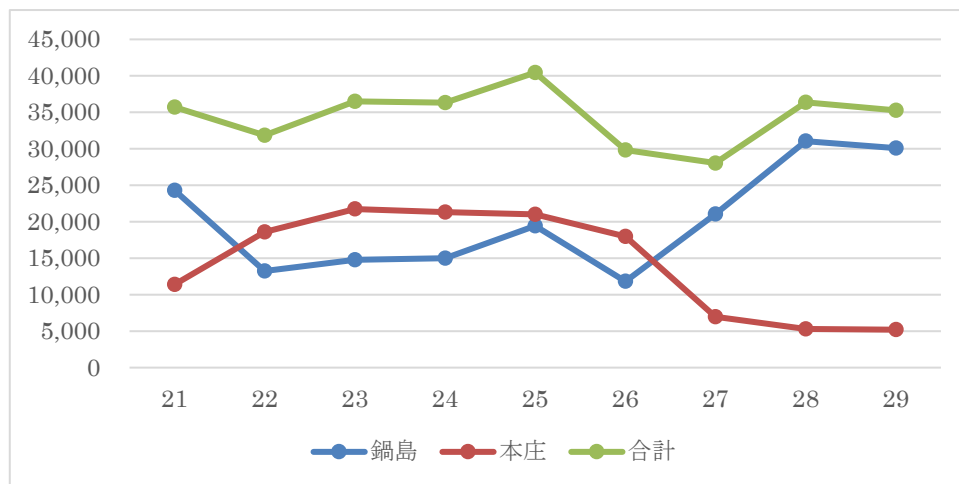


図3 機器利用数(のべ回数)の年次変化

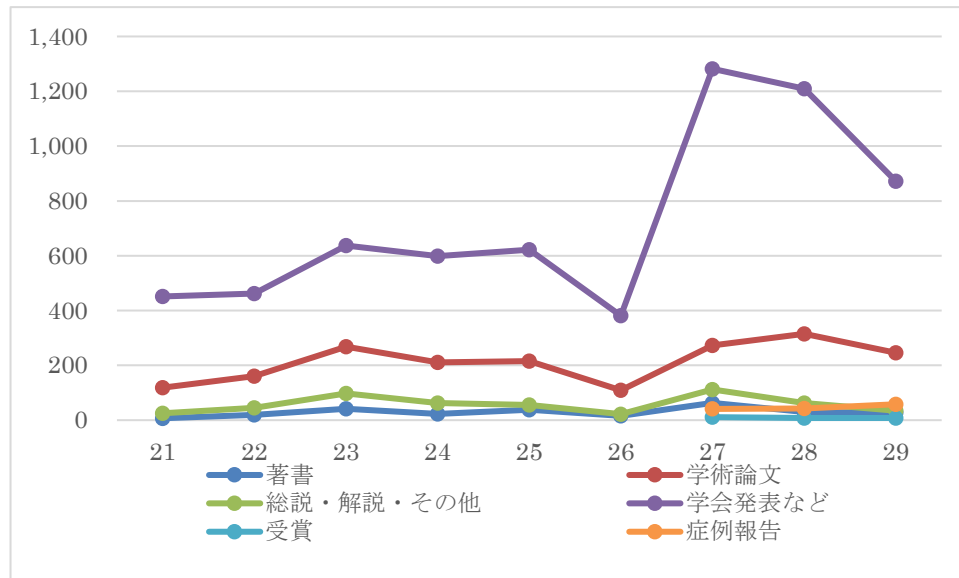


図4 ユーザー業績の年次変化

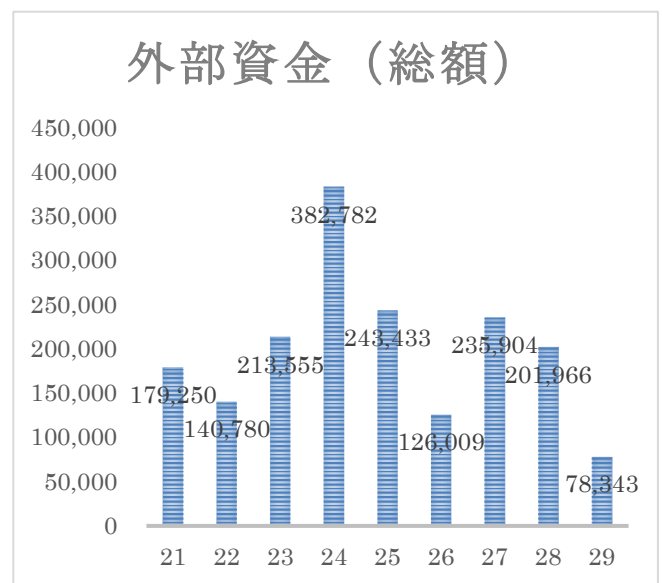
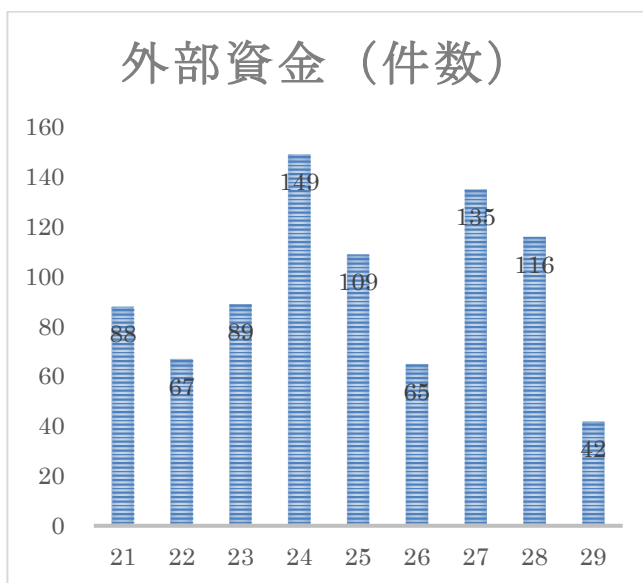


図5 ユーザー業績の年次変化(外部資金の件数)

図6 ユーザー業績の年次変化(外部資金の総額)

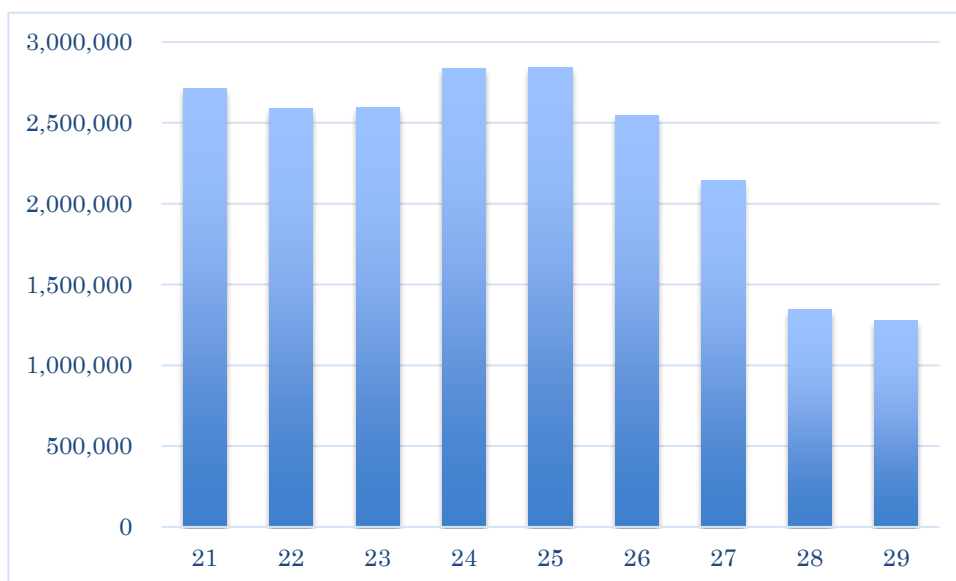


図7 飼育頭数の年次変化(マウスのみ)

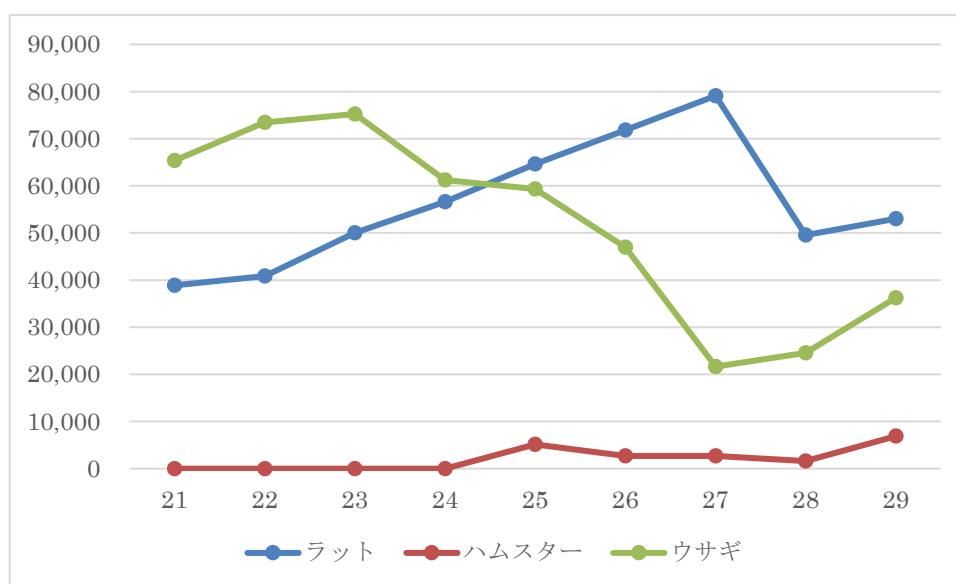


図8 飼育頭数の年次変化(ラット・ハムスター・ウサギ)

(3) センター施設、設備・機器利用数および利用機器

施設利用実績		
施設	のべ利用者数	備考
動物実験施設	10,370	登録者数 教職員 107、学生 60
鍋島地区 RI 実験施設	1,216	登録者数 教職員 31、学生 13
鍋島地区機器分析部門	41,153	登録者数 教職員 130、学生 58
本庄地区 RI 実験室	638	登録者数 教職員 35、学生 41
機器利用数		
鍋島地区 機器分析部門		
機器	のべ利用回数	備考
院 1F 低温室	-	H27 年 8 月～利用簿なし
基 2F 製氷機・低温室	2,212	入室回数
院 2F 製氷機・低温室	3,376	入室回数
基 3F 製氷機・低温室	2,895	入室回数
基 4F 製氷機・低温室	250	入室回数 H28 年 9 月製氷機廃棄
GeneChip	0	アレイ数
PCR GeneAmp 9700	0	利用回数
MassArray	0	チップ数
透過型電子顕微鏡 JEM-1400	54	利用回数
透過型電子顕微鏡 JEM-2100	31	利用回数
走査型電子顕微鏡 JSM-6510	35	利用回数
薄切室	189	入室回数
凍結切断装置 JFD-7000	0	利用回数
ウルトラミクロトーム ライヘルト(電顕用)	0	利用回数
ナイフメーカー EM-25A	0	利用回数
ナイフメーカー LKB-7800	0	利用回数 H29.6～使用簿設置
マグネツトスパッタ装置 MSP-10	0	利用回数 H29.6～使用簿設置
凍結乾燥機 ID-2	15	利用回数 H29.6～使用簿設置
イオンコーター IB-3	21	利用回数 H29.6～使用簿設置
パラフィン溶融器	4	利用回数
真空恒温器 DP-41	9	利用回数 H28 年 7 月使用簿設置
培養室	829	入室回数
オートクレーブ MLS-3751	15	利用回数
細胞自動解析装置 Z1S	31	利用回数
低温貯蔵室	1,148	入室回数
エレクトロマシショップ	194	入室回数
セミナー室	491	入室回数
細胞自動解析装置 FACSVerse	410.5	利用時間
細胞自動解析装置 FACSCalibur	383.5	利用時間
細胞自動解析装置 MACSQuant	281	利用時間

4800 Plus MALDI TOF/TOF Analyzer	25	利用回数
オートインジェクター・スポッターシステム DiNa	13	利用回数 H29.10 月故障・利用停止
ProteinPilot	0	利用回数
共同利用実験室	1,601	入室回数
自記分光光度計 UV-2100PC	4	利用回数
pH メーター F-55S	57	利用回数
超音波洗浄機	12	利用回数
超音波破碎機 UD200	7	利用回数
電子天秤 TXB6201L	54	利用回数
電子天秤 R200D	42	利用回数
ブロックインキュベーター BI-516H	2230	利用回数
微量高速遠心機 MX-305	10	利用回数
液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-8030	87	利用回数
高速液体クロマトグラフ Prominence	14	利用回数
共焦点レーザー蛍光顕微鏡 LSM PASCAL 5	99	利用回数
一体型蛍光顕微鏡 FSX-100	224	利用回数
デジタル蛍光顕微鏡 AxioPlan2	0	利用回数
自動現像機 CEPROS Q	347	利用枚数
トランスイルミネーター	2	利用回数
ゲル撮影装置 AE-6933FXCF	106	利用回数
オートクレーブ LSX-500 ①②③	101	利用回数(3 台合計)
乾熱滅菌機 SG-62 ①②	31	利用回数(2 台合計)
蒸留水製造装置 GlassStill8	5,256	採水量(リットル)
超純水製造装置 NANOpure Diamond	1,439	採水量(リットル)
ゲル乾燥処理装置 AE-3750	0	利用回数
DNA シーケンサー 3130 ①②	1,239	RUN 数(2 台合計)
リアルタイム PCR StepOnePlus ①②	598	利用回数(2 台合計)
リアルタイム PCR LightCycler 480	5	利用回数 H29 年 1 月から共同利用機器に 登録
デジタル PCR システム	527	ウェル数
PyroMarkQ24	173	利用回数
ナノ・ドロップ	637	利用回数
ゲル撮影装置 STAGE1000	241	利用回数
サーモサイクラー T-GRADIENT	90	利用回数
紫外線架橋機 ストラータリンカー	2	利用回数
恒温振盪器 G-25	14	利用回数
振盪培養器 E25R	36	利用回数
遠心式濃縮機 VC-36R	89	利用回数

高速冷却遠心機 HP-25	33	利用回数
卓上破砕機 シェイクマスター ネオ	9	利用回数
多本架冷却遠心機 LX-141	64	利用回数
卓上型分離用超遠心機 Optima-TLX	0	利用回数
分離用超遠心機 Optima L-70	17	利用回数
凍結乾燥機 FDU-2100	49	利用回数
ルミノ・イメージアナライザー LAS3000	433	利用回数
フルオロ・イメージアナライザー FLA7000	26	利用回数
紫外可視分光解析システム DU-650	13	利用回数
マルチラベルプレートカウンター ARVO	275	利用回数
サーマルサイクラー PCR 2720	3	利用回数
バイオアナライザー	43	利用回数
炭酸ガス細胞培養装置 9100E	-	利用回数 H29 年 RI に返却
エレクトロポレーションシステム GenePulser	0	利用回数
ガスクロマトグラフ GC-2014AF	46	利用回数
ガスクロマトグラフ質量分析計 QP2010	0	利用回数
原子吸光分光光度計 AA-7000	7	利用回数
IVIS Lumina III	17	利用回数
解析用 PC	7	利用回数
FlowJo	143	利用回数
遺伝情報処理ソフト GENETYX	113	利用回数
マルチラベルプレートリーダー EnVision	112	H29.6 購入
ケミルミイメージングシステム FUSION FX	201	H29.9 購入
共焦点レーザー走査型蛍光顕微鏡 LSM880+Airyscan Fast	59	H29.12 購入
蛍光画像解析ソフトウェア Imaris	33	H29.12 購入
バーチャルスライドスキャナ NanoZoomer S60	0	H30.3 購入
画像解析ソフトウェア HALO	0	H30.3 購入
ロータリーエバポレーター	休止中	利用回数 H27 年 7 月～休止中
精製クロマトグラフィー ÄKTA purifier	休止中	利用回数 H27 年 1 月より休止中
二次元電気泳動装置 Multiphor II	休止中	利用回数 H27 年 4 月～休止
二次元電気泳動装置 プロティアン II スラブセル	休止中	利用回数 H27 年 4 月～休止
BIAcore T100	休止中	利用回数 H27 年 1 月～休止
自動パルスフィールド電気泳動	休止中	利用回数 H27 年 7 月～休止
鍋島地区 RI 部門		

機器	のべ利用回数	備考
ガンマセル40	29	利用回数
液体シンチレーションカウンタ	6	利用回数
ベータプレート	5	利用回数
オートガンマカウンタ	3	利用回数
バイオイメーリアナライザー	5	利用回数
X線照射装置	40	利用回数
遺伝子増幅装置 T1	0	利用回数
本庄地区機器分析部門・生物資源開発部門		
機器	のべ利用回数	備考
紫外可視近赤外分光光度計(Lambda 19)	78	利用時間
紫外可視近赤外分光光度計(Lambda 900)	10	利用時間
電子スピン共鳴装置	17	利用時間
フーリエ変換赤外分光光度計 (VERTEX70-S)	120	利用時間
ガスクロマトグラフ質量分析計 (7890/5975C)	342	利用日数
ガスクロマトグラフ質量分析計(JMS-GCmateII)	70	利用時間
ガスクロマトグラフ(GC-2014)	0	利用時間
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置(JNM-AL300)	84	利用時間
円偏光二色性分散計(J-820)	296	利用時間
蛍光光度計(FP-6200)	88	利用時間
旋光計	6	利用時間
ゼータ電位・粒径測定システム	174	利用時間
フーリエ変換核磁気共鳴装置 (Agilent 400MHz NMR system)	910	利用時間
CCD 単結晶自動 X線構造解析装置	96	利用時間
水平型 X線構造解析装置	271	利用時間
エネルギー分散型蛍光 X線分析装置	96	利用時間
走査型電子顕微鏡	335	利用時間
パッチクランプイオンチャンネル計	34	利用時間
蛍光寿命測定装置	17	利用時間
紫外可視分光光度計	19	利用時間
発光量子収率測定装置	0(故障)	利用時間
DSC 熱量計	624	利用時間
振動式デジタル密度音速計	7	利用時間
原子間力顕微鏡	123	利用時間
SQUID磁束計	0	利用日数
DNAシーケンサー (Type3130)	3,648	のべ利用回数
ルミノイメーリアナライザー		のべ利用回数
DNA・RNA 定量装置	344	のべ利用回数
本庄地区 RI 部門		
機器	のべ利用回数	備考
液体シンチレーションカウンタ	24	利用回数 (利用時間: 30 h)
バイオイメーリアナライザ	0	利用回数

焼却炉	0	利用回数
分光光度計	0	利用回数（利用時間：0 h）
ガンマカウンタ	0	利用回数
空気捕集装置	12	利用回数
H/C サンプラー	12	利用回数
高温振とう器	0	利用回数（利用時間：0 h）
NaI シンチレーションカウンター	18	利用回数（利用時間：24 h）
GM 計数管	18	利用回数（利用時間：24 h）
イオン交換水製造機	23	利用回数
人工気象器	-	利用回数(利用時間: 2160 h)

リサイクルファシリティ		
機器名	台数	年月日
高速液体クロマトグラフ 一式	1	H29.12.22
中圧分取液体クロマトグラフ 一式	1	H29.12.22
島津ガスクロマトグラフ	1	H29.12.22
ガスクロマトグラフ・データ処理装置	1	H29.12.22
キャピラリー電気泳動装置	1	H30.1.13
フーリエ変換赤外分光光度計	1	H30.1.13
紫外可視近赤外分光光度計	1	H30.1.13
蛍光分光光度計	1	H30.1.13
ガスクロマトグラフ質量分析装置	1	H30.2.6
蛍光光度計	1	H30.2.8
円偏光二色性分散計	1	H30.2.8
ロータリーエバポレーター 一式	1	H30.3.19
棚	1	H30.3.20

再活用室		
物品名	台数	利用期間
機器、書籍、アングルパーツ等	1	H28.4.1～H30.3.31
書籍、資料、什器等	1	H29.4.1～H30.3.30
大型トランス、真空容器、実験器具（段ボール入り）他、多数	1	H29.4.1～H30.3.31
NEDO 受託研究に関する資料・書籍等	1	H29.4.1～H30.3.31
乾燥機（DO-450）	1	H29.4.1～H30.3.31
Hitachi（PO-0.4L, Bebicon）	1	H29.4.1～H30.3.31
フラクションコレクター（DC-1200）	1	H29.4.1～H30.3.31
フッ素回収用作成装置（一式）	1	H29.4.1～H30.3.31
書籍、資料、什器等	1	H29.4.1～H30.3.31

(4)平成28年度利用者の業績及び外部資金

表彰一覧

No.	講座名	氏名	学術（学会）賞名	学賞課題
1	病因病態科学講座・臨床病態病理学分野・博士課程	芥川剛至	第 21 回日本臨床内分泌病理学会学術総会奨励賞	胃癌の生存, 増殖, 浸潤における脂肪組織と流体刺激の役割とその制御機構
2	病因病態科学講座・微生物学分野・大学院生	徐祥赫	日本骨代謝学会 ASBMR2017 Travel Award	Pmepal is specifically induced by bone components in osteoclasts and regulates bone resorption
3	社会医学講座・法医学分野・助教	大野憲五	平成 29 年 Anthropological Science 論文奨励賞	Reevaluation of temporal changes in alveolar protrusion in Japan according to two newly introduced craniometric angles.
4	一般消化器外科学講座・博士課程	脇山幸大	第 4 回がんと代謝研究会での優秀ポスター発表賞受賞に対して, 平成 28 年度佐賀大学医学部学部長賞受賞	Warburg 効果をターゲットとした胃癌に対する新規薬物療法～HIF-1 阻害剤 YC-1+ GI 療法の機序解析と臨床応用への可能性～
5	泌尿器科・博士課程	永瀬圭	第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. ベストポスター賞（会長奨励賞）プラチナ・アワード受賞	当院における停留精巣の予後と術者経験年数との関連
6	麻酔・蘇生学講座・助教	石川亜佐子	日本麻酔科学会第 64 回学術集会優秀演題	C-typelectin の神経障害性疼痛における役割
7	歯科口腔外科学講座・助教	合島怜央奈	第 59 回歯科基礎医学会学術大会・モリタ優秀発表賞	RP チャネルを標的とした口腔癌細胞制御
8	歯科口腔外科学講座・助教	合島怜央奈	第 62 回（公社）日本口腔外科学会総会・学術大会優秀ポスター発表賞	口腔扁平上皮癌に発現する温度感受性 TRPV4 チャネルの機能解析

著書

1. 森貞真太郎: 感温性高分子ゲルの吸着剤への応用. ゲル化・増粘剤の使い方、選び方 事例集, 第 15 章, 第 1 節, pp. 661-669, (株) 技術情報協会 (ISBN: 978-4-86104-691-9-3043). (株) 技術情報協会. 2018.
2. K. Ohto, Y. Ueda, R. R. Sathuluri, H. Kawakita, S. Morisada, K. Inoue: Silver Extraction and Recovery with Macrocyclic and Tripodal Compounds. Silver Recovery from Assorted Spent Sources: Toxicology of Silver Ion. 2018.
3. 山岡禎久: 顕微鏡学ハンドブック「第 X 部多彩な顕微鏡 2 光音響顕微鏡」. 256-259. 2018.
4. Higashimoto K, Joh K, Soejima H: Genomic Imprinting Syndromes and Cancer. Part III DNA and Histone Methylation-Related Events Underlying Cancer, DNA and Histone Methylation as Cancer Targets. Kaneda A and Tsukada Y (eds.) pp 297-344. New York, Humana Press 2017.
5. Izuhara K, Suzuki S, Nofziger C, Ogawa M, Ohta S, Nanri Y, Mitamura Y, Yoshihara T, Pedemonte N, Galiotta LJV, Paulmichl M: The Role of Pendrin in the Airways: Links with Asthma and COPD. The Role of Pendrin in Health and Disease: 141-154. Springer, Switzerland 2017.
6. 吉田裕樹: 第 12 章サイトカインとケモカイン. 免疫学コア講義, 96 - 106. 南山堂 2017.
7. 吉田裕樹, 松崎吾朗: 第 18 章宿主と病原体の攻防. 免疫学コア講義, 156 - 168. 南山堂 2017.
8. 吉田裕樹, 三宅靖延, 原博満: 第 3 章アジュバント各論 1 微生物由来. 次世代アジュバント開発のためのメカニズム解析と安全性評価. シーエムシー出版, 東京 2017.
9. 吉田裕樹, 三宅靖延, 原 博満: 第 3 章アジュバント各論 1.3 原虫由来新規アジュバントの探索とそのシグナル伝達経路の解明. 次世代アジュバント開発のためのメカニズム解析と安全性評価. シーエムシー出版. 東京 2017.
10. 甲斐敬太, 相島慎一: CPC 解説 (第 90 回) 著明な肝脾腫を呈し, 劇症の経過をたどった systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood の 1 剖検例 (症例検討会). 病理と臨床 35 巻, 1 号. 77 - 83. 文光堂. 東京 2017.
11. 青木茂久: 各論: 尿細管間質性病変 腎盂腎炎. 腎生検病理アトラス改訂版. p301 - 304. 東京医学社. 東京 2017.
12. 青木茂久: 第 3 章腎病変とその成り立ち 4. 血管の観察 2) 細小動脈の hyalinosis. 腎と透析 vol. 82, 増刊号 腎生検・病理診断 - 臨床と病理の架け橋. 293 - 294. 東京医学社. 東京 2017.
13. 市場正良: 第 12 章化学的健康障害要因とその対策 9. 鉛・アルキル鉛, 10. 水銀・アルキル水銀, 11. マンガン, 12. クロム, 13. カドミウム, 14. ベリリウム, 15. ヒ素. 産業保健マニュアル改訂 7 版. 南山堂 2017.
14. 川久保善智, 大野憲五, 川久保直美: 向野山城跡 1 号石棺から出土した人骨について. 武雄市文化財調査報告書第 52 集 向野山城跡 (in press). 武雄市教育委員会. 武雄市 2017.

15. Koarada S, Tada Y: Chapter3 Arthritis and Musculoskeletal Diseases in Systemic Lupus Erythematosus. Rhupus Syndrome, Jaccoud's Arthropathy and Osteonecrosis. Systemic Lupus Erythematosus (SLE): Risk Factors, Treatment Options and Clinical Aspects. , P48-110. Nova Science Publishers, New York, USA 2017.
16. 高橋宏和, Hamilton James A, 北島陽一郎, 江口有一郎, 安西慶三: 非アルコール性脂肪肝炎における運動トレーニング誘発性アディポカインの効果検討とメカニズム解析. 第 32 回 (2015 年度) 若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書. 32, 81 - 85. 明治安田厚生事業団. 東京 2017.
17. 松尾宗明: Pseudoseizure. てんかん学用語事典改訂第 2 版 日本てんかん学会編 pp123. 診断と治療社. 2017.
18. 山口能正, 山下佳雄: 医科・放射線科との医療連携における歯科技工士の役割ー放射線治療に使用するスパーサーとアプリケーションの製作. 歯科技工 45 (8) : 994 - 1001. 医歯薬出版株式会社. 東京 2017.
19. 山下佳雄: 第 5 章顎顔面の再建とインプラント 4. 顔面補綴へのインプラントの応用. よくわかる口腔インプラント学第 3 版 P. 246 - 247. 医歯薬出版株式会社. 東京 2017.
20. 阪本雄一郎, 永嶋太, 梅香満: 外傷性窒息, 外傷セット, 外傷バッグ, 海上保安庁ヘリコプター, 緊急気道確保, 上腕骨骨折食, 食道静脈瘤, 食道挿管, 食道損傷, 食道裂孔ヘルニア, 除脳硬直, シリンジポンプ, 指令員教育. 救急用語事典 改訂第 2 版 p. 110 - 112, p. 278 - 279, p. 577 - 578, p. 583 - 586, p. 598 - 599, p. 600 - 601. ぱーそん書房. 2017.
21. 小網博之, 三池 徹, 阪本雄一郎: 7. 消化器. ER・救急 999 の謎. p215 - 258. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2017.
22. 浦上宗治, 青木洋介: 第 2 章ケースで学ぶ処方提案 4. 抗菌薬の処方提案 [ケース 3] 意識障害, 発熱, 嘔吐で救急搬送され, 敗血症性ショックとなった 76 歳女性, [ケース 4] セフェビム投与中も発熱が再燃した, 急性骨髄性白血病に対する化学療法中の 66 歳男性. こうすれぱうまくい! 薬剤師による処方提案, 199 - 213. 中外医学社. 東京 2017.
23. 浦上宗治, 青木洋介: 第 1 章検査を行う前の患者評価 2. 感染症検査と薬学管理. 薬剤師が知っておきたいチーム医療実践のための感染症検査, 10 - 15. 南山堂. 東京 2017.
24. 浦上宗治, 濱田洋平, 青木洋介: 特集 呼吸器感染症治療薬の上手な使い方ー症例から紐解く達人の技Ⅲ. 肺炎市中肺炎の外来治療ではどのような治療薬を選択すればよいのか?. 呼吸器ジャーナル 65 (3) , 418 - 425. 医学書院. 東京 2017.
25. 甲斐敬太, 相島慎一: CPC 解説 (第 90 回) 著明な肝脾腫を呈し, 劇症の経過をたどった systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood の 1 剖検例 (症例検討会). 病理と臨床 35 巻 1 号, Page77 - 83. 文光堂. 東京 2017.
26. 相島慎一: Fontan 術後の肝線維化と肝癌. 病理と臨床 35 巻 5 号, Page480 - 481. 文光堂. 東京 2017.
27. 祖川倫太郎, 藤戸博: 1. 精神・神経系の病気とくすり B. 中枢系疾患・うつ病, 躁うつ病 (双極性障害) 治療薬の薬理と薬学管理上の注意点. 薬局 2017 年 3 月号増刊 特集: 病気とくすり 2017 基礎と実践 Expert's Guide, 68(4). 南山堂. 東京 2017.

原著論文

1. A. Idrissi, B. Marekha, M. Barj, F. A. Miannay, T. Takamuku, V. Raptis, J. Samios, P. Jedlovszky: Local Structure of Dilute Aqueous DMSO Solutions, as Seen from Molecular Dynamics Simulations. *J. Chem. Phys.* 146: 234507 (12 pages), 2017.
2. B. A. Marekha, K. Sonoda, T. Uchida, T. Tokuda, A. Idrissi, T. Takamuku: ATR-IR Spectroscopic Observation on Intermolecular Interactions in Mixtures of Imidazolium-based Ionic Liquids CnmimTfSA (n = 2-12) with DMSO. *J. Mol. Liquids.* 232: 431-439, 2017.
3. Bo Zhang, Mwangi Jessee Njora, Yoshiki Sato: High-speed turning of Inconel 718 by using TiAlN- and (Al, Ti) N-coated carbide tools. *The International Journal of Advanced Manufacturing Technology.* 96: 2141–2147, 2018.
4. Dong Tu, Chao-Nan Xu, Akihito Yoshida, Masayoshi Fujihara, Jou Hirotsu, and Xu-Guang Zheng: LiNbO₃:Pr³⁺: A Multipiezo Material with Simultaneous Piezoelectricity and Sensitive Piezoluminescence. *Adv. Mater.* : 1606914 1-4, 2017.
5. Eiji Takahashi, Yoshihisa Yamaoka: Simple and inexpensive technique for measuring oxygen consumption rate in adherent cultured cells. *The Journal of Physiological Sciences.* 67(6): 731-737, 2017.
6. Febee R. Louka, Salah S. Massoud, Tamim K. Haq, Masayuki Koikawa, Masahiro Mikuriya, Masataka Omote, Roland C. Fischer, Franz A. Mautner: Synthesis, structural characterization and magnetic properties of one-dimensional Cu(II)-azido coordination polymers. *Polyhedron.* 138: 177-184, 2017.
7. Fujisawa, Tomotsumi; Leverenz, Ryan L. ; Leverenz, Ryan L. ; Leverenz, Ryan L. ; Nagamine, Momoka; Kerfeld, Cheryl A. ; Kerfeld, Cheryl A. ; Unno, Masashi: Raman Optical Activity Reveals Carotenoid Photoactivation Events in the Orange Carotenoid Protein in Solution. *Journal of the American Chemical Society.* 139(30): 10456-10460, 2017.
8. Furuta, M. , Fujisawa, T. , Urago, H. , Eguchi, T. , Shingae, T. , Takahashi, S. , Blanch, E. W. , Unno, M. : Raman Optical Activity of Tetra-alanine in the Poly(L-proline) II Type Peptide Conformation. *Phys. Chem. Chem. Phys.* 19: 2078-2086, 2017.
9. Hiroshi Sakiyama, Reiji Sudo, Takaaki Abiko, Daisuke Yoshioka, Ryoji Mitsuhashi, Masataka Omote, Masahiro Mikuriya, Megumi Yoshitake, Masayuki Koikawa: Magneto- structural correlation of hexakis- dmso cobalt(II) complex. *Dalton Transaction.* 46(46): 16306-16314, 2017.
10. I. Hamdi, G. Buntinx, O. Poizat, A. Perrier, L. Le Bras, S. Delbaere, S. Barrau, M. Louati, M. Takeshita, K. Tokushige, M. Takao, and S. Aloïse: Excited-State Dynamics of Dithienylethenes Functionalized for Self-Supramolecular Assembly. *J. Phys. Chem. A.* 122: 3572, 2018.
11. Ichihiko Yamauchi, Masayuki Itoh, Touru Yamauchi, Jun-ichi Yamaura, Yutaka Ueda: Local magnetic susceptibility, spin dynamics, and charge order in the quasi-one-dimensional conductor β -Li_{0.33}V₂O₅ investigated by site-selective ⁵¹V NMR. *Physical Review B.* 96: 205114, 2017.

12. Iwata, Tatsuya; Iwata, Tatsuya; Nozaki, Dai; Yamamoto, Atsushi; Koyama, Takayuki; Nishina, Yasuzo; Shiga, Kiyoshi; Tokutomi, Satoru; Unno, Masashi; Kandori, Hideki: Hydrogen Bonding Environment of the N3-H Group of Flavin Mononucleotide in the Light Oxygen Voltage Domains of Phototropins. *Biochemistry*. 56(24): 3099-3108, 2017.
13. J. -Y. Kim, Y. Priastomo, S. Morisada, H. Kawakita, K. Ohto, Y. Kim: Synthesis of a Novel Dibenzylamide Derivative of p-tert-Octylcalix[4]arene and its Extraction Properties Towards Noble Metal Ions. *Aust. J. Chem.* 70(5): 450-455, 2017.
14. Jee Young Kim, Yoga Priastomo, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Yang Kim: Synthesis of a Novel Dibenzylamide Derivative of p-tert-Octylcalix[4]arene and its Extraction Properties Towards Noble Metal Ions. *Aust. J. Chem.* 70(5): 450-455, 2017.
15. K. Fujii, M. Yoshitake, H. Watanabe, T. Takamuku, Y. Umebayashi: Hydrogen Bonding in Protic and Aprotic Amide Mixtures: Low-frequency Raman Spectroscopy, Small-angle Neutron Scattering, and Molecular Dynamics Simulations. *J. Mol. Liquids*. 238: 518-522, 2017.
16. K. Kajimoto, T. Kikukawa, H. Nakashima, H. Yamaro, Y. Saito, T. Fujisawa, M. Demura, M. Unno: Transient Resonance Raman Spectroscopy of a Light-Driven Sodium-Ion-Pump Rhodopsin from *Indibacter alkaliphilus*. *Journal of Physical Chemistry B*, 121, 4431-4437, 2017.
17. K. Khunathai, K. Inoue, K. Ohto, H. Kawakita, M. Kurata, K. Atsumi, H. Fukuda, S. Alam: Recovery of Silver Using Some Chemically Modified Microalgal Residues. *Materials*. 10(6): 636-644, 2017.
18. K. Kobwittaya, Y. Oishi, T. Torikai M. Yada, T. Watari, H. N. Luitel: Synthesis and upconversion luminescence properties of ZnO-TiO₂ containing Ho³⁺ and Yb³⁺. *J. Ceram. Soc. Jpn.* 125(7): 559-564, 2017.
19. K. Kobwittaya, Y. Oishi, T. Torikai M. Yada, T. Watari, H. N. Luitel: Nearly pure NIR upconversion luminescence in Tm³⁺, Yb³⁺ co-doped ZnO-TiO₂ composite phosphor powder. *Vacuum*. 148: 286-295, 2018.
20. K. Kobwittaya, Y. Oishi, T. Torikai, M. Yada, T. Watari, H. N. Luitel: Bright red upconversion luminescence from Er³⁺ and Yb³⁺ co-doped ZnO-TiO₂ composite phosphor powder. *Ceramics International*. 2017.
21. K. Ohto, H. Furugou, T. Yoshinaga, S. Morisada, H. Kawakita, K. Inoue: Precious Metal Extraction with Thiol and Dithioether Derivatives of Trident Molecule. *Solvent Extr. Res. Dev. , Jpn. ,* 24(2): 77-88, 2017.
22. K. Ohto, H. Murashima, H. Murakami, S. Morisada, H. Kawakita, M. Wenzel, J. J. Weigand, K. Gloe: New Trident Molecule with Phosphoric Acid Functionality for Trivalent Rare Earth Extraction. *Indones. J. Chem.* 17(3): 2018.
23. K. Ohto, S. Ohta, K. Huang, H. Kawakita, K. Inoue: Adsorption Behavior of Dithiocarbamate β -Chitosan Gels for Cadmium(II). *Res, Rev. : J. Mat. Sci.* 5(3): 1-9, 2017.

24. Kajimoto, Kousuke; Kikukawa, Takashi; Kikukawa, Takashi; Nakashima, Hiroki; Yamaryo, Haruki; Saito, Yuta; Fujisawa, Tomotsumi; Demura, Makoto; Demura, Makoto; Unno, Masashi: Transient Resonance Raman Spectroscopy of a Light-Driven Sodium-Ion-Pump Rhodopsin from *Indibacter alkaliphilus*. *Journal of Physical Chemistry B*. 121(17): 4431-4437, 2017.
25. Kanjana Khunathai, Katsutoshi Inoue, Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita, Minoru Kurata, Kinya Atsumi, Shafiq Alam: Recovery of silver using adsorption gels prepared from microalgal residue immobilized with functional groups containing sulfur or nitrogen. *Materials*. 10: 636, 2017.
26. Katsutoshi Inoue, Manju Gurung, Ying Xiong, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, Shafiq Alam: Hydrometallurgical recovery of precious metals and removal of hazardous metals using persimmon tannin and persimmon wastes. 5: 1921, 2017.
27. Kawaguchi, Shin Ichi; Nakamura, Kentaro; Yamaguchi, Kotaro; Sato, Yuki; Gonda, Yuhei; Nishioka, Masaaki; Sonoda, Motohiro; Nomoto, Akihiro; Ogawa, Akiya: Hydroiodination-Triggered Cascade Reaction with I₂/PPh₃/H₂O: Metal-Free Access to 3-Substituted Phthalides from 2-Alkynylbenzoates. *European Journal of Organic Chemistry*. 2017(36): 53435346, 2017.
28. Keisuke Ohto, Hiroaki Furugoh, Takuyou Yoshinaga, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Katsutoshi Inoue: Precious metal extraction with thiol and dithioether derivatives of a trident molecule. *Solvent Extraction Research and Development, Japan*. 24: 77, 2017.
29. Keisuke Ohto, Hiroaki Furugou, Takuyou Yoshinaga, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, and Katsutoshi Inoue: Precious Metal Extraction with Thiol and Dithioether Derivatives of a Trident Molecule. *Solvent Extr. Res. Dev., Jpn.* . 24(2): 77-88, 2017.
30. Keisuke Ohto, Hiromasa Murashima, Hiroshi Murakami, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Marco Wenzel, Jan J. Weigand, and Karsten Gloe: New Trident Molecule with Phosphoric Acid Functionality for Trivalent Rare Earth Extraction. *Indones. J. Chem.* 17(3): 491-499, 2017.
31. Keisuke Ohto, Hiromasa Murashima, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Marco Wenzel, Jan J. Weigand, and Karsten Gloe: Extractive Separation of Trivalent Rare Earth Metal Ions with Phenylphosphoric Acid Type of Trident Molecule for Rare Metal Recovery. *Int. J. Soc. Mater. Eng. Resour.* . 23(1): 36-41, 2018.
32. Keisuke Ohto, Hiromasa Murashima M, Hiroshi Murakami M, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Marco Wenzel, Jan J. Weigand, and Karsten Gloe: New Trident Molecule with Phosphoric Acid Functionality for Trivalent Rare Earth Extraction. 17: 491, 2017.
33. Kodama, Shintaro; Saeki, Tomokazu; Mihara, Kei; Higashimae, Shinya; Kawaguchi, Shin Ichi; Sonoda, Motohiro; Nomoto, Akihiro; Ogawa, Akiya: A Benzoyl Peroxide/Diphenyl Diselenide Binary System for Functionalization of Alkynes Leading to Alkenyl and Alkynyl Selenides. *Journal of Organic Chemistry*. 82(23): 1247712484, 2017.
34. M. Fujihala D, X. G. Zheng, S. Lee, T. Kamiyama, A. Matsuo, K. Kindo, T. Kawae: Spin order in the Heisenberg kagome antiferromagnet MgFe₃(OH)6Cl₂. *Physical Review B*. 96: 144111 1-9, 2017.
35. M. Yoshitake, M. Nishihashi, Y. Ogata, K. Yoneda, Y. Yamada, H. Sakiyama, A. Mishima, M. Ohba, M. Koikawa: Syntheses, Structures, and Magnetic Properties of Cubane-Based Cobalt and Nickel Complexes with ONO-Tridentate Ligands. *Polyhedron*, 136, 136–142 (2017). : 2017.

36. Masanao Era, Yu Shironita, Koichi Soda: Lead bromide-based layered perovskite Langmuir-Blodgett films having p-conjugated molecules as organic layer by using squeezed out technique. *Japanese Journal of Applied Physics*. 57(3S2): 03EG07-1-5, 2018.
37. Masato Tominaga, Noriaki Watanabe, Yuto Yatsugi: In situ Raman Spectroelectrochemical Study of Potential-Induced Molecular Encapsulation of β -carotene Inside Single-Walled Carbon Nanotubes. 800: 156-161, 2017.
38. Md. Amzad Hossain and Yasunori Ohtsu: RF magnetized ring-shaped plasma for target utilization obtained with circular magnet monopole arrangement. *Japanese Journal of Applied Physics*. 57: 01AA05(7pp), 2018.
39. Md. Amzad Hossain, Yasunori Ohtsu and Tatsuo Tabaru: Performance of a Gyrotronic Square-Shaped Capacitive Radio Frequency Discharge Plasma Sputtering Source for Materials Processing. *Plasma Chem Plasma Process*(2017). 37(6): 1663-1677, 2017.
40. Md. Ataur Rahman, Tsugio Kitamura: FeCl₃/AgOTf Catalyzed Hydroarylation Reactions of Aryl-substituted Alkynes with Different Electron-rich Arenes. *Malaysian Journal of Chemistry*. 19: 13–23, 2017.
41. Megumi Yoshitake, Momoko Nishihashi, Yasumasa Ogata, Ko Yoneda, Yasunori Yamada, Hiroshi Sakiyama, Akio Mishima, Masaaki Ohba, Masayuki Koikawa: Syntheses, structures, and magnetic properties of cubane-based cobalt and nickel complexes with ONO -tridentate ligands. *Polyhedron* 136, pp. 136-142. 2017.
42. Megumi Yoshitake, Momoko Nishihashi, Yasumasa Ogata, Ko Yoneda, Yasunori Yamada, Hiroshi Sakiyama, Akio Mishima, Masaaki Ohba, Masayuki Koikawa: Syntheses, structures, and magnetic properties of cubane-based cobalt and nickel complexes with ONO-tridentate ligands. *Polyhedron*. 136: 136-142, 2017.
43. N. S. K. Gowthaman, Abraham John, Masato Tominaga: Fast Growth of Au-Pt Bimetallic Nanoparticles on SWCNTs: Composition Dependent Electrocatalytic Activity Towards Glucose and Hydrogen Peroxide. *Journal of Electroanalytical Chemistry*. 798: 24-33, 2017.
44. Phyto Wai Myint, Seiya Hagihara, Toru Tanaka, Shinya Taketomi, Yuichi Tadano: Determination of the Values of Critical Ductile Fracture Criteria to Predict Fracture Initiation in Punching Processes. *Journal of Manufacturing and Materials Processing*. 1(12): , 2017.
45. Phyto Wai Myint, Seiya Hagihara, Toru Tanaka, Shinya Taketomi, Yuichi Tadano: Application of Finite Element Method to Analyze the Influence of Process Parameters on the Cut Surface in the Fine Blanking Processes by using Clearance Dependent Critical Fracture Criteria. *Journal of Manufacturing and Materials Processing*. 2(2): 2018.
46. R. R. Sathuluri, Y. S. Kurniawan, J. -Y. Kim, M. Maeki, W. Iwasaki, S. Morisada, H. Kawakita, M. Miyazaki, K. Ohto: Droplet-based microreactor system for stepwise recovery of precious metal ions from real metal waste with calix[4]arene derivatives. *Sep. Sci. Technol.* : 2017.

47. Raden Darmawan, Arief Widjaja, Sri Rachmania Juliastuti, Nuniek Hendrianie, Chanifah Hidayat, Dessy Rosita Sari, Suwito, Shigeru Morimura, and Masato Tominaga: The Use of Mud as an Alternative Source for Bioelectricity Using Microbial Fuel Cells. AIP Conference Proceedings. 1840(1): 0400061-0400067, 2017.
48. S. Takakura, I. Yamamoto, E. Tanaka, J. Azuma, M. Maki: Interlayer coupling and electronic structure of misfit-layered bismuth-based cobaltites. Phys. Rev. B. 95: 195166 1-5, 201705.
49. Sato, Yuki; Kawaguchi, Shin Ichi; Nomoto, Akihiro; Ogawa, Akiya: Photoinduced Coupling Reaction of Diphenyl(2, 4, 6-trimethylbenzoyl)phosphine Oxide with Interelement Compounds: Application to the Synthesis of Thio- or Selenophosphinates. Synthesis (Germany). 49(16): 35583567, 2017.
50. Shinya Taketomi, Ryosuke Matsumoto, Seiya Hagihara: Molecular Statics Simulation of the Effect of Hydrogen Concentration on {112}<111> Edge Dislocation Mobility in Alpha Iron. ISIJ International. 57(11): 2059-2065, 2017.
51. Shunsuke Nakamura, Shohei Onimaru, Yushi Oishi, and Takayuki Narita: Volume and Temperature Change Behaviors of Photothermal Convertible. Polymer. 116: 534-539, 2017.
52. T. Takamuku, Y. Higuma, M. Matsugami, T. To, T. Umecky: Solvation Structure of 1, 3-Butanediol in Aqueous Binary Solvents with Acetonitrile, 1, 4-Dioxane, and Dimethyl Sulfoxide Studied by IR, NMR, and Molecular Dynamics Simulation. J. Phys. Chem. B. 121: 4864-4872, 2017.
53. Takashi Sumiyama, Takaya Fukumoto, Yasunori Ohtsu, and Tatsuo Tabaru: Spatial structure of radio frequency ring-shaped magnetized discharge sputtering plasma using two facing ZnO/Al₂O₃ cylindrical targets for Al-doped ZnO thin film preparation. AIP Advances. 7: 055310(8pp), 2017.
54. Takeo Minamikawa; Takashi Masuoka; Ryo Oe; Yoshiaki Nakajima; Yoshihisa Yamaoka; Kaoru Minoshima; Takeshi Yasui: Multi-dynamic range compressional wave detection using optical-frequency-comb. Proc SPIE. 10494: 1049432, 2018.
55. Tsubasa Ide, Md. Amzad Hossain, Yutaro Nakamura and Yasunori Ohtsu: Rotational cross-shaped magnetized radio-frequency sputtering plasma source for uniform circular target utilization. Journal of Vacuum Science & Technology A: Vacuum, Surfaces, and Films. 35: 061312(6pp), 2017.
56. Tsugio Kitamura, Azusa Miyake, Kensuke Muta, Juzo Oyamada: Hypervalent Iodine/HF Reagents for the Synthesis of 3-Fluoropyrrolidines. The Journal of Organic Chemistry. 82: 11721-11726, 2017.
57. Tsugio Kitamura, Keisuke Gondo, Juzo Oyamada: Hypervalent Iodine/Triflate Hybrid Benzdiyne Equivalents: Access to Controlled Synthesis of Polycyclic Aromatic Compounds. Journal of the American Chemical Society. 139: 8416-8419, 2017.
58. Tsugio Kitamura, Rin Yamada, Keisuke Gondo, Nobuo Eguchi, Juzo Oyamada: Copper-Free Double Silylation of 1, 2-Dibromobenzenes Using Mg/LiCl/DMI System. Synthesis. 49: 2497-2500, 2017.

59. Tsugio Kitamura, Shota Mizuno, Kensuke Muta, Juzo Oyamada: Synthesis of β -Fluorovinylidonium Salts by the Reaction of Alkynes with Hypervalent Iodine/HF Reagents. 83: 2773-2778, 2018.
60. Tsugio Kitamura, Keisuke Gondo, Juzo Oyamada: Hypervalent Iodine/Triflate Hybrid Benzdiyne Equivalents: Access to Controlled Synthesis of Polycyclic Aromatic Compounds. Journal of the American Chemical Society. 139(25): 8416-8419, 2017.
61. Tsugio Kitamura, Shota Mizuno, Kensuke Muta, Juzo Oyamada: Synthesis of β -Fluorovinylidonium Salts by the Reaction of Alkynes with Hypervalent Iodine/HF Reagents. Journal of Organic Chemistry. 83(5): 2773-2778, 2018.
62. W. Piao, K. Hanaoka, T. Fujisawa, S. Takeuchi, T. Komatsu, T. Ueno, T. Terai, T. Tahara, T. Nagano, Y. Urano: Development of an Azo-Based Photosensitizer Activated under Mild Hypoxia for Photodynamic Therapy. Journal of the American Chemical Society, 139, 13713-13719, 2017.
63. Y. Kawazu, H. Hoke, Y. Yamada, T. Umecky, K. Ozutsumi, T. Takamuku: Complex Formation of Nickel(II) with Dimethyl Sulfoxide, Methanol, and Acetonitrile in A TFSA--based ionic liquid of [C2mim][TFSA]. Phys. Chem. Chem. Phys. , 19, 31335–31344(2017). : 2017.
64. Y. Kawazu, H. Hoke, Y. Yamada, T. Umecky, K. Ozutsumi, T. Takamuku: Complex Formation of Nickel(II) with Dimethyl Sulfoxide, Methanol, and Acetonitrile in a TFSA--based Ionic Liquid of [C2mim][TFSA]. Phys. Chem. Chem. Phys. . 19: 31335-31344, 2017.
65. Y. Kitamika, H. Shingu, S. Tanigawa, H. Hasegawa: Impact of tungsten content on the surface properties of TiN films. Journal of the surface finishing society of Japan. 69(3): 123-125, 2018.
66. Y. Umemoto, K. Yoneda, Y. Yamada, M. Koikawa: Synthesis and Crystal Structure of a Dinuclear Cu(II) Complex with N, N, N', N'-Tetrakis(2-pyridylmethyl)-1, 6-hexanediamine. X-Ray Structure Analysis Online, 33, 65–66(2017), 2017.
67. Yasunori Ohtsu and Kenta Nagamatsu: Atmospheric-pressure plasma jet system for silicon etching without fluorocarbon gas feed. Japanese Journal of Applied Physics, (2018). 57(1): 01AB01-1-4, 2018.
68. Yoshihisa Yamaoka; Yuka Kimura; Yoshinori Harada; Tetsuro Takamatsu; Eiji Takahashi: Fast focus-scanning head in two-photon photoacoustic microscopy with electrically-controlled liquid lens. Proc. SPIE. 10494: 104942J, 2018.
69. Yosuke Horiguchi, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, Shintaro Morisada: Temperature-response Pickering foams stabilized by poly(N-isopropylacrylamide) nanogels. . 29: 266, 2017.
70. Yosuke Horiguchi, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada: Temperature-Responsive Pickering Foams Stabilized by Poly(N-isopropylacrylamide) Nanogels. Adv. Powder Technol. . 29(2): 266-272, 2018.
71. Yuji Takaoka, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, and Hidetaka Kawakita: Filtration of Colloidal Particles Using Compacted-Gel-Media Packed in a Column. J. Chem. Eng. Jpn. 50(11): 815-820, 2017.

72. Yusuke Umemoto, Ko Yoneda, Yasunori Yamada, Masayuki Koikawa: Synthesis and crystal structure of a dinuclear Cu(II) complex with N, N, N', N'-tetrakis(2-pyridylmethyl)-1, 6-hexanediamine, 2017.
73. Yusuke Umemoto, Ko Yoneda, Yasunori Yamada, Masayuki Koikawa: Synthesis and crystal structure of a dinuclear Cu(II) complex with N, N, N', N'- Tetrakis(2- pyridylmethyl) - 1, 6-hexanediamine. X-Ray Structure Analysis Online. 33(10): 65-66, 2017.
74. 臼井彩夏、一瀬大樹、上田敏久、福田伸二、大島一里、松尾洋介、田中 隆、中山秀幸、石丸幹二: ノビル鱗茎の成分解析. 日本食品化学会誌 24 巻 2 号 p63-68, 2017.
75. 大竹 亜紗美、内野 聖子、平川 あい、坂口 幸一: Fabrication and demonstration of quantitative dispersibility evaluation system for graphene oxide. Japanese Journal of Applied Physics. 57: 03EG09-1-03EG09-4, 2018.
76. 大渡啓介、井上勝利、グルン・マンジュ: バイオマスを有効活用した使用済み携帯電話からのレアメタル回収技術の開発. ケミカルエンジニアリング. 62(3): 33-38, 2017.
77. 北御門雄大, 長谷川裕之: 高周波マグネトロンスパッタリング法により作製した(Cr, Al, Si)N の表面特性. 表面技術. 68: 298-302, 2017.
78. 廣瀧謙亮、入江晶子、中村祐輝、花本猛士: Three-component one-pot reactions of 2-trifluoromethyl-N-nosylaziridine, primary amines, and vinylsulfonium salts for convenient access to CF₃-containing piperazines. Synthesis. 49(11): 2488-2494, 2017.
79. Koganebuchi K, Haneji K, Toma T, Joh K, Soejima H, Fujimoto K, Ishida H, Ogawa M, Hanihara T, Harada S, Kawamura S, Oota H: The allele frequency of ALDH2*Glu504Lys and ADH1B*Arg47His for the Ryukyu islanders and their history of expansion among East Asians. Am J Hum Biol. 29(2), 2017.
80. Soma N, Higashimoto K, Imamura M, Saitoh A, Soejima H, Nagasaki K: Long term survival of a patient with Perlman syndrome due to novel compound heterozygous missense mutations in RNB domain of DIS3L2. Am. J. Med. Genet. Part A, 173(4): 1077-1081, 2017.
81. Imagawa E, Higashimoto K, Sakai Y, Numakura C, Okamoto N, Matsunaga S, Ryo A, Sato Y, Sane-fuji M, Ihara K, Takada Y, Nishimura G, Saitsu H, Mizuguchi T, Miyatake S, Nakashima M, Miyake N, Soejima H, Matsumoto N: Mutations in Genes Encoding Polycomb Repressive Complex 2 Subunits Cause Weaver Syndrome. Hum Mutat. 38(6): 637-648, 2017.
82. Akiyama T, Katsumura T, Nakagome S, Lee SI, Joh K, Soejima H, Fujimoto K, Kimura R, Ishida H, Hanihara T, Yasukouchi A, Satta Y, Higuchi S, Oota H: An ancestral haplotype of the human PERIOD2 gene associates with reduced sensitivity to light-induced melatonin suppression. PLoS One. 12(6): e0178373, 2017.
83. Takamatsu Y, Higashimoto K, Maeda T, Kawashima M, Matsuo M, Abe T, Matsushima T, Soejima H: Differences in the genotype frequency of the RNF213 variant in patients with familial moyamoya disease in Kyushu, Japan. Neurol Med Chir (Tokyo). 57(11): 607-611, 2017.

84. Hori I, Kawamura R, Nakabayashi K, Watanabe H, Higashimoto K, Tomikawa J, Ieda D, Ohashi K, Negishi Y, Hattori A, Sugio Y, Wakui K, Hata K, Soejima H, Kurosawa K, Saitoh S: CTCF deletion syndrome: clinical features and epigenetic delineation. *J Med Genet.* 54(12): 836-842, 2017.
85. Izuhara K, Nunomura S, Nanri Y, Ogawa M, Ono J, Mitamura Y, Yoshihara T: Periostin in inflammation and allergy. *Cell Mol Life Sci*, 74(23): 4293-4303, 2017.
86. Izuhara K, Suzuki S, Ogawa M, Nunomura S, Nanri Y, Mitamura Y, Yoshihara T: The significance of hypothiocyanite production via the pendrin/DUOX/peroxidase pathway in the pathogenesis of asthma. *Oxid Med Cell Longev.* 2017: 1054801, 2017.
87. Komiya K, Ohta S, Arima K, Ogawa M, Suzuki S, Mitamura Y, Nunomura S, Nanri Y, Yoshihara T, Kagwaguchi A, Kadota J, Bruce K. Rubin, Izuhara K: Clarithromycin attenuates IL-13-induced periostin production in human lung fibroblasts. *Respir Res* 18(1): 37, 2017.
88. Nunomura S, Ra C, Terui T, Okayama Y: Disulfide-linked dimerization of the FcR γ chain is required for positive and negative regulation of mast cell activation via Fc ϵ RI. *Allergol Int* 66S: S41-S43, 2017.
89. Deloer S, Nakamura R, Kikuchi M, Moriyasu T, Kalenda Y D J, Mohammed E S, Senba M, Iwakura Y, Yoshida H, Hamano S: IL-17A contributes to reducing IFN-gamma/IL-4 ratio and persistence of *Entamoeba histolytica* during intestinal amebiasis. *Parasitol Int.* 66(6): 817-823, 2017.
90. Kanai K, Park AM, Yoshida H, Tsunoda I, Yoshie O: IL-35 Suppresses Lipopolysaccharide-Induced Airway Eosinophilia in EBI3-Deficient Mice. *J Immunol.* 198(1): 119-127, 2017.
91. Miichi F, Miyamoto T, Yoshida H: Uniqueness of *Entamoeba* sulfur metabolism: sulfolipid metabolism that plays pleiotropic roles in the parasitic life cycle. *Mol Microbiol.* 106(3): 479-491, 2017.
92. Phongsisay V, Iizasa E, Hara H, Yoshida H: Pertussis toxin targets the innate immunity through DAP12, FcR γ , and MyD88 adaptor proteins. *Immunobiology.* 222(4): 664-671, 2017.
93. Shiokawa M, Lu X, Miyake Y, Ishikawa E, Pagès G, Pouysségur J, Ogata M, Yamasaki S: Spontaneous chondroma formation in CD2-Cre driven Erk-deficient mice. *Int Immunol.* 29(10): 479-485, 2017.
94. Tsunekuni R, Hikono H, Tanikawa T, Kurata R, Nakaya T, Saito T: Recombinant Avian Paramyxovirus Serotypes 2, 6, and 10 as Vaccine Vectors for Highly Pathogenic Avian Influenza in Chickens with Antibodies Against Newcastle Disease Virus. *Avian Dis.* 61(3): 296-306, 2017.
95. Okada T, Ihara H, Ito R, Ikeda Y: Molecular cloning and functional expression of Lewis type α 1, 3/ α 1, 4-fucosyltransferase cDNAs from *Mangifera indica* L. *Phytochemistry.* 144: 98-105, 2017.
96. Kido MA, Yoshimoto RU, Aijima R, Cao AL, Gao WQ: The oral mucosal membrane and transient receptor potential channels. *J Oral Sci.* 59(2): 189-193, 2017.

97. Mizuta K, Fujita T, Yamagata H, Kumamoto E: Bisphenol A inhibits compound action potentials in the frog sciatic nerve in a manner independent of estrogen receptors. *Biochem. Biophys. Rep.* 10: 145-151, 2017.
98. Piao L-H, Fujita T, Yu T, Kumamoto E: Presynaptic facilitation by tetracaine of glutamatergic spontaneous excitatory transmission in the rat spinal substantia gelatinosa Involvement of TRPA1 channels. *Brain Res.* 1657: 245-252, 2017.
99. Wang C, Fujita T, Magori N, Suzuki R, Hirao R, Kumamoto E: Synaptic modulation through orexin-2 receptor activation by orexin B in the adult rat spinal substantia gelatinosa. *Peptide Science* 2016: 153-154, 2017.
100. 王翀, 藤田亜美, 余婷, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 平尾峻, 熊本栄一: オレキシンBはラット脊髄膠様質ニューロンの興奮性シナプス伝達を促進する. *脊髄機能診断学* 38 : 24 - 32, 2017.
101. 余婷, 藤田亜美, 王翀, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 平尾峻, 熊本栄一: 成熟ラット脊髄膠様質ニューロンにおける植物由来物質の膜過分極作用. *脊髄機能診断学* 38 : 14 - 23, 2017.
102. Yamamoto T, Takahara K, Uchida K, Teramoto N: ZD0947, a sulphonylurea receptor modulator, detects functional sulphonylurea receptor subunits in murine vascular smooth muscle ATP-sensitive K⁺ channels. *European Journal of Pharmacology.* 800: 34-39, 2017.
103. Kai K, Masuda M, Aishima S: Inverse correlation between CD8⁺ inflammatory cells and E-cadherin expression in gallbladder cancer: Tissue microarray and imaging analysis. *World J Clin Cases.* 5(1): 1-8, 2017.
104. Kai K, Koga H, Aishima S, Kawaguchi A, Yamaji K, Ide T, Ueda J, Noshiro H: Impact of smoking habit on surgical outcomes in non-B non-C patients with curative resection for hepatocellular carcinoma. *World J Gastroenterol.* 23(8): 1397-1405, 2017.
105. Kai K, Minesaki A, Suzuki K, Monji M, Nakamura M, Tsugitomi H, Kuratomi Y, Aishima S: Difficulty in the Cytodiagnosis of Mammary Analogue Secretory Carcinoma: Survey of 109 Cytologists with a Case Originating from a Minor Salivary Gland. *Acta Cytol.* 61(6): 469-476, 2017.
106. Koami H, Sakamoto Y, Miyasho T, Noguchi R, Sato N, Kai K, Chris Yamada K, Inoue S: Haptoglobin Reduces Inflammatory Cytokine INF- γ and Facilitates Clot Formation in Acute Severe Burn Rat Model. *Nippon Med Sch.* 84(2): 64-72, 2017.
107. Koga H, Kai K, Aishima S, Kawaguchi A, Yamaji K, Ide T, Ueda J, Noshiro H: Occult hepatitis B virus infection and surgical outcomes in non-B, non-C patients with curative resection for hepatocellular carcinoma. *World J Hepatol.* 9(35): 1286-1295, 2017.
108. Aoki S, Sakata Y, Shimoda R, Takezawa T, Oshikata-Miyazaki A, Kimura H, Yamamoto M, Iwakiri R, Fujimoto K, Toda S: High-density collagen patch prevents stricture after endoscopic circumferential submucosal dissection of the esophagus: a porcine model. *Gastrointest Endosc.* 85(5): 1076-1085, 2017.

109. Furubayashi N, Negishi T, Iwai H, Nagase K, Taguchi K, Shimokawa M, Nakamura M: Determination of adequate pelvic lymph node dissection range for Japanese males undergoing radical prostatectomy. *Mol Clin Oncol.* 6(5): 775-781, 2017.
110. Ito Y, Sakata Y, Yoshida H, Nonaka S, Fujii S, Tanaka Y, Shirai S, Takeshita E, Akutagawa T, Kawakubo H, Yamamoto K, Tsuruoka N, Shimoda R, Iwakiri R, Fujimoto K: High Cost of Hospitalization for Colonic Diverticular Bleeding Depended on Repeated Bleeding and Blood Transfusion: Analysis with Diagnosis Procedure Combination Data in Japan. *Digestion.* 96(2): 76-80, 2017.
111. Kai K, Koga F, Araki N, Shindo T, Eguchi Y, Toda S, Aishima S: Autopsy case of systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood with marked hepatomegaly in a middleaged man. *Pathol Int.* 67(8): 431-433, 2017.
112. Shimoda R, Sakata Y, Fujise T, Yamanouchi K, Tsuruoka N, Hara M, Nakayama A, Yamaguchi D, Akutagawa T, Fujimoto K, Iwakiri R: The adenoma miss rate of blue-laser imaging vs. whitelight imaging during colonoscopy: a randomized tandem trial. *Endoscopy.* 49(2): 186-190, 2017.
113. 島津倫太郎, 山本美保子, 峯崎晃充, 倉富勇一郎 : 胃酸逆流症 (GERD) と口腔疾患の関連性の検討 : 動物モデルを用いて. *日咽科*, 30 (2) , 191 - 195, 2017.
114. 島津倫太郎, 山本美保子, 峯崎晃充, 島崎絵里子, 倉富勇一郎 : 口腔当科における早期舌癌 (T1/T2/N0M0) の予後因子の検討. *頭頸部癌*, 43 (1) , 17 - 22, 2017.
115. Takahara K, Tobu S, Kusano S, Nagase K, Udo K, Noguchi M: The Association Between The Prognosis Of Ureteral Cancer And Natural Constriction By The Common Iliac Arteriovenous Crossing. *The Internet Journal of Urology.* Volume 15 Number 1, 1-6, 2017.
116. Uehara N, Kukita A, Kyumoto-Nakamura Y, Yamaza T, Yasuda H, Kukita T: Osteoblast-derived Laminin-332 is a novel negative regulator of osteoclastogenesis in bone microenvironments. *Lab Inst.* 97(10): 1235-1244, 2017.
117. Koyama T, Kuriyama N, Ozaki E, Matsui D, Watanabe I, Takeshita W, Iwai K, Watanabe Y, Nakatochi M, Shimano C, Tanaka K, Oze I, Ito H, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Takashima N, Kadota A, Kawai S, Sasakabe T, Okada R, Hishida A, Naito M, Kuriki K, Endoh K, Furusyo N, Ikezaki H, Suzuki S, Hosono A, Mikami H, Nakamura Y, Kubo M, Wakai K: Genetic variants of RAMP2 and CLR are associated with stroke. *J Atheroscler Thromb.* 24(12): 1267-1281, 2017.
118. Matsumoto A, Shimano C, Tanaka K, Ichiba M, Hara M: Development of suitable method for largescale urinary glucocorticoid analysis by liquid chromatography-mass spectrometry. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 1057: 62-69, 2017.
119. Nishida Y, Ide Y, Okada M, Otsuka T, Eguchi Y, Ozaki I, Tanaka K, Mizuta T: Effects of home-based exercise and branched-chain amino acid supplementation on aerobic capacity and glycemic control in patients with cirrhosis. *Hepatol Res.* 47(3): E193-E200, 2017.

120. Nishida Y, Tanaka K, Hara M, Hirao N, Tanaka H, Tobina T, Ikeda M, Yamato H, Ohta M: Influence of a home-based exercise program on the urine pH in elderly female subjects: a secondary analysis of a randomized controlled trial. *Eur Rev Aging Phys Act.* 14: 7, 2017.
121. Takagi S, Naito M, Kawai S, Okada R, Nagata C, Hosono S, Nishida Y, Takashima N, Suzuki S, Shimoshikiryo I, Mikami H, Uemura H, Kuriyama N, Ohnaka K, Kubo M, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K: Macronutrient intakes and serum oestrogen, and interaction with polymorphisms in CYP19A1 and HSD17B1 genes: A cross-sectional study in postmenopausal Japanese women. *Br J Nutr.* 118(6): 463-472, 2017.
122. Tanaka Y, Sakata Y, Hara M, Kawakubo H, Tsuruoka N, Yamamoto K, Itoh Y, Hidaka H, Shimoda R, Iwakiri R, Fujimoto K: Risk factors for helicobacter pylori infection and endoscopic reflux esophagitis in healthy young Japanese volunteers. *Intern Med.* 56(22): 2979-2983, 2017.
123. Yoshioka T, Takeshita E, Sakata Y, Hara M, Akutagawa K, Sakata N, Endo H, Ohyama T, Matsunaga, Tanaka Y, Shirai S, Ito Y, Tsuruoka N, Iwakiri R, Kusano M, Fujimoto K: Helicobacter pylori infection status had no influence on upper gastrointestinal symptoms: a cross-sectional analysis of 3, 005 Japanese subjects without upper gastrointestinal lesions undergoing medical health checkups. *Esophagus.* 14(3): 249-253, 2017.
124. Azuma K, Endo G, Endo Y, Fukushima T, Hara K, Hori H, Horie S, Horiguchi H, Ichiba M, Ichihara G, Ikeda M, Ishitake T, Ito A, Ito Y, Iwasawa S, Kamijima M, Karita K, Katoh T, Kawai T, Kawamoto T, Kishi R, Kumagai S, Kusaka Y, Matsumoto A, Miyagawa M, Miyauchi H, Morimoto Y, Nagano K, Naito H, Nakajima T, Nomiyama T, Okuda H, Omae K, Sakurai H, Sato K, Sobue T, Suwazono Y, Takebayashi T, Takeshita T, Takeuchi A, Takeuchi A, Tanaka M, Tanaka S, Tsukahara T, Tsunoda M, Ueno S, Ueyama J, Umeda Y, Yamano Y, Yamauchi T, Yano E: Occupational exposure limits for ethylene glycol monobutyl ether, isoprene, isopropyl acetate and propyleneimine, and classifications on Occupational exposure limits for ethylene glycol monobutyl ether, isoprene, isopropyl acetate and propyleneimine, and classifications on carcinogenicity, occupational sensitizer and reproductive toxicant. *J Occup Health.* 59(4): 364-366, 2017.
125. Matsumoto A, Arcaroli J, Chen Y, Gasparetto M, Neumeister V, Thompson DC, Singh S, Smith C, Messersmith W, Vasiliou V: Aldehyde dehydrogenase 1B1: a novel immunohistological marker for colorectal cancer. *Br J Cancer.* 117(10): 1537-1543, 2017.
126. Matsumoto A, Shimano C, Tanaka K, Ichiba M, Hara M: Development of suitable method for largescale urinary glucocorticoid analysis by liquid chromatography-mass spectrometry. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 1057: 62-69, 2017.
127. Ono N, Murakami K, Chan O, Hall H, Elford AR, Yen P, Calzascia T, Spencer DM, Ohashi PS, Dhanji S: Exposure to sequestered self-antigens in vivo is not sufficient for the induction of autoimmune diabetes. *PLoS One.* 12(3): e0173176, 2017.

128. Sakamoto Y, Yamamoto T, Sugano N, Takahashi D, Watanabe T, Atsumi T, Nakamura J, Hasegawa Y, Akashi K, Narita I, Miyamoto T, Takeuchi T, Ikari K, Amano K, Fujie A, Kubo T, Tada Y, その他 17 名: Genomewide Association Study of Idiopathic Osteonecrosis of the Femoral Head. *Sci Rep.* 7(1): 15035, 2017.
129. Tashiro H, Takahashi K, Tanaka M, Komiya K, Nakamura T, Kimura S, Tada Y, Sueoka-Aragane N: Characteristics and prognosis of microscopic polyangiitis with bronchiectasis. *J Thorac Dis.* 9(2): 303-309, 2017.
130. Washio M, Takahashi H, Kobashi G, Kiyohara C, Tada Y, Asami T, Ide Y, Atsumi T, Horiuchi T and the Kyusyu Sapporo SLE (KYSS) Study Group: Risk factors for development of systemic lupus erythematosus among Japanese females: medical history and reproductive factors. *Int J Rheum Dis.* 20(1): 76-83, 2017.
131. Akutagawa T, Shindo T, Yamanouchi K, Hayakawa M, Ureshino H, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, Noguchi R, Furukawa K, Morita S, Iwakiri R, Kimura S, Matsumoto M, Fujimoto M: Persistent gastrointestinal angiodysplasia in Heyde's syndrome after aortic valve replacement. *Intern Med.* 56(18): 2431-2433, 2017.
132. Hirakawa H, Nakashima C, Nakamura T, Masuda M, Funakoshi T, Nakagawa S, Horimatsu T, Matsubara K, Muto M, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Chemotherapy for primary mediastinal yolk sac tumor in a patient undergoing chronic hemodialysis: a case report. *J Med Case Rep.* 11(1): 43, 2017.
133. Hosoya K, Matsusaka S, Kashiwada T, Suzuki K, Ureshino N, Sato A, Miki Y, Kitera K, Hirai M, Hatake K, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Detection of KRAS mutations in plasma DNA using a fully automated rapid detection system in colorectal cancer patients. *Pathol Oncol Res.* 23(4): 737-744, 2017.
134. Ide M, Koba K, Sueoka-Aragane N, Sato A, Nagano Y, Inoue T, Misago N, Narisawa Y, Kimura S, Sueoka E: Mutation profile of B-raf gene analyzed by fully automated system and clinical features in Japanese melanoma patients. *Pathol Oncol Res.* 23(1): 181-188, 2017.
135. Ishizawa J, Sugihara E, Kuninaka S, Mogushi K, Kojima K, Benton CB, Zhao R, Chachad D, Hashimoto N, Jacamo RO, Qiu Y, Yoo SY, Okamoto S, Andreeff M, Kornblau SM, Saya H: FZR1 loss increases sensitivity to DNA damage and consequently promotes murine and human B-cell acute leukemia. *Blood.* 129(14): 1958-1968, 2017.
136. Itamura H, Kubota Y, Shindo T, Ando T, Kojima K, Kimura S: Elderly patients with chronic myeloid leukemia benefit from a dasatinib dose as low as 20 mg. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk.* 17(6): 370-374, 2017.
137. Kobayashi-Watanabe N, Sato A, Watanabe T, Abe T, Nakashima C, Sueoka E, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Functional analysis of Discoidin domain receptor 2 mutation and expression in squamous cell lung cancer. *Lung Cancer.* 110: 35-41, 2017.
138. Kubota Y, Hirakawa Y, Wakayama K, Kimura S: Peculiar cold-induced leukoagglutination in *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. *Turk J Haematol.* 34(4): 354-355, 2017.

139. Miyahara T, Sueoka-Aragane N, Iwanaga K, Ureshino N, Komiya K, Nakamura T, Nakashima C, Abe T, Matsunaga H, Kimura S: Severity and predictive factors of adverse events in pemetrexed-containing chemotherapy for non-small cell lung cancer. *Med Oncol.* 34(12): 195, 2017.
140. Nakamura T, Watanabe N, Sato A, Komiya K, Umeguchi H, Hosomi T, Hirai M, Sueoka E, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Plasma T790M and HGF as potential predictive markers for EGFR-TKI rechallenge. *Oncol Lett.* 13(6): 4939-4946, 2017.
141. Nishida Y, Maeda A, Kim MJ, Cao L, Kubota Y, Ishizawa J, Al Rawi AN, Kato Y, Iwama A, Fujisawa M, Matsue K, Weetall M, Dumble M, Andreeff M, Davis TW, Branstrom A, Kimura S, Kojima K: The novel BMI-1 inhibitor PTC596 downregulates MCL-1 and induces p53-independent mitochondrial apoptosis in acute myeloid leukemia progenitor cells. *Blood Cancer J.* 7(2): e527, 2017.
142. Ohta S, Okamoto M, Fujimoto K, Sakamoto N, Takahashi K, Yamamoto H, Kushima H, Ishii H, Akasaka K, Ono J, Kamei A, Azuma Y, Matsumoto H, Yamaguchi Y, Aihara M, Johkoh T, Kawaguchi A, Ichiki M, Sagara H, Kadota JI, Hanaoka M, Hayashi SI, Kohno S, Hoshino T, Izuhara K: Consortium for Development of Diagnostics for Pulmonary Fibrosis Patients (CoDD-PF). The usefulness of monomeric periostin as a biomarker for idiopathic pulmonary fibrosis. *PLoS One.* 12(3): e0174547, 2017.
143. Sadamatsu H, Takahashi K, Tashiro H, Komiya K, Nakamura T, Sueoka-Aragane N: Successful treatment of pulmonary nocardiosis with fluoroquinolone in bronchial asthma and bronchiectasis. *Respirol Case Rep.* 5(3): e00229, 2017.
144. Takero Shindo, Kazutaka Kitaura, Hiroshi Ureshino, Kazuharu Kamachi, Masaharu Miyahara, Kazuko Doi, Tatsuro Watanabe, Eisaburo Sueoka, Tadasu Shin-I, Ryuji Suzuki and Shinya Kimura: Deep sequencing of the T cell receptor visualizes reconstitution of T cell immunity in mogamulizumab-treated adult T cell leukemia. *Oncoimmunology.* 7(3): e1405204, 2017.
145. Tashiro H, Egashira R, Takahashi K, Fukui S, Kimura S, Nakazono T, Nojiri J, Fukuoka J, Irie H, Sueoka-Aragane N: Thinsection CT findings of multicentric Castleman disease changing over 10 years. *J Thorac Imaging.* 32(6): W81-W83, 2017.
146. Tashiro H, Takahashi K, Ikeda Y, Uchiumi S, Fukuda M, Miyazono M, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Preexisting chronic interstitial pneumonia is poor prognostic factor of Goodpasture's syndrome: a case and review of the literature. *J Med Case Rep.* 11(1): 102, 2017.
147. Tashiro H, Takahashi K, Sadamatsu H, Kato G, Kurata K, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Saturated Fatty Acid Increases Lung Macrophages and Augments House Dust Mite-Induced Airway Inflammation in Mice Fed with High-Fat Diet. *Inflammation.* 40(3): 1072-1086, 2017.

148. Tanaka A, Shimabukuro M, Okada Y, Taguchi I, Yamaoka-Tojo M, Tomiyama H, Teragawa H, Sugiyama S, Yoshida H, Sato Y, Kawaguchi A, Ikehara Y, Machii N, Maruhashi T, Shima KR, Takamura T, Matsuzawa Y, Kimura K, Sakuma M, Oyama JI, Inoue T, Higashi Y, Ueda S, Node K; EMBLEM Trial Investigators: Rationale and design of a multicenter placebo-controlled double-blind randomized trial to evaluate the effect of empagliflozin on endothelial function: the EMBLEM trial. *Cardiovasc Diabetol.* 16(1): 48, 2017.
149. Oyama JI, Node K: Prevalence of prehypertension and left ventricular hypertrophy. *Hypertens Res.* 40(6): 544-545, 2017.
150. Fujiwara N, Tanaka A, Kawaguchi A, Tago M, Oyama JI, Uchida Y, Matsunaga K, Moroe K, Toyoda S, Inoue T, Ikeda H, Node K; APEQ Study Investigators: APEQ Study Investigators. Association Between Blood Pressure Lowering and Quality of Life by treatment of Azilsartan. *Int Heart J.* 58(5): 752-761, 2017.
151. Oyama JI, Shiraki A, Nishikido T, Maeda T, Komoda H, Shimizu T, Makino N, Node K: EGCG, a green tea catechin, attenuates the progression of heart failure induced by the heart/muscle-specific deletion of MnSOD in mice. *J Cardiol.* 69(2): 417-427, 2017.
152. Tanaka A, Yoshida H, Kawaguchi A, Oyama JI, Kotooka N, Toyoda S, Inoue T, Natsuaki M, Node K: N-terminal probrain natriuretic peptide and associated factors in the general working population: a baseline survey of the Uranosaki cohort study. *Sci Rep.* 7(1): 5810, 2017.
153. Oyama JI, Node K: Effect of particulate matters on cardiovascular disease. *J. Balneol. Climatol. Phys. Med.* 80(2): 61-65, 2017.
154. Otsuka T, Kawaguchi Y, Mizuta T, Ide Y, Koga F, Kumagai T, Yoshioka W, Murayama K, Rikitake O, Ikeda Y, Ozaki I: Asunaprevir and daclatasvir in hemodialysis patients with chronic hepatitis C virus genotype 1b infection. *JGH Open.* 1(4): 148-152, 2017.
155. Sanai T, Nagashima A, Okamura K, Rikitake S, Fukuda M, Onozawa K, Sanematsu M, Takashima T, Miyazono M, Ikeda Y: Thyroid function in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis in comparison with chronic kidney disease. *Clin Nephrol.* 89(3): 181-186, 2018.
156. Matsumoto K, Ikeda Y, Yamaguchi S, Sanematsu M, Fukuda M, Takashima T, Kishi T, Miyazono M, Uchiumi S, Yoshizaki M, Nonaka Y, Matsumoto R, Kanaya A, Fukunari K, Ikeda Y: Long-term Outcomes of Tonsillectomy for IgA Nephropathy Patients. : A Retrospective Cohort Study, Two-center Analysis with the Inverse Probability Therapy Weighting Method. *Nephrology (Carlton)*, 2017.
157. Sanai T, Okamura K, Rikitake S, Fukuda M, Onozawa K, Sanematsu M, Takashima T, Miyazono M, Ikeda Y: The high prevalence of reversible subclinical hypothyroidism with elevated serum thyroglobulin levels in chronic kidney disease patients. *Clin Nephrol.* 87(5): 237-244, 2017.
158. Ito Y, Sakata Y, Yoshida H, Nonaka S, Fujii S, Tanaka Y, Shirai S, Takeshita E, Akutagawa T, Kawakubo H, Yamamoto K, Tsuruoka N, Shimoda R, Iwakiri R, Fujimoto K: High cost of hospitalization for colonic diverticular bleeding depended on repeated bleeding and blood transfusion: analysis with diagnosis procedure combination (DPC) data in Japan. *Digestion.* 96(2): 76-80, 2017.

159. Yoshioka T, Takeshita E, Sakata Y, Hara M, Akutagawa K, Sakata N, Endo H, Ohyama T, Matsunaga K, Tanaka Y, Shirai S, Ito Y, Tsuruoka N, Iwakiri R, Kusano M, Fujimoto K: Helicobacter pylori infection status had no influence on upper gastrointestinal symptoms: a cross sectional analysis of 3, 005 Japanese subjects without upper gastrointestinal lesions undergoing medical health checkups. *Esophagus*. 14(3): 249-253, 2017.
160. Kato Y, Jimbo M, sakakibara Y, Onizuka R, Takahashi H, Matsuhashi S, Mita H, Amada K, Imahara Y, Tanabe K, Toda A, Kamiya H: Characterization of a novel allergenic protein from the octocoral *Scleronephthya gracillima* (kuekenthal) that corresponds to a new GFP-like family named Akane. *Luminescence*. 32(6): 1009-1016, 2017.
161. Kitajima Y, Takahashi H, Akiyama T, Murayama K, Iwane S, Kuwashiro T, Tanaka K, Kawazoe S, Ono N, Eguchi T, Anzai K, Eguchi Y: Supplementation with branched-chain amino acids ameliorates hypoalbuminemia, prevents sarcopenia, and reduces fat accumulation in the skeletal muscles of patients with liver cirrhosis. *J Gastroenterol*. 53(3): 427-437, 2018.
162. Komazaki R, Katagiri S, Takahashi H, Maekawa S, Shiba T, Takeuchi Y, Kitajima Y, Ohtsu A, Udagawa S, Sasaki N, Watanabe K, Sato N, Miyasaka N, Eguchi Y, Anzai K, Izumi Y: Periodontal pathogenic bacteria, *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* affect non-alcoholic fatty liver disease by altering gut microbiota and glucose metabolism. *Sci Rep*. 7(1): 13950, 2017.
163. Kristin I. Stanford, Hirokazu Takahashi, Kawai So, Ana Barbara Alves-Wagner, Noah B. Prince, Adam C. Lehnig, Kristen M. Getchell, Min-Young Lee, Michael F. Hirshman and Laurie J. Goodyear: Maternal Exercise Improves Glucose Tolerance in Female Offspring. *Diabetes*. 66(8): 2124-2136, 2017.
164. 高橋宏和, 兵庫秀幸 : NAFLD/NASH の予後と肝発癌. *消化器・肝臓内科* 1 (2) : 207 - 211, 2017.
165. 野下祥太郎, 吉岡航, 窪津祥仁, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : 猫咬傷を契機に *Pasteurella* 腹膜炎をきたした肝硬変の 1 例. *肝臓* 58 (9) : 504 - 509, 2017.
166. Hua N, Takahashi H, Yee GM, Kitajima Y, Katagiri S, Kojima M, Anzai K, Eguchi Y, Hamilton JA: Influence of muscle fiber type composition on early fat accumulation under high-fat diet challenge. *PLoS One*. 12(8): e0182430, 2017.
167. Lynes MD, Leiria LO, Lundh M, Bartelt A, Shamsi F, Huang TL, Takahashi H, Hirshman MF, Schlein C, Lee A, Baer LA, May FJ, Gao F, Narain NR, Chen EY, Kiebish MA, Cypess AM, Blüher M, Goodyear LJ, Hotamisligil GS, Stanford KI, Tseng YH: The cold-induced lipokine 12, 13-diHOME promotes fatty acid transport into brown adipose tissue. *Nat Med*. 23(5): 631-637, 2017.
168. 山内寛子, 高橋宏和, 松田やよい, 安西慶三 : 糖尿病治療薬による NAFLD 治療の可能性. *糖尿病の最新治療* 8 (2) : 86 - 91, 2017.
169. Yoneda M, Imajo K, Takahashi H, Ogawa Y, Eguchi Y, Sumida Y, Yoneda M, Kawanaka M, Saito S, Tokushige K, Nakajima A: Clinical strategy of diagnosing and following patients with nonalcoholic fatty liver disease based on invasive and noninvasive methods. *J Gastroenterol*. 53(2): 181-196, 2018.

170. Imamura Y, Mizoguchi Y, Nabeta H, Haraguchi Y, Matsushima J, Kojima N, Kawashima T, Yamada S, Monji A: An association between belief in life after death and serum oxytocin in older people in rural Japan. *Int J Geriatr Psychiatry*. 32(1): 102-109, 2017.
171. Kunitake Y, Mizoguchi Y, Sogawa R, Matsushima J, Kato TA, Kawashima T, Monji A: Effect of Excessive Coffee Consumption on the Clinical Course of a Patient With Bipolar Disorder: A Case Report and Literature Review. *Clin Neuropharmacol*. 40(4): 160-162, 2017.
172. Haraguchi Y, Mizoguchi Y, Ohgidani M, Imamura Y, Murakawa-Hirachi T, Nabeta H, Tateishi H, Kato TA, Monji A (Equal author contribution): Donepezil suppresses intracellular Ca²⁺ mobilization through the PI3K pathway in rodent microglia. *J Neuroinflammation*. 14(1): 258, 2017.
173. Mizoguchi Y, Monji A: TRPC Channels and Brain Inflammation. *Adv Exp Med Biol*. 976: 111-121, 2017.
174. Mizoguchi Y, Monji A: Microglial Intracellular Ca(2+) Signaling in Synaptic Development and its Alterations in Neurodevelopmental Disorders. *Front Cell Neurosci*. 11: 69, 2017.
175. Ohgidani M, Kato TA, Haraguchi Y, Matsushima T, Mizoguchi Y, Murakawa-Hirachi T, Sagata N, Monji A, Kanba S: Microglial CD206 Gene Has Potential as a State Marker of Bipolar Disorder. *Front Immunol*. , 2017.
176. Hirabaru K, Matsuo M: Neurological comorbidity in children with neurofibromatosis type 1. *Pediatr Int*. 60(1): 70-75, 2018.
177. 垣内俊彦, 江口有一郎, 谷口一登, 荒木薫, 松尾宗明: 【論策】題名B型肝炎ワクチン定期接種化に向けた個別対応による広報と接種意義説明の有用性. *日本小児科学会雑誌* 121 (3) : 616 - 622, 2017.
178. Kashimada A, Hasegawa S, Isagai T, Uchiyama T, Matsuo M, Kawai M, Goto M, Morio T, Hayashi YK, Takagi M: Targeting the enhanced ER stress response in Marinesco-Sjögren syndrome. *J Neurol Sci*. 385: 49-56, 2018.
179. Okada Y, Ueda E, Kondo Y, Ishitsuka Y, Irie T, Higashi T, Motoyama K, Arima H, Matsuo M, Higaki K, Ohono K, Nishikawa J, Ichikawa A: Role of 6-O- α -maltosyl- β -cyclodextrin in lysosomal cholesterol deprivation in Npc1-deficient Chinese hamster ovary cells. *Carbohydr Res*. 455: 54-61, 2018.
180. Sato-Kawano N, Takemoto M, Okabe E, Yokote K, Matsuo M, Kosaki R, Ihara K: The clinical characteristics of Asian patients with classical-type Hutchinson-Gilford progeria syndrome. *J Hum Genet*. 62(12): 1031-1035, 2017.
181. Takamatsu Y, Higashimoto K, Maeda T, Kawashima M, Matsuo M, Abe T, Matsushima T, Soejima Yamazaki T, Shibuya A, Ishii S, Miura N, Ohtake A, Sasaki N, Araki R, Ota Y, Fujiwara M, Miyajima Y, Uetake K, Hamahata K, Kato K, Kawakami K, Toyoda H, Moriguchi N, Okada M, Nishi M, Ogata Y, Takimoto T, Ohga S, Ohta S, Amemiya S: High-dose cepharanthin therapy for pediatric patients with chronic immune thrombocytopenia in Japan. *Pediatr Int*. 59(3): 303-308, 2017.

182. Baba K, Kitajima Y, Miyake S, Nakamura J, Wakiyama K, Sato H, Okuyama K, Kitagawa H, Tanaka T, Hiraki M, Yanagihara K, Noshiro H: Hypoxia-induced ANGPTL4 sustains tumour growth and anoikis resistance through different mechanisms in scirrhous gastric cancer cell lines. *Sci Rep.* 7(1): 11127, 2017.
183. Wakiyama K, Kitajima Y, Tanaka T, Kaneki M, Yanagihara K, Aishima S, Nakamura J, Noshiro H: Low-dose YC-1 combined with glucose and insulin selectively induces apoptosis in hypoxic gastric carcinoma cells by inhibiting anaerobic glycolysis. *Sci Rep.* 7(1): 12653, 2017.
184. Furukawa K, Kamohara K, Yunoki J, Koga S, Itoh M, Morokuma H, Mukae Y, Itoh T, Morita S: Should the annulus be fixed in aortic valve-sparing root replacement with remodeling ?. *Gen Thorac Cardiovasc Surg.* 65(4): 200-205, 2017.
185. 伊藤学, 五條理志, 野出孝一, 小林英司, 森田茂樹, 中山功一 : 【特集 4】 スキャフォールドフリー バイオ 3D プリントを用いた小口径細胞製人工血管の開発. *医工学治療* 29 (3) : 167 - 172, 2017.
186. 松林久美香, 伊藤学, 小林英司, 中山功一: バイオ 3D プリントを用いた人工血管再生. *最新医学* 72 (12) : 58 - 64, 2017.
187. 野中俊宏, 橋本哲, 本家秀文, 隈元真志, 馬渡正明: 人工股関節全置換術における SQRUM TT CUP の術後成績の検討. *整形外科と災害外科* 66 (3) : 453 - 455, 2017.
188. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明 : 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後の歩行状態の経時的変化. *HipJoint Vol. 43* : 616 - 617, 2017.
189. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明 : 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後 5 年間の歩行の経時的変化—高位脱臼股の分類別による検討—. *日本人工 関節学会誌* 第 47 巻 : 723 - 724, 2017.
190. Ogata A, Kawashima M, Wakamiya T, Nishihara M, Masuoka J, Nakahara Y, Ebashi R, Inoue K, Takase Y, Irie H, Abe T: Carotid artery stenosis with a high-intensity signal plaque on time-of-flight magnetic resonance angiography and association with evidence of intraplaque hypoxia. *J Neurosurg.* 126(6): 1873-1878, 2017.
191. Ogata A, Ebashi R, Suzuyama K, Okamoto H, Takase Y, Masuoka J, Nakahara Y, Inoue K, Abe T: Transbrachial Angioplasty and Stenting without Crossing the Aortic Arch for Right Carotid Artery Stenosis Patients with Complex Aortic Plaques. *Journal of Neuroendovascular Therapy*, 2017.
192. Masuoka J, Matsushima T, Nakahara Y, Inoue K, Yoshioka F, Kawashima M, Abe T: Outcome of microvascular decompression for hemifacial spasm associated with the vertebral artery. *Neurosurg Rev.* 40(2): 267-273, 2017.
193. 高原光平, 東武昇平, 有働和馬, 野口満 : Urinary tract dilation classification system は水腎症を呈す先天性小児泌尿器科疾患の手術介入予測に有用である. *日本小児泌尿器科学会雑誌* 26 (1) : 65 - 68, 2017.

194. Takahara K, Tobu S, Kusano S, Nagase K, Udo K, Noguchi M: The Association Between The Prog-nosis Of Ureteral Cancer And Natural Constriction By The Common Iliac Arteriovenous Crossing. *The Internet Journal of Urology*. 15(1), 2017.
195. 有働和馬, 南里麻己, 東武昇平, 野口満: 脂肪組織と尿細管上皮／尿路上皮との相互作用. *泌尿器外科* 30 (2) : 111 - 116, 2017.
196. 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 腹腔鏡下手術 安全に手術を遂行するために当院におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術に関連した周術期合併症. *西日本泌尿器科* 79 (8) : 298 - 303, 2017.
197. Hirata A, Hayashi K, Murata K, Nakamura K: Three-dimensional analysis of peeled internal limiting membrane using focused ion beam/scanning electron microscopy. *Transl Vis Sci Technol*. 7(1): 15, 2018.
198. 島津倫太郎, 山本美保子, 峯崎晃充, 嶋崎絵里子, 倉富勇一郎: 当科における早期舌癌 (T1/T2/N0M0) の予後因子の検討. *頭頸部癌* 43 (1) : 17 - 22, 2017.
199. 島津倫太郎, 山本美保子, 峯崎晃充, 倉富勇一郎: 胃酸逆流症 (GERD) と口腔疾患の関連性の検討 動物モデルを用いて. *口腔・咽喉科* 30 (2) : 191 - 195, 2017.
200. 合島怜央奈: なぜ口腔内の傷は治りが早い?. *佐賀市歯科医師会誌* 84 号, 32 - 33, 2017.
201. Mine K, Miyamaru Y, Hayashi M, Aijima R, Yamashita Y: Mechanism of Inactivation of Oral Cancer Cells Irradiated by Active Oxygen Species from DBD Plasma. *Plasma Medicine*, 7(3): 201-213, 2017.
202. Nakano R, Tashiro K, Aijima R, Hayashi N: Effect of Oxygen Plasma Irradiation on Gene Expression in Plant Seeds Induced by Active Oxygen Species. *Plasma Medicine*, 6(3-4): 303-313, 2016.
203. Shimohira D, Yamashita Y, Aijima R, Danjo A, Katsuki T, Goto M: Change in the length over time to the triangular flap in the Cronin method. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*. 29(5): 411-414, 2017.
204. Uchida Y, Yamashita Y, Danjo A, Shibata K, Kuraoka A: Computed tomography and anatomical measurements of critical sites for endosseous implants in the pterygomaxillary region: a cadaveric study. *Int J Oral Maxillofac Surg*. 46(6): 798-804, 2017.
205. Kobayashi-Watanabe N, Sato A, Watanabe T, Abe T, Nakashima C, Sueoka E, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Functional analysis of Discoidin domain receptor 2 mutation and expression in squamous cell lung cancer. *Lung Cancer*. ; 110: 35-41, 2017.
206. Nakamura T, Watanabe N, Sato A, Komiya K, Umeguchi H, Hosomi T, Hirai M, Sueoka E, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Plasma T790M and HGF as potential predictive markers for EGFR-TKI rechallenge. *Oncol Lett*. 13: 4939-4946, 2017.
207. Ide M, Koba K, Sueoka-Aragane N, Sato A, Nagano Y, Inoue T, Misago N, Narisawa Y, Kimura S, Sueoka E: Mutation profile of B-raf gene analyzed by fully automated system and clinical features in Japanese melanoma patients. *Pathol Oncol Res*. 23: 181-188, 2017.

208. Hosoya K, Matsusaka S, Kashiwada T, Suzuki K, Ureshino N, Sato A, Miki Y, Kitera K, Hirai M, Hatake K, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Detection of KRAS Mutations in plasma DNA using a fully automated rapid detection system in colorectal cancer patients. *Pathol Oncol Res*, doi: 10.1007/s12253-016-0175-1, 2017.
209. Koami H, Sakamoto Y, Yamada KC, Matsuda T, Nishi J, Nakayama K, Sakurai R, Ohta M, Imahase H, Yahata M, Umeka M, Miike T, Iwamura T, Inoue S: What factor within the Japanese Association for Acute Medicine (JAAM) disseminated intravascular coagulation (DIC) criteria is most strongly correlated with trauma induced DIC? A retrospective study using thromboelastometry in a single center in Japan. *Eur J Trauma Emerg Surg*. 43(4): 431-438, 2017.
210. Kawazoe Y, Miyamoto K, Morimoto T, Yamamoto T, Fuke A, Hashimoto A, Koami H, Beppu S, Katayama Y, Itoh M, Ohta Y, Yamamura H: Dexmedetomidine for Sepsis in Intensive Care Unit Randomized Evaluation (DESIRE) Trial Investigators: Effect of Dexmedetomidine on Mortality and Ventilator-Free Days in Patients Requiring Mechanical Ventilation With Sepsis A Randomized Clinical Trial. *JAMA*. 317(13): 1321-1328, 2017.
211. Saito N, Sugiyama K, Ohnuma T, Kanemura T, Nasu M, Yoshidomi Y, Tsujimoto Y, Adachi H, Koami H, Tochiki A, Hori K, Wagatsuma Y, Matsumoto H: Efficacy of polymyxin B immobilized fiber hemoperfusion for patients with septic shock caused by Gram-negative bacillus infection. *PLoS One*. 12(3): e0173633, 2017.
212. Koami H, Sakamoto Y, Sakurai R, Ohta M, Imahase H, Yahata M, Umeka M, Miike T, Nagashima F, Iwamura T, Yamada KC, Inoue S: Thromboelastometric analysis of the risk factors for return of spontaneous circulation in adult patients with out-of-hospital cardiac arrest. *PLoS One*. 12(4): e0175257, 2017.
213. Koami H, Sakamoto Y, Miyasho T, Noguchi R, Sato N, Kai K, Yamada KC, Inoue S: Haptoglobin Reduces Inflammatory Cytokine INF- γ and Facilitates Clot Formation in Acute Severe Burn Rat Model. *J Nippon Med Sch*. 84(2): 64-72, 2017.
214. Koami H, Sakamoto Y, Sakurai R, Ohta M, Imahase H, Yahata M, Umeka M, Miike T, Nagashima F, Iwamura T, Yamada KC, Inoue S: The efficacy and associated bleeding complications of recombinant antithrombin supplementation among intensive care unit patients. *Thromb Res*. Vol. 157: 84-89, 2017.
215. 阪本雄一郎, 永嶋太, 小網博之, 三池徹: 特集【外傷性凝固障害の病態と対応】外傷性凝固障害における Viscoelastic device の意義. *Thrombosis Medicine* 7 (4) : 265 - 275, 2017.
216. Iwamura T, Inoue S, Yamada KC, Koami H, Miike T, Yahata M, Imahase H, Sakamoto Y: An Utstein-style Investigation into Prognoses Observed from the Condition of the Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients. *West Indian Medical Journal*, 2017.
217. Okada T, Ihara H, Ito R, Ikeda Y: Molecular cloning and functional expression of Lewis type α 1, 3/ α 1, 4-fucosyltransferase cDNAs from *Mangifera indica* L. *Phytochemistry*. Vol. 144, p. p. 98-105, 2017.
218. Kawano H: Synaptic contact between median preoptic neurons and subfornical organ neurons projecting to the paraventricular hypothalamic nucleus. *Exp Brain Res*. 235(4): 1053-1062, 2017.

219. Kakihara N, Yamamoto M, Kitajima S, Aoki S, Narisawa Y, Toda S: Moisturizing effects of cold process soap treatment in mouse burned skin: A potential effectiveness of cold process soap in complementary medicine. *Journal of Japanese Society of Aromatherapy* 16(1): 7-14, 2017.
220. 柿原奈保子：原著 向老期皮膚熱傷モデルに対する初期局所療法での洗浄剤選択に関する研究. 看護理工学会誌 4 (2) : 90 - 97, 2017.
221. Kai K, Masuda M, Aishima S: Inverse correlation between CD8+ inflammatory cells and E-cadherin expression in gallbladder cancer: Tissue microarray and imaging analysis. *World J Clin Cases*. 5(1): 1-8, 2017.
222. Kai K, Koga H, Aishima S, Kawaguchi A, Yamaji K, Ide T, Ueda J, Noshiro H: Impact of smoking habit on surgical outcomes in non-B non-C patients with curative resection for hepatocellular carcinoma. *World J Gastroenterol*. 23(8): 1397-1405, 2017.
223. Kai K, Minesaki A, Suzuki K, Monji M, Nakamura M, Tsugitomi H, Kuratomi Y, Aishima S: Difficulty in the Cytodiagnosis of Mammary Analogue Secretory Carcinoma: Survey of 109 Cytologists with a Case Originating from a Minor Salivary Gland. *Acta Cytol*. 61(6): 469-476, 2017.
224. Koami H, Sakamoto Y, Miyasho T, Noguchi R, Sato N, Kai K, Chris Yamada K, Inoue S: Haptoglobin Reduces Inflammatory Cytokine INF- γ and Facilitates Clot Formation in Acute Severe Burn Rat Model. *Nippon Med Sch*. 84(2): 64-72, 2017.
225. Koga H, Kai K, Aishima S, Kawaguchi A, Yamaji K, Ide T, Ueda J, Noshiro H: Occult hepatitis B virus infection and surgical outcomes in non-B, non-C patients with curative resection for hepatocellular carcinoma. *World J Hepatol*. 9(35): 1286-1295, 2017.
226. 江口有一郎, 高橋宏和, 北島陽一郎, 磯田広史, 窪津祥二: 非アルコール性脂肪性肝疾患の病態に年齢と動脈硬化が与える影響. 大和証券ヘルス財団研究業績集 第40号, 122 - 125, 2017
227. Hua N, Takahashi H, Yee GM, Kitajima Y, Katagiri S, Kojima M, Anzai K, Eguchi Y, Hamilton JA: Influence of muscle fiber type composition on early fat accumulation under high-fat diet challenge. *PLoS One*. 12(8): e0182430, 2017.
228. Kitajima Y, Takahashi H, Akiyama T, Murayama K, Iwane S, Kuwashiro T, Tanaka K, Kawazoe S, Ono N, Eguchi T, Anzai K, Eguchi Y: Supplementation with branched-chain amino acids ameliorates hypoalbuminemia, prevents sarcopenia, and reduces fat accumulation in the skeletal muscles of patients with liver cirrhosis. *J Gastroenterol*. , 2017.
229. Kai K, Koga F, Araki N, Shindo T, Eguchi Y, Toda S, Aishima S: Autopsy case of systemic EBV-positive T-cell lymphoma of childhood with marked hepatomegaly in a middle-aged man. *Pathol Int*. 67(8): 431-433, 2017.
230. 垣内俊彦, 江口有一郎, 谷口一登, 荒木薫, 松尾宗明: B型肝炎ワクチン定期接種化に向けた個別対応による広報と接種意義説明の有用性. 日本小児科学会雑誌 121 (3) : 616 - 622, 2017.
231. Komazaki R, Katagiri S, Takahashi H, Maekawa S, Shiba T, Takeuchi Y, Kitajima Y, Ohtsu A, Udagawa S, Sasaki N, Watanabe K, Sato N, Miyasaka N, Eguchi Y, Anzai K, Izumi Y: Periodontal pathogenic bacteria, *Aggregatibacter actinomycetemcomitans* affect non-alcoholic fatty liver disease by altering gut microbiota and glucose metabolism. *Sci Rep*. 7(1): 13950, 2017.

232. Nishida Y, Ide Y, Okada M, Otsuka T, Eguchi Y, Ozaki I, Tanaka K, Mizuta T: Effects of home-based exercise and branched-chain amino acid supplementation on aerobic capacity and glycemic control in patients with cirrhosis. *Hepatol Res.* 47(3): E193-E200, 2017.
233. 野下祥太郎, 吉岡航, 窪津祥仁, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: 症例報告 猫咬傷を契機に *Pasteurella* 腹膜炎をきたした肝硬変の1例. *肝臓* 58 (9) : 504 - 509, 2017.
234. Oeda S, Takahashi H, Yoshida H, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Koshiyama Y, Ono M, Hyogo H, Kawaguchi T, Fujii H, Nishino K, Sumida Y, Tanaka S, Kawanaka M, Torimura T, Saibara T, Kawaguchi A, Nakajima A, Eguchi Y; Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD): Prevalence of pruritus in patients with chronic liver disease: A multicenter study. *Hepatol Res.* 48(3): E252-E262, 2018.
235. 高橋宏和, Hamilton James A., 北島陽一郎, 江口有一郎, 安西慶三: 非アルコール性脂肪肝炎における運動トレーニング誘発性アディポカインの効果検討とメカニズム解析. 若手研究者のための健康科学研究助成成果報告書 32 号, 81 - 85, 2017.
236. Younossi ZM, Tanaka A, Eguchi Y, Lim YS, Yu ML, Kawada N, Dan YY, Brooks-Rooney C, Negro F, Mondelli MU: The impact of hepatitis C virus outside the liver: Evidence from Asia. *Liver Int.* 37(2): 159-172, 2017.
237. 前田美由紀, 白濱和加子, 飛田修康, 祖川倫太郎, 林章浩, 木村早希子, 田崎正信, 成澤寛: 病棟薬剤師による情報共有ツールを活用した簡易懸濁法の運用とその効果. *九州薬学会会報* (71) : 41 - 44, 2017.
238. 矢ヶ部良太, 祖川倫太郎, 前田美由紀, 本岡千佳, 江口弘晃, 木村早希子, 田崎正信, 成澤寛: プロトコールに基づいた薬剤師による処方修正のアウトカム. *九州薬学会会報* (71) : 33 - 36, 2017.
239. 秋吉俊明, 松尾完, 南志穂, 金子亜絵理, 古川晋也, 臼井文, 山口敦巳, 長野純大, 岡本純英: 妊娠率および流産率からみた 2 種類のヒアルロン酸含有胚移植用培養液の比較検討. *日本 IVF 学会雑誌* 20 (2) : 11 - 14, 2017.
240. Wang C, Nishijima K, Kitajima S, Niimi M, Yan H, Chen Y, Ning B, Matsuhisa F, Liu E, Zhang J, Chen Y-E, Fan J: Increased hepatic expression of endothelial lipase inhibits cholesterol diet-induced hyper-cholesterolemia and atherosclerosis in transgenic rabbits. *Arterioscler Thromb Vasc Biol.* 37(7): 1282-1289, 2017.
241. Srimawong P, Sawajiri M, Terato H, Maruyama K, Tanimoto K: Effects of irradiation on bone invasion of breast cancer cells. *J Thai Assoc Radiat Oncol*, 23(2): 23-33, 2017.
242. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後の歩行状態の経時的変化. *Hip Joint*, Vol. 43, 616 - 617, 2017.
243. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後 5 年間の歩行の経時的変化—高位脱臼股の分類別による検討—. *日本人工関節学会誌* Vol. 47, 723 - 724, 2017.

244. Oya Y, Mondal A, Rawangkan A, Umsumarng S, Iida K, Watanabe T, Kanno M, Suzuki K, Li Z, Kagechika H, Shudo K, Fujiki H, Suganuma M: Down-regulation of histone deacetylase 4, -5 and -6 as a mechanism of synergistic enhancement of apoptosis in human lung cancer cells treated with the combination of a synthetic retinoid, Am80 and green tea catechin. *J Nutr Biochem*. Vol. 42: 7-16, 2017.
245. Kobayashi-Watanabe N, Sato A, Watanabe T, Abe T, Nakashima C, Sueoka E, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Functional analysis of Discoidin domain receptor 2 mutation and expression in squamous cell lung cancer. *Lung Cancer*. Vol. 110: 35-41, 2017.
246. Shindo T, Kitamura K, Ureshino H, Kamachi K, Miyahara M, Doi K, Watanabe T, Sueoka E, Shin-I T, Suzuki R, Kimura S: Deep sequencing of the T cell receptor visualizes reconstitution of T cell immunity in mogamulizumab-treated adult T cell leukemia. *Oncoimmunology*. 7(3): e1405204, 2017.

総説・資料・解説・論説・研究報告・総合雑誌の論文

1. T. Fujisawa, S. Masuda: Light-induced chromophore and protein responses and mechanical signal transduction of BLUF proteins. *Biophysical Reviews*, 1-11, 2017, 2017.
2. 山岡禎久: 光音響顕微鏡における非線形光学. *OPTRONICS* 429(9): 76-80, 2017.
3. 井上勝利、パンゲニ ビマラ、大渡啓介、川喜田英孝: 植物バイオマスを利用した金の回収技術. 47: 50, 2017.
4. 坂口 幸一、白鳥 武、松尾 大樹、内野 聖子、大竹 亜紗美、藤澤 知績、海野 雅司: ラジカル反応を利用した溶媒親和性炭素材料の合成. *有機分子・バイオエレクトロニクス分科会 会誌* 28 (2): 119(68), 2017.
5. 森貞真太郎: 温度応答型界面活性マイクロゲルの開発. *ホソカワ粉体工学振興財団年報* 24: 119, 2017.
6. 川喜田英孝: イオン交換膜および溶媒抽出を用いたゲルマニウムの回収. *Adsorption News* 31: 12, 2017.
7. 大津康徳: プラズマ表面改質により作製した機能性超撥水性膜. *加工技術* 52 (12): 647-655, 2017.
8. 大渡啓介・武富昭人・川喜田英孝・森貞真太郎・井上勝利: トリメチロール型三脚状分子によるホウ素の抽出挙動. *佐賀大学理工学部集報* 46, (1): 1-6, 2017.
9. 富永昌人: 微生物燃料電池による先進的資源循環システムの構築. *化学工業* 68 (5): 358-362, 2017.
10. 富永昌人: 泥の電池化による先導的環境保全システムの構築. *燃料電池* 17 (3): 52-55, 201801.
11. 富永昌人: 「泥の電池」化による先導的環境保全システム. 九州管内における大学・公的研究機関等の環境技術シーズ集: 17, 2018.
12. 大塚泰史, 副島英伸: 【基礎編】モザイク病, インプリンティング. *腎と透析*, 82 (3): 356 - 362, 2017.
13. 三宅靖延: 解説 パターン認識受容体としてのC型レクチン受容体. *臨床免疫・アレルギー科*, 67 (6): 636 - 641, 2017.
14. 吉田裕樹: 総説 IL - 27 受容体シグナルを欠損する活性化樹状細胞による腫瘍免疫増強. *Cytometry Research*, 27 (2): 17 - 23, 2017.
15. 多田芳史, 長澤浩平: スタチンとワルファリンによる骨壊死予防の試み. *整形・災害外科*, 60 (11): 1363 - 1368, 2017.
16. 岡本翔, 木村晋也: 治療／造血器腫瘍の最新治療戦略 慢性骨髄性白血病に対するこれからの治療戦略 慢性骨髄性白血病に対するこれからの治療戦略—深化する治療目標—. *Medical Practice* 34 (10): 1675 - 1681, 2017.
17. 田代宏樹, 高橋浩一郎: 特集 II. TSLP と IL - 33 に関する新知見 ダニ抗原による気道炎症マウスモデルにおいて肺に集積する単球は IL - 33 のセルソースである. *臨床免疫・アレルギー科* 67 (3): 252 - 260, 2017.
18. 嬉野博志, 進藤岳郎, 田中秀則, 木村晋也: 特集: 臨床血液学—最新情報と今後の展望 2017 (骨髄系疾患)—慢性骨髄性白血病と NK 細胞免疫. *臨床血液* 58 (4): 381 - 388, 2017.

19. Takashima T, Hirata S, Fukuda M, Miyazono M, Ikeda Y: Is a liver biopsy necessary to diagnose hemodialysis-related portal-systemic encephalopathy (HRPSE)? A proposal of the concise diagnostic criteria for HRPSE. Clin Exp Nephrol. 22(1): 203-205, 2018.
20. 村山賢一郎, 高橋宏和, 北島陽一郎, 磯田広史, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 小野尚史, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三: 肝硬変における糖代謝異常と骨格筋の関連. 外科と代謝・栄養 51 (4) : 202 - 202, 2017.
21. 大塚泰史: [各論]【小児腎臓病—新たな針路】非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) . 小児内科 49 巻, 4 号, Page521 - 527, 2017.
22. 大塚泰史, 副島英伸:【基礎編】【腎臓医が知っておきたい分子遺伝学の進歩】基礎編 モザイク病, インプリンティング. 腎と透析 82 巻, 3 号, Page356 - 362, 2017.
23. 野口満, 東武昇平: 特集高齢者の泌尿器疾患Ⅱ. 加齢変化と高齢者泌尿器疾患の特徴と問題点 手術と周術期合併症対策. 日本臨床 75 (4) : 543 - 547, 2017.
24. 野口満, 有働和馬, 東武昇平: 特集腎をもっと知る腎盂尿管移行部通過障害の診断と手術適応. 小児外科 49 (9) : 955 - 958, 2017.
25. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 特集 神経因性膀胱の完全制覇〈診療の実際〉治療のポイント. 臨床泌尿器科 71 (2) : 122 - 127, 2017.
26. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 特集 泌尿器科処置とトラブル対処法—日常臨床に潜むピット フォール〈カテーテルおよびステント〉膀胱瘻造設と管理. 臨床泌尿器科 71 (12) : 962 - 966, 2017.
27. 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 腎盂尿管癌Ⅳ. 腎盂尿管癌の治療 1. 腎盂尿管癌治療の歴史と 現況: 概論. 日本臨床増刊号新腎・泌尿器癌 (上) —基礎・臨床研究の進歩— 75 (6) : 481 - 486, 2017.
28. 島津倫太郎, 倉富勇一郎:【安全で効果的なステロイド療法】ステロイド療法の効果的な使い方 耳鼻咽喉科疾患とステロイド. 臨床と研究 94 (7) : 841 - 843, 2017.
29. 平川奈緒美, 濱田献, 笹栗智子, 上村聡子: 治療神経ブロック. ペインクリニック 38 (6) : 747 - 756, 2017.
30. Kido MA, Yoshimoto R, Aijima R, Cao AL, Gao WQ: The oral mucosal membrane and transient receptor potential channels. J Oral Sci. 59(2):189-193, 2017.
31. Sakamoto Y, Koami H, Miike T: Monitoring the coagulation status of trauma patients with viscoelastic devices. J Intensive Care Vol. 5:7, 2017.
32. Fujiki H, Watanabe T, Sueoka E, Rawangkan A, Suganuma M: Cancer Prevention with Green Tea and Its Principal Constituent, EGCG: from Early Investigations to Current Focus on Human Cancer Stem cells. Mol. Cells 42(2), 2018 (published online, 2017).
33. 嬉野博志, 進藤岳郎, 田中秀則, 木村晋也: 慢性骨髓性白血病と NK 細胞免疫. 臨床血液 58 (4) : 381 - 388, 2017.
34. 伊藤学, 五條理志, 野出孝一, 小林英司, 森田茂樹, 中山功一【特集 4】スキャフォールドフリーバイオ 3D プリンタを用いた小口径細胞製人工血管の開発. 医工学治療 Vol. 29, No. 3, 167 - 172, 2017.

35. 松林久美香, 伊藤学, 小林英司, 中山功一: 血管再生の最前線 1. バイオ 3D プリ
ンタを用いた 人工血管再生. 最新醫學 第 72 巻, 第 12 号, 1686 - 1692, 2017.
学会発表

症例報告

1. Kawasaki Y, Makimoto M, Samejima A, Yoneda N, Higashimoto K, Soejima H, Yoshida T: Hepatoblastoma in an extremely low birth-weight infant with Beckwith-Wiedemann Syndrome. *Pediatr Neonatol*. Published online, December 1, 2017.
2. Kai K, Koga F, Araki N, Shindo T, Eguchi Y, Toda S, Aishima S: Autopsy case of systemic EBV-positive T-cell lymphoma of childhood with marked hepatomegaly in a middle-aged man. *Pathol Int*. 67(8): 431-433, 2017.
3. Yamasaki M, Kai K, Nomura A, Kono H, Kawakubo H, Sakata Y, Mizuguchi M, Aishima S: Colonic poorly differentiated adenocarcinoma with abundant cancer-associated fibroblasts diagnosed by transgastric endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration cytology. *Cytopathology*. 28(5): 442-444, 2017.
4. Hiraki M, Ueda J, Kai K, Ide T, Asai M, Ohtsuka T, Kohya N, Mukai S, Kitahara K, Noshiro H: A Case of Signet Ring Cell Carcinoma of the Gallbladder Which Was Treated by Aggressive Surgery and Intensive Adjuvant Chemotherapy. *J Gastrointest Cancer*. 48(1): 83-86, 2017.
5. Ogata Y, Monji M, Kai K, Matsuo M: Nasal hemophilic pseudotumor in a patient with mild hemophilia A and allergic rhinitis. *Pediatr Int*. 59(2): 237-239, 2017.
6. Kusaba K, Kojima K, Naito S, Taba M, Kai K, Ureshino H, Nishida Y, Kimura S: Paraneoplastic Sarcoidosis in Multiple Myeloma. *Intern Med*. 56(15): 2049-2051, 2017.
7. 福田亜紗子, 橋口真理子, 甲斐敬太, 西山哲, 大隈恵美, 野口光代, 内山倫子, 中尾佳史, 相島慎一, 横山正俊: 捺印細胞診を行った Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の1例. *日本臨床細胞学会九州連合会雑誌*, 48, 73 - 77, 2017.
8. Akutagawa T, Shindo T, Yamanouchi K, Hayakawa M, Ureshino H, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, Noguchi R, Furukawa K, Morita S, Iwakiri R, Kimura S, Matsumoto M, Fujimoto K: Persistent Gastrointestinal Angiodysplasia in Heyde's Syndrome after Aortic Valve Replacement. *Intern Med*. 56(18): 2431-2433, 2017.
9. 永瀬圭, 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 骨盤内腫瘍に対する腹腔鏡下腫瘍生検が有用であった 症例. *西日本泌尿器科* 79 (6) : 187 - 190, 2017.
10. Akutagawa T, Shindo T, Yamanouchi K, Hayakawa M, Ureshino H, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, Noguchi R, Furukawa K, Morita S, Iwakiri R, Kimura S, Matsumoto M, Fujimoto K: Persistent Gastrointestinal Angiodysplasia in Heyde's Syndrome after Aortic Valve Replacement. *Intern Med*. 56(18): 2431-2433, 2017.
11. Kitamura H, Kubota Y, Yamaguchi K, Kamachi K, Nishioka A, Yokoo M, Shindo T, Ando T, Kojima K, Kimura S: Successful Autologous Hematopoietic Stem Cell Transplantation Followed by Bortezomib Maintenance in a Patient with Relapsed CD138-low Multiple Solitary Plasmacytomas Harboring a 17p Deletion. *Intern Med*. , 2017.
12. Kobayashi T, Mori D, Ureshino H, Kido S, Ikeda S, Kimura S, Lefor AK, Matsuishi E: Primary effusion lymphoma-like lymphoma with a T cell phenotype. *Ann Hematol*. , 2017.
13. Kusaba K, Kojima K, Naito S, Taba M, Kai K, Ureshino H, Nishida Y, Kimura S: Paraneoplastic Sarcoidosis in Multiple Myeloma. *Intern Med*. 56(15): 2049-2051, 2017.

14. Nishioka A, Ureshino H, Ando T, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Itamura H, Kubota Y, Kojima K, Ohshima K, Kimura S: Three coexisting lymphomas in a single patient: composite lymphoma derived from a common germinal center B-cell precursor and unrelated discordant lymphoma. *Int J Hematol.* , 2017.
15. Ureshino H, Ando T, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Nishioka A, Itamura H, Shindo T, Kubota Y, Kojima K, Kimura S: Tocilizumab for severe cytokine-release syndrome after haploidentical donor transplantation in a patient with refractory Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma. *Hematol Oncol.* , 2017.
16. Ureshino H, Kamachi K, Miyahara M: Detection of human T-cell lymphotropic virus type I-specific cytotoxic T-cells may predict treatment responses in adult T-cell leukemia/lymphoma patients. *Ann Hematol.* 96(9): 1587-1588, 2017.
17. Ureshino H, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Nishioka A, Shindo T, Kubota Y, Ando T, Kojima K, Kimura S: 5q-syndrome-like features as the first manifestation of myelodysplastic syndrome in a patient with an unbalanced whole-arm translocation der(5;19) (p10;q10). *Int J Hematol.* 105(5): 692-696, 2017.
18. Ureshino H, Miyahara M: Steroid-Refractory Autoimmune Hemolytic Anemia with Massive Splenomegaly. *Am J Med.* 130(9): e393-e394, 2017.
19. Awanami Y, Fukuda M, Nonaka Y, Takashima T, Matsumoto K, Yamasaki M, Miyazono M, Ikeda Y: Successful treatment of a patient with refractory nephrotic syndrome with PCSK9 inhibitors: a case report. *BMC Nephrol.* 18(1): 221, 2017.
20. Takashima T, Hirata S, Nonaka M, Matsumoto K, Awanami Y, Yamasaki M, Fukuda M, Miyazono M, Ikeda Y: A rare adult case of poststreptococcal acute glomerulonephritis with a retropharyngeal abscess. *CEN Case Rep.* 6(1): 118-123, 2017.
21. Takashima T, Ohtsuka T, Sato S, Yoshizaki M, Kamachi S, Kishi T, Miyazono M, Ikeda Y: Episodic confusion in a haemodialysis patient due to haemodialysis-related portal-systemic encephalopathy and a shunt between the left portal vein and left external iliac vein. *Nephrology (Carlton).* 22(4): 332, 2017.
22. Akutagawa T, Shindo T, Yamanouchi K, Hayakawa M, Ureshino H, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, Noguchi R, Furukawa K, Morita S, Iwakiri R, Kimura S, Matsumoto M, Fujimoto K: Persistent Gastrointestinal Angiodysplasia in Heyde's Syndrome after Aortic Valve Replacement. *Intern Med.* 56(18): 2431-2433, 2017.
23. 高橋宏和：どちらが危ない!!非アルコール性脂肪性肝疾患の2例. 佐賀市医師会報 12 (496) , 4 - 7, 2017.
24. Hasegawa D, Saito A, Nino N, Uemura S, Takafuji S, Yokoi T, Kozaki A, Ishida T, Kawasaki K, Yasumi T, Sakata N, Ohtsuka Y, Hirase S, Mori T, Nishimura N, Kusumoto M, Ogawa Y, Tominaga K, Nakagawa T, Kanda K, Tanaka R, Kosaka Y: Successful Treatment of Transplantation-associated Atypical Hemolytic Uremic Syndrome With Eculizumab. *J Pediatr Hematol Oncol.* 40(1): e41-e44, 2018.
25. 熊本崇, 飯田千晶, 田代克弥, 松尾宗明：症例報告手掌多汗症状に対し胸腔鏡下胸部交感神経遮断術を施行したQT延長症候群の一例. 日本小児循環器学会雑誌 33 (4) : 326 - 331, 2017.

26. Ogata Y, Monji M, Kai K, Matsuo M: Nasal hemophilic pseudotumor in a patient with mild hemophilia A and allergic rhinitis. *Pediatr Int.* 59(2): 237-239, 2017.
27. 尾形善康, 須山ゆかり, 米良智子, 市丸智浩, 松尾宗明: コルヒチンがステロイド減量に有効であった TNF 受容体関連周期性症候群の一例. *九州リウマチ Vol. 37* : 44 - 48, 2017.
28. 阪口嘉美, 今村秀明, 田中悦子, 織田真悠子, 此元隆雄, 大塚泰史, 布井博幸: 症例報告 エクリズマブが著効した抗H因子抗体陽性非典型溶血性尿毒症症候群. *日本小児科学会雑誌* 121 (7) : 1196 - 1202, 2017.
29. Masatsugu hiraki, Junji Ueda, Hiroshi Kono, Noriyuki Egawa, Kiyoshi Saeki, Yasuhiro Tsuru, Takao Ide and Hirokazu Noshiro: A case of Mirizzi syndrome that was successfully treated by laparoscopic choledochoplasty using a gallbladder patch. *J Surg Case Rep.* 2017(11): rjx212, 2017.
30. 北川浩, 松倉史郎, 宮原貢一, 赤川泉, 湯ノ谷誠二: 症例報告 大腸癌に類似した形態を呈した魚骨肉芽腫の1例. *日本消化器病学会雑誌* 114 (9) : 1658 - 1664, 2017.
31. 川村紗奈江, 柚木純二, 麓英征, 古川浩二郎, 田中厚寿, 木塚貴浩, 野上英次郎, 野口亮, 森田茂樹: 偽腔開存型慢性B型大動脈解離へのステントグラフト治療後にエンドリークが残存し偽腔が急速拡大した一例. *佐賀市医師会報 No. 488* : 3 - 5, 2017.
32. Liu X, Masuoka J, Ebashi R, Koguchi M, Inoue K, Ogata A, Takase Y, Nakahara Y, Shimokawa S, Kawashima M, Abe T: Brain metastasis from primary peritoneal carcinoma: Case report and literature review. *J Clin Neurosci.* 40: 120-122, 2017.
33. Liu X, Ogata A, Masuoka J, Inoue K, Nakahara Y, Shimokawa S, Takase Y, Yakushiji Y, Hara H, Abe T: Dural arteriovenous fistula manifesting as pontine hemorrhage at the craniocervical junction. *Acta Neurochir (Wien).* 159(5): 831-834, 2017.
34. 中城博子, 河島雅到, 吉岡史隆, 中原由紀子, 高瀬幸徳, 緒方敦之, 下川尚子, 増岡淳, 阿部竜也, 松島俊夫: 症例味覚障害で発症した小脳血管芽腫の1例. *脳神経外科* 45 (3) : 219 - 224, 2017.
35. Ebashi R, Ogata A, Inoue K, Takase Y, Masuoka J, Nakahara Y, Shimokawa S, Kawashima M, Abe T: Posterior cerebral artery aneurysms with common carotid artery occlusion: a report of two cases. *Journal of Neuroendovascular Therapy* 11: 371-375, 2017.
36. 草野脩平, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 「膀胱・尿道・骨盤」炎症性筋線維芽細胞性腫瘍. *九州泌尿器科連合地方会図譜第6集* P44 - 45, 2017.
37. 永瀬圭, 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 骨盤内腫瘍に対する腹腔鏡下腫瘍生検が有用であった 症例. *西日本泌尿器科* 79 (6) : 187 - 190, 2017.
38. 川崎佳奈子, 島津倫太郎, 倉富勇一郎, 佐藤慎太郎, 上村哲司: 頤下皮弁を併用して喉頭全摘術を施行した喉頭癌肉腫の1例. *耳鼻と臨床* 63 (6) : 228 - 232, 2017.
39. 檀上敦, 森啓輔, 合島怜央奈, 下平大治, 鶴岡祥子, 山下佳雄: 症例報告 画像診断で頸部リンパ節転移を強く疑ったが組織学的に否定された舌癌の1例. *日本口腔腫瘍学会誌* 29 巻 3 号, p. 141 - 145, 2017.
40. 森啓輔, 鶴岡祥子, 合島怜央奈, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 症例報告 3歳女児の上顎骨に発生したエナメル上皮線維腫の1例. *日本口腔外科学会雑誌* 第63巻 11号, 546 - 551, 2017.

41. 山口健太, 吉田緑, 廣木優, 香月万葉, 佐野由佳理, 小副川晃一, 草場耕二, 阿部美智: 潰瘍性大腸炎患者に発症した *Streptococcus gallolyticus* subsp. *pasteurianus* による細菌性髄膜炎の1例. 医学検査 66 (3) : 297 - 301, 2017.
42. 小網博之, 阪本雄一郎, 太田美穂, 後藤明子, 今長谷尚史, 八幡真由子, 三池徹, 永嶋太, 岩村高志, 井上聡: Thromboelastometry (ROTEM®) を用いて急性期の輸血管理を行った内胸静 脈損傷の一例. 九州救急医学雑誌 15 (1) : 7 - 10, 2017.
43. Kai K, Koga F, Araki N, Shindo T, Eguchi Y, Toda S, Aishima S: Autopsy case of systemic EBV-positive T-cell lymphoma of childhood with marked hepatomegaly in a middle-aged man. *Pathol Int.* 67(8): 431-433, 2017.
44. Yamasaki M, Kai K, Nomura A, Kono H, Kawakubo H, Sakata Y, Mizuguchi M, Aishima S: Colonic poorly differentiated adenocarcinoma with abundant cancer-associated fibroblasts diagnosed by trans-gastric endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration cytology. *Cytopathology.* 28(5): 442-444, 2017.
45. Hiraki M, Ueda J, Kai K, Ide T, Asai M, Ohtsuka T, Kohya N, Mukai S, Kitahara K, Noshiro H: A Case of Signet Ring Cell Carcinoma of the Gallbladder Which Was Treated by Aggressive Surgery and Intensive Adjuvant Chemotherapy. *J Gastrointest Cancer.* 48(1): 83-86, 2017.
46. Ogata Y, Monji M, Kai K, Matsuo M: Nasal hemophilic pseudotumor in a patient with mild hemophilia A and allergic rhinitis. *Pediatr Int.* 59(2): 237-239, 2017.
47. Kusaba K, Kojima K, Naito S, Taba M, Kai K, Ureshino H, Nishida Y, Kimura S: Paraneoplastic Sarcoidosis in Multiple Myeloma. *Intern Med.* 56(15): 2049-2051, 2017.
48. 福田亜紗子, 橋口真理子, 甲斐敬太, 西山哲, 大隈恵美, 野口光代, 内山倫子, 中尾佳史, 相島慎一, 横山正俊: 捺印細胞診を行った Atypical polypoid adenomyoma (APAM) の1例. 日本臨床細胞学会九州連合会雑誌, Vol. 48, 73 - 77, 2017.
49. 前間真弓, 林章浩, 池田弘典, 栳島久美子, 相原秀俊, 井手貴雄, 北村浩晃, 島津倫太郎, 江口有一郎: S2 - 1 下咽頭癌に対する化学放射線療法時の粘膜障害に亜鉛および EPA 含有経腸栄養剤投与が有効であった一例. 外科と代謝・栄養 51 (4) : 199 - 199, 2017.
50. Kunitake Y, Mizoguchi Y, Sogawa R, Matsushima J, Kato TA, Kawashima T, Monji A: Effect of Excessive Coffee Consumption on the Clinical Course of a Patient With Bipolar Disorder: A Case Report and Literature Review. *Clin Neuropharmacol.* 40(4): 160-162, 2017.
51. Ureshino H, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Nishioka A, Shindo T, Kubota Y, Ando T, Kojima K, Kimura S: 5q-syndrome-like features as the first manifestation of myelodysplastic syndrome in a patient with an unbalanced whole-arm translocation der(5;19) (p10;q10). *Int J Hematol.* 105(5): 692-696, 2017.
52. Ureshino H, Miyahara M: Steroid-Refractory Autoimmune Hemolytic Anemia with Massive Splenomegaly. *Am J Med.* 130(9): e393-e394, 2017.
53. Ureshino H, Kamachi K, Miyahara M: Detection of human T-cell lymphotropic virus type I-specific cytotoxic T-cells may predict treatment responses in adult T-cell leukemia/lymphoma patients. *Ann Hematol.* 96(9): 1587-1588, 2017.
54. Kusaba K, Kojima K, Naito S, Taba M, Kai K, Ureshino H, Nishida Y, Kimura S: Paraneoplastic Sarcoidosis in Multiple Myeloma. *Intern Med.* 56(15): 2049-2051, 2017.

55. Akutagawa T, Shindo T, Yamanouchi K, Hayakawa M, Ureshino H, Tsuruoka N, Sakata Y, Shimoda R, Noguchi R, Furukawa K, Morita S, Iwakiri R, Kimura S, Matsumoto M, Fujimoto K: Persistent Gastrointestinal Angiodysplasia in Heyde's Syndrome after Aortic Valve Replacement. *Intern Med.* 56(18):2431-2433, 2017.
56. Ureshino H, Ando T, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Nishioka A, Itamura H, Shindo T, Kubota Y, Kojima K, Kimura S: Tocilizumab for severe cytokine-release syndrome after haploidentical donor transplantation in a patient with refractory Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma. *Hematol Oncol.* , 2017.
57. Nishioka A, Ureshino H, Ando T, Kizuka H, Kusaba K, Sano H, Itamura H, Kubota Y, Kojima K, Ohshima K, Kimura S: Three coexisting lymphomas in a single patient: composite lymphoma derived from a common germinal center B-cell precursor and unrelated discordant lymphoma. *Int J Hematol.* , 2017.
58. Kobayashi T, Mori D, Ureshino H, Kido S, Ikeda S, Kimura S, Lefor AK, Matsuishi E: Primary effusion lymphoma-like lymphoma with a T cell phenotype. *Ann Hematol.* , 2017.

学会発表

国際規模の学会

1. K. Ohto: Structural effects of calixarene derivatives for metal extraction. The 3rd International Conference on Science and Technology (ICST 2017). 2017.
2. K. Ohto, B. B. Adhikari, Yoga Priastomo, H. Sadamatsu, H. Endou: Capability of calixarenes as gas storage materials. The 12th Daegu University -Saga University Joint Seminar. 2017.
3. K. Ohto, Y. S. Kurniawan, R. R. Sathuluri, H. Kawakita, S. Morisada, W. Iwasaki, M. Miyazaki: Recovery of precious metals with calix[4]arene derivatives as extraction reagents using the droplet microreactor system. The 5th International Symposium & Exhibition on Aqua Science and Water Resources (ISASWR'17). 2017.
4. Keisuke Ohto: Size-discriminative allosteric extraction of alkali metals with propyl-acetic acid crossed type calix[4]arene. The 9th ISNSC (International Symposium on Nano & Supramolecular Chemistry. 2017.
5. Keisuke Ohto: Platinum extraction with fluorinated secondary amide compound. 2017 International Symposium on Separation Science and Technology. 2017.
6. Keisuke OHTO, Hiroshi MURAKAMI, Shintaro MORISADA, Hidetaka KAWAKITA, Karsten GLOE, Jan WEIGAND: Extractive Separation of Rare Earth Metals with Trident Phosphonic Acid Derivatives. ICMR 2017 (8th International Conference on Materials Engineering for Resources). 2017.
7. Keisuke Ohto, Yehezkiel S. Kurniawan, Ramachandra R. Sathuluri, Masatoshi Maeki, Wataru Iwasaki, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, and Masaya Miyazaki: Stepwise Extractive Separation of Precious Metals with Macrocyclic Compounds Using Microreactor System. ISEC2017 (21th International Solvent Extraction Conference 2017). 2017.
8. M. Tominaga: Energy Conversion Systems Based on Biocatalytic Fuel Cells. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
9. Masanao Era: Lead Halide-Based Layered Perovskite Films Applicable to Cavity Polariton Devices. The 6th Global Conference on Materials Science and Engineering. 2017.
10. Masanao Era: Lead Halide-Based Perovskites as Photonic Material. 2017 Global Research Efforts on Energy and Nanomaterials. 2017.
11. Masanao Era: Fundamental optical properties and application of lead halide-based layered perovskite having self-organized quantum well structure. InforMat Workshop #1. 2017.
12. Takafumi Kajiwarra, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita: Recovery of Palladium in Highly-viscous polymer solution using water-soluble polymer. ISEC2017. 2017.
13. Takeshi Hanamoto: Synthesis and reactions of fluorinated aziridines. The Tri-U International Joint Symposium 2017 Daegu-Saga-Soochow University. 2017.
14. Tsugio Kitamura: Hypervalent Iodine-Mediated Fluorination. The 8th International Meeting on Halogen Chemistry. 2017.

15. X. G. Zheng: Unconventional magnetism & ferroelectricity of hydroxyl salts uncovered by μ SR. Work shop on μ SR application, Dec. 13, 2017, Dongguan, China. 2017.
16. X. G. Zheng: $\text{LiNbO}_3\text{:Pr}^{3+}$: A Multipiezo Material with Simultaneous Piezoelectricity and Sensitive Piezoluminescence. The 3rd International Conference on Mechanoluminescence and Novel Structural Health Diagnosis (ML-3), December 15-17, 2017, Hong Kong. 2017.
17. D. Yu, S. Morisada, H. Kawakita K. Ohto: Alkali metal adsorption behavior on crosslinked tea leave. The 8th Saga University–Liaoning University Joint Seminar. 2018.
18. H. Kuroiwa, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto: Elucidation for role of undehydrated water molecules on alkali metal extraction for new molecular design. The 30th International Symposium on Chemical Engineering(ISChE 2017). 2017.
19. H. Watanabe, H. Doi, T. Umecky, T. Takamuku, A. Nazet, T. Sonnleitner, R. Buchner, Y. Kameda, Y. Umebayashi: Speciation and Structure Analysis of N-methylimidazole and Acetic Acid Equimolar Mixture as Pseudo-protic Ionic liquid toward Specific Proton Conduction Mechanism; Super Arrhenius Proton Conduction. Asia/CJK Symposium on Analytical Science 2017, Tokyo, Japan. 2017.
20. Hidetaka Kawakita, Takafumi Kajiware, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto: Recovery of palladium in high-viscous polymer solution using precipitation of water-soluble polymer. 2017.
21. Hidetaka Kawakita, Takafumi Kajiware, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto: Recovery of palladium in high-viscous polymer solution using precipitation of water-soluble polymer. 2017 Korea/Japan/Taiwan Chemical Engineering Conference. 2017.
22. Ichihiko Yamauchi, Masatoshi Hiraishi, Hirotaka Okabe, Soshi Takeshita, Akihiro Koda, Kenji M. Kojima, Ryosuke Kadono, Hidekazu Tanaka: Local spin structure of the honeycomb lattice magnet $\alpha\text{-RuCl}_3$. The 14th International Conference on Muon Spin Rotation, Relaxation and Resonance. 2017.
23. Ichihiko Yamauchi, Masatoshi Hiraishi, Hirotaka Okabe, Soshi Takeshita, Akihiro Koda, Kenji M. Kojima, Ryosuke Kadono, Hidekazu Tanaka: Magnetic ordering in the honeycomb lattice magnet $\alpha\text{-RuCl}_3$ observed via muon spin rotation/relaxation. International Conference on Strongly Correlated Electron Systems 2017. 2017.
24. Jou Hirotsu, Dong Tu, Masayoshi Fujihara, Ruiping Wang, Xu-Guang Zheng, Chao-Nan Xu: Improvement of Elastico-Luminescence Property in $\text{LiNbO}_3\text{:Pr}^{3+}$ by Composition Control. The 3rd International Conference on Mechanoluminescence and Novel Structural Health Diagnosis (ML-3), December 15-17, 2017, Hong Kong. 2017.
25. Junya INADA, Takanori WATARI, Toshio TORIKAI, Mitsunori YADA, Hideyuki MATSUO and Akihiko KAWAHARA: Characteristics of Zn_2SiO_4 crystal grown in zinc glaze. The 34th International Japan-Korea Seminar on Ceramics. 2017.
26. Kazuki Matsunaga, Yushi Oishi, Mitsunori Yada, and Takayuki Narita: Study of Brownian Motion of Platinum-Supported Hetero Particles. 2017 Kyushu-Seibu/Pusan-Gyeongnam Joint Symposium on High Polymers(18th) and Fibers(16th). 2017.

27. Kensuke Hirotaki, Kohei Yamaguchi, Akiko Irie, Yuki Nakamura, Takeshi Hanamoto: Ring-Opening Reactions of 2-Trifluoromethyl-N-Nosyl-Aziridine under Neutral Conditions. The 10th Japanese-French Joint Seminar on Fluorine Chemistry. 2017.
28. Kensuke Hirotaki, Kohei Yamaguchi, Akiko Irie, Yuki Nakamura, Takeshi Hanamoto: Ring-opening reaction of 2-trifluoromethyl-N-nosyl-aziridine under neutral conditions. The 10th Japanese-French Joint Seminar on Fluorine Chemistry, Ishikawa, Japan, September 27-29, 2017. 2017.
29. Kotoku ARIMURA, Takanori WATARI, Mitsunori YADA, Toshio TORIKAI, Hideyuki MATSUO, Akihiko KAWAHARA: Formation and characterizations of fluorescent willemite crystal glaze. The 34th International Japan-Korea Seminar on Ceramics. 2017.
30. M. Tsutsui, M. Tominaga: Cholate Modification at Carbon Electrode Interface for Laccase Bioelectrocatalytic Oxygen Reduction Reactio. M. Tsutsui M. 2018.
31. Marumi Takao, Takeharu Kinoshita, Takashi Miyazaki, Michinori Takeshita: Development of hydrogen bonding supramolecular polymer having photoswitch. The 8th Joint Seminar Between Saga University and Liaoning University. 2018.
32. Masanao Era: Lead Halide-Based Layered Perovskite LB Films Applicable to Cavity Polariton Laser. 5th CMS International Symposium on Photofunctional Chemistry and Molecular Systems. 2017.
33. Masanao Era, Kazuhiro Ema, Yasunori Yamada, Kento Mori, and Norio Tomotsu: 自己組織性量子井戸構造を有するヨウ化鉛系層状ペロブスカイトの光学特性及び電気特性. SPIE Organic Photonics and Electronics. 2017.
34. Masanao Era, Shu Kanae: Carrier mobility of perlene derivatives and photovoltaic porperties of organic p-n junction type cell using the perilene derivatives. 9th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics. 2017.
35. Masanao Era, Yu Shironita, Koichi Soda: Lead bromide-based layered perovskite Langmuir-Blodgett films having p-conjugated molecules as organic layer by using squeezed out technique. 9th International Conference on Molecular Electronics and Bioelectronics. 2017.
36. Md. Amzad Hossain and Yasunori Ohtsu: Outer Circular Ring-Shaped RF Magnetized Plasma for Specific Area Target Utilization by Magnetic Monopole Arrangement. 44th International Conference on Plasma Science, WE Poster-5, 21-25 May 2017, Seton Hall Univ., USA. 2017.
37. Md. Amzad Hossain and Yasunori Ohtsu: Outer Ring-Shaped Magnetize Plasma by RF and HiPIMS Source. 70th Annual Gaseous Electronics Conference, Pittsburgh, USA, QR1-6, Bulletin of APS. 2017.
38. Md. Amzad Hossain, Yasunori Ohtsu: Ring-Shaped Plasma for Target Utilization in Specific Area by HiPIMS Source. 39th International Symposium on Dry Process, 2017, P-36. 2017.

39. Miki Hayashi, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada: Preparation of Non-Close-Packed Colloidal Monolayers on Hydrophobic Substrates by Convective Self-Assembly Process. The 30th International Symposium on Chemical Engineering (ISChE2017), PRO-P01, KAIST, Daejeon, Korea. 2017.
40. Miki Hayashi, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto, and Shintaro Morisada: Preparation of Non-Close-Packed Colloidal Monolayers on Hydrophobized Glass Substrates by Convective Self-Assembly Using Polyelectrolyte-Grafted Silica Particles. The 8th Saga University-Liaoning University Joint Seminar, P09, Saga University, Saga, Japan. 2018.
41. Momoka Yamanaka, Shunsuke Nakamura, Yushi Oishi, and Takayuki Narita: Design and control of photo driving self-swing hydrogel system. 2017 Kyushu-Seibu/Pusan-Gyeongnam Joint Symposium on High Polymers(18th) and Fibers(16th). 2017.
42. Nako Fuchiwaki, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Keisuke Ohto: Scandium extractive separation with acetic acid derivative of novel tripodal compound. The 8th Saga University-Liaoning University Joint Seminar. 2018.
43. P. W. Myint, S. Hagihara, T. Tanaka, S. Taketomi, Y. Tadano: Calculation of Ductile Fracture Parameters for Punching Processes. The International Conference on Advances in Computational Mechanics, ACOME 2017. 2017.
44. Ren Sakamoto, Michinori Takeshita: Fluorometric analysis of metal ions aqueous solution by a fluorescent phenanthroline derivatives. The 8th Joint Seminar Between Saga University and Liaoning University. 2018.
45. S. Ototani, M. Tominaga: Effect of External Resistance on a Power Generation of Mud Battery. S. Ototani M. 2018.
46. S. Hagihara, C. Kai, S. Taketomi, Y. Tadano, S. Tanaka: Smoothed Particle Hydrodynamics Method for Fluid-Structure Interaction Analysis – Fluid Analysis and Elastic-Plastic Structural Analysis -. V International Conference on Particle-Based Method (Particles 2017). 2017.
47. S. Taketomi, K. Katayama, R. Matsumoto and S. Hagihara: Application of Dislocation Dynamics to Hydrogen Embrittlement in Alpha Iron based on Atomistic Calculations. 14th International Conference on Fracture, ICF14. 2017.
48. Shota Miyai, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Jan J. Weigand, Keisuke Ohto: Metal extraction using organophosphinic acid with different branches. The 8th Saga University-Liaoning University Joint Seminar. 2018.
49. Shota Mizuno, Kensuke Muta, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura: Convenient Fluorination of Alkynes Using Hypervalent Iodine Reagents. The 8th International Meeting on Halogen Chemistry. 2017.
50. Shota Mizuno, Kensuke Muta, Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura: Convenient Fluorination of Alkynes by Hypervalent Iodine Reagents. HALCHEM VIII. 2017.

51. T. Takamuku, Y. Horikawa, T. Tokushima, O. Takahashi, H. Hoke: Soft X-ray Absorption and Emission Spectroscopy on Imidazolium-based Ionic Liquids. EMLG/JMLG Annual Meeting 2017, Vienna, Austria. 2017.
52. Takafumi Kajiwar, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita: Recovery of palladium particle in highly-concentrated polymer solution by precipitation of water soluble polymer. 2017 Korea/Japan/Taiwan Chemical Engineering Conference. 2017.
53. Takeo Minamikawa, Takashi Masuoka, Ryo Oe, Yoshiaki Nakajima, Yoshihisa Yamaoka, Kaoru Minoshima, Takeshi Yasui: Multi-dynamic range compressional wave detection using optical-frequency-comb. SPIE Photonics West 2018. 2018.
54. Tsugio Kitamura, Azusa Miyake, and Juzo Oyamada: Hypervalent Iodine-Mediated Intramolecular Aminofluorination of Homoallylamines. 第 23 回日本化学会九州支部・韓国化学会釜山支部合同セミナー. 2017.
55. Y. S. Kurniawan, R. R. Sathuluri, K. Ohto, H. Kawakita, S. Morisada, W. Iwasaki, M. Miyazaki: Droplet microreactor system for an efficient lithium ion recovery with calix[4]arene derivative. The 5th International Symposium & Exhibition on Aqua Science and Water Resources (ISASWR'17). 2017.
56. Yoshiaki Sato, Yuta Nakagawa, Bo Zhang: Study on impact-fretting wear of 304 austenitic stainless steel. World Tribology Congress 2017 Beijing, China. 2017.
57. Yui Iwamoto, Yushi Oishi, and Takayuki Narita: Stripe patterns formed through gelation of collagen. 2017 Kyushu-Seibu/Pusan-Gyeongnam Joint Symposium on High Polymers(18th) and Fibers(16th). 2017.
58. Yuji Sawada, Ryo Okazaki, and Takayuki Narita: Study of pH Induced-Liposome Deformation Based on the Membrane Area and Volume Change. 2017 Kyushu-Seibu/Pusan-Gyeongnam Joint Symposium on High Polymers(18th) and Fibers(16th). 2017.
59. Yuji Takaoka, Shintaro Morisada, Keisuke Ohto, Hidetaka Kawakita: Colloidal particle separation by gel-packed column using deformation of gel by fluid pressure. 2017 Korea/Japan/Taiwan Chemical Engineering Conference. 2017.
60. Yuki Mitsutake, Yushi Oishi, and Takayuki Narita: Novel Preparation Method for Asymmetric LUV using Langmuir Film. 2017 Kyushu-Seibu/Pusan-Gyeongnam Joint Symposium on High Polymers(18th) and Fibers(16th). 2017.
61. Yuki Nakamura, Takeshi Hanamoto: Study on the Preparation of Fluoroacetylene Derivatives. The Tri-U International Joint Symposium 2017, Daegu-Saga-Soochow University. 2017.
62. Yuki Ueda, Shintaro Morisada, Hidetaka Kawakita, Kentaro Ohmi, Mitsuharu Fujita, Jan J. Weigand, Kojiro Shimojo, Hirochika Naganawa, Keisuke Ohto: Extraction of Pt(IV) from HCl solutions with amide and urea substituted extractants. ISEC2017 (21th International Solvent Extraction Conference 2017). 2017.

63. ZHENG, Xu-Guang: Observation of critical slowing of quantum atomic H/D in hydroxyl salts. $\text{Co}_2(\text{OD})_3\text{X}/\text{Co}_2(\text{OH})_3\text{X}$ [X=Cl, Br]. The 14th International Conference on Muon Spin Rotation, Relaxation and Resonance ($\mu\text{SR}2017$) Sunday 25 June 2017 - Friday 30 June 2017 Hokkaido University. 2017.
64. 園田航大、牛島政也、滝澤登、坂口幸一: Evaluation of the amount of oxygen functional groups and dispersibility of the hydrophilic graphite oxide by atmospheric pressure plasma method. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
65. 山岡禎久、山本壮里、能塚雄介、遠藤大輔、高橋英嗣: Generation of photoacoustic signals using femtosecond optical pulses for photoacoustic imaging. ICO-24 (the 24th General Congress of International Commission for Optics). 2017.
66. 山岡禎久、木村優香、原田義規、高松哲郎、高橋英嗣: Fast focus-scanning head in two-photon photoacoustic microscopy with electrically-controlled liquid lens. SPIE Photonics West 2018. 2018.
67. 山田 知佳、大竹 亜紗美、平川あい、坂口幸一、: Introduction of amino groups into graphene oxide using 3-aminopropyltrimethoxysilane via silane coupling reaction. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
68. 柴田晴斗、松尾大樹、内野聖子、坂口幸一: Hydrophilization and quality improvement of graphite by microwave irradiation. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
69. 松尾大樹、坂口幸一: Electric properties for thin films of hydrophilized carbon materials as raw materials with different particle size graphites synthesized by atmospheric pressure plasma method. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
70. 松尾大樹、白鳥武、内野聖子、大竹亜紗美、坂口幸一: Synthesis and characterization of hydrophilic carbon material by using atmospheric pressure plasma. Ninth International conference on Molecular Electronics and Bioelectronics (M&BE9). 2017.
71. 清永つかさ、松尾大樹、内野聖子、白鳥武、坂口幸一: Preparation and characterization for film of hydrophilic carbon material synthesized by atmospheric pressure plasma treatment at liquid-gas/liquid interface. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
72. 清永つかさ、内野聖子、松尾大樹、白鳥武、坂口幸一: Preparation and characterization for film of graphite oxide synthesized by atmospheric pressure plasma treatment at liquid-gas/liquid interface. The Tri-U International Joint Symposium 2017, Daegu-Saga-Soochow University (The 12th Saga University- Daegu University Joint Symposium. 2017.
73. 大竹亜紗美、牛島政也、園田航大、坂口幸一: The study on evaluation of nature for graphene oxide and graphite oxide. The Tri-U International Joint Symposium 2017, Daegu-Saga-Soochow University (The 12th Saga University- Daegu University Joint Symposium. 2017.

74. 大竹亜紗美、平川あい、坂口幸一: Demonstration of modified dispersibility evaluation system for graphene oxide. Ninth International conference on Molecular Electronics and Bioelectronics (M&BE9). 2017.
75. 片山由佳、大竹亜紗美、坂口幸一: Effect of moisture vapor and ethanol vapor on the resistances for graphene derivatives such as graphene oxide and graphene oxide derivative with octadecyl alkyl chains. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
76. 林莉緒菜、坂口幸一: Investigation of preparation condition with/without heating in vacuum chamber for composite material films of graphene oxide and cellulose nanofiber. The 8th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University. 2018.
77. Watanabe H, Higashimoto K, Miyake N, Maeda T, Hidaka H, Aoki S, Matsumoto N, Soejima H: NSD1 haploinsufficiency evokes DNA hypomethylation at imprinted DMRs and the increased expression of imprinted genes. ASHG 2017 Annual Meeting. 2017, 10, 17-21. Poster, PgmNr 1627.
78. Imagawa E, Higashimoto K, Sakai Y, Numakura C, Okamoto N, Matsunaga S, Ryo A, Sato Y, Sanefuji M, Ihara K, Takada Y, Nishimura G, Saitsu H, Mizuguchi T, Miyatake S, Nakashima M, Miyake N, Soejima H, Matsumoto N: Germline mutations associated with polycomb repressive complex 2 cause Weaver syndrome. ASHG 2017 Annual Meeting. 2017, 10, 17-21. Poster, PgmNr 1166.
79. Maruoka S, Ito R, Ito M, Nunomura S, Izuhara K, Gon Yasuhiro, Soda K, Hashimoto S, Ota S: Development of IL-33 induced asthmatic airway inflammation in human IL-3/GM-CSF/IL-5-transgenic NOG mice. ERS International Congress 2017. 2017, 9, 9-13. ERS 2017 CONGRESS GUIDE p60, PA573 (ポスター) .
80. Kimura D, Nakamae S, Sukhbaatar O, Miyakoda M, Akbari M, Kimura K, Hara H, Yoshida H, Yui K: Interleukin-27 inhibits the generation of memory CD4+ T cells during malaria infection. 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society. 2017, 10, 29-11, 2. abstract book.
81. Mi-ichi F, Yoshida H: Entamoeba mitosomes play an important role in cell differentiation from proliferative form into dormant form (encystation) by association with cholesteryl sulfate synthesis. 58th International Conference on the Bioscience of Lipids. 2017, 9, 10-14. abstract book.
82. Miyake Y, Suematsu E, Saijo S, Yamasaki S, Yoshida H: Pathogenic fungus, Trichopyton mentagrophytes, negatively regulates host immune responses via Siglec receptors. 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society. 2017, 10, 29-11, 2. abstract book.
83. Yoshida H, Sasaguri T, Ishikawa A, Murata Y, Yasaka T, Hirakawa N, Hara H: Interleukin 27 controls pain sensitivity in pathophysiological conditions; to immunity and beyond!. 5th Annual Meeting of the International Cytokine and Interferon Society. 2017, 10, 29-11, 2. abstract book.
84. Kido MA, Aijima R, Yoshimoto RU, Kitsuki T, Cao AL, Jing-Qi Z, Ohsaki Y: Temperature sensitive TRP channels in Oral Mucosa. 9th National Congress of Romanian Society of Cellular Biology with international participation Iasi Romania. 2017, 6, 7-11. RSCB Programme 11.

85. Magori N, Fujita T, Suzuki R, Wang C, Yang F, Kumamoto E: Inhibitory action of β -thujaplicin on compound action potentials in frog sciatic nerve fibers. Neuroscience 2017 - Society for Neuroscience the 47th Annual Meeting. 2017, 11, 11-15. Abstract Viewer and Itinerary Planner: Program No. 202. 19.
86. Suzuki R, Fujita T, Mizuta K, Magori N, Wang C, Yang F, Ishimatsu M, Kumamoto E: Non-steroidal anti-inflammatory drugs inhibit compound action potentials in frog sciatic nerve fibers. Neuroscience 2017 - Society for Neuroscience the 47th Annual Meeting. 2017, 11, 11-15. Abstract Viewer and Itinerary Planner: Program No. 202. 20.
87. Wang C, Fujita T, Magori N, Suzuki R, Yang F, Kumamoto E: Effects of orexin A and orexin B on spontaneous synaptic transmission in adult rat spinal substantia gelatinosa neurons. Neuroscience 2017 - Society for Neuroscience the 47th Annual Meeting. 2017, 11, 11-15. Abstract Viewer and Itinerary Planner: Program No. 679. 19.
88. Yu T, Fujita T, Wang C, Suzuki R, Magori N, Yang F, Kumamoto E: Plant-derived compound-induced outward current in adult rat spinal substantia gelatinosa neurons and the chemical structure of the compound. Neuroscience 2017 - Society for Neuroscience the 47th Annual Meeting. 2017, 11, 11-15. Abstract Viewer and Itinerary Planner: Program No. 679. 18.
89. AKUTAGAWA T, FUJIMOTO K, AOKI S, TODA S: Fluid flow stress amplifies the proliferation of gastric carcinoma cells promoted by adipose tissue. APDW 2017. 2017, 9, 23-26. abstract book.
90. Junichi Makino, Kazutaka Matuo, Tatunori Tachibe, Shigehisa Aoki, Toshihiro Ide: Exercise therapy under hemodialysis treatment improves the ventilation equivalent of carbon dioxide in dialysis patients. 2017 Annual Dialysis Conference. 2017, 3, 11-14. ADC handbook.
91. Shiraki M., Xu X., Kamohara A., Iovanna J., Kubota Y., Kukita T., Mawatari M., Kukita A: Nupr1/p8, a key player of stress response, regulates autophagy and apoptosis of osteoclasts. ASBMR 2017 Annual Meeting. 2017, 9, 8-11. Journal of Bone and Mineral Research vol. 32: suppl. 1, p349.
92. Shiratori T., Kukita A., Kyumoto-Nakamura Y., Uehara N., Zhang J., Koda K., Kamiya M., Badawy T., Xu X., Yamaza T., Urano Y., Koyano K., Kukita T: Osteoclast formed undrt stimulation by IL-1 β posses extremely high ability to secrete protons and to resorb dentin with abnoprml adhesiveness, imaged by pH-sensitive fluorescence probes. ASBMR 2017 Annual Meeting. 2017, 9, 8-11. Journal of Bone and Mineral Research vol. 32: suppl. 1, p234.
93. Xu X., Shiraki M., Kamohara A., Nishioka K., Matsuhisa F., Kitajima S., Kukita T., Kukita A: Pmepa1 is specifically induced by bone components in osteoclasts and regulates bone resorption. ASBMR 2017 Annual Meeting. 2017, 9, 8-11. Journal of Bone and Mineral Research vol. 32: suppl. 1, p237.
94. Xu X, Shiraki M., Kamohara A., Shobuike T., Kukita T., Kukita A: LRF/OCZF regulates survival of osteoclasts via Sam68, a splicing regulator of Bcl-x. ASBMR 2017 Annual Meeting. 2017, 9, 8-11. Journal of Bone and Mineral Research vol. 32: suppl. 1, p234.

95. Fujii R, Hishida A, Nakatochi M, Furusho N, Ikezaki H, Okada R, Kawai S, Sasakabe T, Tanaka K, Shimano C, Suzuki S, Hosono A, Koyama T, Kuriyama N, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Takashima N, Turin TC, Kuriki K, Endoh K, Mikami H, Nagase H, Oze I, Ito H, Kubo M, Kondo T, Naito M, Wakai K: Relationship of genetic and clinical factors and prevalence of CKD in a Japanese population: J-MICC Study. ASHG 2017 Annual Meeting - American Society of Human Genetics 67th Annual Meeting. 2017, 11, 17-21. Poster abstracts P1223, 2808F.
96. Hara M, Nishida Y, Fuku N, Shimano C, Nanri H, Taguchi N, Kawai K, Li YS, Kasai H, Higaki Y, Tanaka K: Mitochondrial haplogroups modify the effect of physical activity on urinary levels of 8- hydroxydeoxyguanosine in middle-aged Japanese subjects. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017). 2017, 8, 19-22. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) Program: P111.
97. Matsumoto A, Hara T, Shimano C, Yuzuriha T, Yoshimori C, Muto T, Endo K, Hara M, Ichiba M, Konakahara T, Yajima I, Vasiliou V, Song BJ, Fujita M: A novel phenotype of ALDH2 polymorphism : drinking-induced skin pigmentation. IPCC 2017. 2017, 8, 26-30. abstract book.
98. Nishida Y, Higaki Y, Taguchi N, Hara M, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Horita M, Shinci K, Shimano C, Higashimoto K, Soejima H, Tanaka K: Association between objectively measured physical activity and methylation of PYCARD gene in the Japanese general population. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017). 2017, 8, 19-22. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) Program: P85.
99. Noguchi N, Inoue S, Shimano C, Shibayama K, Shinci K: Factors Associated with Nursing Activities in Humanitarian Aid and Disaster Relief. The 20th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) in HongKong. 2017, 3, 9-10. abstract book.
100. Shimano C, Hara M, Nishida Y, Nanri H, Horita M, Yamada Y, Li Y S, Kasai H, Kawai K, Higaki Y, Tanaka K: Perceived stress, depressive state, and oxidative DNA damage in a general Japanese population. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017). 2017, 8, 19-22. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) Program: P54.
101. Zempo H, Fuku N, Kumagai H, Nishida Y, Higaki Y, Naito H, Hara M, Tanaka K: Amino acid replacement (K14Q) of mitochondria-derived MOTS-c affects type 2 diabetes in men with lower physical activity. The 3rd Congress, International Academy of Sportology. 2017, 10, 14. abstract book.
102. Matsumoto A, Hara T, Shimano C, Yuzuriha T, Yoshimori C, Muto T, Endo K, Hara M, Ichiba M, Konakahara T, Yajima Y, Vasiliou V, Song BJ, Fujita M: A novel phenotype of ALDH2 polymorphism: drinking-induced skin pigmentation. IPCC (The International Pigment Cell Conference) 2017. 2017, 8, 26-30. abstract book.

103. Ono N, Tada Y: Characteristics of MPO-ANCA positive GPA comparing to PR3-ANCA positive GPA and MPA. 第 18 回国際血管炎・ANCA 学会. 2017, 3, 25 - 28. 第 18 回国際血管炎・ANCA 学会抄録集 WS2 - 5.
104. Kirino Y, Kawaguchi Y, Tada Y, Tsukamoto H, Ota T, Iwamoto M, Takahashi H, Nagasawa K, Takei S, Horiuchi T, Ichida H, Minota S, Ueda A, Ohta A and Ishigatsubo Y: Use of Including Serum Ferritin and Heme Oxygenase 1 in the Yamaguchi's Classification for Adult-Onset Still's Disease: A Multicenter Retrospective Study. American College of Rheumatology (ACR) 2017 Annual Meeting. 2017, 11, 3-11, 8. abstract book.
105. Mishima K, Ota S, Higashioka K, Nakayama T, Ayano M, Kimoto Y, Mitoma H, Akahoshi M, Arinobu Y, Inoue Y, Oryoji K, Sawabe T, Nagano S, Nishizaka H, Yoshizawa S, Yoshizawa S, Otsuka T, Ueda A, Tada Y, Nakashima H, Horiuchi T, Akashi K and Niro H: CXCR3+CCR6+CD4+ T Cells (Th1 Th17) and RF As Novel Predictive Markers for Clinical Response to Abatacept Treatment in Patients with Rheumatoid Arthritis: The 52-Week Analysis. American College of Rheumatology (ACR) 2017 Annual Meeting. 2017, 11, 3-11, 8. abstract book.
106. Nishino A, Kawashiri S, Yoshitama T, Eiraku N, Matsuoka N, Ueki Y, Okada A, Hamada H, Hidaka T, Nagano S, Tsuru T, Fujikawa K, Arinobu Y, Tada Y, Nagata Y and Kawakami A: Power Doppler Ultrasonography Detects Superior Efficacy of Non-TNF Biologics Compared to Cycling of TNF Inhibitors in RA Patients Inadequate Response to First TNF Inhibitors. American College of Rheumatology (ACR) 2017 Annual Meeting. 2017, 11, 3-11, 8. abstract book.
107. Yusuke Yakushiji, Kazuhiro Kawamoto, Kazuyoshi Uchihashi, Yukiko Nagaishi, Kohei Suzuyama, Yumiko Tsugitomi, Shigehisa Aoki, Hideo Hara: Low-dose Phosphodiesterase III inhibitor reduces the vascular amyloid burden in Amyloid- β Protein Precursor Transgenic Mice. ESOC2017 3rd European Stroke Organisation Conference. 2017, 5, 16-18. ESOC 2018 abstract. 219.
108. Tomonori Abe, Chiho Nakashima, Akemi Sato, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Aragane: Characteristics of cell free DNA in lung cancer patients. IASLC 18th WORLD CONFERENCE ON LUNG CANCER. 2017, 10, 15-18. abstract book.
109. Tomonori Abe, Chiho Nakashima, Naomi Watanabe, Akemi Sato, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Aragane: Characteristics of cell free DNA in lung cancer patients. The 76th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2017, 9, 28-30. abstract book.
110. Kojima K, Maeda A, Okamoto A, Nishida Y, Liangl C, Weetall M, Branstrom A, Kimura S: Down-regulation of BMI-1 by the small molecule PTC596 induces mitochondrial apoptosis in mantle cell lymphoma. 59th ASH Annual Meeting & Exposition. 2017, 12, 9-12. Blood 2017 130: 1263.
111. Kazutoshi Komiya, Tomomi Nakamura, Momoko Hayase, Haruki Hirakawa, Shinsuke Ogusu, Tomonori Abe, Chiho Nakashima, Koichiro Takahashi, Yuji Takeda, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Correlation and problems of re-biopsy and liquid biopsy for detecting T790M mutation. IASLC 18th WORLD CONFERENCE ON LUNG CANCER. 2017, 10, 15-18. abstract book.

112. Tomomi Nakamura, Chiho Nakashima, Kazutoshi Komiya, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Clarification of mechanisms of acquired resistance for afatinib using plasma samples. IASLC 18th WORLD CONFERENCE ON LUNG CANCER. 2017, 10, 15-18. abstract book.
113. Chiho Nakashima, Tomonori Abe, Akemi Sato, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Aragane: DNA extraction method using cellulose magnetic beads can improve the EGFR mutation detection rate. The 76th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2017, 9, 28-30. abstract book.
114. Nakashima C, Sato A, Abe T, Nakamura T, Komiya K, Sueoka E, Kimura K, Aragane N: Automatic DNA extraction system can improve the EGFR point mutation detection rate of liquid biopsy. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2017. 2017, 4, 1-5. abstract book.
115. 貞松宏典, 田代宏樹, 高橋浩一郎, 加藤剛, 内田賢, 木村晋也, 荒金尚子: HDM 誘導アレルギー性気道炎症における飽和脂肪酸の役割. 第 27 回国際喘息学会日本・北アジア部会. 2017, 10, 5 - 6, 熊本. 抄録集.
116. Hiroki Tashiro, Hironori Sadamatsu, Koichiro Takahashi, Go Kato, Shinya Kimura, Naoko Sueoka- Aragane: Recruited lung macrophages contribute to progression of airway inflammation in obesity asthma mice model. American Thoracic Society 2017 International Conference. May 19-24, 2017, Washington, D. C. abstract book.
117. Yoshitoyo Kagami, Kazuhito Yamamoto, Taro Shibata, Kensei Tobinai, Yoshitaka Imaizumi, Toshiki Uchida, Kazuyuki Shimada, Koichiro Minauchi, Noriko Fukuhara, Hirofumi Kobayashi, Nobuhiko Yamauchi, Hideki Tsujimura, Akira Hangaishi, RyoTominaga, Youko Suehiro, Shinichiro Yoshida, Yoshiko Inoue, Sachiko Suzuki, MichihideTokuhira, Hirokazu Nagai, Shigeru Kusumoto, Junya Kuroda, Yoshihiro Yakushijin, Yasushi Takamatsu, Yasushi Kubota, Kisato Nosaka, Satoko Morishima, Shigeo Nakamura, Dai Maruyama, Tomomitsu Hotta, Yasuo Morishima and Kunihiro Tsukasaki: Randomized Phase II Study of R-CHOP-14 Versus R-CHOP-14 Followed By Chaser As Induction Therapy for High-Dose Chemotherapy (HDT), LEED, and Autologous Stem-Cell Transplantation (ASCT) in Poor-Risk Diffuse Large B-Cell Lymphoma (DLBCL): Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Study (JCOG0908). 59th ASH Annual Meeting & Exposition. 2017, 12, 9-12. Blood 130: 4127.
118. Hiroshi Ureshino , Takero Shindo, Yasushi Kusunoki , Yuki Miyazaki , Hiroto Kojima , Hidenori Tanaka , Hiroh Saji , Atsushi Kawaguchi , Shinya Kimura: IMPACT OF KIR3DL100501 IN TY- ROSINE KINASE INHIBITOR-TREATED CML. 22nd Congress of EHA. 2017, 6, 22-25. abstract book.
119. Nishikido T, Oyama JI, I Tsukamoto, J Igarashi, Node K: The coronary collateral development by angiogenesis of COA-CI (2-CI-C. OXT-A) in myocardial infarction. ESC Congress 2017. 2017, 8, 26-30.

120. Endo H, Tanaka Y, Matsunaga T, Hidaka H, Shirai S, Shimoda R, Iwakiri R, Fujimoto K: Helicobacter pylori eradication therapy with vonoprazan was more effective compared to proton pump inhibitors, and the effect was not disturbed in the patients with life-style related diseases. 25th United European Gastroenterology Week 2017. 2017, 10, 28-11, 1. UEG J 5 (supple 1) 77 (free paper session).
121. Ito Y, Sakata Y, Yoshida H, Tanaka Y, Shirai S, Takeshita E, Akutagawa T, Kawakubo H, Yamamoto K, Tsuruoka N, Shimoda R, Iwakiri R, Fujimoto K: Cost-effectiveness of hospital charge for colonic diverticular bleeding depended on management of repeated bleeding and blood transfusion: analysis with diagnosis procedure combination (DPC) data in Japan. Asian Pacific Digestive Week 2017. 2017, 9, 23-26. J Gastroenterol Hepatol 32 (suppl. 3): 114.
122. Shimoda R, Sakata Y, Tsuruoka N, Shirai S, Noda T, Endo H, Akutagawa K, Iwakiri R, Fujimoto K: The efficacy of next-generation of image enhanced colonoscopy (blue laser imaging) in the detection of colonic lesions: a pilot study. 25th United European Gastroenterology Week 2017. 2017, 10, 28-11, 1. UEG J 5 (supple 1) 193.
123. Shirai S, Sakata Y, Akutagawa K, Yamanouchi K, Tsuruoka N, Endo H, Shimoda R, Noda T, Sugisaki N, Iwakiri R, Fujimoto K: Immunogenicity of a quadrivalent influenza vaccine among patients with inflammatory bowel diseases. 25th United European Gastroenterology Week 2017. 2017, 10, 28-11, 1. UEG J 5 (supple 1) 234.
124. Yamanouchi K, Iwakiri R, Shimoda R, Sakata Y, Tsuruoka N, Shirai S, Yamamoto K, Akutagawa K, Noda T, Fujimoto K: Clinical usefulness of endoscopic assessment in ulcerative colitis using lined color imaging: a preliminary pilot study with 10 patients. 25th United European Gastroenterology Week 2017. 2017, 10, 28-11, 1. UEG J 5 (supple 1) 187.
125. Jing Guo, lwata Ozaki, Jinghe Xia, Takuya KuwaShiro, HirokazuTakahshi, Yuichiro Eguchi, Keizo Anzai, Sachiko Matsunashi: Loss of tumor suppressor PDCD4 induced cellular senescence in human hepatoma cells. The Liver Meeting 2017. 2017, 10, 20-24. HEPATOLOGY October, 402A.
126. Hirokazu Takahashi, Rina Komazaki, Sayaka Katagiri, Shogo Maekawa, Kazuki Watanabe, Wataru Yoshioka, Kenichi Tanaka, Yoichiro Kitajima, Shinji Iwane, Satoshi Oeda, Keizo Anzai, Yuichi Izumi, Yuichiro Eguchi: Periodontal pathogenic bacteria, Aggregatibacter actinomycetemcomitans affect non-alcoholic fatty liver disease by altering gut microbiota and glucose metabolism. The Liver Meeting 2017. 2017, 10, 20-24. HEPATOLOGY October, 1088A.
127. Wataru Yoshioka, Yoshihito Kubotsu, Hirokazu Takahashi, Satoshi Oeda, Shinji Iwane, Keizo Anzai, Yuichiro Eguchi: Dynamics of hepatic steatosis in the treatment for chronic hepatitis C with direct acting antivirals. The Liver Meeting 2017. 2017, 10, 20-24. VOLUME66, NUMBER (SUPPL) 563A.
128. Mizoguchi Y, Haraguchi Y, Murakawa-Hirachi T, Imamura Y, Monji A: Donepezil suppresses intra- cellular Ca²⁺ mobilization through the PI3K pathway in rodent microglia. Neuroscience 2017. 2017, 11, 11-15. abstract book.

- 129.Hirabaru K, Maeda T, Matsuo M: Efficacy of Thyrotropin-releasing Hormone Therapy for Lennox- Gastaut Syndrome. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology-. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 130.Ichinose F, Matsuo M, Kosugi M, Higuchi O, Okuno T, Ohno K: Two Brothers with Congenital My- asthenic Syndrome followed for Congenital Myopathy. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology-. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 131.Maeda T, Tomino H, Hirabaru K, Tajima D, Matsuo M, Kosugi M, Nakane S, Higuchi O: Two Pediatric Cases of Autoimmune Autonomic Neuropathy. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology-. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 132.Matsuo M, Kanazawa N, Akutsu T, Shimozawa N: A Case of Infantile Refsum Disease associated with Hypobetalipoproteinemia. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 133.Nakamura T, Zaitzu M, Matsuo M: A Case of Mild Limbic Encephalitis associated with Influenza Type A. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology-. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 134.Oobayashi R, Oosawa Y, Matsuo M: Idiopathic Basal Ganglia Calcification with Paroxysmal Kinesigenic Dyskinesia in A 11-year-Old Girl. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology-. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 135.Tajima D, Matsuo M, Nanri M, Tohbu S, Noguchi M, Tsuji K: The Efficacy of Methylphenidate and Atomoxetine for Voiding Dysfunction associated with Attention Deficit Hyperactivity Disorder. AOCCN 2017 -14th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology-. 2017, 5, 11-14. abstract book.
- 136.Abe T, Wakamiya T, Kouguchi M, Ito H, Nakahara Y: CBIO-27 Increase of mRNA expression of both fatty acid synthase (FASN) and carnitine palmitoyltransferase 1C (CPT1C) in starved human glioma cell lines. 22ND ANNUAL SCIENTIFIC MEETING AND EDUCATION DAY OF THE SOCIETY FOR NEURO-ONCOLOGY. 2017, 11, 16-19, abstractbook.
- 137.Aijima R, Mori K, Tsuruoka S, Shimohira D, Danjo A, Yamashita Y: Three-dimensional analysis of bone morphology after closed treatment of mandibular condyle fractures. 7th Annual conference and Joint Scientific Meeting of Nepalese Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (NAOMS) and Japanese Society of Oral and Maxillofacial Surgeons (JSOMS). 2017, 2, 4. Program, p12.
- 138.Keisuke MORI, Reona AIJIMA, Atsushi DANJO, Eiro KUBOTA, Yoshio YAMASHITA: Trial of intermaxillary elastic traction with pivot splint for 12 patients with temporomandibular joint disc derangement. The 5th Asian Academic congress for TMJ. 2017, 10, 14-15. Supplement of Asian Academic congress for TMJ p. 52.
- 139.Nakamura H, Watanabe T, Sato A, Yamashita S, Ushijima T, Sueoka E: Epigenetic regulation of the genes in indolent types of adult T-cell leukemia/lymphoma analyzed by comprehensive DNA methylation array. 18th International Conference on Human Retrovirology HTLV and Related Viruses. 2017, 3, 7-10. P-H-11.

140. Nakashima C, Sato A, Abe T, Nakamura T, Komiya K, Sueoka E, Kimura K, Aragane N: Automatic DNA extraction system can improve the EGFR point mutation detection rate of liquid biopsy. 108th Annual Meeting of the American Association of Cancer Research. 2017, 4, 1-5.
141. Koami H, Sakamoto Y, Yamada KC, Inoue S: Predictors for return of spontaneous circulation in case of out-of-hospital cardiac arrest with non-shockable rhythm. 40th Annual Conference on Shock. 2017, 6, 3-6. SHOCK 47(Suppl 1): P107.
142. Koami H, Sakamoto Y, Nagashima F, Yamada KC, Inoue S: How does physician-staffed prehospital emergency medical service affect the dilutional coagulopathy for severely traumatized patients ?. American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2017. 2017, 11, 11-15. Circulation 136: A17458.
143. Nishida Y, Higaki Y, Taguchi N, Hara M, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Horita M, Shinchi K, Shimano C, Higashimoto K, Soejima H, Tanaka K: Association between objectively measured physical activity and methylation of PYCARD gene in the Japanese general population. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017). 2017, 8, 19-22. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) Program: P85.
144. Shimano C, Hara M, Nishida Y, Nanri H, Horita M, Yamada Y, Li Y S, Kasai H, Kawai K, Higaki Y, Tanaka K: Perceived stress, depressive state, and oxidative DNA damage in a general Japanese population. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017). 2017, 8, 19-22. The 21st International Epidemiology Association (IEA), World Congress of Epidemiology (WCE2017) Program: P54.
145. Jing Guo, Iwata Ozaki, Jinghe Xia, Takuya KuwaShiro, HirokazuTakahashi, Yuichiro Eguchi, Keizo Anzai, Sachiko Matsushashi: Loss of tumor suppressor PDCD4 induced cellular senescence in human hepatoma cells. AASLD The Liver Meeting 2017. 2017, 10, 20-24. AASLD ABSTRACTS HEPATOLOGY October, 2017 402A.
146. Hirokazu Takahashi, Rina Komazaki, Sayaka Katagiri, Shogo Maekawa, Kazuki Watanabe, Wataru Yoshioka, Kenichi Tanaka, Kitajima Yoichiro, Shinji Iwane, Satoshi Oeda, Keizo Anzai, Yuichi Izumi, Yuichiro Eguchi: Periodontal pathogenic bacteria, Aggregatibacter actinomycetemcomitans affect non-alcoholic fatty liver disease by altering gut microbiota and glucose metabolism. AASLD The Liver Meeting 2017. 2017, 10, 20-24. AASLD ABSTRACTS HEPATOLOGY October, 2017 1088A.
147. Wataru Yoshioka, Yoshihito Kubotsu, Hirokazu Takahashi, Satoshi Oeda, Shinji Iwane, Keizo Anzai, Yuichiro Eguchi: Dynamics of hepatic steatosis in the treatment for chronic hepatitis C with direct acting antivirals. AASLD The Liver Meeting 2017. 2017, 10, 20-24. AASLD ABSTRACTS VOL- UME66, NUMBER (SUPPL) 563A.
148. 中村美佳, 川崎寿磨子, 永松美雪 : Anxiety and psychosocial adaptation in pregnant women with negative results of noninvasive prenatal testing. 第 31 回国際助産師連盟 (ICM) 大会. 2017, 6, 18 - 22. Summary book.

149. Kawaguchi Y, Yoshioka W, Noge S, Takahashi H, Ozaki I, Okada M, Yanagita K, Kohira S, Ide Y, Yasutake Y, Kawasoe H, Mizuta T: Risk of hepatocarcinogenesis after eradication of hepatitis C virus by direct acting antivirals. Digestive Disease Week (DDW) 2017. 2017, 5, 6-9. Gastroenterology 152(S1):S1099.
150. Guo J, Ozaki I, Xia J, Kuwashiro T, Takahashi H, Eguchi Y, Anzai K, Matsuhashi S: Loss of tumor suppressor PDCD4 induced cellular senescence in human hepatocellular carcinoma cells. The Liver Meeting 2017: The 68th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). 2017, 10, 20-24. Hepatology 66(S1):A750.
151. Chen Y, Nishijima K, Chen L, Niimi M, Kitajima S, Liang J, Fan J: Macrophage-derived MMP-9 Enhances the Arterial Calcification and Progression of Atherosclerosis in Transgenic Rabbits. AHA Scientific sessions 2017. 2017, 11, 11-15. Abstract.
152. Matsuhisa F, Akiyoshi T, Matsuo K, Morimoto M, Niimi M, Fan J, Kitajima S: Comparison of cryoprotectants for ultra-rapid vitrification (Cryotop method) in rabbit embryos. ICRB2017: 7th International Meeting on Rabbit Biotechnology. 2017, 8, 25-27. Abstract p20.
153. Nishijima K, Watanabe G, Kitajima S, Basaki K, Fukuda Y, Komatsu Y, Yano M, Obata T, Matsuo Y, Matsuda Y, Seki S: Effect of inhibin antiserum administration and vulva color on superovulation in rabbit. ICRB2017: 7th International Meeting on Rabbit Biotechnology. 2017, 8, 25-27. Abstract p19.
154. Wang C, Nishijima K, Kitajima S, Niimi M, Yan H, Chen Y, Ning B, Matsuhisa F, Liu E, Zhang J, Chen Y-E, Fan J: Increased hepatic expression of endothelial lipase inhibits cholesterol diet-induced hypercholesterolemia and atherosclerosis in transgenic rabbits. ICRB2017: 7th International Meeting on Rabbit Biotechnology. 2017, 8, 25-27. Abstract p22.
155. Xianghe X, Shiraki M, Kamohara A, Nishioka K, Matsuhisa F, Kitajima S, Kukita T, Kukita A: Pmepal induced by bone components in osteoclasts regulates bone resorption Pmepal is specifically induced and expressed in boneresorbing osteoclasts and regulate its function. ASBMR 2017 Annual meeting. 2017, 9, 8-11. Abstract.
156. Nakamura H, Watanabe T, Sato A, Yamashita S, Ushijima T, Sueoka E: Epigenetic Regulation of the Genes in Indolent Types of Adult T-cell leukemia/Lymphoma Analyzed by Comprehensive DNA Methylation Array. The 18th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses Tokyo2017. 2017, 3, 7-10. abstract book.
157. Shindo T, Kusunoki Y, Kitamura K, Nishikawa H, Watanabe N, Ureshino H, Miyahara M, Watanabe T, Sueoka E, Espinoza L, Takami A, Ichinohe T, Suzuki R, Tanaka H, Saji H, Kimura S: TCR Repertoire, Effector Regulatory Tcells and KIR Genotyping Uncover Immunological Dynamics in Mogamulizumab-treated ATL. The 18th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses Tokyo2017. 2017, 3, 7-10. abstract book.
158. Hiroshi Ureshino, Takero Shindo, Yasushi Kusunoki, Yuki Miyazaki, Hiroto Kojima, Hidenori Tanaka, Hiroh Saji, Atsushi Kawaguchi, Shinya Kimura: IMPACT OF KIR3DL100501 IN TYROSINE KINASE INHIBITOR-TREATED CML. 22nd Congress of EHA. 2017, 6, 22-25. abstract book.
159. Verissimo A. R, Nakamura A, Matsubayashi K, Mukae Y, Itoh M, Nakayama K: 3D bioprinted scaffold-free blood vessels for clinical and research applications. TERMIS European Chapter Meeting 2017. 2017, 6, 26-30. Abstract Book.

国内全国規模の学会

1. 花本猛士: 含フッ素ビニルスルホニウム塩の合成と展開. 有機合成化学講演会. 2017, 6.
2. 江良正直: 光学デバイス材料としてのハロゲン化鉛系層状ペロブスカイト. 新化学技術推進協会 電子情報技術部会 エレクトロニクス交流会 講演会. 2017, 8.
3. 坂口幸一、大竹亜紗美、内野聖子、松尾大樹、白鳥武、滝澤登: ラジカル反応による溶媒分散性炭素材料の合成と評価・電気特性. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
4. 坂口幸一、白鳥武、松尾大樹、内野聖子、大竹亜紗美、藤澤知績、海野雅司: ラジカル反応を利用した溶媒親和性炭素材料の合成. 応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会研究会「有機分子・バイオエレクトロニクスの最新動向と応用展開」. 2017, 6.
5. 森貞真太郎: 機能性高分子を用いた液相吸着剤の開発. 第 27 回吸着シンポジウム: 吸着夏の学校, ホテルメイプルイン幕張, 千葉. 2017, 8.
6. 成田 貴行: 自律運動するソフトマテリアル. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
7. 川喜田英孝: ポリオールによる金属イオンの対流輸送型吸着. 第 27 回吸着シンポジウム. 2017, 8.
8. 川喜田英孝: ながれやゲル充填構造を用いた粒子の分離. 第 28 回繊維学会西部支部セミナー. 2018, 1.
9. 大渡啓介: 金属の抽出分離のためのカリックスアレーンの構造効果. 第 101 回原子力基礎工学研究セミナー. 2017, 8.
10. (AIST) Dong Tu, (AIST, Kyushu University) Chao-Nan Xu, (AIST) Masayoshi Fujihara, (Saga University) Xu-Guang Zheng: Sensitive Piezoluminescence in the Multipiezo Material $\text{LiNbO}_3\text{:Pr}^{3+}$. 日本セラミックス協会秋季講演会. 2017, 9.
11. D. Yu, K. Ohto, S. Morisada, H. Kawakita: Precious metal adsorption on various polysaccharide polymer. 第 54 回化学関連支部合同大会. 2017, 7.
12. Hiroshi Sakiyama, Takaaki Abiko, Masayuki Koikawa: Magneto-structural Correlation of an Octahedral High-spin Iron(II) Complex. 錯体化学会第 67 回討論会. 2017, 9.
13. Md. Amzad Hossain, Yasunori Ohtsu: Plasma characteristics and performance of rotational square-shaped RF plasma sputtering source. プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会、D-6. 2017, 12.
14. Y. S. Kurniawan, R. R. Sathuluri, K. Ohto, H. Kawakita, S. Morisada, W. Iwasaki, M. Miyazaki: Evaluation of precious metal ion recovery with p-tert-octylcalix[4]arene derivatives with droplet-based microreactor. 第 54 回化学関連支部合同大会. 2017, 7.
15. Y. S. Kurniawan, R. R. Sathuluri, K. Ohto, H. Kawakita, S. Morisada, W. Iwasaki, M. Miyazaki: A rapid and efficient lithium ion recovery with calix[4]arene derivative using droplet-based microreactor system. 第 35 回九州分析化学若手の会 夏季セミナー. 2017, 7.
16. Yui Iwamoto, Yushi Oishi, and Takayuki Narita: Stripe patterns formed through gelation of collagen. 平成 29 年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会. 2017, 12.

17. 安敏志, 稲垣祐次, 河江達也, 手塚泰久, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: Co ドープ ZnO ナノ粒子の磁性と電子状態. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
18. 安敏志, 稲垣祐次, 河江達也, 手塚泰久, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: Co ドープ ZnO ナノ粒子凝集体の磁性と電子状態. 平成 29 年度応用物理学会九州支部学術講演会. 2017, 12.
19. 一瀬大樹, 関清彦, 光富勝, 宗伸明, 上田敏久: 芳香族アミノ酸誘導体の抗菌作用. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
20. 一瀬大樹, 関清彦, 光富勝, 宗伸明, 上田敏久: 芳香族アミノ酸誘導体の抗菌作用. 平成 29 年度日本生化学会九州支部例会. 2017, 5.
21. 園田 航大, 牛島 政也, 松尾 大樹, 坂口 幸一, 滝澤 登: 大気圧プラズマを用いて合成した親水性炭素材料の電位差滴定法による酸素官能基量評価. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
22. 園田航大, 牛島政也, 松尾大樹, 滝澤登, 坂口幸一: 電位差滴定法による親水性炭素材料表面の酸素官能基量評価. 平成 29 年度九州表面・真空研究会 2017 (兼 第 22 回九州薄膜表面研究会)「新奇的な薄膜・表面現象とその応用の最前線」. 2017, 6.
23. 園田航大, 牛島政也, 松尾大樹, 滝澤登, 坂口幸一: 電位差滴定法を用いた化学的酸化法及び大気圧プラズマ法により合成した親水性炭素材料の酸素官能基量評価. 第 8 回酸化グラフェンシンポジウム. 2017, 6.
24. 遠藤大輔, 山本壮里, 多々見純一, 高橋英嗣, 山岡禎久: 光音響イメージングを用いた窒化ケイ素の表面欠陥評価. 第 78 回応用物理学会 秋季学術講演会. 2017, 9.
25. 押川雄紀, 米田 宏, 鯉川雅之, 山田泰教: ねじれ源の異なる N₂O₂ 型配位子を含む螺旋型 Zn(II) 錯体の分光学的性質. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 福岡. 2017, 7.
26. 押川雄紀, 米田 宏, 鯉川雅之, 山田泰教: Dianiline 化合物から誘導される N₂O₂ 型配位子を用いた二核 Zn(II) 錯体の分光学的特性. 第 67 回錯体化学討論会, 北海道, 2017 年 9 月, 講演番号 1PA-073. 2017.
27. 音谷隼平, 富永昌人: 「泥の電池」の発電に及ぼす外部抵抗の影響. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
28. 音谷隼平, 富永昌人: 「泥の電池」の外部抵抗に誘導されるアノード電位と発電との相関. 第 35 回九州分析化学若手の会夏季セミナー. 2017, 7.
29. 音谷隼平, 富永昌人: 「泥の電池」のアノード電位と発電に及ぼす外部抵抗の影響. 電気化学会九州支部・東海支部・北海道支部合同シンポジウム. 2017, 9.
30. 音谷隼平, 富永昌人: 「泥の電池」の電極電位と発電量に及ぼす外部抵抗の影響. 第 24 回日本生物工学会九州支部沖縄大会. 2017, 12.
31. 加藤 僚, 貞包浩一朗, 高椋利幸: 水/有機溶媒/塩の混合溶液で形成される結晶構造. 日本物理学会 2017 年秋季年会, 岩手. 2017, 9.

32. 河野雅大, 貞包浩一朗, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 高椋利幸: イミダゾリウム系イオン液体とシクロエーテルの混合状態. 日本中性子科学会第 17 回年会, 福岡. 2017, 12.
33. 河野雅大, 梅木辰也, 高椋利幸: イオン液体 C4mimTFSA とシクロエーテルの混合状態. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 2017, 10.
34. 柿原美希, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 稲垣祐次, 河江達也, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: 準安定相 fcc CoCu 合金ナノ粒子の磁性. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
35. 柿原美希, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 稲垣祐次, 河江達也, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: 準安定相 fcc CoCu 合金ナノ粒子の磁性と電子状態. 平成 29 年度応用物理学会九州支部学術講演会. 2017, 12.
36. 丸山徹, 今村真幸, 高橋和敏, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 稲垣佑次, 河江達也, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: V2O3 ナノ結晶の金属絶縁体転移における Ti ドーピング効果. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
37. 丸山徹, 今村真幸, 高橋和敏, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 稲垣佑次, 河江達也, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: V2O3 ナノ結晶の金属絶縁体転移における Ti および Cr ドーピング効果. 平成 29 年度応用物理学会九州支部学術講演会. 2017, 12.
38. 岩本結衣, 高上穂奈美, 大石祐司, 成田貴行: 微小空間でのゲル化で生じるコラーゲンゲルのパターン形成. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
39. 牛島 政也, 園田 航大, 滝澤 登, 坂口 幸一: 電位差滴定法を用いた酸化グラフェンに含まれる酸素官能基量の評価. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
40. 牛島 政也, 園田 航大, 滝澤 登, 坂口 幸一: 電位差滴定法を用いた酸化グラフェン表面上に含まれる酸素官能基量の評価. 平成 29 年度九州表面・真空研究会 2017 (兼 第 22 回九州薄膜表面研究会)「新奇な薄膜・表面現象とその応用の最前線」. 2017, 6.
41. 牛島幸輝, 今村真幸, 高橋和敏, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 稲垣祐次, 河江達也, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: NiS ナノ結晶の金属絶縁体転移. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
42. 牛島幸輝, 今村真幸, 高橋和敏, 石井啓文, Yen-Fa Liao, 稲垣祐次, 河江達也, 木田徹也, 南任真史, 石渡洋一: NiS ナノ結晶の金属絶縁体転移. 平成 29 年度応用物理学会九州支部学術講演会. 2017, 12.
43. 近藤美咲, 高上穂奈美, 大石祐司, 成田貴行: コラーゲンゲルに現れる新奇形態パターンの自己組織化. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
44. 近藤美咲, 高上穂奈美, 大石祐司, 成田貴行: コラーゲンゲルに見られる新奇な巨視的パターンと調製条件の影響. 第 68 回コロイドおよび界面化学討論会. 2017, 7.
45. 近藤美咲, 大石祐司, 古澤和也, 成田貴行: コラーゲンゲルに現れる新奇な巨視的パターン. 第 40 回日本バイオレオロジー学会年会. 2017, 5.
46. 近藤美咲, 中村駿介, 大石祐司, 成田貴行: コラーゲンのゲル化によって形成される巨視的形態の評価と細胞形態に与える影響. 平成 29 年度繊維学会秋季研究発表会. 2017, 11.

47. 郡 大心, 諸藤有紀, 山田泰教: 2, 2':6', 2''-Terpyridine と Thiocyanate を混合配位した Lanthanide(III)錯体の構造および分光学的性質. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 福岡, 2017 年 7 月, 講演番号 IC-5-037. . 2017.
48. 原口知也, 宝蔵寺佑輔, 櫻井裕之, 貞包浩一朗, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 高椋利幸: Lysozyme の高次構造変化に対するフッ化アルコールの効果. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 2017, 10.
49. 原口知也, 宝蔵寺佑輔, 櫻井裕之, 貞包浩一朗, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 高椋利幸: Lysozyme の高次構造変化に対するアルコールの効果. 日本中性子科学会第 17 回年会, 福岡. 2017, 12.
50. 古賀愛弓, 竹下道範: 光スイッチを持ったジアリールエテン金属錯体の開発. 化学関連支部合同九州大会. 2017, 6.
51. 光武 祐希, 大石祐司, 成田貴行: Langmuir 法を用いた非対称性リポソーム調製法の検討. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
52. 光武祐希, 大石祐司, 成田貴行: Langmuir 法を利用した非対称性リポソームの新規調製法の確立. 平成 29 年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会. 2018, 1.
53. 光武祐希, 大石祐司, 成田貴行: Langmuir 法を利用した非対称性リポソーム調製法の検討. 第 40 回日本バイオレオロジー学会年会. 201705.
54. 光武祐希, 大石祐司, 成田貴行: Langmuir 法を用いたリポソームの新規調製法の確立と評価. 第 68 回コロイドおよび界面化学討論会. 2017, 7.
55. 江良正直: 臭化鉛系層状ペロブスカイト LB 膜の新しい作製法. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
56. 江良正直: 臭化鉛系ペロブスカイト薄膜における二価金属混合による発光効率の増大. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
57. 江良正直, Xuelong Zhang, 又賀駿太郎, 菊池裕嗣: 高い移動度を有する液晶性有機半導体ベンゾチアジアゾール誘導体の相転移挙動及び光電子物性. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
58. 高口唯奈, 兒玉浩明, 長田聰史: Trichostatin A の金属配位基を修飾した誘導体の合成研究. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
59. 高崎 雅也, 大津 康德, Julian Schulze: Ar-O2 混合ガスをを用いた高周波プラズマの空間構造. 2017 年応用物理学秋季学術講演会. 2017, 9.
60. 高崎夕希, 本田貴浩, 大石祐司, 成田貴行: グルコースを感知して作動する拍動カプセルの創製. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
61. 高崎雅也, 本田進之介, 大津康德: ホロー電極を用いた Ar-O2 混合高周波プラズマの空間構造. . 2017, 12.

62. 高崎夕希, 本田貴浩, 大石祐司, 成田貴行: キトサンを内包した温度感受性自律拍動カプセルの調製. 平成 29 年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会. 2018, 1.
63. 高崎夕希, 本田貴浩, 大石祐司, 成田貴行: キトサンを利用した温度スイッチング性を有する振動カプセルの調製. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
64. 高崎夕希, 本田貴浩, 大石祐司, 成田貴行: 温度を感受して自律拍動するキトサン内包カプセルの調製. 第 68 回コロイドおよび界面化学討論会. 2017, 7.
65. 高崎夕希, 本田貴浩, 大石祐司, 成田貴行: キトサンの温度依存性溶解挙動を利用した温度感受型自律拍動カプセルの調製. 平成 29 年度繊維学会秋季研究発表会. 2017, 11.
66. 高椋利幸, 日隈康仁, 松上優, 藤貴弘, 梅木辰也: 水溶性有機溶媒-水混合溶液中における 1, 3-ブタンジオールの溶媒和構造と分子内水素結合. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 2017, 10.
67. 佐藤善紀, 石橋弘樹, 張波: 平衡塩水溶液中におけるプラズマ溶射アルミナ被膜の摩擦摩耗特性. トライボロジー会議 2017 春東京. 2017, 5.
68. 佐藤善紀, 中川雄太, 張波: SUS304 ステンレス鋼のインパクトフレッティング摩耗特性と表面電位の関係. トライボロジー会議 2017 秋高松. 2017, 11.
69. 坂口優紀・山室麻由子・上田敏久・鎌田海・宗伸明: ユウロピウムをドーピングした無機ナノシートと酵素の複合体による燐光モードでのグルコース検出に関する検討. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
70. 坂本蓮、竹下道範、古賀淑哲、寺崎正: 蛍光性フェナントロリン誘導体による金属イオンの蛍光分析. 化学関連支部合同九州大会. 2017, 6.
71. 三好麻香、高岡祐士、森貞真太郎、大渡啓介、川喜田英孝: カラム内に充填したゲル粒子の弾性を用いたろ過回収. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
72. 三宅あずさ、牟田健祐、小山田重蔵、北村二雄: 超原子価ヨウ素を用いたアルケンの分子内環化-フッ素化反応の開発. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
73. 三宅あずさ、牟田健祐、小山田重蔵、北村二雄: 超原子価ヨウ素を用いたアルケンの分子内環化-フッ素化反応の開発. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
74. 山下舞美・上田敏久・鎌田海・宗伸明: 無機ナノシート/酵素/磁気ビーズ複合体によるコリン検出系の開発と磁気ビーズの粒径が及ぼす影響の検討. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
75. 山中 百華, 中村 駿介, 大石祐司, 成田貴行: 光駆動型自律振動ゲルシステムの開発. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
76. 山中愛生, 井上 綾, 米田 宏, 山田泰教, 鯉川雅之: アクリロニトリルを包接した Fe(II)M(II) ($\text{M} = \text{Ni}, \text{Pt}$) 多孔性配位高分子の特異な SCO 挙動と光によるゲスト分子の脱着制御. 第 67 回錯体化学討論会, 北海道, 2017 年 9 月, 講演番号 3PF-037. . 2017.
77. 山中百華, 中村駿介, 大石祐司, 成田貴行: 光駆動型自律スイングゲルシステムの構築と制御. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.

78. 山田 知佳、大竹 亜紗美、内野 聖子、 福田 伸子、坂口 幸一、：フッ素化アルキルを有する撥水性酸化グラフェンの合成. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
79. 山本実咲, 松上優, 梅木辰也, 高椋利幸: 水溶性有機溶媒－水混合溶液中におけるテトラアルキルアンモニウムイオンの溶媒和構造の観測. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 2017, 10.
80. 山本壮里、高橋英嗣、山岡禎久: 波形の選択的検出による光音響イメージングの高感度化. 第 78 回応用物理学会 秋季学術講演会. 2017, 9.
81. 柴田晴斗、松尾大樹、白鳥武、内野聖子、坂口幸一: 大気圧プラズマ法と過酸化水素を組合せた親水性酸化グラファイトの合成と評価. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
82. 重富敬太, 長田聰史, Masoud Jelokhani-Niaraki, 兒玉浩明: 芳香族アミノ酸をもつペプチドの合成と二次構造. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
83. 重富敬太、長田聰史、Masoud Jelokhani-Niaraki、兒玉浩明: 芳香族アミノ酸を含むモデルペプチドの合成とペプチド会合. 平成 29 年度日本生化学会九州支部例会. 2017, 5.
84. 諸藤有紀, 押川雄紀, 郡 大心, 米田 宏, 鯉川雅之, 山田泰教: 芳香族 Polyimine と Thiocyanate を混合配位した希土類錯体の構造および分光学的性質. 第 67 回錯体化学討論会, 北海道, 2017 年 9 月, 講演番号 1PA-061. . 2017.
85. 諸藤有紀, 吉永美穂, 米田 宏, 鯉川雅之, 山田泰教: 1, 10-Phenanthroline と Thiocyanate を混合配位した希土類(III)錯体の構造および分光学的性質. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 福岡, 2017 年 7 月, 講演番号 IC-5-034. . 2017.
86. 小川輝, 川頭祐太郎, 櫻井裕之, 貞包浩一朗, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 小堤和彦, 高椋利幸: イオン液体 C2mimTfSA□アルコール溶液中における Ni²⁺の錯形成平衡と熱力学. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 2017, 10.
87. 小川輝, 川頭祐太郎, 櫻井裕之, 貞包浩一朗, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 小堤和彦, 高椋利幸: イオン液体アルコール溶液中における Ni²⁺の錯形成平衡と熱力学. 日本中性子科学会第 17 回年会, 福岡. 2017, 12.
88. 松永和樹, 大石祐司, 矢田光徳 , 成田貴行: 白金を担持したヘテロ金属粒子に見られる規則運動とその形態が及ぼす影響. 第 68 回コロイドおよび界面化学討論会. 2017, 9.
89. 松永和樹, 大石祐司, 矢田光徳, 成田貴行: 白金担持金属粒子のブラウン運動にその形態と担持状態が及ぼす影響. 平成 29 年度物理化学インターカレッジセミナー兼日本油化学会界面科学部会九州地区講演会. 2018, 1.
90. 松永和樹, 徳永翔太, 大石祐司, 成田貴行: 受光時の TiO₂/Pt 粒子に見られる規則運動. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
91. 松尾大樹、内野聖子、白鳥武、柴田晴斗、坂口幸一: 大気圧プラズマ法によって合成された親水化炭素材料薄膜における電気特性の原料粒子サイズ依存性. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.

92. 松尾大樹、内野聖子、白鳥武、柴田晴斗、坂口幸一：大気圧プラズマ法によって合成された原料粒子サイズの異なる親水化炭素材料薄膜の電気特性. 第8回酸化グラフェンシンポジウム. 2017, 6.
93. 松尾大樹、内野聖子、白鳥武、柴田晴斗、坂口幸一：大気圧プラズマ法によって合成した原料粒径の異なる親水化炭素材料薄膜の電気特性. 平成 29 年度九州表面・真空研究会 2017 (兼 第 22 回九州薄膜表面研究会)「新奇的な薄膜・表面現象とその応用の最前線」. 2017, 6.
94. 松尾一輝、真木一、山本勇、東純平、市川聡夫：K_{0.3}MoO₃ における時間分解光電子分光と交流電気伝導度の測定. 日本物理学会第 73 回年次大会. 2018, 3.
95. 植嶋朗仁、菅原光星、大津康徳：高周波マグネトロンスパッタリングによるポリカーボネート上への撥水性 PTFE 薄膜合成. 2017, 12.
96. 新宮勇人、北御門雄大、長谷川裕之：異種薄膜を並列配置したコンポジットコーティングの開発. 精密工学会 九州支部講演会. 2017, 12.
97. 新宮勇人、北御門雄大、長谷川 裕之：テクスチャ構造を応用するコンポジット薄膜の開発. 表面技術協会 第 136 回講演会. 2017, 9.
98. 森貞真太郎、川喜田英孝、大渡啓介：高分子電解質修飾シリカ粒子を用いた非最密充填単粒子膜の作製. 粉体工学会 2017 年度第 2 回西日本談話会, 九州工業大学. 2017, 12.
99. 森田一弘、北村二雄、小山田重蔵：2, 7-ジメトキシ[1]ベンゾチエノ[3, 2-b][1]ベンゾチオフェン (BTBT)の新規合成法. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
100. 森田一弘、北村二雄、小山田重蔵：2, 7-ジメトキシ[1]ベンゾチエノ[3, 2-b][1]ベンゾチオフェン (BTBT)の新規合成法. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
101. 真木一、高倉将一、山本勇、東純平：構造ミスフィットをもつビスマス系コバルト酸化物の電子構造. 日本物理学会第 73 回年次大会. 2018, 3.
102. 水野翔太、小山田重蔵、北村二雄：超原子価ヨウ素を用いるアルキン類の簡便フッ素化反応. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
103. 水野翔太、小山田重蔵、北村二雄：超原子価ヨウ素を用いるアルキン類の簡便フッ素化反応. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 2017, 7.
104. 菅原光星、植嶋朗仁、大津康徳：高周波スパッタを用いたポリカーボネートへの AZO 及び PVDF 薄膜合成. プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会、P-02. 2017, 12.
105. 菅原光星、大津康徳：高周波スパッタによるポリカーボネートへの AZO 薄膜合成とその応用. 2017 年応用物理学秋季学術講演会. 2017, 9.
106. 清永 つかさ、大竹亜紗美、黒木惟、坂口幸一：酸化グラフェンを用いたスピコート法による透明導電膜の成膜と評価. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017, 5.
107. 石橋大樹、山内一宏：ミュオンスピン回転／緩和法で見た二次元磁性体 BaNi₂V₂O₈ の磁気秩序. 第 123 回日本物理学会九州支部例会. 2017, 12.

108. 川喜田英孝、江崎翔平、高岡祐士、森貞真太郎、大渡啓介、坂口幸一、藤澤知績、海野雅司: 変形する球状ゲルを充填したカラムによる酸化グラフェンの分離. 化学工学会第 49 回秋季大会. 2017, 9.
109. 川喜田英孝、高岡祐士、江崎翔平、森貞真太郎、大渡啓介: カラムに充填した弾性ゲルを用いた粒子の分離. 分離技術会年会 2017. 2017, 5.
110. 川端圭志、麻生和希、大津康徳: 高周波磁化ホロー放電電極を用いた低気圧高密度水素負イオンの生成. プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会、P-32. 2017, 12.
111. 増岡 孝、小倉 隆志、南川 丈夫、 中嶋 善晶、山岡 禎久、美濃島 薫、 安井 武史: 超音波センシング型ファイバー光コムの特性評価. Optics & Photonics Japan 2017. 2017, 10.
112. 増岡孝、小倉隆志、南川丈夫、中嶋善晶、山岡禎久、美濃島薫、安井武史: ファイバー型光コム共振器を用いたマルチダイナミックレンジひずみセンシング. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 2017, 9.
113. 大久保夏輝、川喜田英孝、大渡啓介、森貞真太郎: 非最密充填単粒子膜を用いたメゾレンズアレイの作製. 第 28 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会, 24, ホテル湯の児 海と夕やけ. 2017, 7.
114. 大久保魁馬、鶴野雄介、藤原隆祐、井上海大、山岡禎久、高橋英嗣: Ru 錯体による培養細胞組織中の酸素濃度勾配イメージング法の検討. ME とバイオサイバネティクス研究会 201801.
115. 大石友佳理、高見悠里、平順一、兒玉浩明、長田聰史: Can peptide deformylase produce methionine aminopeptidase inhibitors from their formylated-precursors?. 第 54 回ペプチド討論会. 201711.
116. 大石友佳理、兒玉美瑛、平順一、兒玉浩明、長田聰史: 基質ベース型 MetAP 阻害剤と PDF による活性化のための N-ホルミル化誘導体の合成. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
117. 大竹亜紗美、内野聖子、福田伸子、坂口幸一: フッ素化アルキル鎖を用いた撥水性導電酸化グラフェン薄膜の評価. 平成 29 年度九州表面・真空研究会 2017 (兼 第 22 回九州薄膜表面研究会)「新奇的な薄膜・表面現象とその応用の最前線」. 201706.
118. 大竹亜紗美、平川あい、坂口幸一: 赤色レーザー光源を用いた酸化グラフェンの分散性評価装置の試作. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 201705.
119. 大竹亜紗美、林莉緒菜、片山由佳、内野聖子、坂口幸一: 粒径分離した酸化グラフェンの分散性の畳み込みによる評価. 第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 201709.
120. 大渡啓介、Yoga_Priastomo、森貞真太郎、川喜田英孝: 架橋型カリックス[4]アレーン樹脂による貴金属の吸着. 化学工学会第 49 回秋季大会. 201709.
121. 鷹取拓弥、仁科勇太、富永昌人: 酵素触媒型燃料電池のカソード開発を目指した GO コンポジット電極の開発. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
122. 鷹取拓弥、松田直樹、津志田雅之、志田賢二、富永昌人: ラッカーゼによる酸素還元カソードの高電流密度化を目指したナノカーボンコンポジット電極の開発. 第 20 回連携大学院産学官交流セミナー. 201801.

123. 鷹取拓弥, 仁科勇太, 富永昌人: 高電流密度バイオカソード開発のための SWCNT/GO コンポジット電極の作製. 第 77 回日本分析化学討論会. 201705.
124. 宅野良夫, 栗田裕弘, 米田 宏, 山田泰教, 鯉川雅之: 束縛された連結部位を持つ四座シッフ塩基配位子による四核 Cu(II)及び Co(II)錯体の合成と性質. 第 67 回錯体化学討論会, 北海道, 2017 年 9 月, 講演番号 1PA-082. . 2017.
125. 竹中大輝, 甲斐千尋, 萩原世也, 武富紳也, 只野裕一, 田中智行: 弾塑性多直線近似構成則を用いた SPH 法による変形解析. 日本機械学会第 29 回計算力学講演会. 201709.
126. 中森晴香, 小山田重蔵, 北村二雄: ベンゾチエノベンゾチオフェン (BTBT) 誘導体の新規合成法. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
127. 中森晴香, 小山田重蔵, 北村二雄: ベンゾチエノベンゾチオフェン (BTBT) 誘導体の新規合成法. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
128. 中村 駿介, 鬼丸 翔平, 大石 祐司, 成田貴行: 温度ヒステリシスを有する PNIPAM-co-AAc ゲルの光駆動型自励拍動. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 201705.
129. 中村駿介, 鬼丸翔平, 大石祐司, 成田貴行: PNIPAM-co-AAc ゲルの温度ヒステリシスの発現と光駆動による自励拍動. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
130. 中村駿介, 大石祐司, 成田貴行: 温度ヒステリシス効果を利用した光駆動型拍動ゲル. 第 68 回コロイドおよび界面化学討論会. 201709.
131. 中村駿介, 大石祐司, 成田貴行: NIPAM-AAc 共重合ゲルを用いた光駆動型自励拍動マテリアルの構築. 平成 28 年度繊維学会秋季研究発表会. 201711.
132. 中村優太郎, 大津康德: 薄膜材料ターゲット有効利用のための回転型マグネトロンスパッタ装置の設計. 2017 年応用物理学会秋季学術講演会. 201709.
133. 中村優太郎, 田中黎, 大津康德: 薄膜材料ターゲット有効利用のための回転型レーストラック状マグネトロンスパッタ装置の開発. プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会 P-04. 201712.
134. 中村祐輝, 花本猛士: フルオロアセチレン誘導体の合成研究. 第 40 回フッ素化学討論会. 201711.
135. 中村祐輝, 花本猛士: β - (トリフルオロメチル) ビニル誘導体の簡便合成. 第 27 回万有福岡シンポジウム. 201706.
136. 中島慶子・廣瀬莉央・山本茉由・上田敏久・宗伸明: アクリジン標識 TEMPO を用いたビタミン C 測定法の開発と応用. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
137. 貞包浩一朗, 加藤僚, 高椋利幸: 拮抗的な塩を含む有機溶媒水溶液中での結晶形成. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 201710.
138. 鄭旭光, 山内一宏, 李相賢, 神山崇: 粉末中性子回折とミュオンスピン回転による三角格子物質 CuODCl の磁気構造決定. 日本物理学会 2017 年秋季大会 岩手大学. 201709.
139. 田中黎, 中村優太郎, 大津康德: ターゲット有効利用のための回転十字型マグネトロンスパッタ装置の開発. プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会. 201712.

140. 東山拓司, 土合恭平, 高椋利幸, 貞包浩一朗: 水/有機溶媒/NaBPh₄ 混合系で形成される秩序構造に対する PPh₄Cl の影響. 日本中性子科学会第 17 回年会, 福岡. 201712.
141. 筒井源文, 宮田靖悟, 富永昌人: 金属錯体プローブを用いたカーボン電極界面におけるステロイド系界面活性剤の吸着平衡挙動. 2017 年電気化学秋季大会. 201709.
142. 筒井源文, 富永昌人: カーボン電極界面へのバイオサーファクタント分子吸着の解析. 第 35 回九州分析化学若手の会夏季セミナー. 201707.
143. 筒井源文, 宮田靖悟, 富永昌人: ラッカーゼによる高電位酸素触媒還元反応を可能にするステロイド系バイオサーファクタントのカーボン電極上の吸着状態解析. 電気化学会九州支部・東海支部・北海道支部合同シンポジウム. 201709.
144. 藤原隆祐, 大久保魁馬, 鶴野雄介, 井上海大, 山岡禎久, 高橋英嗣: MDA-MB-231 細胞の遊走方向を決める細胞外因子. 第 21 回酸素ダイナミクス研究会. 201709.
145. 藤本大雅, 北村二雄, 小山田重蔵: 1,2-ジフェニルエタン類の環化反応によるフェナントレン骨格の形成. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
146. 内野聖子, 大竹亜紗美, 滝澤登, 坂口幸一: ヒドロキシルラジカルを用いた酸化グラフェン合成法の検討. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 201705.
147. 内野聖子, 大竹亜紗美, 滝澤登, 中島達朗, 松田直樹, 江良正直, 坂口幸一: ソリューションプラズマ法を用いた親水性グラフェンの合成における反応機構の検討. 第 51 回化学関連支部合同九州大会 PF-5-019. 201406.
148. 能塚雄介, 栗原誠, 橋本信幸, 原田義規, 高橋英嗣, 山岡禎久: 補償光学素子を用いた光音響顕微鏡による組織標本観察. レーザー学会学術講演会第 38 回年次大会. 201801.
149. 能塚雄介, 山本壮里, 栗原誠, 橋本信幸, 高橋英嗣, 山岡禎久: 補償光学素子を用いた光音響顕微鏡の高空間分解能化. 第 78 回応用物理学会 秋季学術講演会. 201709.
150. 梅木辰也, 林直樹, 江口一輝, 後藤瑛裕, 高椋利幸: グアニジンを用いた Deep Eutectic Mixtures の CO₂ 化学吸収に関する NMR 研究. 第 40 回溶液化学シンポジウム, 姫路. 201710.
151. 萩原世也, 甲斐千尋, 武富紳也, 只野裕一, 田中智行: 弾塑性 SPH 法による塑性域挙動の解析. 日本計算工学講演会. 201705.
152. 畑田日奈子, 川喜田英孝, 大渡啓介, 森貞真太郎: 温度応答性を示す界面活性マイクロゲルの開発. 第 28 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会, 25, ホテル湯の児 海と夕やけ. 201707.
153. 富永昌人: 「泥の電池」化による先導的環境保全システム. イノベーション・ジャパン 2017～大学見本市～ ショートプレゼン. 201708.
154. 富永昌人, 鷹取拓弥, 筒井源文: コール酸修飾炭素界面上でのラッカーゼの電子移動反応ならびにその修飾に及ぼす炭素界面の影響. 第 77 回日本分析化学討論会. 201705.
155. 武富紳也, 松本龍介, 萩原世也: 平衡水素濃度を想定した α 鉄中の転位速度に関する原子シミュレーション. 日本鉄鋼協会「水素脆化の基本要因と特性評価研究会 中間報告会」シンポジウム. 201709.

156. 福盛湧基、北村二雄、小山田重蔵: ベンゾイル酢酸エチルの触媒的フッ素化反応の開発. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
157. 福盛湧基、北村二雄、小山田重蔵: ベンゾイル酢酸エチルの触媒的フッ素化反応の開発. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
158. 福田幸太郎, 川喜田英孝, 大渡啓介, 森貞真太郎: トリアミノ型三脚状分子を修飾したシリカゲル吸着剤の開発. 第 28 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会, 26, ホテル湯の児 海と夕やけ. 201707.
159. 福田将人, 豊福 崇, 米田 宏, 山田泰教, 鯉川雅之: N-(2-ヒドロキシメチルフェニル)サリチリデンイミンによる Mn-Ni ヘテロ金属錯体の構造と磁性. 第 67 回錯体化学討論会, 北海道, 2017 年 9 月, 講演番号 1PA-081. . 2017.
160. 福田将人・豊福崇・米田宏・山田泰教・鯉川雅之: N-(2-ヒドロキシメチルフェニル)サリチリデンイミンによる Mn-Ni ヘテロ金属錯体の構造と磁性. . 2017.
161. 平川あい、島靖卓、大竹 亜紗美、坂口幸一: エステル化反応を利用した酸化グラフェンへの長鎖アルキル導入方法の検討. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017.
162. 片山由佳、黒木惟、梶山孝太郎、白鳥武、内野聖子、坂口幸一: 大気圧プラズマ法によって合成した親水性炭素材料キャスト膜の評価. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 2017.
163. 片山由佳、大竹亜紗美、坂口幸一: グラフェン誘導体の電気特性における環境ガスの影響. 平成 29 年度物理化学インターカレッジセミナー 兼 油化学界面科学部会九州地区講演会. 2018.
164. 北御門雄大, 新宮勇人, 長谷川裕之: セラミック ZrN-Al 焼結ターゲットを用いた硬質窒化物の合成. 精密工学会 九州支部講演会. 2017.
165. 北御門雄大, 新宮勇人, 長谷川裕之: Al 及び Si を添加した ZrN の微細構造と機械特性・耐酸化性. 日本金属学会九州支部・日本鉄鋼協会九州支部・軽金属学会九州支部合同講演会. 2017.
166. 北御門雄大, 新宮勇人, 長谷川裕之: 立方晶および六方晶からなる積層セラミック薄膜の開発. 表面技術協会 第 136 回講演会. 2017.
167. 北村二雄、榎藤圭祐、中村葵、小山田重蔵: 超原子価ヨウ素 1, 4-ベンズジイン発生剤の合成と反応. 第 20 回ヨウ素学会シンポジウム. 201709.
168. 北村二雄、榎藤圭祐、中村葵、小山田重蔵: 超原子価ヨウ素ベンズジイン発生剤の合成と反応. 第 44 回有機典型元素化学討論会. 201712.
169. 本田進之介、高崎雅也、大津康德: 酸素ガスを用いた高周波ホロー陰極放電プラズマによるポリイミドアッシングの高速化. プラズマ・核融合学会 九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会. 201712.
170. 麻生和希、大津康德: 低気圧高密度プラズマ生成のための高周波磁化ホロー放電電極の開発. 2017 年第 78 回応用物理学会秋季学術講演会. 201709.
171. 麻生和希、川端圭志、大津康德: ホロー電極と磁石を用いた低気圧高密度水素プラズマの生成. プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会. 201712.

172. 末光勇輝, 米田 宏, 山田泰教, 鯉川雅之: ONO 型三座シッフ塩基配位子による多核 Mn 錯体の構造と磁性. 第 67 回錯体化学討論会, 北海道, 2017 年 9 月, 講演番号 1PA-080. . 2017.
173. 末光勇輝・米田宏・山田泰教・鯉川雅之: ONO 型三座シッフ塩基配位子による多核 Mn 錯体の構造と磁性. 錯体化学会第 67 回討論会. 201709.
174. 龍美月, R. R. Sathuluri, Y. S. Kurniawan, 岩崎渉, 宮崎真佐也, 森貞真太郎, 川喜田英孝, 大渡啓介: 液滴マイクロリアクターを用いたカリックス[4]アレーンテトラ酢酸による鉛の抽出分離. 第 35 回九州分析化学若手の会 夏季セミナー. 201707.
175. 林実樹, 川喜田英孝, 大渡啓介, 森貞真太郎: 高分子電解質修飾シリカ粒子および疎水性基板を用いた非最密充填単粒子膜の作製. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, CE-1-022, 北九州国際会議場. 201707.
176. 林実樹, 川喜田英孝, 大渡啓介, 森貞真太郎: 高分子電解質修飾シリカ粒子の鎖長制御と非最密充填単粒子膜の作製. 第 28 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会, 22, ホテル湯の児 海と夕やけ. 201707.
177. 林莉緒菜、坂口幸一: 酸化グラフェンとセルロースナノファイバーの複合材料化の検討. 平成 29 年度物理化学インターカレッジセミナー 兼 油化学界面科学部会九州地区講演会. 201801.
178. 林莉緒菜、島靖卓、大竹亜紗美、平川あい、坂口幸一: エステル化反応による有機溶媒親和性グラフェン誘導体の合成条件の検討. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 201705.
179. 廣瀧謙亮、入江晶子、中村祐輝、花本猛士: CF₃ 基を含むピペラジンの簡便合成. 第 40 回フッ素化学討論会. 201711.
180. 澤田勇治, 岡崎涼, 大石祐司, 成田貴行: ユニラメラベシクルの pH 変化における変形とその評価. 有機薄膜・デバイス・材料研究討論会. 201705.
181. 澤田勇治, 岡崎涼, 大石祐司, 成田貴行: 表面圧一面積等温曲線と共焦点顕微鏡観察を用いた DMPC 系リポソームの変形評価. 第 54 回化学関連支部合同九州大会. 201707.
182. 西岡憲一, 宮崎仁美, 副島英伸, 広瀬進: Mbf1 は Pacman から E (z) mRNA を保護することでポリコームサイレンシングの堅牢性を担保している. 第 11 回日本エピジェネティクス研究会年会. 2017, 5, 22 - 23. 抄録集 p56, ポスター P1 - 3.
183. 城圭一郎, 西岡憲一, 北嶋修司, 松久葉一, 古関明彦, 河野友宏, 副島英伸: マウス Commd1 と Zrsr1 のゲノムインプリンティング機構の研究. 第 11 回日本エピジェネティクス研究会年会. 2017, 5, 22 - 23. 抄録集 p82, ポスター P2 - 4.
184. 樋高秀憲, 東元健, 青木早織, 渡邊英孝, 前田寿幸, 古賀靖大, 岩切龍一, 能城浩和, 藤本一眞, 副島英伸: 大腸癌におけるインプリント DMR の包括的メチル化解析. 第 11 回日本エピジェネティクス研究会年会. 2017, 5, 22 - 23. 抄録集 p83, ポスター P2 - 5.
185. 渡邊英孝, 東元健, 三宅紀子, 前田寿幸, 樋高秀憲, 青木早織, 八木ひとみ, 西岡憲一, 城圭一郎, 松本直通, 副島英伸: NSD1 ハプロ不全は DNA メチル化インプリント異常と遺伝子発現異常を惹起する. 第 11 回日本エピジェネティクス研究会年会. 2017, 5, 22 - 23. 抄録集 p89, ポスター P2 - 18.

186. 西岡憲一：ポリコーンサイレンシングを制御する新規メカニズムの発見. さきがけ第 2 回終了領域会議. 2017, 10, 4. 抄録集.
187. 副島英伸：ゲノムインプリンティングの overview と Beckwith-Wiedemann 症候群. 日本人類遺伝学会第 62 回大会. 2017, 11, 15 - 18. プログラム・抄録集 p34/p214, シンポジウム S7 - 1.
188. 渡邊英孝, 東元健, 三宅紀子, 前田寿幸, 樋高秀憲, 青木早織, 松本直通, 副島英伸：NSD1 ハプロ不全は DNA メチル化インプリント異常と遺伝子発現異常を惹起する. 日本人類遺伝学会第 62 回大会. 2017, 11, 15 - 18. プログラム・抄録集 p46/p240, 一般口演 O - 2.
189. 今川英里, 東元健, 酒井康成, 沼倉周彦, 岡本伸彦, 松永智子, 梁明秀, 佐藤由典, 實藤雅文, 井原健二, 高田結, 西村玄, 才津浩智, 水口剛, 宮武聡子, 中島光子, 三宅紀子, 副島英伸, 松本直通：ポリコーン抑制複合体 2 の構成蛋白質の遺伝子変異が Weaver 症候群を引き起こす. 日本人類遺伝学会第 62 回大会. 2017, 11, 15 - 18. プログラム・抄録集 p71/p265, 一般口演 O - 80.
190. 副島英伸；間葉性異形成胎盤とインプリンティング異常. 第 25 回日本胎盤学会学術集会・第 35 回日本絨毛性疾患研究会. 2017, 11, 24 - 25. プログラム・抄録集 p33/p81, ワークショップ TWS3 - 4.
191. 西岡憲一, 宮崎仁美, 副島英伸, 広瀬進：Mbf1 は Pacman から E (z) mRNA を保護することでポリコーンサイレンシングの堅牢性を担保している. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（第 40 回日本分子生物学会年会, 第 90 回日本生化学会大会）. 2016, 12, 6 - 9. 神戸ポートアイランド. プログラム p471, ポスター 3P - 553；プログラム p214, 一般口頭発表 3PT18 - 07.
192. 城圭一郎, 西岡憲一, 北嶋修司, 松久葉一, 古関明彦, 河野友宏, 副島英伸：マウス Commd1 と Zrsr1 のゲノムインプリンティング機構の研究. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（第 40 回日本分子生物学会年会, 第 90 回日本生化学会大会）. 2016, 12, 6 - 9. 神戸ポートアイランド. プログラム p471, ポスター 3P - 0561；プログラム p228, 一般口頭発表 4LT14 - 01.
193. 伊崎聡志, 豊島翔太, 西盛信幸, 柏倉淳一, 布村聡, 藤澤大輔, 畠田優子, 葉山惟大, 藤田英樹, 羅智靖, 照井正, 岡山吉道：慢性蕁麻疹 (CSU) 患者における IgE 自己抗体および抗 Fc ϵ RI α 鎖 (α 鎖) 自己抗体の解析 (第 2 報). 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017, 6, 16 - 18. アレルギー-66, p640 MS50 - 2 (ミニシンポジウム).
194. Izaki S, Toyoshima S, Nunomura S, Kanegae K, Kashiwakura J, Nakamura R, Sakamoto T, Nishimori N, Endo T, Akiyama H, Hayama K, Ra C, Okayama Y, Terui T: Anti-Fc ϵ RI α and IgE autoantibodies of the chronic spontaneous urticaria patients may have the ability of crosslinking of Fc ϵ RI. 日本研究皮膚科学会 第 42 回年次学術大会・総会. 2017, 12, 15 - 17. 42nd JSID Program, p25, O1-17 (P01-37) 口頭発表・ポスター).
195. 丸岡秀一郎, 伊藤亮治, 布村聡, 権寧博, 曾田香織, 太田昭一郎, 出原賢治, 伊藤守, 橋本修：NOGhIL-3/GM-CSF/IL-5Tg マウスを用いた IL - 33 誘導型ヒト喘息モデルの開発. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会. 2017, 4, 21 - 23. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会プログラム, Vol. 6：増刊号, p207, PP325 (ポスター).

196. 三田村康貴, 布村聡, 小川雅弘, 南里康弘, 太田昭一郎, 吉原智仁, 古江増隆, 出原賢治: ヒト線維細胞における SOX11 を介した IL - 13 依存性のペリオスチン発現の誘導. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017, 6, 16 - 18. アレルギー66, p549 MS28 - 3 (ミニシンポジウム) .
197. Mitamura Y, Nunomura S, Ogawa M, Nanri Y, Yoshihara T, Masuoka M, Tuji G, Nakahara T, Furue M, Izuhara K: The IL-13 /periostin /IL-24 pathway causes epidermal barrier dysfunction in allergic skin inflammation. 日本研究皮膚科学会 第 42 回年次学術大会・総会. 2017, 12, 15 - 17. 42nd JSID Program, p51, C06-2 (P10-04) (口頭発表・ポスター) .
198. 布村聡, 太田昭一郎, 小川雅弘, 南里康弘, 三田村康貴, 吉原智仁, 出原賢治: ペリオスチントランスジェニックマウスにおける創傷治癒の遅延. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017, 6, 16 - 18. アレルギー66, p549 MS28 - 1 (ミニシンポジウム) .
199. 布村聡: アレルギー疾患の病態生理最前線ーヒト化マウスの原理とアレルギー疾患への応用. 第 4 回総合アレルギー講習会. 2017, 12, 16 - 17. 第 4 回総合アレルギー講習会〜Total Allergist をめざして〜, p332 - 333 (シンポジウム) .
200. Ohno F, Nakahara T, Nakahara M, Nunomura S, Izuhara K, Furue M: Integration of periostin and M2 macrophages in human and murine melanoma progression. 日本研究皮膚科学会第 42 回年次学術大会・総会. 2017, 12, 15 - 17. 42nd JSID Program, p59, C10-6 (P13-07) (口頭発表・ポスター) .
201. Okayama Y, Toyoshima S, Izaki S, Nunomura S, Kashiwakura J, Terui T, Ra C: Autoantibodies (AAbs) against the FcεRIα-chain and IgE in patients with chronic spontaneous urticaria (CSU) induced statistically higher ability of FcεRIα aggregation compared with non-atopic control (NC) subjects. 第 46 回日本免疫学会総会・学術集会. 2017, 12, 12 - 14. 日本免疫学会総会・学術集会記録, 第 46 巻, Program, 3 - G-W39 - 10 - O/P (ワークショップ) .
202. 竹内聡, 古庄憲弘, 小野純也, 竹村正規, 江崎仁一, 三田村康貴, 東義則, 林純, 出原賢治, 古江増隆: 癌抗原 SCCA - 2 は小児アトピー性皮膚炎の優れたバイオマーカーである. 第 116 回日本皮膚科学会総会. 2017, 6, 2 - 4. 第 116 回日本皮膚科学会総会プログラム, p1127, 286 (一般演題・口演) .
203. 田中圭介, 布村聡, 太田昭一郎, 與語健二, 間木麻友, 出原賢治, 松本義弘: マウス慢性喘息モデルを用いたペリオスチン動態の検討. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017, 6, 16 - 18. アレルギー66, p717, P33 - 1 (ポスター) .
204. Kanai K, Yoshida H, Yoshie O: Role of Il-35 in Lipopolysaccharide-induced airway eosinophilia. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology. 2017, 12, 12-14. abstract book.
205. Kimura D, Miyakoda M, Bayarsaikhan G, Nakamae S, Sukhbaatar O, Kimura K, Hara H, Yoshida H, Yui K: Interleukin-27-dependent loss of Cd4+ T cell-memory during malaria infection. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology. 2017, 12, 12-14. abstract book.

206. Miyake Y, Suematsu E, Shinobu Saijo S, Yamasaki S, Yoshida H: Immunosuppressive receptor, Siglec binds to pathogenic fungus, Trichophyton mentagrophytes, and negatively regulates host immune responses. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology. 2017, 12, 12-14. abstract book.
207. 見市文香 (Mi-ichi F) : Unique role of Entamoeba mitosomes: contributing for adaptation to parasitic lifestyle. 第 90 回日本細菌学会総会／The 90th Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology. 2017, 3, 19-21. abstract book.
208. 見市文香 : 含硫脂質代謝に特化した赤痢アメーバの硫酸代謝. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (第 40 回日本分子生物学会年会／第 90 回日本生化学会大会) . 2017, 12, 6 - 9. 抄録集.
209. 見市文香, 宮本智文, 吉田裕樹 : 赤痢アメーバの含硫脂質代謝の全容解明. 第 86 回日本寄生虫学会大会. 2017, 5, 28 - 29. 抄録集.
210. 見市文香, 宮本智文, 吉田裕樹 : 赤痢アメーバの含硫脂質代謝の全容解明. 第 59 回日本脂質生化学会. 2017, 6, 15 - 16. 抄録集.
211. 塩川萌, 陸修遠, 三宅靖延, 緒方正人, 山崎晶 : CD2-CreTg を用いた Erk 欠損マウスにおける軟骨の過増殖. 第 3 回日本骨免疫学会. 2017, 6, 27 - 29. 抄録集.
212. Tong H, Miyake Y, Iwakura Y, Hara H, Yoshida H: Apaf1 plays a negative regulatory role in T cell responses by suppressing activation of antigen-stimulated T cells. The 46th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology. 2017, 12, 12-14. abstract book.
213. 井原秀之, 岡田貴裕, 池田義孝 : ヒト $\alpha 1, 6$ - フコース転移酵素 (FUT8) の部位特異的変異導入による翻訳後修飾の改変. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (第 40 回日本分子生物学会年会／第 90 回日本生化学会大会) . 2017, 12, 6 - 9. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会プログラム, p256.
214. 岡田貴裕, 井原秀之, 伊東利津, 池田義孝 : マンゴー由来 $\alpha 1, 3$ - フコース転移酵素遺伝子 (MiFUT11) の同定・機能解析. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (第 40 回日本分子生物学会年会／第 90 回日本生化学会大会) . 2017, 12, 6 - 9. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会プログラム, p256.
215. 岡田貴裕, 池田義孝 : マンゴー由来 $\alpha 1, 3$ / $\alpha 1, 4$ フコース転移酵素遺伝子 (MiFUT13) の同定・機能解析. 日本農芸化学会 2017 年度大会. 2017, 3, 17 - 20. 大会講演要旨集 p1609.
216. 合島怜央奈, 曹愛琳, 高琦, 吉本怜子, 森啓輔, 檀上敦, 山下佳雄, 清島保, 城戸瑞穂 : TRP チャネルを標的とした口腔癌細胞制御. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. プログラム抄録集 P273
217. 城戸瑞穂, 曹愛琳, 吉本怜子, 高琦, 合島怜央奈, 本田裕子, 村田祐造 : 喘息モデルマウスにおける機械痛覚過敏. 第 122 回日本解剖学会総会全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. プログラム抄録集 P22.
218. 曹愛琳, 高琦, 吉本怜子, 合島怜央奈, 大崎康吉, 張旌旗, 城戸瑞穂 : 喘息モデルマウスの機械的アロディニアと TRPV1. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. プログラム抄録集 P325.

219. 城戸瑞穂, 吉本怜子, 合島怜央奈, 曹愛琳, 張旌旗, 大崎康吉: 口腔粘膜における温度感受性 TRP チャンネルのダイバーシティ. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. プログラム抄録集 P22.
220. 丸尾浩希, 本田裕子, 城戸瑞穂, 村田祐造: 2 型糖尿病モデルラット唾液腺における糖輸送体の分布. 第 122 回日本解剖学会総会全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. プログラム抄録集 P166.
221. 村田祐造, 本田裕子, 丸尾浩希, 城戸瑞穂: 下垂体後葉ホルモンによる血糖調節と腎臓におけるグルコーストランスポーター. 第 122 回日本解剖学会総会全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. プログラム抄録集 P204.
222. 吉本怜子, 合島怜央奈, 大崎康吉, 張旌旗, 曹愛琳, 清島保, 城戸瑞穂: 温度感受性イオンチャネル TRPV4 は口腔上皮細胞の細胞間接着と運動性を制御する. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. プログラム抄録集 P324.
223. 吉本怜子, 合島怜央奈, 西山めぐみ, 大崎康吉, 張旌旗, 清島保, 城戸瑞穂: 温度感受性イオンチャネル TRPV4 を介した口腔上皮細胞間接着と細胞移動の調節. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (第 40 回日本分子生物学会年会/第 90 回日本生化学会大会). 2017, 12, 6 - 9. プログラム抄録集 P277.
224. Shioya T: A computer-based teaching platform for the laboratory classes on physiology using Raspberry Pi microcomputer. 第 94 回日本生理学会大会. 2017, 3, 28-30. J. Physiol. Sci. , 67, Suppl. 1, S149.
225. 藤田亜美, 余婷, 王翀, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 熊本栄一: 植物由来物質により誘起されるラット脊髄膠様質ニューロンの外向き膜電流とその化学構造. 第 40 回日本神経科学大会. 2017, 7, 20 - 23. The JNS Meeting Planner: Program No. 1 P-096.
226. 平尾峻, 藤田亜美, 坂井愛子, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 王翀, 熊本栄一: 抗うつ薬は化学構造特異的に蛙坐骨神経の複合活動電位を抑制する. 第 94 回日本生理学会大会. 2017, 3, 28 - 30. J. Physiol. Sci. 67, Suppl.: S83.
227. 馬郡信弥, 藤田亜美, 鈴木里佳, 平尾峻, 王翀, 熊本栄一: ヒノキチオールは蛙坐骨神経の複合活動電位を抑制する. 第 40 回日本神経科学大会. 2017, 7, 20 - 23. The JNS Meeting Planner: Program No. 3 P-054.
228. 馬郡信弥, 藤田亜美, 鈴木里佳, 平尾峻, 王翀, 熊本栄一: 蛙坐骨神経の複合活動電位に及ぼすヒノキチオールとその関連物質の効果. 第 39 回日本疼痛学会. 2017, 6, 16 - 17. Pain Res. 32:141.
229. 馬郡信弥, 藤田亜美, 鈴木里佳, 平尾峻, 王翀, 熊本栄一: 蛙坐骨神経の複合活動電位に及ぼすヒノキチオールの作用. 第 94 回日本生理学会大会. 2017, 3, 28 - 30. J. Physiol. Sci. 67, Suppl.: S94.
230. 杉山真季子, 藤田亜美, 劉曉輝, 松山祐昂, 松島綾美, 下東美樹, 下東康幸: Phe2715. 39 of thrombin receptor PAR-1 is a specific target of Phe-2-phenyl group of its tethered ligand. 第 54 回ペプチド討論会. 2017, 11, 20 - 22. 第 54 回ペプチド討論会講演要旨集: 90.
231. 鈴木里佳, 藤田亜美, 馬郡信弥, 平尾峻, 王翀, 熊本栄一: 蛙坐骨神経の複合活動電位に及ぼす非ステロイド性抗炎症薬の抑制作用. 第 40 回日本神経科学大会. 2017, 7, 20 - 23. The JNS Meeting Planner: Program No. 3 P-055.

232. 鈴木里佳, 藤田亜美, 水田恒太郎, 岩崎貴士, 馬郡信弥, 平尾峻, 王翀, 熊本栄一: フェニル酢酸系 NSAID は蛙坐骨神経の複合活動電位を抑制する. 第 94 回日本生理学会大会. 2017, 3, 28 - 30. J. Physiol. Sci. 67, Suppl.: S84.
233. 鈴木里佳, 藤田亜美, 水田恒太郎, 馬郡信弥, 岩崎貴志, 平尾峻, 王翀, 熊本栄一: 様々な非ステロイド性抗炎症薬が蛙坐骨神経の複合活動電位に及ぼす作用. 第 39 回日本疼痛学会. 2017, 6, 16 - 17. Pain Res. 32: 143.
234. 王翀, 藤田亜美, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 平尾峻, 熊本栄一: オレキシン A と B による成熟ラット脊髄膠様質ニューロンの自発性興奮性シナプス伝達の促進. 第 94 回日本生理学会大会. 2017, 3, 28 - 30. J. Physiol. Sci. 67, Suppl.: S90.
235. 王翀, 藤田亜美, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 熊本栄一: 成熟ラット脊髄膠様質ニューロンの自発性興奮性シナプス伝達に及ぼすオレキシン A とオレキシン B の促進作用の比較. 第 40 回日本神経科学大会. 2017, 7, 20 - 23. The JNS Meeting Planner: Program No. 1 P-047.
236. 王翀, 藤田亜美, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 熊本栄一: オレキシン A とオレキシン B による成熟ラット脊髄膠様質ニューロンの自発性興奮性シナプス伝達の修飾. 第 39 回日本疼痛学会. 2017, 6, 16 - 17. Pain Res. 32: 135.
237. 王翀, 藤田亜美, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 楊帆, 熊本栄一: Actions of orexin B on spontaneous inhibitory synaptic transmission in adult rat spinal superficial dorsal horn neurons. 第 54 回ペプチド 討論会. 2017, 11, 20 - 22. 第 54 回ペプチド討論会講演要旨集: 115.
238. Kito Y: The role of mucosa on spontaneous electrical activity in the mouse small intestine. 第 90 回日本薬理学会年会. 2017, 3, 15-17. J. Pharmacol. Sci. 133(3): Suppl., S120.
239. Teramoto N, Yamamoto T, Uchida K, Inai T, Yamashita-Yotsu M: Effects of 4, 9-anhydroTTX on voltage-gated Na⁺ channels expressed in murine vas deferens myocytes. 第 90 回日本薬理学会年会. 2017, 3, 15-17. J. Pharmacol. Sci. 133(3): Suppl., S115.
240. Yamamoto T, Takahara K, Uchida K, Teramoto N: Actions of ZD0947 on the activity of ATP-sensitive K⁺ channels in murine vascular smooth muscles. 第 90 回日本薬理学会年会. 2017, 3, 15-17. J. Pharmacol. Sci. 133(3): Suppl. , S138.
241. 甲斐敬太, 古賀浩木, 相島慎一, 川口淳, 山地康太郎, 井手貴雄, 上田純二, 能城浩和: 非 B 非 C 肝癌切除例におけるオカルト HBV 感染の状況とその術後予後への影響. 第 106 回日本病理学会総会. 2017, 4, 27 - 29. 日本病理学会会誌 106 巻 1 号 Page441.
242. 甲斐敬太, 北村捷, 龍由紀子, 中村光男, 相島慎一: 当院における胆道・脾の細胞診の成功例と教訓例. 第 56 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2017, 11, 18 - 19. プログラム集 p57.
243. 北村捷, 甲斐敬太, 佐藤有記, 龍由希子, 中村光男, 安達真希子, 橋口真理子, 増田正憲, 高瀬ゆかり, 倉富勇一郎, 相島慎一: 良悪性の鑑別に苦慮した小児の顎下腺多形腺腫の 1 例. 第 56 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2017, 11, 18 - 19. プログラム集 p95.
244. 江頭玲子, 山口健, 中園貴彦, 入江裕之, 小野伸之, 吉村麻里子, 甲斐敬太: 菊池病患者に見られたびまん性肺病変の一例. 第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2017, 9, 8 - 10. 抄録集 PageS530.

245. 行元美希, 江頭玲子, 山口健, 中園貴彦, 入江裕之, 荒金尚子, 武田雄二, 甲斐敬太: 骨形成を伴った原発性肺腺癌の一例. 第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2017, 9, 8 - 10. 抄録集 PageS532.
246. 芥川剛至, 坂田資尚, 下田良: 食道 ESD 後狭窄に対するコラーゲンビトリゲル薄膜の予防効果に関する検討. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会. 2017, 5, 11 - 13. Gastroenterological Endoscopy Vol. 59 (Suppl. 1) .
247. 芥川剛至, 青木茂久, 木村裕美, 山本美保子, 米満伸久, 杉原甫, 戸田修二: 胃癌の生存, 増殖, 浸潤における脂肪組織と流体刺激の役割とその制御機構. 第 21 回日本臨床内分泌病理学会学術総会. 2018, 10, 27 - 28. プログラム P17.
248. 青木茂久, 竹澤俊明, 坂田資尚, 戸田修二: 内視鏡的粘膜層剥離術後の食道狭窄を予防するコラーゲン新素材治療デバイスの開発. 第 16 回日本再生医療学会総会. 2017, 3, 7 - 9. 再生医療増刊号 vol. 16 : p268.
249. Shigehisa Aoki, Toshiaki Takezawa, Takashi Akutagawa, Mihoko Yamamoto, Hajime Sugihara, Shuji Toda: Collagen vitrigel patch prevents stricture following circumferential ESD of the esophagus. 第 106 回日本病理学会総会. 2017, 4, 27 - 29. 日本病理学会会誌第 106 巻, 第 1 号, 327 頁.
250. 青木茂久, 竹澤俊明, 芥川剛至, 山本美保子, 戸田修二: 内視鏡的粘膜層剥離術後の食道狭窄を予防するコラーゲンビトリゲルパッチの開発. 第 36 回分子病理学研究会フェニックスシンポジウム in 宮崎. 2017, 7, 21 - 23. 分子病理学研究科抄録集.
251. 青木茂久, 竹澤俊明, 永瀬圭, 野口満, 戸田修二: 腹腔内の液体貯留は NO を介して腹膜の線維化に寄与する. 第 23 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. 2017, 10, 7 - 8. プログラム・抄録集 p35.
252. 青木茂久: 腹膜病理検討会 腹膜病理所見の解説. 第 23 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. 2017, 10, 7 - 8. プログラム・抄録集 p52.
253. 青木茂久, 竹澤俊明, 芥川剛至, 山本美保子, 戸田修二: 広範囲の内視鏡的粘膜層剥離術後に生じる高度食道狭窄を予防する革新的コラーゲンデバイスの開発. 第 47 回日本創傷治癒学会【同時開催】第 12 回瘢痕・ケロイド治療研究会. 2017, 11, 27 - 28. プログラム・抄録集 p70.
254. 柿木寛明, 永瀬圭, 一番ヶ瀬優佳, 藏田彩, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: TUL 単独で治療を完遂した症例と経皮的治療を要した症例の比較. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 2017, 4, 21 - 24. プログラム 140.
255. 河田康祐, 青木茂久, 山本美保子, 戸田修二, 江内田寛: 角膜の物理的微小環境を再現する新規培養モデル. 第 121 回日本眼科学会総会. 2017, 4, 6 - 9. 日本眼科学会雑誌 第 121 巻, 265.
256. 草野脩平, 東武昇平, 永瀬圭, 有働和馬, 野口満: 高齢女性尿路結石患者の背景因子の検討. 第 30 回日本老年泌尿器科学会. 2017, 6, 9 - 10. プログラム・抄録集 P148.
257. 草野脩平, 東武昇平, 永瀬圭, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 溝端理恵, 岩永学, 大野康治, 野口満: 総排泄腔外反症における非吸収性ヘルニア・胸壁・腹壁用補綴材使用による二期的腹壁閉鎖の試み. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 (2) : 185.

258. 草野脩平, 有働和馬, 前田晃宏, 永瀬圭, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 東武昇平, 野口満: 前立腺癌内分泌療法後にロボット支援下前立腺全摘除術 (RALP) を施行した一例 ~当科での neoadjuvant 療法後 RALP 施行症例の検討を交えた報告~. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 183.
259. 前田晃宏, 東武昇平, 草野脩平, 永瀬圭, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 診断と治療に苦慮した嚢胞性膀胱炎の一例. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 147.
260. 永瀬圭, 南里麻己, 藏田彩, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 当院における停留精巣術後の予後と術者経験年数との関連. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 (2): 62.
261. 南里麻己, 永瀬圭, 草野脩平, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 術者経験年数と停留精巣術後の予後との関連. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 147.
262. 東武昇平, 永瀬圭, 草野脩平, 高原光平, 一番ヶ瀬優佳, 藏田彩, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 高脂血症はロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術後の下部尿路症状と勃起機能に影響を与える可能性がある. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 2017, 4, 21 - 24. プログラム 145.
263. 東武昇平, 永瀬圭, 草野脩平, 高原光平, 一番ヶ瀬優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 高齢慢性尿閉患者に対する膀胱皮膚瘻の長期成績. 第 30 回日本老年泌尿器科学会. 2017, 6, 9 - 10. プログラム・抄録集 P100.
264. 東武昇平, 永瀬圭, 草野脩平, 高原光平, 一番ヶ瀬優佳, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 先天性尿道狭窄を有する昼間尿失禁を伴う夜尿症男児に対する経尿道的内視尿道切開の術後長期経過に関する検討. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 (2): 231.
265. 有働和馬, 永瀬圭, 藏田彩, 南里麻己, 東武昇平, 野口満: 当院で経験したロボット支援手術の周術期合併症に関する検討. 第 9 回日本ロボット外科学会学術集会. 2017, 1, 28. プログラム・抄録集 P59.
266. 蒲原麻菜, 徐祥赫, 白木誠, 久木田明子: 黄色ブドウ球菌はプロテインAによる IgG 複合体形成を介して破骨細胞の分化を亢進する. 第 35 回日本骨代謝学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29. プログラム抄録集 p161.
267. 蒲原麻菜, 徐祥赫, 久木田明子: 黄色ブドウ球菌はプロテインAによる IgG 複合体形成を介して破骨細胞の分化を亢進する. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. J. Oral Biosci. Suppl. 1, p 341.
268. 久木田明子, 徐祥赫, 白木誠, 蒲原麻菜, 菖蒲池健夫, 久木田敏夫: zBTB タンパク質 LRF/OCZF の Bcl-X のスプライシング制御因子 Sam68 を介した破骨細胞の生存調節. 第 3 回日本骨免疫学会. 2017, 6, 27 - 29. 抄録プログラム集 p59.
269. 久木田敏夫, 白鳥卓麻, 久本由香里, 上原範久, 久木田明子: IL1 β 刺激下に形成される破骨細胞は高度のプロトン産生能と吸収活性を持つ. 第 3 回日本骨免疫学会. 2017, 6, 27 - 29. 抄録プログラム集 p106.

270. 茂呂徹, 石原一彦, 岡村陽介, 宮本比呂志, 菖蒲池健夫, 村橋靖崇, 矢野文子, 齋藤琢, 田中栄 : MPC 処理ナノシートの細菌付着抑制効果. 第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2017, 10, 26 - 27. 日整会誌, 91, 8, S1480.
271. 白木誠, 徐祥赫, 蒲原麻菜, 馬渡正明, 久木田明子 : Nuclear protein1/p8 の破骨細胞のオートファジーおよびアポトーシス制御における役割. 第 3 回日本骨免疫学会. 2017, 6, 27 - 29. 抄録 プログラム集 p105.
272. 白木誠, 徐祥赫, 蒲原麻菜, 馬渡正明, 久木田明子 : Nuclear protein1/p8 の破骨細胞のオートファジーおよびアポトーシス制御における役割. 第 35 回日本骨代謝学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29. プログラム抄録集 p185.
273. 上原範久, 久本由香里, 久木田明子, 久木田敏夫 : 破骨細胞制御における新規細胞間コミュニケーションツールとしての骨転移乳癌細胞由来細胞外小胞の役割. 第 35 回日本骨代謝学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29. プログラム抄録集 p201.
274. 上原範久, 久本由香里, 久木田明子, 久木田敏夫 : ラミニン 332 は骨芽細胞で発現し破骨細胞分化を負に制御する. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. J. Oral Biosci. Suppl. 1, p236.
275. Xu X, Shiraki M, Kamohara A, Kukita T, Kukita A: Nedd4 adaptor protein Pmepa1 is induced by bone components and involved in bone resorption. 第 35 回日本骨代謝学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29. プログラム抄録集 p162.
276. 徐祥赫, 白木誠, 蒲原麻菜, 菖蒲池健夫, 久木田敏夫, 久木田明子 : zBTB タンパク質 LRF/ OCZF の BCL-X のスプライシング制御因子 Sam68 を介した破骨細胞の生存調節. 第 35 回日本骨代謝学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29. プログラム抄録集 p188.
277. 徐祥赫, 蒲原麻菜, 久木田敏夫, 久木田明子 : Pmepa1 は骨基質成分によって破骨細胞で発現が誘導され, 骨吸収を制御する. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. J. Oral Biosci. Suppl. 1, p416.
278. 原めぐみ, 西田裕一郎, 福典之, 田口尚人, 島ノ江千里, 堀田美加子, 河井一明, 李云善, 葛西順, 葛西宏, 檜垣靖樹, 田中恵太郎: ミトコンドリアハプログループ D が身体活動量と尿中 8OHdG 濃度の関連に及ぼす影響. 第 27 回日本疫学会学術総会. 2017, 1, 25 - 27. J. Epidemiol. 27, Suppl. 1 : 108.
279. 井手康史, 西田裕一郎, 水田敏彦 : 肝硬変の異常血糖変動検出における糖化アルブミン測定の有効性と運動による変化. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 抄録集.
280. 松本明子, 原俊哉, 島ノ江千里, 吉森智香子, 武藤岳夫, 遠藤光一, 原めぐみ, 市場正良, 杠岳文 : 飲酒により誘導される皮膚色素沈着の研究. 平成 29 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会. 2017, 9, 8 - 9. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 52 (4) , p195.
281. 西田裕一郎, 浅香真知子, 野出孝一, 田中恵太郎, 檜垣靖樹, 田中宏暁 : 一過性のステップ運動が高齢者の PYCARD 遺伝子メチル化に及ぼす影響. 九州体育・スポーツ学会第 66 回大会. 2017, 8, 25 - 27. 九州体育・スポーツ学会第 66 回大会プログラム p59.

282. 西田裕一郎, 原めぐみ, 福典之, 田口尚人, 堀田美加子, 島ノ江千里, 桧垣靖樹, 田中恵太郎: ミトコンドリアゲノム多型と身体活動が血中アディポネクチン濃度に及ぼす影響. 第 27 回日本疫学会学術総会. 2017, 1, 25 - 27. J. Epidemiol. 27 : Suppl. 1, 91.
283. 島ノ江千里: 心理社会的因子と生活習慣病に介在するバイオマーカーの疫学的検討ー日本多施設共同コホート研究 (J-MICC-study) SAGAー. 日本心理学会第 81 回大会 (シンポジウム) .2017, 9, 20 - 22. 抄録集.
284. 島ノ江千里, 原めぐみ, 西田裕一郎, 南里妃名子, 安方惇, 山田陽介, 桧垣靖樹, 田中恵太郎: 精神ストレスと睡眠の質の関連における情緒的支援の影響は, 就業状況によって異なる. 第 23 回日本行動医学学会学術総会. 2017, 3, 17 - 18. 抄録集.
285. 島ノ江千里, 原めぐみ, 西田裕一郎, 南里妃名子, 安方惇, 山田陽介, 桧垣靖樹, 田中恵太郎: 精神ストレスと睡眠の関連におけるストレス防御因子 (社会的支援・対処行動) の影響: J-MICCstudySAGA. 第 27 回日本疫学会学術総会. 2017, 1, 25 - 27. J. Epidemiol. 27 : Suppl. 1, 125.
286. 田口尚人, 柿木希, 畠中大誠, 西田裕一郎, 綾部誠也, 森村和浩, 三好信幸, 平野雅巳, 都城市健康部健康課, 桧垣靖樹, 山田達夫, 田中宏暁: 5 年後の認知機能に有酸素能の改善が影響を及ぼす. 第 7 回日本認知症予防学会学術集会. 2017, 9, 22 - 24. 第 7 回認知症予防学会抄録集 p95.
287. 松本明子: 奨励賞受賞講演. 疾病予防に資するバイオマーカーの研究. 第 87 回日本衛生学会学術総会. 2017, 3, 26 - 28. 日本衛生学雑誌 72, Supplement, S87 - 88.
288. 松本明子, 原俊哉, 島ノ江千里, 吉森智香子, 武藤岳夫, 遠藤光一, 原めぐみ, 市場正良, 杠岳文: 飲酒により誘導される皮膚色素沈着の研究. 平成 29 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会. 2017, 9, 8 - 9. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 52, 4, 195.
289. 宮崎博喜, 味志綾子, 松本明子, 市場正良: ストレスチェック制度における医師面接指導の有用性について. 第 90 回日本産業衛生学会. 2017, 5, 11 - 13. 産業衛生学雑誌 59, 臨増, 368.
290. 大野憲五, 川久保善智, 倉岡晃夫, 小山宏義: 3 次元座標データから比較した縄文時代人と北部九州・山口地方弥生時代人の顔面骨格形態. 第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. 抄録集 201p.
291. 大野憲五, 川久保善智, 川久保直美, 小山宏義: 鼻根部周辺 3 次元形態解析の復顔研究への応用の検討. 第 71 回日本人類学会大会. 2017, 11, 3 - 5. Anthropol. Sci. 125 : 160.
292. 大野憲五, 小山宏義: 3 次元データを用いた顔面骨格形態の集団による違いの検討. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 2017, 6, 7 - 9. 日本法医学雑誌. 2017 ; 71 : 75.
293. 小山宏義, 大野憲五: 巨大奇形腫を認めた凍死の一部検例. 第 101 次日本法医学会学術全国集会. 2017, 6, 7 - 9. 日本法医学雑誌. 2017 ; 71 : 85.
294. 丸山暁人, 堺真梨子, 貞永裕梨, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史: 高齢発症成人発症 Still 病の臨床的特徴. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P416.

295. 多田芳史, 丸山暁人, 末松梨絵, 堺真梨子, 貞永裕梨, 小野伸之, 大田明英, 小荒田秀一: 全身型若年性突発性関節炎に置けるマクロファージ活性化症候群の新分類基準は成人発症ステイル病にも有効か. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P417.
296. 小荒田秀一, 堺真梨子, 貞永裕梨, 丸山暁人, 小野伸之, 多田芳史: IgG4 関連疾患における CD180 陰性形質芽細胞の解析. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P423.
297. 新納宏昭, 綾野雅宏, 木本泰孝, 三苫弘喜, 赤星光輝, 有信洋二郎, 押領司健介, 井上靖, 澤部琢哉, 永野修司, 西坂浩明, 吉澤誠司, 多田芳史, 吉澤滋, 大塚毅, 中島衛, 赤司浩一, 堀内孝彦: トリシズマブ治療による関節リウマチ患者の酸化ストレスマーカーの評価ー52 週解析ー. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P425.
298. 川尻真也, 西野文子, 植木幸孝, 榮樂信隆, 吉玉珠美, 岡田覚丈, 松岡直樹, 藤川敬太, 有信洋二郎, 濱田浩朗, 日高利彦, 永野修司, 都留智巳, 多田芳史, 川上純: バイオマーカーと超音波指標で解析する関節リウマチにおける生物学的製剤治療の有効性の評価: 九州地区多施設共同 RA 超音波コホート研究. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P452.
299. 川尻真也, 西野文子, 植木幸孝, 榮樂信隆, 吉玉珠美, 岡田覚丈, 松岡直樹, 藤川敬太, 有信洋二郎, 濱田浩朗, 日高利彦, 永野修司, 都留智巳, 多田芳史, 川上純: アバタセプト治療関節リウマチ患者における骨関連バイオマーカーの評価: 九州地区多施設共同 RA 超音波前方視的コホート研究. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P452.
300. 小野伸之, 井上靖, 宮村知也, 三宅勝久, 植木尚子, 永野修司, 井上久子, 上田尚靖, 押領司健介, 澤部琢哉, 徳田悠希子, 木本泰孝, 大田俊一郎, 西坂浩明, 古郷功, 吉澤滋, 吉澤誠司, 新納宏昭, 堀内孝彦, 多田芳史: MPO-ANCA 陽性多発血管炎性肉芽腫症の特徴. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P455.
301. 桐野洋平, 川口鎮司, 多田芳史, 塚本浩, 大田俊行, 岩本雅弘, 長澤浩平, 武井修治, 堀内孝彦, 市田久恵, 高橋裕樹, 蓑田清次, 上田敦久, 大田明英, 石ヶ坪良明: 成人ステイル病における血清フェリチンとヘムオキシゲナーゼ 1 の分類への有効性: 多施設共同研究の第 3 報. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P470.
302. 堺真梨子, 貞永裕梨, 丸山暁人, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史: TNF - α 阻害剤投与中に発症した全身性エリトマトーデスに関する検討. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P537.
303. 徳田悠希子, 小野伸之, 堺真梨子, 貞永裕梨, 丸山暁人, 末松梨絵, 小荒田秀一, 千布裕, 多田芳史: 莓状歯肉炎を呈した多発性血管炎性肉芽腫症の一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P681.

304. 三嶋耕司, 大田俊一郎, 井上靖, 吉澤誠司, 吉澤滋, 永野修司, 西坂浩明, 澤部琢哉, 押領司健介, 多田芳史, 小山芳伸, 綾野雅宏, 木本泰孝, 三苫弘喜, 赤星光輝, 有信洋二郎, 大塚毅, 上田章, 大田俊行, 中島衡, 塚本浩, 赤司浩一, 堀内孝彦, 新納宏昭: 関節リウマチ患者のリンパ球サブセットに対するアバタセプトの経時的作用. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P718.
305. 西野文子, 川尻真也, 川上純, 植木幸孝, 榮樂信隆, 吉玉珠美, 岡田覚丈, 松岡直樹, 藤川敬太, 有信洋二郎, 濱田浩朗, 日高利彦, 永野修司, 都留智巳, 多田芳史: 関節超音波を用いた生物学的製剤スイッチ例の治療反応性評価: 九州他施設共同 RA 超音波前方視的コホート研究. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 4, 20 - 22. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 P785.
306. 七條千佳, 薬師寺祐介, 吉岡史隆, 河島雅到, 相島慎一, 河本和裕, 原英夫: 本邦におけるボストン基準による脳アミロイドアンギオパチー関連脳出血の診断制度の検討. 第 42 回日本脳卒中学会学術集会 (STROKE2017). 2017, 3, 16 - 3, 19. STROKE2017 プログラム集 p265.
307. 安部友範, 中島千穂, 渡邊直美, 佐藤明美, 木村晋也, 荒金尚子: 肺がん患者における血漿遊離 DNA の特性. 第 58 回日本肺癌学会学術集会. 2017, 10, 14 - 15, 横浜. 抄録集.
308. 小宮一利, 栗原有紀, 平川治樹, 安部友範, 中島千穂, 中村朝美, 高橋浩一郎, 木村晋也, 荒金尚子: 当院における Re-biopsy の現状と問題点. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29, 神戸. P1 - 122.
309. 小宮一利, 八並由樹, 早瀬百々子, 栗原有紀, 平川治樹, 田中将英, 中村朝美, 高橋浩一郎, 荒金尚子: MET exon14 skipping 変異を認めた非小細胞肺癌の 2 例. 第 58 回日本肺癌学会学術集会. 2017, 10, 14 - 15, 横浜. 抄録集.
310. Kana Kusaba, Yasushi Kubota, Haruhiko Sano, Haruna Kizuka, Hidekazu Itamura, Toshihiko Ando, Kensuke Kojima, Masatomo Miura, Naoto Takahashi, Koichi Ohshima, Shinya Kimura: Ponatinib for relapsed Ph+ leukemia with T315I mutation after allogeneic stem cell transplantation. 第 79 回日本血液学会学術集会. 2017, 10, 20 - 22. 臨床血液, 58, 1728.
311. 前田綾, 木村晋也, 小島研介: Targeting of BMI-1 in mantle cell lymphoma. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 日本癌学会雑誌, P - 3354.
312. 中村朝美, 中島千穂, 小宮一利, 木村晋也, 荒金尚子: 血漿分子マーカーを用いた afatinib 耐性化機序の検討. 第 58 回日本肺癌学会学術集会. 2017, 10, 14 - 15, 横浜. 抄録集.
313. 中村朝美, 中島千穂, 小宮一利, 木村晋也, 荒金尚子: 血漿分子マーカーを用いた afatinib 耐性化機序と効果予測因子の検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会. 2017, 4, 21 - 23, 東京. 抄録集.
314. 中村朝美, 中島千穂, 小宮一利, 木村晋也, 荒金尚子: 血漿分子マーカーを用いた afatinib 耐性化機序の検討. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2017, 7, 27 - 29, 神戸. O1 - 2 - 4.
315. 中島千穂, 安部友範, 木村晋也, 荒金尚子: Liquid biopsy における適切な preanalytical procedure とは何か. 第 58 回日本肺癌学会学術集会. 2017, 10, 14 - 15, 横浜. 抄録集.

316. 貞松宏典, 高橋浩一郎, 田代宏樹, 加藤剛, 木村晋也, 荒金尚子 : 高脂肪食マウスにおける HDM によるアレルギー性気道炎症の解析 (ミニシンポジウム) . 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017, 6, 16 - 18, 東京. MS29 - 1.
317. 高橋浩一郎, 貞松宏典, 田代宏樹, 加藤剛, 内田賢, 林真一郎, 木村晋也, 荒金尚子 : 薬剤師アンケートによる吸入療法における地域連携の課題と展望 (ミニシンポジウム) . 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017, 6, 16 - 18, 東京. MS39 - 4.
318. 田中将英, 高橋浩一郎, 小宮一利, 中村朝美, 木村晋也, 荒金尚子 : COPD 患者の身体活動量評価としての国際標準化身体活動質問票 (IPAQ) 日本語版の妥当性の検討. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会. 2017, 4, 21 - 23, 東京. 抄録集.
319. 田代宏樹, 貞松宏典, 高橋浩一郎, 加藤剛, 林真一郎, 荒金尚子 : 喘息モデルにおける clodronate liposome による IL - 33 抑制効果の解析. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会. 2017, 4, 21 - 23, 東京. 抄録集.
320. 嬉野博志, 進藤岳郎, 楠木靖史, 宮崎有紀, 小島裕人, 田中秀則, 佐治博夫, 川口淳, 木村晋也 : CML 患者の TKI 治療効果は KIR3DL1 allele 及び HLA-B 多型の genotyping を行うことで予測できる. 第 79 回日本血液学会学術集会. 2017, 10, 20 - 22. 臨床血液.
321. 嬉野博志, 進藤岳郎, 楠木靖史, 宮崎有紀, 小島裕人, 田中秀則, 佐治博夫, 川口淳, 木村晋也 : 慢性骨髄性白血病における KIR と HLA のアレル多型はチロシンキナーゼ阻害剤の治療効果と関連する. 第 26 回日本組織適合性学会. 2017, 10, 27 - 29. MHC.
322. Tanaka A, Oyama JI, Node K: Heart Failure and Diabetes Mellitus Determining the Optimal Treatment for Diabetes Patients with Heart Failure: Lessons Learned from Recent Clinical Trials. 第 81 回日本循環器学会学術集会. 2017, 3, 17 - 19. プログラム : 523.
323. 尾山純一 : Strict Glycemic Control for Cardiovascular High-risk Patients with Type 2 Diabetes. 第 81 回日本循環器学会学術集会. 2017, 3, 17 - 19. プログラム : 697.
324. 尾山純一, 野出孝一 : 睡眠時無呼吸症候群と心血管疾患. 第三回 J-ISCP 学術集会 : 国際心血管薬物療法学会日本部会. 2017, 6, 17 - 18. プログラム : 32.
325. 尾山純一, 野出孝一 : 新規糖尿病薬と心血管イベント～大規模臨床研究の結果とその解釈～. 第三回 J-ISCP 学術集会 : 国際心血管薬物療法学会日本部会. 2017, 6, 17 - 18. プログラム : 35.
326. 金子哲也, 下村光洋, 本郷玄, 井上洋平, 夏秋政浩, 挽地裕, 野出孝一 : 重症大動脈弁狭窄症の術前冠動脈造影検査にて冠動脈解離と逆行性大動脈解離を合併し, bail-out した 1 症例. CVIT 2017 : 第 26 回日本心血管インターベンション治療学会. 2017, 7, 6 - 8. プログラム : 650.
327. 挽地裕 : Resolute Onyx -Feel the Difference, Get the Power-. CVIT2017 : 第 26 回日本心血管インターベンション治療学会. 2017, 7, 6 - 8. プログラム : 716.
328. 挽地裕 : ステンント特性. CVIT2017 : 第 26 回日本心血管インターベンション治療学会. 2017, 7, 6 - 8. プログラム : 934.
329. 挽地裕 : Left Main PCI: Comments from panelists. CVIT2017 : 第 26 回日本心血管インターベンション治療学会. 2017, 7, 6 - 8. プログラム : 614.

330. 挽地裕：至適ステントは？. CVIT2017：第26回日本心血管インターベンション治療学会. 2017, 7, 6 - 8. プログラム：319.
331. Tanaka A, Kawaguchi A, Oyama JI, Node K: Differential effect of concomitant antidiabetes agents on carotid atherosclerosis: a sub-analysis of the PROLOGUE study. 第49回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2017, 7, 6 - 7. プログラム：e221.
332. 木塚遥菜, 安藤寿彦, 七田茂輝, 草場香那, 佐野晴彦, 板村英和, 下村光洋, 進藤岳郎, 久保田寧, 小島研介, 野出孝一, 木村晋也: 劇症型心筋症として発症した骨髄移植後のcGVHDの1例. 第79回日本血液学会学術集会. 2017, 10, 20 - 22. 臨床血液 58 (6) : 701 - 702, 2017.
333. 白木綾: 子育て中の女性医師キャリアパスの一例. 第40回日本高血圧学会総会. 2017, 10, 20 - 22. プログラム：348.
334. Hikichi Y: Modified KBT. Complex Cardiovascular Therapeutics 2017. 2017, 10, 26-28. プログラム：54.
335. 金谷晶子, 淡浪由希, 池田裕貴, 福成健一, 内海沙織, 野中康德, 福田誠, 池田裕次, 青木茂久, 大塚泰史, 鶴屋和彦, 吉田瑤子, 加藤秀樹: 遺伝子異常なくエクリズマブの効果も限定的であった非典型溶血性尿毒症症候群の一例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 日腎会誌, 59, 6, 762.
336. 橋本康平, 福田誠, 淡浪由希, 山崎政虎, 野中康德, 宮園素明, 池田裕次: 透析導入期に合併した特発性血小板減少性紫斑病に対してEltrombopagを使用した一例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 日腎会誌, 59, 6, 754.
337. 力武修一, 泉枝理子, 中村恵, 森大輔, 木戸伸一, 横尾眞子, 近藤誠司, 青木茂久, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 腎障害精査を契機に診断に至ったPOEMS症候群の1例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 日腎会誌, 59, 6, 749.
338. 福田誠, 橋本康平, 淡浪由希, 山崎政虎, 野中康德, 宮園素明, 池田裕次: PCSK9inhibitor (evolocumab) が有効であったネフローゼ症候群の一例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 日腎会誌, 59, 6, 741.
339. 北島聡, 福島辰朗, 岸智恵, 富吉義幸, 田中雅之, 酒見隆信, 池田裕次, 青木茂久: 進行大腸癌の治療として投与されたベバシズマブにより発症したネフローゼ症候群の一例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 日腎会誌, 59, 6, 741.
340. 陣内唯, 泉枝里子, 力武修一, 中村恵, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 糖尿病性腎症と微小変化型ネフローゼ症候群の合併が疑われた1例. 第47回日本腎臓学会西部学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 日腎会誌, 59, 6, 740.
341. 平田早恵, 野中真衣, 松本圭一郎, 福田誠, 林田靖, 谷口啓輔, 高島毅, 宮園素明, 池田裕次: 腎不全保存期と透析導入期の二度に渡り心外膜炎をきたした一例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会. 2017, 6, 16 - 18. 日透析医学会誌, 50, Suppl. 1, 778.
342. 末永敦彦, 淡浪由希, 山崎政虎, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 腹膜透析導入時に右胸水貯留で発見された横隔膜交通症の1例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会. 2017, 6, 16 - 18. 日透析医学会誌, 50, Suppl. 1, 766.

343. 泉枝理子, 松本圭一郎, 平田早恵, 野中真衣, 林田靖, 谷口啓輔, 高島毅, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 腹腔内出血を発症した顕微鏡的多発血管炎の1例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会. 2017, 6, 16 - 18. 日透析医学会誌, 50, Suppl. 1, 696.
344. 池田裕貴, 内海沙織, 金谷晶子, 福成健一, 池田裕次: 血漿交換が有効であった, 抗 GBM 抗体陽性を呈した顕微鏡的多発血管炎の一例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会. 2017, 6, 16 - 18. 日透析医学会誌, 50, Suppl. 1, 696.
345. 水田将人, 淡浪由希, 山崎政虎, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 腹部の難治性潰瘍に対し, 集学的治療が奏功したカルシフィラキシスの1例. 第62回日本透析医学会学術集会・総会. 2017, 6, 16 - 18. 日透析医学会誌, 50, Suppl. 1, 687.
346. 山崎政虎, 淡浪由希, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 腎機能低下患者におけるアロプリノールからフェブキソスタットへの切替による腎機能低下速度についての検討. 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017, 5, 26 - 28. 日腎会誌, 59, 3, 337.
347. 松本圭一郎, 平田早恵, 野中真衣, 高島毅, 池田裕貴, 内海沙織, 松本涼子, 金谷晶子, 福成健一, 淡浪由希, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: ネフローゼ症候群を呈する IgA 腎症の検討. 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017, 5, 26 - 28. 日腎会誌, 59, 3, 299.
348. 福田誠, 淡浪由希, 山崎政虎, 野中康德, 宮園素明, 池田裕次: 当院における多発性嚢胞腎の実態調査 (ICD - 10 を用いた検討). 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017, 5, 26 - 28. 日腎会誌, 59, 3, 287.
349. 高島毅, 平田早恵, 吉崎真衣, 松本圭一郎, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 腎臓内科医師数増加に伴う患者数, 処置件数の変化についての検討. 第114回日本内科学会総会・講演会. 2017, 4, 14 - 16. 日内会誌, 106, Suppl. , 218.
350. 松本圭一郎, 平田早恵, 吉崎真衣, 高島毅, 淡浪由希, 山崎政虎, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: IgA 腎症における肉眼的血尿と予後の関連. 第114回日本内科学会総会・講演会. 2017, 4, 14 - 16. 日内会誌, 106, Suppl. , 216.
351. 白井慎平, 坂田資尚, 岩切龍一: Special Situation での IBD 治療: 高齢潰瘍性大腸炎患者の血球成分除去療法における問題点. 第13回日本消化管学会総会学術集会. 2017, 2, 17 - 18. 抄録 133 (ワークショップ).
352. 大枝敏, 小野尚文, 窪津祥仁, 田中賢一, 高橋宏和, 江口有一郎: 非肥満症例における FibroScanXL プローブの有用性. 日本超音波医学会第90回学術集会. 2017, 5, 26 - 28. JpnJMedUltrasonics44 : S100.
353. 尾崎岩太, Manirijaman Md, 田中賢一, 小島基靖, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: 分岐鎖アミノ酸 (BCAA) による腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現調節. 第53回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 抄録集 : A285.
354. 小野尚文, 井上香, 濱岡和宏, 江口尚久, 大枝敏, 江口有一郎, 高橋宏和, 安西慶三: 肝腫瘍に対する Parametric Imaging の現状. 日本超音波医学会第90回学術集会. 2017, 5, 26 - 28. JpnJMedUltrasonics44 : S101.

355. 夏京合, 尾崎岩太, 郭ジン, MdManirujjaman, 田中賢一, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: ヒト肝癌細胞において BCAA による YA 転写因子阻害における PKC アイソフォームの役割. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 抄録集: 371.
356. 片桐さやか, 高橋宏和, HuaNing, 北島陽一郎, HamiltonJames, 江口有一郎, 安西慶三: 高脂肪食マウスにおける脂肪肝と骨格筋脂肪蓄積との関連. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 糖尿病 60, Suppl (11): S - 470.
357. 河口康典, 吉岡航, 野下祥太郎, 高橋宏和, 江口有一郎, 尾崎岩太, 岡田倫明, 柳田公彦, 小平俊一, 井手康史, 安武努, 川副広明, 水田敏彦: DAA 治療による HCV 排除後の肝臓癌抑制効果および肝発癌危険因子の検討. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 58, suppl (1): A210.
358. 河田望美, 高橋宏和, 井上瑛, 美奈川仁美, 山内寛子, 井上佳奈子, 松田やよい, 秋山巧, 岩根紳治, 江口有一郎, 安西慶三: NAFLD/NASH 診断における Fib-4 Index の役割. 第 17 回日本糖尿病情報学会年次学術集会. 2017, 9, 2 - 3. 抄録集: 30.
359. 窪津祥仁, 岩根紳治, 野下祥太郎, 吉岡航, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: NAFLD の病態と生活の質との関連. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 58, Suppl (12): A643.
360. 郭じん, 尾崎岩太, 夏京合, Md Manirujjaman, 桑代卓也, 小島基靖, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: PCCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by upregulating p21 expression. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 抄録集: 371.
361. 高橋宏和, 北島陽一郎, 小野尚文, 江口尚久, 安西慶三, 江口有一郎: 肝硬変における分枝鎖アミノ酸補充療法への血清アルブミン値の反応性と骨格筋脂肪化・生存予後の検討. 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2017, 1, 13 - 15. 日本病態栄養学会誌 20, Suppl: S - 174.
362. 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: 次世代シーケンサーによるマウス肝における運動効果の解析. 第 103 回日本消化器病学会総会 (シンポジウム). 2017, 4, 20 - 22. 日本消化器病学会雑誌臨時増刊号 114: A53.
363. 高橋宏和, 江口有一郎, Goodyear Laurie, 安西慶三: 運動惹起性アディポカインの探索. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 抄録集: S - 387.
364. 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: 肝臓における運動効果の検討. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9, 抄録集: A75.
365. 高橋宏和, 中原隆志, 江口有一郎: C 型慢性肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬治療での HbA1c の変化. 第 53 回日本肝臓学会総会 (シンポジウム). 2017, 6, 8 - 9. 抄録集: A157.
366. 高橋宏和, 大枝敏, 小野尚文: なぜ今超音波による肝線維化診断が必要なのか?. 第 42 回日本超音波検査学会学術集会 (シンポジウム). 2017, 6, 16 - 18. 超音波検査技術 42, Suppl: S71.
367. 田中賢一, 高橋宏和, 北島陽一郎, 尾崎岩太, 江口有一郎, 安西慶三: 2 型糖尿病における liraglutide による脂肪減少効果とメカニズム. 第 38 回日本肥満学会. 2017, 10, 7 - 8. 抄録集: 89.

368. 永淵正法, 日比生祐美, 南昌江, 岡田朗, 筒信隆, 梅野美一, 村上嘉一, 横川泰, 濱口和之, 佐々木伸浩, 小河一彦, 柳瀬敏彦, 小野順子, 桶田俊光, 藤本良二, 岩瀬正典, 三根敬一朗, 吉開泰信, 古野純典, 森仁恵, 高橋宏和, 安西慶三, 栗崎宏憲, 勝田仁, 近藤しおり: TYK2 promoter variant は自己抗体陰性インフルエンザ様症状先行 1 型糖尿病, 非肥満 2 型糖尿病のリスクである. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 抄録集: S - 231.
369. 松本康恵, 安藤彩, 大島まゆみ, 田辺一郎, 東谷孝徳, 大枝敏, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 末岡榮三朗: Shear Wave Elastography における測定値の信頼性表示の有用性. 第 42 回日本超音波検査学会学術集会, 2017, 6, 16 - 18. 超音波検査技術 42, Suppl: S256.
370. Md Manirujjaman, Ozaki Iwata, Jing Guo, Jinghe Xia, Kenichi Tanaka, Hirokazu Takahashi, Keizo Anzai, Sachiko Matsushashi: Degradation of PDCD4, a tumor suppressor, is regulated by both proteasome and autophagy. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 抄録集: 371.
371. 溝口義人, 門司晃: 神経炎症における脳神経血管機構 (NVU) の関与に着目したうつ病の病態解明. 第 113 回日本精神神経学会学術総会. 2017, 6, 22 - 24. プログラム抄録集 568.
372. 溝口義人, 門司晃: うつ病と認知症ー「炎症」が繋ぐふたつの疾患. 第 14 回日本うつ病学会総会／第 17 回日本認知療法・認知行動療法学会. 2017, 7, 21 - 23. 抄録集.
373. 諸隈暢, 溝口義人, 鍋田紘美, 今村義臣, 原口祥典, 尾山純一, 野出孝一, 門司晃: 閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA) に合併する抑うつ症状と血清 proBDNF, BDNF 濃度の関連について. 第 113 回日本精神神経学会学術総会. 2017, 6, 22 - 24. プログラム抄録集 344.
374. 門司晃: 佐賀大学医学部精神医学教室における研究～精神疾患と身体疾患の共通の病態メカニズムを探 24 溝口義人: 認知症の初期診断・治療ーupdateー. 平成 28 年度佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会. 2017, 1, 31. 抄録集.
375. 溝口義人: 双極性障害 (躁うつ病) について. 平成 29 年度第 2 回佐賀県かかりつけ医うつ病対応力向上研修会. 2017, 2, 21. 抄録集.
376. 原口祥典: ドネペジルのミクログリアへの作用について. 第 4 回サイコグリア研究会～グリアと炎症から精神疾患を考える～. 2017, 5, 20. 抄録集.
377. 小嶋亮平, 藤田知哲, 溝口義人, 川島敏郎, 門司晃: 当初双極性障害が疑われ, 経過中にレビー小体病の診断に至った一例. 第 22 回向精神薬フォーラム inSAGA. 2017, 2, 22. 抄録集.
378. 一ノ瀬文男, 福田篤久, 村守克己, 松尾宗明: イレウス解除術後にレベチラセタム静注製剤を使用した重症心身障害児の 2 例. 第 51 回日本てんかん学会学術集会. 2017, 11, 3 - 5. てんかん研究 2017; 35 (2): 574.
379. 飯田千晶, 田代克弥, 松尾宗明: 複数の血管病変に対してそれぞれ内科・外科治療で救命しえた Ehlers-Danlos 症候群 (EDS) の 1 例. 第 120 回日本小児科学会各術集会. 2017, 4, 14 - 16. 抄録集.
380. 岩永学, 古賀有莉, 熊本崇, 西眞範: 大動脈弁直下の巨大心臓腫瘍の新生児例. 第 71 回九州 新生児研究会. 2017, 11, 18. 抄録集.

381. 垣内俊彦, 遠藤広貴, 松尾宗明: 佐賀県下全中学 3 年生 H. pylori 検診「未来へ向けた胃がん対策推進事業」の取り組み. 第 103 回日本消化器病学会総会. 2017, 4, 20 - 22 東京. 日本消化器病学会雑誌 114 (suppl-1): 304 - 304, 2017.
382. 垣内俊彦, 松尾宗明, 江口有一郎: B 型肝炎ワクチン定期接種における広報方法と医療従事者の認知度調査. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 抄録集.
383. 垣内俊彦, 中山愛子, 松尾宗明: 佐賀県下中学 3 年生 H. pylori 検診「未来へ向けた胃がん対策推進事業」の取り組み. 第 120 回日本小児科学会学術集会. 2017, 4, 14 - 16. 抄録集.
384. 垣内俊彦, 尾形善康, 田代克弥, 松尾宗明: 胃がん一次予防を目的とした佐賀県中学 3 年生ピロリ検診の取り組み. 第 70 回九州小児科学会. 2017, 10, 28 - 29. 抄録集.
385. 古賀大介, 中山愛子, 西眞範, 石村匡崇, 垣内俊彦: CMV 感染症を契機に発症し再生不良性貧血に至る過程の骨髓像を追跡できた肝炎関連再生不良性貧血の 1 例. 第 44 回日本小児栄養消化器肝臓学会. 2017, 10, 20 - 22. 日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 31 (suppl): 156 - 156, 2017.
386. 古賀大介, 江口啓意, 西眞範, 石村匡崇, 園田素史, 江口克秀, 今井耕輔: 原発性免疫不全症との鑑別が困難であり診断に難渋した肝炎関連再生不良性貧血の 1 例. 第 59 回日本小児血液・がん学会学術集会 第 15 回日本小児がん看護学会学術集会 第 22 回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウム. 2017, 11, 9 - 11. 日本小児血液・がん学会雑誌 2017 (54) 4: 313.
387. 熊本崇, 熊本愛子, 樋口直弥, 田代克弥, 前田寿幸, 松尾宗明: 左室側壁～後壁に心筋虚血をきたした筋ジストロフィーの 2 例. 第 22 回日本小児心電学会学術集会. 2017, 11, 24 - 25. 抄録集.
388. 熊本崇, 熊本愛子, 西村真二, 田代克弥, 松尾宗明: 経口肺血管拡張剤の積極的な導入で良好な経過を呈している BMPR2 遺伝子変異を有する遺伝性肺動脈性肺高血圧の一例. 第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2017, 7, 7 - 9. 抄録集.
389. 前田寿幸, 平原恵子, 田島大輔, 松尾宗明, 古川浩二郎: 気管切開患者における腕頭動脈気管瘻の発症予測. 第 59 回日本小児神経学会学術集会. 2017, 6, 15 - 17. 脳と発達 49: S399.
390. 松尾宗明, 平原恵子: 神経線維腫症 1 型の中枢神経合併症. 第 59 回日本小児神経学会総会共同研究支援委員会主催セミナー. 2017, 6, 15 - 17. 抄録集.
391. 溝端理恵, 前田寿幸, 大塚泰史, 松尾宗明: 多彩な合併症を呈し集中治療により救命し得た劇症型 A 群溶血性連鎖球菌感染症の 1 例. 第 120 回日本小児科学会学術集会. 2017, 4, 14 - 16. 日本小児科学会雑誌 Vol. 121: 1 - O - 020.
392. 溝端理恵, 陣内久美子, 大串栄彦, 岡政史, 佐藤忠司, 久野建夫, 松尾宗明, 青木茂久, 叶 明娟, 森貞直哉, 飯島一誠: 家族内検索が有用であった腎コロボーマ症候群の一家系. 第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会. 2017, 6, 1 - 3. 日本小児腎臓病学会雑誌 2017 Vol. 30: OR - 209.
393. 中村拓自, 辻功介, 在津正文, 松尾宗明: インフルエンザ感染を契機に辺縁系脳症を来した男児例. 第 22 回日本神経感染症学会総会・学術大会. 2017, 10, 13 - 14. 抄録集.
394. 中村拓自, 在津正文, 松尾宗明: A Case of Mild Limbic Encephalitis associated with Influenza TypeA. 第 59 回日本小児神経学会学術集会. 2017, 6, 15 - 17. 抄録集.

395. 西眞範, 古賀大介, 江口啓意, 松尾宗明: 心臓血管肉腫の多剤併用化学療法後再発に対して, パクリタキセル単剤投与で良好な経過が得られている 1 例. 第 59 回日本小児血液・がん学会学術集会 第 15 回日本小児がん看護学会学術集会 第 22 回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウム. 2017, 11, 9 - 11. 小児血液・がん学会雑誌 第 59 回日本小児血液・がん学会学術集会 (合同開催: 第 15 回日本小児がん看護学会学術集会/共同開催: 第 22 回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウム) プログラム・総会号 (54 巻 4 号) p322.
396. 尾形善康, 江口啓意, 古賀大介, 西眞範, 須山ゆかり, 松尾宗明: 脛骨骨挫傷後 1 か月を経過して MRSA 膿瘍をきたした軽症血友病 A の一例. 第 39 回日本血栓止血学会学術集会. 2016, 6, 8 - 10. 抄録集.
397. 尾形善康, 米良智子, 須山ゆかり, 松尾宗明: 関節可動域制限を契機に診断されたびまん性筋膜炎の一例. 第 27 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会. 2017, 10, 6 - 8. 抄録集.
398. 岡政史, 大塚泰史, 溝端理恵, 陣内久美子, 大串栄彦, 佐藤忠司, 辻功介, 松尾宗明: 中枢神経症状を伴う急性巣状細菌性腎炎 4 例の検討. 第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会. 2017, 6, 1 - 3. 抄録集.
399. 大串栄彦, 大塚泰史, 溝端理恵, 陣内久美子, 岡政史, 佐藤忠司, 野津寛大, 飯島一誠, 松尾宗明: Alport 症候群 9 家系の臨床的検討. 第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会. 2017, 6, 1 - 3. 日本小児腎臓病学会雑誌 30 (1): Sup OR - 207, 2017.
400. 大塚泰史, 岡政史, 溝端理恵, 陣内久美子, 佐藤忠司, 東武昇平, 野口満, 松尾宗明: 間歇的水腎症 6 例の臨床的検討. 第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会. 2017, 6, 1 - 3. 日本小児腎臓病学会雑誌 30 巻 (1) Suppl. Page192, 2017.
401. 大塚泰史, 佐藤忠司, 岡政史, 大串栄彦, 陣内久美子, 松尾宗明: ADCK4 遺伝子異常によるステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の兄弟例. 第 17 回九州沖縄腎生検フォーラム. 2017, 3, 12. 抄録集.
402. 大塚泰史, 佐藤忠司, 陣内久美子, 大串栄彦, 岡政史, 松尾宗明: ADCK4 遺伝子異常によるステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の兄弟例. 第 120 回日本小児科学会学術集会. 2017, 4, 14 - 16. 日本小児科学会雑誌 121 巻 2 号: Page420, 2017.
403. 田崎考, 田代克弥, 葛見保子: 佐賀の 1 中学校において 3 年の経過を逐えた生活習慣病予防検診について (25 年間の血液データから). 第 64 回日本小児保健協会学術集会. 2017, 6, 29 - 7, 1. 小児保健研究 2017 76 (suppl): 200.
404. 田代克弥, 樋口直弥: 不全型川崎病で発症し治療抵抗性の全身型若年性特発性関節炎様の病態へ移行した女児例. 第 13 回九州小児免疫フォーラム. 2017, 3, 4. 抄録集.
405. 田代克弥, 飯田千晶, 熊本崇, 熊本愛子, 松尾宗明: 佐賀大学における免疫グロブリン不応川崎病への CyclosporineA 治療のまとめ. 第 120 回日本小児科学会学術集会. 2017, 4, 14 - 16. 小児科学会雑誌 2017, 121, 2, 278.
406. 田代克弥, 熊本崇, 熊本愛子, 飯田千晶: 冠攣縮が原因と思われる心筋梗塞を 2 度発症したベッカー型筋ジストロフィーの男児例. 第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会. 2017, 7 - 9. 抄録集.

407. 陣内久美子, 大塚泰史, 溝端理恵, 大串栄彦, 平原恵子, 岡政史, 垣内俊彦, 前田寿幸, 松尾宗明 : 可逆性後頭葉白質脳症を契機に診断した Henoch-Schönlein 紫斑病の一例. 第 52 回日本小児腎 臓病学会学術集会. 2017, 6, 1 - 3. 抄録集.
408. 江川紀幸, 田中智和, 奥山佳一郎, 能城浩和 : 胃癌治療におけるファルネシル転移酵素阻害薬の可能性. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 抄録集.
409. 北川浩, 北島吉彦, 中村淳, 田中智和, 古賀靖大, 真鍋達也, 能城浩和 : 腫瘍内 8OHdG は進行大腸癌における予後予測因子となりうる. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 抄録集.
410. 北島吉彦, 奥山桂一郎, 田中智和, 中村淳, 北川浩, 江川紀幸, 柳原五吉, 中村康之, 荒川博文, 能城浩和 : Mieap 発現は胃癌細胞の低酸素下ミトコンドリア品質管理機構と ROS 産生の抑制に寄与する. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 抄録集.
411. 奥山桂一郎, 北島吉彦, 田中智和, 志田雅明, 馬場耕一, 脇山幸大, 佐藤博文, 北川浩, 中村淳, 中村康之, 荒川博文, 能城浩和 : PS - 245 ポスターセッション (245) 「基礎-上部消化管」Mieap 発現欠失による低酸素環境下ミトコンドリア品質管理機構の破綻と胃癌悪性度増強機序. 第 117 回日本外科学会定期学術集会. 2017, 4, 27 - 29. 日程号.
412. 奥山桂一郎, 北島吉彦, 田中智和, 中村淳, 北川浩, 江川紀幸, 柳原五吉, 中村康之, 荒川博文, 能城浩和 : Mieap 発現欠失による低酸素下ミトコンドリア品質管理機構の破綻と胃癌悪性度増強機序 Deficient mieap expression increases invasion ability via impairment of MQC in gastric cancer cells under hypoxia. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 抄録集.
413. 脇山幸大, 北島吉彦, 田中智和, 金木正夫, 中村淳, 柳原五吉, 能城浩和 : SF - 40 サージカルフォーラム (40) 「基礎-癌」Warburg 効果をターゲットとした胃癌に対する新規薬物療法~HIF-1 α 阻害剤 YC-1+GI 療法の機序解析と臨床応用への可能性~. 第 117 回日本外科学会定期学術集会. 2017, 4, 27 - 29. 日程号.
414. 脇山幸大, 北島吉彦, 田中智和, 金木正夫, 柳原五吉, 相島慎一, 中村淳, 能城浩和 : Low- dose YC-1 combined with glucose and insulin selectively induces apoptosis in hypoxic gastric carcinoma cells by inhibiting anaerobic glycolysis. 第 5 回がんと代謝研究会 in 札幌 (ポスター口演) . 2017, 7, 13 - 14. 抄録集.
415. 脇山幸大, 北島吉彦, 田中智和, 金木正夫, 柳原五吉, 能城浩和 : ワークショップ 14 「臨床応用を目指した消化器外科領域の基礎研究・橋渡し研究 Warburg 効果を target とした胃癌に対する新規薬物療法 [HIF1 α 阻害剤+GI 療法の機序解析と臨床応用への可能性] . 第 72 回日本消化器外科学会 総会. 2017, 7, 20 - 22. 抄録集.
416. 脇山幸大, 北島吉彦, 田中智和, 金木正夫, 柳原五吉, 相島慎一, 中村淳, 能城浩和 : 低用量 YC+GI 療法における Warburg 効果をターゲットとした胃癌に対する新規薬物療法 Low dose YC-1+GI treatment induce apoptosis selectively in hypoxic gastric cancer cell by reprogramming glucose metabolism. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 抄録集.
417. 古舘晃, 古川浩二郎, 柚木純二, 伊藤学, 高松正憲, 野上英次郎, 迎洋輔 : 急性大動脈解離 StanfordA に対し primary entry を切除できた上行置換術後遠隔期の大動脈イベント増悪因子の検討. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会. 2017, 6, 26 - 29.

418. 伊藤学, 中山功一: スキャフルドフリーバイオ 3D プリンタを用いた血管再生医療の試み. 第 16 回日本再生医療学会総会. 2017, 3, 7 - 9.
419. 宮本詩子, 武田雄二, 岡本祐介, 野上英次郎, 島内浩太, 古川浩二郎: 拡大胸腺摘出手術施行後に胸骨ワイヤーの一部が右室内に迷入し, 摘出し得た一例. 第 34 回日本呼吸器外科学会総会. 2017, 5, 18 - 19. 日本呼吸器外科学会雑誌 31 (3): V10 - 6.
420. 野上英次郎, 古川浩二郎, 桑野彰人, 島内浩太, 迎洋輔, 古舘晃, 高松正憲, 伊藤学, 柚木純二, 田中厚寿: Remodeling 法による自己弁温存大動脈基部置換術後の aortic root dynamics. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会. 2017, 9, 26 - 29.
421. 高松正憲, 古川浩二郎, 七條正英, 野上英次郎, 古舘晃, 伊藤学, 柚木純二, 森田茂樹: SternaLock Blu を使用した胸骨閉鎖の検討 SternaLock Blu の効果と注意点. 第 47 回日本心臓血管外科学会学術総会. 2017, 2, 27 - 3, 1.
422. 高松正憲, 古川浩二郎, 迎洋輔, 野上英次郎, 古舘晃, 伊藤学, 柚木純二: 当院での内胸動脈吻合法 ~2 点支持・連続縫合法. 第 22 回日本冠動脈外科学会学術大会. 2017, 7, 13 - 14.
423. 高松正憲, 古川浩二郎, 迎洋輔, 野上英次郎, 古舘晃, 伊藤学, 柚木純二: 閉鎖回路を用いた on-pump beating CABG の有用性. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会. 2017, 9, 26 - 29.
424. 武田雄二, 手石方崇志, 堀晋一朗, 岡本祐介, 宮本詩子, 古川浩二郎: 後天性赤芽球瘍合併胸腺過形成の一例. 第 58 回日本肺癌学会学術集会. 2017, 10, 14 - 15. 肺癌 57 (5): 569.
425. 田中彩, 宮本詩子, 岡本祐介, 武田雄二, 古川浩二郎: 低ナトリウム血症を来した原発性肺悪性腫瘍の一例. 第 8 回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会. 2017, 4, 12.
426. 柚木純二, 野上英次郎, 田中厚寿, 古舘晃, 高松正憲, 迎洋輔, 桑野彰人, 島内浩太, 古川浩二郎: Self expandable valve を用いた TAVR で経験した様々な Bailout. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会. 2017, 9, 26 - 29.
427. 橋本哲, 野中俊宏, 河野俊介, 北島将, 園畑素樹, 馬渡正明, 隈元真志, 本家秀文: 酸化銀含有ハイドロキシアパタイト (Ag-HA) コーティング抗菌セメントレスシステムを用いた大腿骨頸部骨折の治療経験. 第 44 回日本股関節学会学術集会. 2017, 10, 20 - 10, 21. 抄録集: 650.
428. 古畑友基, 橋本哲, 河野俊介, 北島将, 園畑素樹, 堀川悦夫, 馬渡正明: 片側 THA に内転筋切離術を併用した症例の術後 1 年の歩行解析. 第 44 回日本股関節学会学術集会. 2017, 10, 20 - 10, 21. 抄録集: 642.
429. 古畑友基, 田中里紀, 上野雅也, 河野俊介, 北島将, 園畑素樹, 堀川悦夫, 馬渡正明: 片側人工股関節全置換術前後の三次元歩行解析ー術前の脚長差による検討ー. 第 90 回日本整形外科学会学術総会. 2017, 5, 18 - 5, 21. 日整会誌 91 (2): S551.
430. 田中里紀, 北島将, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 堀川悦夫, 馬渡正明: 転子下骨切り併用人工股関節全置換術後 5 年間の歩行の回復ー片側高位脱臼の分類による検討ー (スペシャルポスター). 第 44 回日本股関節学会学術集会. 2017, 10, 20 - 10, 21. 抄録集: 592.

431. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後 5 年間の歩行の経時的変化—高位脱臼股の分類別による検討—. 第 47 回日本人工関節学会. 2017, 2, 24 - 2, 25. 抄録集: 542.
432. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後の三次元歩行解析—術後 5 年間の経時的変化—. 第 90 回日本整形外科学会学術総会. 2017, 5, 18 - 5, 21. 日整会誌 91 (2): S542.
433. 井上浩平, 松島俊夫, 河島雅到, 緒方敦之, 高瀬幸徳, 中原由紀子, 下川尚子, 増岡淳, 阿部竜也: 舌咽神経痛における責任血管と穿通枝の検討. (一社)日本脳神経外科学会第 76 回学術総会. 2017, 10, 12 - 14. 抄録集.
434. 高口素史, 中原由紀子, 伊藤寛, 若宮富浩, 増岡淳, 阿部竜也: 当院における神経膠腫の分子生物学的解析の現状. 第 35 回日本脳腫瘍病理学会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集.
435. 高口素史, 中原由紀子, 伊藤寛, 井上浩平, 緒方敦之, 高瀬幸徳, 下川尚子, 増岡淳, 阿部竜也: glioma における蛍光染色を用いた TET タンパクの細胞内局在の検討. 第 18 回日本分子脳神経外科学会. 2017, 8, 25 - 26. 抄録集.
436. 増岡淳, 桃崎明彦, 坂本祐史, 正島弘隆, 高口素史, 井上浩平, 緒方敦之, 中原由紀子, 高瀬幸徳, 下川尚子, 阿部竜也: 中枢神経系浸潤型アスペルギルス症に対する外科治療. (一社)日本脳神経外科学会第 76 回学術総会. 2017, 10, 12 - 14. 抄録集.
437. 中原由紀子: フレキシブル腫瘍鑷子の開発と使用経験. 第 26 回脳神経外科手術と機器学会. 2017, 4, 14 - 15. 抄録集.
438. 中原由紀子, 若宮富浩, 高口素史, 山崎真希子, 相島慎一, 中野嘉子, 北原麻衣, 市村幸一, 阿部竜也: 典型的な diffuse midline glioma だが, H3 K27M 遺伝子変異を検出しなかった一例. 第 35 回日本脳腫瘍病理学会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集.
439. 中原由紀子, 高口素史, 伊藤寛, 増岡淳, 脇本浩明, 阿部竜也: 膠芽腫腫瘍幹細胞に対する STAT3 阻害剤の感受性についての検討. 第 35 回日本脳腫瘍学会学術集会. 2017, 11, 26 - 28. 抄録集.
440. 緒方敦之, 江橋諒, 吉岡史隆, 井上浩平, 高瀬幸徳, 中原由紀子, 下川尚子, 増岡淳, 阿部竜也: 頸動脈ステント留置術後フォローアップにおける非造影 MRA の有用性と注意点. 第 40 回日本脳神経 CI 学会総会. 2017, 3, 3 - 4. 抄録集.
441. 緒方敦之, 田中達也, 溝上泰一朗, 若宮富浩, 増岡淳, 中原由紀子, 下川尚子, 高瀬幸徳, 井上浩平, 桃崎宣明, 坂田修治, 阿部竜也: 頸動脈狭窄症プラーク内出血におけるペリサイトと薬事療法の関連性. 第 18 回日本分子脳神経外科学会. 2017, 8, 25 - 26. 抄録集.
442. 緒方敦之, 田中達也, 溝上泰一朗, 若宮富浩, 増岡淳, 中原由紀子, 下川尚子, 高瀬幸徳, 井上浩平, 桃崎宣明, 坂田修治, 阿部竜也: 頸動脈狭窄症プラーク内出血におけるペリサイトと薬剤療法の関連性. (一社)日本脳神経外科学会第 76 回学術総会. 2017, 10, 12 - 14. 抄録集.
443. 緒方敦之, 井上浩平, 高瀬幸徳, 下川尚子, 中原由紀子, 増岡淳, 阿部竜也: 前方循環破裂動脈瘤に対する塞栓術において急峻な内頸動脈例は合併症が多い. 第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会. 2017, 11, 23 - 25. 抄録集.

444. 乙木祐介, 緒方敦之, 桃崎明彦, 坂本祐史, 井上浩平, 高瀬幸徳, 下川尚子, 中原由紀子, 増岡淳, 阿部竜也: Proximal protection にてステント留置術を行った鎖骨下動脈狭窄症の 1 例. 第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会. 2017, 11, 23 - 25. 抄録集.
445. 高瀬幸徳, 緒方敦之, 増岡淳, 中原由紀子, 下川尚子, 井上浩平, 高口素史, 正島弘隆, 坂本祐史, 桃崎明彦, 阿部竜也: 当院における頸動脈海綿静脈洞瘻の治療成績. (一社) 日本脳神経外科 学会 第 76 回学術総会. 2017, 10, 12 - 14. 抄録集.
446. 高瀬幸徳, 緒方敦之, 増岡淳, 中原由紀子, 下川尚子, 井上浩平, 阿部竜也: 頸動脈海綿静脈洞瘻に対する治療成績. 第 33 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会. 2017, 11, 23 - 25. 抄録集.
447. 若宮富浩, 中原由紀子, 高口素史, 伊藤寛, 阿部竜也: 飢餓状態のヒトグリオーマ細胞株において fatty acid synthase と carnitine palmitoyltransferase 1C の mRNA 発現が亢進する. 第 76 回日本癌学会学術総会. 2017, 9, 28 - 30. 抄録集.
448. 一番ヶ瀬優佳, 柿木寛明, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: PNL における穿刺予定腎杯観察を想定した腹臥位腎超音波エコー検査時の体位工夫. 第 31 回日本泌尿器内視鏡学会総会. 2017, 11, 16 - 18. プログラム・抄録集 P275.
449. 柿木寛明, 永瀬圭, 一番ヶ瀬優佳, 藏田彩, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: TUL 単独で治療を完遂した症例と経皮的治療を要した症例の比較. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 2017, 4, 21 - 24. プログラム 140.
450. 藏田彩, 一番ヶ瀬優佳, 南里麻己, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 腹圧性尿失禁を合併する骨盤臓器脱に対する膣閉鎖と TOT 併用手術の手術成績. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 2017, 4, 21 - 24. プログラム 150.
451. 藏田彩, 一番ヶ瀬優佳, 南里麻己, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: TVM 手術における mesh の動態変化解析. 第 19 回日本女性骨盤底医学会. 2017, 7, 29 - 30. プログラム・抄録集 P63.
452. 草野脩平, 東武昇平, 永瀬圭, 有働和馬, 野口満: 高齢女性尿路結石患者の背景因子の検討. 第 30 回日本老年泌尿器科学会. 2017, 6, 9 - 10. プログラム・抄録集 P148. 9
453. 草野脩平, 東武昇平, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 注意欠陥・多動性障害児の尿失禁に対する治療成績. 第 24 回日本排尿機能学会. 2017, 9, 28 - 30. 日本性機能学会雑誌 28 (1): 188.
454. 草野脩平, 東武昇平, 永瀬圭, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 溝端理恵, 岩永学, 大野康治, 野口満: 総排泄腔外反症における非吸収性ヘルニア・胸壁・腹壁用補綴材使用による二期的腹壁 閉鎖の試み. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科 学会雑誌 26 (2): 185.
455. 草野脩平, 有働和馬, 前田晃宏, 永瀬圭, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 東武昇平, 野口満: 前立腺癌内分泌療法後にロボット支援下前立腺全摘除術 (RALP) を施行した一例～当科での neoadjuvant 療法後 RALP 施行症例の検討を交えた報告～. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 183.

456. 前田晃宏, 東武昇平, 草野脩平, 永瀬圭, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口 満: 診断と治療に苦慮した嚢胞性膀胱炎の一例. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 147.
457. 永瀬圭, 南里麻己, 藏田彩, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 当院における停留精巣術後の予 後と術者経験年数との関連. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 (2): 62.
458. 南里麻己, 永瀬圭, 草野脩平, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 術者経験年数と停留精巣術後の予後との関連. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 147.
459. 野口満, 東武昇平: 幼少児機能障害の指導と管理診療の標準化を目指して, そのポイント. 第 24 回日本排尿機能学会. 2017, 9, 28 - 30. 日本性機能学会雑誌 28 (1): 93.
460. 野口満, 東武昇平: 女性過活動膀胱. 第 24 回日本排尿機能学会. 2017, 9, 28 - 30. 日本性機能学会雑誌 28 (1): 112.
461. 東武昇平, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 高度水腎症に対する診断手順と手術適応～尿ドレナージと分腎機能の兼ね合い～. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 2017, 4, 21 - 24. プログラム 52.
462. 東武昇平, 永瀬圭, 草野脩平, 高原光平, 一番ヶ瀬優佳, 藏田彩, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 高脂血症はロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術後の下部尿路症状と勃起機能に影響を与える可能性がある. 第 105 回日本泌尿器科学会総会. 2017, 4, 21 - 24. プログラム 145.
463. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 多職種医療人による超高齢時代の排尿管理高齢者排尿管理のための地域ネットワークおよび教育システム構築の試み. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 増刊号: 110.
464. 東武昇平, 永瀬圭, 草野脩平, 高原光平, 一番ヶ瀬優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 高齢慢性尿閉患者に対する膀胱皮膚瘻の長期成績. 第 30 回日本老年泌尿器科学会. 2017, 6, 9 - 10. プログラム・抄録集 P100.
465. 東武昇平, 永瀬圭, 草野脩平, 高原光平, 一番ヶ瀬優佳, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 先天性尿道狭窄を有する昼間尿失禁を伴う夜尿症男児に対する経尿道的内視尿道切開の術後長期経過に関する検討. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 (2): 231.
466. 東武昇平, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: キーポイント・レクチャー『小児泌尿器疾患の診療アルゴリズム: ガイドライン・診療手引きの作成委員・協力委員が開設します』小児水腎症診療手引き 2016 のアルゴリズム. 第 26 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会. 2017, 7, 5 - 7. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 (2): 79.
467. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術における腹腔内癒着剥離に対する一工夫. 第 9 回日本ロボット外科学会学術集会. 2017, 1, 28. プログラム・抄録集 P66.
468. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 尿意切迫感は勃起硬度および維持に影響する. 日本性機能学会第 8 回学術総会. 2017, 9, 21 - 23. 日本性機能学会雑誌 32 (2): 222.

469. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 高齢慢性尿閉患者に対する膀胱皮膚瘻の有用性の検討. 第 24 回日本排尿機能学会. 2017, 9, 28 - 30. 日本排尿機能学会雑誌 28 (1): 310.
470. 東武昇平, 有働和馬, 野口満: 切迫尿意は勃起硬度および維持に悪影響を及ぼす. 第 69 回西日本泌尿器科学会総会. 2017, 11, 9 - 12. 西日泌尿 79 (1): 188.
471. 有働和馬, 永瀬圭, 藏田彩, 南里麻己, 東武昇平, 野口満: 当院で経験したロボット支援手術の周術期合併症に関する検討. 第 9 回日本ロボット外科学会学術集会. 2017, 1, 28. プログラム・抄録集 P59.
472. 山内盛泰, 峯崎晃充, 斎藤真貴子, 鈴木久美子, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 術中大量出血をきたした淡明細胞型腎細胞がんの甲状腺転移の 1 例. 第 27 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会. 2017, 2, 2 - 3. プログラム・予稿集, 119.
473. 斎藤真貴子, 森本邦子, 宮崎俊一, 峯崎晃充, 鈴木久美子, 門司幹男, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 佐賀県における新生児聴覚スクリーニング 10 年間の検討. 第 118 回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会. 2017, 5, 17 - 20. 日本耳鼻咽喉科学会会報 120 (4): 538.
474. 峯崎晃充, 宮崎俊一, 嶋崎絵里子, 斎藤真貴子, 山内盛泰, 鈴木久美子, 門司幹男, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 当科で施行した喉頭気管分離術症例の検討. 第 118 回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会. 2017, 5, 17 - 20. 日本耳鼻咽喉科学会会報 120 (4): 571.
475. 鈴木久美子, 門司幹男, 島津倫太郎, 斎藤真貴子, 嶋崎絵里子, 峯崎晃充, 倉富勇一郎: 頭頸部進行癌に対する S - 1 隔日投与方法を用いた補助化学療法の検討. 第 41 回日本頭頸部癌学会. 2017, 6, 7 - 9. 頭頸部癌 43 (2): 176.
476. 山内盛泰, 川崎佳奈子, 佐藤有記, 柴宮夏子, 宮崎俊一, 峯崎晃充, 斎藤真貴子, 鈴木久美子, 門司幹男, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 当科におけるセツキシマブ使用症例についての検討. 第 41 回日本頭頸部癌学会. 2017, 6, 7 - 9. 頭頸部癌 43 (2): 203.
477. 宮崎俊一, 門司幹男, 山内盛泰, 加藤久美子, 峯崎晃充, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 当科で行ったセツキシマブ・シスプラチン・5 - FU 併用療法についての検討 初回治療例を中心に. 第 41 回日本頭頸部癌学会. 2017, 6, 7 - 9. 頭頸部癌 43 (2): 239.
478. 柴宮夏子, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 甲状舌管に生じた乳頭癌の 1 例. 第 79 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会. 2017, 7, 6 - 7. 耳鼻咽喉科臨床補冊 150: 98.
479. 佐藤有記, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 舌根部に発生した神経鞘腫の 1 症例. 第 30 回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会. 2017, 9, 7 - 8. 口腔・咽頭科 30 (3): 415.
480. 濱田献, 平川奈緒美, 笹栗智子, 松島 淳, 國武裕: 診断に苦慮した難治性腰下肢痛の 1 例. 第 46 回日本慢性疼痛学会. 2017, 2, 17 - 18. プログラム・抄録, : 69.
481. 石川亜佐子, 平川奈緒美, 三宅靖延, 原博満, 吉田裕樹, 八坂敏一: C-typelectin の神経障害性疼痛における役割. 日本麻酔科学会第 64 回学術集会. 2017, 6, 8 - 10. プログラム・抄録, : Q03 - 01.
482. 上村聡子, 笹栗智子, 平川奈緒美: CT ミエログラフィーで脳脊髄液の漏出を確認できなかったが硬膜外自家血注入が奏功した起立性頭痛の 1 症例. 日本ペインクリニック学会第 51 回大会. 2017, 7, 20 - 22. プログラム・抄録, : 211.

483. 濱田献, 平川奈緒美, 笹栗智子, 上村聡子: パーキンソン病による脊椎側弯に対して脊髄刺激療法が効果的であった 1 例. 日本ペインクリニック学会第 51 回大会. 2017, 7, 20 - 22. プログラム・抄録, : 298.
484. 阿部史佳, 河野憲司, 合島怜央奈, 東條格, 松永和秀, 林利彦, 鄭漢忠, 野口誠, 栗田賢一: 「第 7 回日本・ネパール口腔外科学会合同学術会議ならびに臨床研修」への参加報告. 第 62 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会. 2017, 10, 20 - 22. 日本口腔外科学会雑誌 63, 総会 特別号, 333 頁.
485. 合島怜央奈, 山下佳雄, 森啓輔, 鶴岡祥子, 檀上敦, 清島保, 城戸瑞穂: ヒト口腔扁平上皮 癌における温度感受性 TRP チャネルの役割. 第 35 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. 2017, 1, 26 - 27. プログラム・抄録集, 182 頁.
486. 合島怜央奈, 檀上敦, 山下佳雄: 口蓋形成術後に ICU 管理を要した小下顎症の 2 例. 第 41 回日本口蓋裂学会総会・学術集会. 2017, 5, 18 - 19. 日本口蓋裂学会雑誌 44 巻 2 号, 抄録号, 88 頁.
487. 合島怜央奈, 曹愛琳, 高イキ, 吉本怜子, 森啓輔, 張旌旗, 大崎康吉, 檀敦, 山下佳雄, 清島保, 城戸瑞穂: TRP チャネルを標的とした口腔癌細胞制御. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. Journal of Oral Biosciences Supplement 2017, 273 頁.
488. 合島怜央奈, 森啓輔, 鶴岡祥子, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 口腔扁平上皮癌に発現する温度感受性 TRPV4 チャネルの機能解. 第 62 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会. 2017, 10, 20 - 22. 日本口腔外科学会雑誌 63, 総会特別号, 306 頁.
489. 檀上敦, 森啓輔, 合島怜央奈, 鶴岡祥子, 下平大治, 山下佳雄: 口腔がん術後に癌性胸膜炎から急速に DIC をきたした 1 例. 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会. 2017, 4, 26 - 28. 日本口腔科学会雑誌 66, 巻 2 号, 161 頁.
490. 檀上敦, 合島怜央奈, 鶴岡祥子, 近藤成智, 隅康二, 山下佳雄: 超音波骨切削器具と回転切削器具によって生じた骨欠損部の修復様式の比較検討. 第 27 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会. 2017, 6, 15 - 16. 日本顎変形症学会雑誌 27 巻 2 号, 119 頁.
491. 檀上敦, 下平大治, 森啓輔, 合島怜央奈, 山下佳雄: 過去 10 年間の当科におけるチタン製再建プレートによる下顎再建症例の検討. 第 21 回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会. 2017, 12, 9 - 10. 日本顎顔面インプラント学会誌 16 (3) : 172 頁.
492. 城戸瑞穂, 吉本怜子, 合島怜央奈, 曹愛琳, 張旌旗, 大崎康吉: 口腔粘膜における温度感受性 TRP チャネルのダイバーシティ. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. Journal of Oral Biosciences Supplement 2017, 159 頁.
493. 森啓輔, 合島怜央奈, 鶴岡祥子, 下平大治, 檀上敦, 久保田英朗, 山下佳雄: 僧防筋に関連痛を併発した変形性顎関節症の 1 例. 第 30 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会・第 22 回一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術大会 共催. 2017, 7, 29 - 30. 日本顎関節学会誌第 29 巻第 30 回大会特別号, 94 頁.
494. 森啓輔, 合島怜央奈, 鶴岡祥子, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 3 歳女兒の上顎骨に発生したエナメル上皮線維腫の 1 例. 第 62 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会. 2017, 10, 20 - 22. 日本口腔外科学会誌 2017 年総会特別号, 214 頁.

495. 下平大治, 森啓輔, 合島怜央奈, 鶴岡祥子, 檀上敦, 山下佳雄: 当科におけるインプラント症例の臨床統計—使用したインプラント体毎の比較検討—. 第 47 回公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会 (公益社団法人日本口腔インプラント学会 第 37 回東北・北海道支部学術大会 併催). 2017, 9, 22 - 24. 第 30 巻 特別号 11 項.
496. 曹愛琳, 高イキ, 吉本怜子, 合島怜央奈, 大崎康吉, 張旌旗, 城戸瑞穂: 喘息モデルマウスの機械的アロディニアと TRPV1. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. Journal of Oral Biosciences Supplement 2017, 325 頁.
497. 鶴岡祥子, 森啓輔, 合島怜央奈, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 歯性感染症が原因で膿胸を併発し不慮の転帰となった症例. 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会. 2017, 4, 26 - 28. 日本口腔科学会雑誌 第 66 巻, 増刊号, 222 頁.
498. 鶴岡祥子, 山口能正, 合島怜央奈, 檀上敦, 山下佳雄: 終末期患者に対して審美的回復を考慮して作製した顎義歯について. 一般社団法人日本顎顔面補綴学会第 34 回総会・学術大会. 2017, 6, 1 - 3. プログラム・抄録集 61 頁.
499. 鶴岡祥子, 森啓輔, 合島怜央奈, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 上下顎骨骨折患者に対し顎内シーネを用いて咬合再建し観血的整復固定を行った症例. 第 62 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術集会. 2017, 10, 20 - 22. 日本口腔外科学会 第 63 巻, 総会特別号, 216 頁.
500. 内田雄基, 森啓輔, 合島怜央奈, 鶴岡祥子, 下平大治, 檀上敦, 重松正仁, 野口信宏, 山下佳雄: 上顎結節領域の口腔外科手術を補助するための後上歯槽動脈に関する解剖学的研究. 第 62 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会. 2017, 10, 20 - 22. 日本口腔外科学会雑誌 63, 総会特別号, 251 頁.
501. 山下佳雄, 合島怜央奈, 森啓輔, 鶴岡祥子, 檀上敦: 大気圧プラズマを用いた口腔がん治療法 開発のための基礎研究. 第 35 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. 2017, 1, 26 - 27. プログラム・抄録集 157 頁.
502. 山下佳雄, 合島怜央奈, 森啓輔, 鶴岡祥子, 下平大治, 檀上敦: 口腔癌に対する外科手術時に同時インプラント埋入手術は妥当か?. 第 41 回日本頭頸部癌学会. 2017, 6, 8 - 9. 日本頭頸部癌学会誌 Vol. 43 (2): 171 頁.
503. 山下佳雄: シンポジウム オールデンタルで臨む顎顔面インプラント「機能回復を目指した顎顔面インプラント治療」. 第 21 回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会. 2017, 12, 9 - 10. 日本顎顔面インプラント学会誌 Vol. 16 (3): 122 頁.
504. 吉本怜子, 合島怜央奈, 大崎康吉, 張旌旗, 曹愛琳, Gao Wei Qi, 清島保, 城戸瑞穂: 温度感受性イオンチャネル TRPV4 は口腔上皮細胞の細胞間接着と運動性を制御する. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会. 2017, 9, 16 - 18. Journal of Oral Biosciences Supplement 2017, 324 頁.
505. 橋本優佑, 宇木望, 小松千夏, 於保恵, 草場耕二, 東谷孝徳, 末岡榮三朗: MALDI TOF - MS にて *Neisseria meningitidis* と誤同定が推定される 2 症例. 第 28 回日本臨床微生物学会総会. 2017, 1, 20 - 22. 第 28 回日本臨床微生物学会総会プログラム・抄録集, p342.
506. 草場耕二: 抗酸菌検査の現状. 第 28 回日本臨床微生物学会総会. 2017, 1, 20 - 22. 第 28 回日本臨床微生物学会総会プログラム・抄録集, p137.

507. 小松千夏, 宇木望, 橋本優佑, 於保恵, 草場耕二, 東谷孝徳, 末岡榮三朗: 血液培養ボトルからの autolysin 遺伝子検出により侵襲性肺炎球菌感染症を診断した一例. 第 28 回日本臨床微生物学会総会. 2017, 1, 20 - 22. 第 28 回日本臨床微生物学会総会プログラム・抄録集, p391.
508. 於保恵, 宇木望, 小松千夏, 橋本優佑, 草場耕二, 東谷孝徳, 末岡榮三朗: 再燃を繰り返す肺ノカルジア症の 1 例. 第 28 回日本臨床微生物学会総会. 2017, 1, 20 - 22. 第 28 回日本臨床微生物学会総会プログラム・抄録集, p341.
509. 浦上宗治, 濱田洋平, 於保恵, 草場耕二, 山口浩樹, 曲渕裕樹, 青木洋介: 腎不全を有する患者におけるダプトマイシンの血中濃度測定と体内動態解析-TDM の必要性についての考察も含めて. 第 91 回日本感染症学会学術講演会 第 65 回日本化学療法学会総会 合同学会. 2017, 4, 6 - 8. 第 91 回日本感染症学会学術講演会 第 65 回日本化学療法学会総会 合同学会 学術講演抄録, p283.
510. 中島千穂, 安部友範, 佐藤明美, 末岡榮三朗, 木村晋也, 荒金尚子: 高感度 EGFR 遺伝子変異検出法における Cellulose beads を用いた DNA 自動抽出装置の有用性. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会. 2017, 6, 14 - 16.
511. 安部友範, 中島千穂, 佐藤明美, 末岡榮三朗, 木村晋也, 荒金尚子: 肺がん患者における血漿遊離 DNA の特性. 第 21 回日本がん分子標的治療学会学術集会. 2017, 6, 14 - 16.
512. 於保恵, 小松千夏, 橋本優佑, 草場耕二, 東谷孝徳, 中村竜也, 永沢善三, 末岡榮三朗: カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌を用いた CIM 改良法 (mCIM) の検討. 第 66 回日本医学検査学会総会. 2017, 6, 17 - 18. 第 61 回日本医学検査学会プログラム集, p47.
513. 末岡榮三朗, 佐藤明美, 中村秀明: 多施設連携を目指したバイオバンクに求められるもの-保存検体の質保障, 検体と医療情報の連結. 第3回クリニカルバイオバンク研究会シンポジウム. 2017, 7, 7 - 9. 第 3 回クリニカルバイオバンク研究会シンポジウムプログラム・抄録集, p28.
514. 中村秀明, 佐藤明美, 渡邊達郎, 板村英和, 末岡榮三朗: HTLV-1 感染者の臨床経過モニタリングにおける HAS-Flow 法の有用性の検討. 第 4 回日本 HTLV-1 学会学術集会. 2017, 8, 18 - 20. O - 34.
515. 加藤匡平, 成田妙子, 船島由美子, 於保恵, 上田修, 宮田浩, 大西武彦, 永沢善三: MALDI Biotyper を用いて迅速同定した Clostridium tetani の一症例. 第 42 回日本医用マススペクトル学会年会. 2017, 9, 14 - 15. 第 42 回日本医用マススペクトル学会年会プログラム・抄録集, p103.
516. 佐藤明美, 中島千穂, 安部友範, 中村秀明, 加藤潤一, 荒金尚子, 木村晋也, 末岡榮三朗: 遺伝子検査における Liquid biopsy 検体の管理・抽出・保存の最適化. 日本臨床検査自動化学会第 49 回大会. 2017, 9, 21 - 23. 日本臨床検査自動化学会誌, Vol. 42 (4) , p445.
517. Tomonori Abe, Chiho Nakashima, Naomi Watanabe, Akemi Sato, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Aragane: Characteristics of cell free DNA in lung cancer patients. 76th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2017, 9, 28-30.
518. Chiho Nakashima, Tomonori Abe, Akemi Sato, Eisaburo Sueoka, Shinya Kimura, Naoko Aragane: DNA extraction method using cellulose magnetic beads can improve the EGFR mutation detection rate. 76th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 2017, 9, 28-30.

519. 安部友範, 中島千穂, 渡邊直美, 佐藤明美, 木村晋也, 荒金尚子: 肺がん患者における血漿遊離 DNA の特性. 第 58 回日本肺癌学会学術集会. 2017, 10, 13 - 15.
520. 中村秀明, 末岡榮三朗, Gradin K, Poellinger L: HIF-1 による転写因子 FOXD1 発現誘導. 第 15 回がんとハイポキシア研究会. 2017, 11, 10 - 11. p25.
521. 永嶋太, 井上聡, 太田美穂, 松田知也, 岩村高志: 当施設における外相外科医の教育. 第 53 回日本腹部救急医学会総会 (シンポジウム 2). 2017, 3, 2 - 3. 第 53 回日本腹部救急医学会総会 Vol37: No2, p232.
522. 小網博之, 坂本雄一郎, 松田知也, 永嶋太, 井上聡: 外傷性凝固障害に対する PT-INR の診断能を再考する. 第 53 回日本腹部救急医学会総会 (一般演題 口演 21). 2017, 3, 2 - 3. 第 53 回日本腹部救急医学会総会 Vol37: No2, p283.
523. 今長谷尚史, 太田美穂, 阪本雄一郎, 櫻井良太, 八幡真由子, 三池徹, 小網博之, 永嶋太, 岩村高志, 井上聡: 呼吸・循環・腎機能は敗血症の生命予後を反映する指標である (qSOFA は有用だと推測される). 第 44 回日本集中治療医学会学術集会 (デジタルポスター1 多臓器不全・敗血症①). 2017, 3, 9 - 11. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会プログラム p106.
524. 今長谷尚史, 太田美穂, 櫻井良太, 宮崎恵美子, 別府美紀, 坂本典子, 今泉香織, 山田クリス孝介, 小網博之, 阪本雄一郎: Evidence Based Medicine (EBM) と Shared Decision Making (SDM) を推進するための多職種チームアプローチ. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会 (デジタルポスター105 倫理・終末期・家族ケア③). 2017, 3, 9 - 11. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会プログラム p140.
525. 小野原貴之, 阪本雄一郎, 小網博之: プレセプシン値は腎臓機能低下時に非感染症例であっても高い傾向にある. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会 (デジタルポスター155 多臓器不全・敗血症⑫). 2017, 3, 9 - 11. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会プログラム p156.
526. 川副友, 宮本恭兵, 山元朋納, 福家顕宏, 小網博之, 別府賢, 片山洋一, 伊藤誠, 山村仁: 人工呼吸管理を要する敗血症患者に対する Dexmedetomidine の臨床的効果に関する他施設ランダム化比較試験. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会 (口演 35 多臓器不全・敗血症③). 2017, 3, 9 - 11. 第 44 回日本集中治療医学会学術集会プログラム p96.
527. 山田クリス孝介, 赤松幹之, 石橋基範, 笠松恵子, 下村義弘, 村木里志, 横井元治, 吉武良治, 榎原毅: 日本人間工学会 (JES) に対する意識調査. 日本人間工学会第 58 回大会併催: The 2nd Asian Conference on Ergonomics and Design (ACED2017) A3(S)-1. 2017, 6, 1 - 4. 日本人間工学会第 58 回大会併催 ACED2017 p. 122 - 123.
528. 永嶋太, 井上聡, 松田知也, 櫻井良太, 太田美穂, 三池徹, 小網博之, 八幡真由子, 岩村高志, 阪本雄一郎: 週数不明妊婦の重症胸腹部外傷に対して緊急海峽回復止血術・帝王切開を施行した一例. 第 31 回日本外傷学会総会・学術集会 (ポスターセッション 12 - 1). 2017, 6, 1 - 2. 日本外傷学会雑誌 2017 Vol. 31: no. 2, p. 301.
529. 永嶋太, 井上聡, 松田知也, 櫻井良太, 太田美穂, 三池徹, 岩村高志, 阪本雄一郎: 外傷外科チーム発足前後の IABO/REBOA. 第 31 回日本外傷学会総会・学術集会 (ポスターセッション 26 - 2). 2017, 6, 1 - 2. 日本外傷学会雑誌 2017 Vol. 31: no. 2, p. 323.

530. 太田好紀, 山村仁, 川副友, 宮本恭兵, 山本朋納, 福家顕宏, 平井康富, 小網博之, 別府 賢, 片山洋一, 伊藤誠, 森本剛: 日本から RCT を発信するにはどうすればよいか~DESIRE トライアルの経験から~. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (PD14 - 2) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p436.
531. 三池徹, 阪本雄一郎, 岩村高志, 永嶋太, 小網博之, 山田クリス孝介, 八幡真由子, 太田美穂, 鳴海翔悟, 櫻井良太, 井上聡: 溶血性蛇毒が及ぼす血液凝固系への影響. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (O35 - 4) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p573.
532. 小野原貴之, 阪本雄一郎, 藤原紳祐, 小網博之, 阪本雄一郎: National Early Warning Score (NEWS) は敗血症性ショック患者の予後予測に有用である. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (O52 - 4) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p592.
533. 小網博之, 阪本雄一郎, 櫻井良太, 太田美穂, 今長谷尚史, 八幡真由子, 梅香満, 三池徹, 永嶋太, 岩村高志, 山田クリス孝介, 井上聡, 山村仁, 川副友, 宮本恭兵, 太田好紀, 森本剛: 敗血症性 AKI における腎代替療法の効果を再考する~DESIRE サブ解析から~. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (O73 - 1) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p616.
534. 櫻井良太, 小網博之, 太田美穂, 鳴海翔悟, 八幡真由子, 梅香満, 三池徹, 永嶋太, 岩村高志, 井上聡, 阪本雄一郎: ミニトラックは気管挿管回避のために有効か. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (P52 - 6) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p683.
535. 中山賢人, 永嶋太, 八幡真由子, 小網博之, 岩村高志, 井上聡, 阪本雄一郎: Bernard-Souliers syndrome の大量喀血に対して気管支ブロックバルーンを挿入することで救命し得た 1 例. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (P67 - 7) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p701.
536. 品田公太, 永嶋太, 櫻井良太, 太田美穂, 鳴海翔悟, 八幡真由子, 三池徹, 小網博之, 岩村高志, 井上聡, 阪本雄一郎: 成傷器の刃先による椎骨動脈損傷にて脳梗塞をきたした一例. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (P67 - 9) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p703.
537. 山田クリス孝介, 山下和也, 櫻井瑛一, 本村陽一, 阪本雄一郎: 臨床研究で利用可能な匿名加工情報の作成手法. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (P75 - 6) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p710.
538. 岩永幸子, 小網博之, 阪本雄一郎: 心肺蘇生によって椎体骨折をきたした高齢女性の 2 症例. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (P80 - 3) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p715.
539. 鳴海翔悟, 小網博之, 櫻井良太, 太田美穂, 八幡真由子, 梅香満, 三池徹, 永嶋太, 岩村高志, 井上聡, 阪本雄一郎: 単純 CT での急性大動脈解離の診断—高次病院に紹介するにあたって造影 CT は必須か. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 (P92 - 1) . 2017, 10, 24 - 26. 第 45 回日本救急医学会雑誌 Vol. 28 : No. 9, September 2017, p729.

540. 永嶋太, 阪本雄一郎, 八幡真由子, 小網博之, 岩村高志, 井上聡: 熊本震災での県境を超えたドクターヘリによる広域連携. 第 24 回日本航空医療学会総会・学術集会 (一般演題 1). 2017, 11, 10 - 11. 日本航空医療学会 2017 Vol. 18 : No. 2, p77.
541. 岩村高志, 品田公太, 岩永幸子, 中山賢人, 櫻井良太, 太田美穂, 鳴海翔悟, 八幡真由子, 梅香満, 三池徹, 小網博之, 永嶋太, 井上聡, 阪本雄一郎: 1・2 次医療機関へ搬送し under triage となった症例に関する検討. 第 24 回日本航空医療学会総会・学術集会 (一般演題 3). 2017, 11, 10 - 11. 日本航空医療学会 2017 Vol. 18 : No. 2, p94.
542. 永嶋太, 阪本雄一郎, 八幡真由子, 三池徹, 小網博之, 岩村高志, 井上聡: 退院まで難渋した重症多発外傷 (胸部, 腹部, 骨盤) の一救命症例. 第 24 回日本航空医療学会総会・学術集会 (ポスター発表 2). 2017, 11, 10 - 11. 日本航空医療学会 2017 Vol. 18 : No. 2, p213.
543. 井上聡, 永嶋太, 小網博之, 八幡真由子, 阪本雄一郎, 岩村高志: 当院における Acute Care Surgery システム: 新しい診療システム構築と米国での経験からの提案. 第 9 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 パネルディスカッション誰が acute care surgery を担うのか?—地域性と多様性—. 2017, 9, 8 - 9. 第 9 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会プログラム p98.
544. 永嶋太, 岩村高志, 小網博之, 阪本雄一郎, 井上聡: 当センターにおける外傷外科医, 救急医, IVR 医の連携. 第 9 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会ワークショップ救命率を向上させる外科と IVR のコラボレーション. 2017, 9, 8 - 9. 第 9 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会プログラム p133.
545. 浦上宗治, 濱田洋平, 於保恵, 草場耕二, 山口浩樹, 曲渕裕樹, 青木洋介: 化 O2 - 053 腎不全を有する患者におけるダプトマイシンの血中濃度測定と体内動態解析—TDM の必要性についての考察も含めて—. 第 91 回日本感染症学会総会・学術講演会, 第 65 回日本化学療法学会学術集会合同学会, 第 42 回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー. 2017, 4, 6 - 8. 感染症学雑誌, 第 91 巻: 臨時増刊号, 283 頁.
546. 岡田貴裕, 井原秀之, 伊東利津, 池田義孝: マンゴー由来 α 1, 3-フコース転移酵素遺伝子 (MIFUT11) の同定・機能解析. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (第 40 回日本分子生物学会年会/第 90 回日本生化学会大会). 2017, 12, 6 - 9. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会プログラム, p256.
547. 渡邊英孝, 東元健, 三宅紀子, 前田寿幸, 樋高秀憲, 青木早織, 八木ひとみ, 西岡憲一, 城主一郎, 松本直通, 副島英伸: NSD1 ハプロ不全は DNA メチル化インプリント異常と遺伝子発現異常を惹起する. 第 11 回日本エピジェネティクス研究会年会. 2017, 5, 22 - 23. 抄録集 p89, ポスター P2 - 18.
548. 城戸瑞穂, 曹愛琳, 吉本怜子, 高琦, 合島怜央奈, 本田裕子, 村田祐造: 喘息モデルマウスにおける機械痛覚過敏. 第 122 回日本解剖学会総会全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. プログラム抄録集 P22.
549. 丸尾浩希, 本田裕子, 城戸瑞穂, 村田祐造: 2 型糖尿病モデルラット唾液腺における糖輸送体の分布. 第 122 回日本解剖学会総会全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. プログラム抄録集 P166.

550. 村田祐造, 本田裕子, 丸尾浩希, 城戸瑞穂: 下垂体後葉ホルモンによる血糖調節と腎臓におけるグルコーストランスポーター. 第 122 回日本解剖学会総会全国学術集会. 2017, 3, 28 - 30. プログラム抄録集 P204.
551. 原めぐみ, 西田裕一郎, 福典之, 田口尚人, 島ノ江千里, 堀田美加子, 河井一明, 李云善, 葛西順, 葛西宏, 檜垣靖樹, 田中恵太郎: ミトコンドリアハプログループDが身体活動量と尿中 8OHdG 濃度の関連に及ぼす影響. 第 27 回日本疫学会学術総会. 2017, 1, 25 - 27. J. Epidemiol. 27, Suppl. 1: 108.
552. 西田裕一郎, 原めぐみ, 福典之, 田口尚人, 堀田美加子, 島ノ江千里, 檜垣靖樹, 田中恵太郎: ミトコンドリアゲノム多型と身体活動が血中アディポネクチン濃度に及ぼす影響. 第 27 回日本疫学会学術総会. 2017, 1, 25 - 27. J. Epidemiol. 27: Suppl. 1, 91.
553. 甲斐敬太, 古賀浩木, 相島慎一, 川口淳, 山地康大郎, 井手貴雄, 上田純二, 能城浩和: 非B非C肝癌切除例におけるオカルト HBV 感染の状況とその術後予後への影響. 第 106 回日本病理学会総会. 2017, 4, 27 - 29. 日本病理学会会誌 106 巻 1 号, Page441.
554. 甲斐敬太, 北村捷, 龍由紀子, 中村光男, 相島慎一: 当院における胆道・膵の細胞診の成功例と教訓例. 第 56 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2017, 11, 18 - 19. プログラム集 p57.
555. 北村捷, 甲斐敬太, 佐藤有記, 龍由希子, 中村光男, 安達真希子, 橋口真理子, 増田正憲, 高瀬ゆかり, 倉富勇一郎, 相島慎一: 良悪性の鑑別に苦慮した小児の顎下腺多形腺腫の 1 例. 第 56 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2017, 11, 18 - 19. プログラム集 p95.
556. 江頭玲子, 山口健, 中園貴彦, 入江裕之, 小野伸之, 吉村麻里子, 甲斐敬太: 菊池病患者に見られたびまん性肺病変の一例. 第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2017, 9, 8 - 10. 抄録集 PageS530.
557. 行元美希, 江頭玲子, 山口健, 中園貴彦, 入江裕之, 荒金尚子, 武田雄二, 甲斐敬太: 骨形成を伴った原発性肺腺癌の一例. 第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2017, 9, 8 - 10. 抄録集 PageS532.
558. 江口有一郎, 高橋宏和: 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) / 非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の臨床検査診断非アルコール性脂肪肝炎の拾い上げは臨床検査室が切り札. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会 第 29 回世界病理臨床検査医学会連合会議. 2017, 11, 15 - 19. 臨床病理 (0047 - 1860) 65 巻補冊, Page049.
559. 垣内俊彦, 松尾宗明, 江口有一郎: B型肝炎ワクチン定期接種における広報方法と医療従事者の認知度調査. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 1, Page A472.
560. 片桐さやか, 高橋宏和, Hua Ning, 北島陽一郎, Hamilton James, 江口有一郎, 安西慶三: 高脂肪食マウスにおける脂肪肝と骨格筋脂肪蓄積との関連. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 糖尿病 (0021 - 437X) 60 巻 Suppl. 1, Page S - 470.

561. 河口康典, 吉岡航, 野下祥太郎, 高橋宏和, 江口有一郎, 尾崎岩太, 岡田倫明, 柳田公彦, 小平俊一, 井手康史, 安武努, 川副広明, 水田敏彦: DAA 治療による HCV 排除後の肝発癌抑制効果および肝発癌危険因子の検討. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓(0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 1, Page A210.
562. 河田望美, 井上佳奈子, 松田やよい, 安西慶三, 井上瑛, 中尾仁美, 山崎有菜, 山内寛子, 小島基靖, 幸島茜, 秋山巧, 村山賢一, 岩根紳治, 大枝敏, 江口有一郎: 非肝臓専門医における NAFLD/NASH 診断の重要性. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 糖尿病 (0021 - 437X) 60 巻 Suppl. 1, Page S - 348.
563. 河田望美, 高橋宏和, 井上瑛, 美奈川仁美, 山内寛子, 井上佳奈子, 松田やよい, 秋山巧, 岩根紳治, 江口有一郎, 安西慶三: NAFLD/NASH 診断における Ffib-4IIndexx の役割. 第 17 回日本糖尿病情報学会年次学術集会. 2017, 9, 2 - 3. 日本糖尿病情報学会年次学術集会プログラム・抄録集 17 回 Page30.
564. 北島陽一郎, 高橋宏和, 村山賢一郎, 濱岡和宏, 小野尚文, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三: ロイシンリッチアミノ酸含有食品が非アルコール性脂肪性肝疾患患者における運動療法に与える効果. 第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2017) 第 59 回日本消化器病学会大会・第 94 回日本消化器 内視鏡学会総会・第 21 回日本肝臓学会大会・第 15 回日本消化器外科学会大会・第 55 回日本消化器がん検診学会大会. 2017, 10, 12 - 15. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 2, Page A643.
565. 北島陽一郎, 高橋宏和, 田中賢一, 村山賢一郎, 濱岡和宏, 小野尚文, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三: NAFLD 患者に対するロイシンリッチアミノ酸含有食品を付加した運動療法の効果. 第 38 回日本肥満学会. 2017, 10, 7 - 8. 肥満研究 (1343 - 229X) 23 巻 Suppl. , Page171.
566. 窪津祥仁, 岩根紳治, 野下祥太郎, 吉岡航, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: NAFLD の病態と生活の質との関連. 第 25 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2017) 第 59 回日本消化器病学会大会・第 94 回日本消化器内視鏡学会総会・第 21 回日本肝臓学会大会・第 15 回 日本消化器外科学会大会・第 55 回日本消化器がん検診学会大会. 2017, 10, 12 - 15. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 2, Page A643.
567. 松本康恵, 安藤彩, 大島まゆみ, 田辺一郎, 東谷幸徳, 大枝敏, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 末岡榮三朗: Shear Wave Elastography における測定値の信頼性表示の有用性. 第 42 回日本超音波検査学会学術集会. 2017, 6, 16 - 18. 超音波検査技術 (1881 - 4506) 42 巻 Suppl., Page S256.
568. 村山賢一郎, 高橋宏和, 北島陽一郎, 磯田広史, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 小野尚史, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三: 持続血糖測定を用いた肝硬変における糖代謝異常の評価と骨格筋の関連. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 糖尿病 (0021 - 437X) 60 巻 Suppl. 1, Page S - 496.
569. 尾崎岩太, Manirjjaman Md, 田中賢一, 小島基靖, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: 分岐鎖アミノ酸 (BCAA) による腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現調節. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 1, Page A285.
570. 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: NAFLD・NASH 病態生理の最新知見と治療戦略 次世代シーケンサーによるマウス肝における運動効果の解析. 第 103 回日本消化器病学会総会. 2017, 4, 20 - 22. 日本消化器病学会雑誌 (0446 - 6586) 114 巻臨増総会 Page A53.

571. 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : NASH 発症の分子機構と治療戦略肝臓における運動効果の検討. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 1, Page A75.
572. 高橋宏和, 江口有一郎, Goodyear Laurie, 安西慶三 : 運動惹起性アディポカインの探索. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 糖尿病 (0021 - 437X) 60 巻 Suppl. 1, Page S - 387.
573. 高橋宏和, 中原隆志, 江口有一郎 : 生活習慣病と肝疾患 C 型慢性肝炎に対する直接作用型抗ウイルス薬治療での HbA1c の変化. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 1, Page A157.
574. 高橋宏和, 中原隆志, 今城健人, 小木曾智美, 川中美和, 藤井英樹, 兵庫秀幸, 川口巧, 角田圭雄, 小野正文, 鎌田佳宏, 徳重克年, 西原利治, 中島淳, 安西慶三, 江口有一郎 : C 型慢性肝炎治療における HbA1c の変化. 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017, 5, 18 - 20. 糖尿病 (0021 - 437X) 60 巻 Suppl. 1, Page S - 496.
575. 高橋宏和, 大枝敏, 小野尚文 : 活かせ! 超音波エラストグラフィ肝線維化を診るなぜ今超音波による肝線維化診断が必要なのか?. 第 42 回日本超音波検査学会学術集会. 2017, 6, 16 - 18. 超音波検査技術 (1881 - 4506) 42 巻 Suppl. , Page S71.
576. 田中賢一, 高橋宏和, 北島陽一郎, 尾崎岩太, 江口有一郎, 安西慶三 : 2 型糖尿病における liraglutide による脂肪減少効果とメカニズム. 第 38 回日本肥満学会. 2017, 10, 7 - 8. 肥満研究 (1343 - 229X) 23 巻 Suppl. , Page212.
577. 祖川倫太郎, 西村文, 江越寿美代, 木村早希子, 田崎正信, 成澤寛 : 入院前の常用薬確認において時間を有する要因の解析. 第 27 回日本医療薬学会年会. 2017, 11, 3 - 5. プログラム集 p94.
578. 飛田修康, 前田美由紀, 祖川倫太郎, 木村早希子, 田崎正信, 成澤寛 : リバステグミン経皮吸収型製剤導入時における保湿外用剤併用の有用性の検討. 日本薬学会第 137 年会 (仙台). 2017, 3, 24 - 27. 日本薬学会第 137 年会プログラム P. 186.
579. 山口真由美, 宮之下さとみ, 原田由美子, 藤満幸子, 山田クリス孝介, 渡辺健太郎, トムホープ, 小早川真衣子, 須永剛司 : 電子カルテがもたらした看護への影響. 第 64 回日本デザイン学会春季研究発表大会. 2017, 6, 30 - 7, 2. 第 64 回日本デザイン学会春季研究発表大会プログラム.
580. 尾崎岩太, Manirujjaman Md, 田中賢一, 小島基靖, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子 : 分岐鎖アミノ酸 (BCAA) による腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現調節. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 2017 ; 58 (Suppl 1) : A285.
581. 河口康典, 吉岡航, 野下祥太郎, 高橋宏和, 江口有一郎, 尾崎岩太, 岡田倫明, 柳田公彦, 小平俊一, 井手康史, 安武努, 川副広明, 水田敏彦 : DAA 治療による HCV 排除後の肝発癌抑制効果および肝発癌危険因子の検討. 第 53 回日本肝臓学会総会. 2017, 6, 8 - 9. 肝臓 2017 ; 58 (Suppl 1) : A210.
582. Manirujjaman Md, Ozaki I, Guo J, Xia J, Tanaka K, Takahashi H, Anzai K, Matsuhashi S: Degradation of PDCD4, a tumor suppressor, is regulated by both proteasome and autophagy. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 : 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 2P - 0438.

583. 郭婧, 尾崎岩太, 夏京合, Manirujjaman Md, 桑代卓也, 小島基靖, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating p21 expression. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 2P - 0449.
584. 夏京合, 尾崎岩太, 郭婧, Manirujjaman Md, 田中賢一, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: ヒト肝癌細胞において BCAA による YAP 転写因子阻害における PKC アイソフォームの役割. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 2P - 0451.
585. 城圭一郎, 西岡憲一, 北嶋修司, 松久葉一, 河野友宏, 古関明彦, 副島英伸: マウス Zrsr1 DMR の転写は卵ではメチル化を起こすが, 体細胞ではメチル化を起こさない. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 講演要旨集.
586. 北嶋修司, 松久葉一, 西島和俊, 森本正敏: ウサギにおける生殖工学技術の現状と今後の課題 (シンポジウム「生殖工学技術における問題点とその克服に向けて」). 第 51 回日本実験動物技術者協会総会 2017 山形大会. 2017, 10, 12 - 14. 講演要旨集 p47.
587. Niimi M, Nishijima K, Kitajima S, Matsuhisa F, Satoh K, Fan J: Macrophage-derived matrix metalloprotease-1 accelerates aortic aneurysm formation in transgenic rabbits. 第 49 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2017, 7, 6 - 7. web 抄録.
588. 岡本純英, 上田泰子, 松尾恵子, 佐藤春菜, 福嶋倫子, 秋吉俊明, 松尾完, 南志穂, 金子亜絵理, 古川晋也, 長野純大, 山口敦巳: 調節卵巣刺激の卵胞発育評価は 3D 超音波 volume 測定に限る. 第 35 回日本受精着床学会総会・学術講演会. 2017, 7, 20 - 21. 講演要旨集 p152.
589. 岡本純英, 上田泰子, 松尾恵子, 佐藤春菜, 福嶋倫子, 古川晋也, 金子亜絵理, 南志穂, 松尾完, 秋吉俊明, 長野純大, 山口敦巳: 3 次元超音波 volume 評価による ART 調節卵巣刺激卵胞計測の意義. 第 58 回日本卵子学会学術集会. 2017, 6, 2 - 3. 講演要旨集 p53.
590. 寺東宏明, 徳山由佳, 澤尻昌彦, 保田浩志: DNA damage and the repair induced by low dose rate ionizing radiation. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会. 2017, 12, 6 - 9. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会プログラム 295 頁.
591. 寺東宏明, 徳山由佳, 澤尻昌彦, 保田浩志: 低線量率放射線によって生じる細胞内 DNA 損傷の動態. 日本放射線影響学会第 60 回大会. 2017, 10, 25 - 28. 日本放射線影響学会第 60 回大会講演要旨集, 167 頁.
592. 徳山由佳, 森加奈恵, 平山亮一, 古澤佳也, 寺東宏明: 重粒子放射線の直接作用により生じる変異解析と DNA 損傷分析. 日本放射線影響学会第 60 回大会. 2017, 10, 25 - 28. 日本放射線影響学会第 60 回大会講演要旨集, 155 頁.
593. 森加奈恵, 真瀬田幹生: 佐賀大学における研究設備運営体制の強化に対する取組み. 2017 年度機器・分析技術研究会 in 長岡. 2017, 8, 29 - 30. 機器・分析技術研究会報告集, 96 - 97 頁.

594. 北島将, 田中里紀, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 強直股と高位脱臼股の立脚期での歩行解析. 第 44 回日本股関節学会学術集会. 2017, 10, 20 - 10, 21. 抄録集: 460.
595. 古畑友基, 田中里紀, 上野雅也, 河野俊介, 北島将, 園畑素樹, 堀川悦夫, 馬渡正明: 片側人工股関節全置換術前後の三次元歩行解析—術前の脚長差による検討—. 第 90 回日本整形外科学会学術総会. 2017, 5, 18 - 5, 21. 日整会誌 91 (2): S551.
596. 田中里紀, 北島将, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 堀川悦夫, 馬渡正明: 転子下骨切り併用人工股関節全置換術後 5 年間の歩行の回復—片側高位脱臼の分類による検討— (スペシャルポスター). 第 44 回日本股関節学会学術集会. 2017, 10, 20 - 10, 21. 抄録集: 592.
597. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 片側転子下骨きり併用人工股関節全置換術後 5 年間の歩行の経時的変化—高位脱臼股の分類別による検討—. 第 47 回日本人工関節学会. 2017, 02, 24 - 2, 25. 抄録集: 542.
598. 田中里紀, 北島将, 上野雅也, 古畑友基, 河野俊介, 園畑素樹, 馬渡正明: 片側転子下骨切り併用人工股関節全置換術後の三次元歩行解析—術後 5 年間の経時的変化—. 第 90 回日本整形外科学会学術総会. 2017, 5, 18 - 5, 21. 日整会誌 91 (2): S542.
599. 中村秀明, 佐藤明美, 渡邊達郎, 板村英和, 末岡榮三朗: HTLV-1 感染者の臨床経過モニタリングにおける HAS-Flow 法の有用性の検討. 第 4 回日本 HTLV-1 学会学術集会. 2017, 8, 18 - 20. 抄録集.
600. 嬉野博志, 進藤岳郎, 楠木靖史, 宮崎有紀, 小島裕人, 田中秀則, 佐治博夫, 川口淳, 木村晋也: CML 患者の TKI 治療効果は KIR3DL1 allele 及び HLA-B 多型の genotyping を行うことで予測できる. 第 79 回日本血液学会学術集会. 2017, 10, 20 - 22. 臨床血液.
601. 嬉野博志, 進藤岳郎, 楠木靖史, 宮崎有紀, 小島裕人, 田中秀則, 佐治博夫, 川口淳, 木村晋也: 慢性骨髄性白血病における KIR と HLA のアレル多型はチロシンキナーゼ阻害剤の治療効果と相関する. 第 26 回日本組織適合性学会大会. 2017, 10, 27 - 29. MHC.
602. 荒井健一, 小島敦子, 迎洋輔, 伊藤学, 森田茂樹, 中山功一: バイオ 3D プリンタを用いたチューブ型心筋構造体の作製. 第 16 回日本再生医療学会総会. 2017, 3, 7 - 9. 日本再生医療学会雑誌, Vol. 16: 276.

地方規模の学会

1. 高椋利幸：量子ビームを用いたイオン液体の物性分析. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 北九州. 2017, 7.
2. 河野雅大, 梅木辰也, 高椋利幸：イミダゾリウム系イオン液体 C4mimTFSA とシクロエーテルのミクロスコピックな混合状態. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 北九州. 2017, 7.
3. 原口知也, 宝蔵寺佑輔, 櫻井裕之, 貞包浩一郎, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 高椋利幸：アルコール・水混合溶液中における Lysozyme の高次構造変化の観測. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 北九州. 2017, 7.
4. 小川 輝, 川頭祐太郎, 櫻井裕之, 貞包浩一郎, 岩瀬裕希, 梅木辰也, 小堤和彦, 高椋利幸：C2mimTFSA-アルコール混合溶液中における Ni²⁺の錯形成平衡と熱力学. 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 北九州. 2017, 7.
5. 丸尾浩希, 本田裕子, 城戸瑞穂, 村田祐造：2 型糖尿病モデルラット唾液腺における糖輸送体の分布. 日本解剖学会 第 73 回九州支部学術集会. 2017, 10, 28. 第 73 回日本解剖学会九州支部学術集会抄録集 p11.
6. 塩谷孝夫：遺伝子改変マウスのための 3 分インスタント gDNA 標本の開発. 第 68 回西日本生理学会. 2017, 10, 6 - 7. 日本生理学雑誌, 80(2), 29.
7. 馬郡信弥, 藤田亜美, 鈴木里佳, 王翀, 楊帆, 熊本栄一：ヒノキチオールとその関連物質による蛙坐骨神経の複合活動電位の抑制. 第 68 回西日本生理学会. 2017, 10, 6 - 7. 第 68 回西日本生理学会プログラム・要旨集：23.
8. 鈴木里佳, 藤田亜美, 水田恒太郎, 馬郡信弥, 王翀, 楊帆, 熊本栄一：非ステロイド性抗炎症薬による蛙坐骨神経の複合活動電位の抑制とその化学構造. 第 68 回西日本生理学会. 2017, 10, 6 - 7. 第 68 回西日本生理学会プログラム・要旨集：24.
9. 王翀, 藤田亜美, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 楊帆, 熊本栄一：ラット脊髄膠様質ニューロンにおける自発性の GABA やグリシンを介する抑制性シナプス伝達に及ぼすオレキシンBの作用. 第 68 回西日本生理学会. 2017, 10, 6 - 7. 第 68 回西日本生理学会プログラム・要旨集：14.
10. 余婷, 藤田亜美, 王翀, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 楊帆, 熊本栄一：植物由来物質によるラット 脊髄膠様質の TRPA1 チャンネル活性化とその構造活性関連. 第 68 回西日本生理学会. 2017, 10, 6 - 7. 第 68 回西日本生理学会プログラム・要旨集：23.
11. 甲斐敬太, 北村捷, 中村光男, 相島慎一：細胞診領域におけるセルブロック法の意義と現状：当院におけるセルブロック作成の現状と課題. 第 33 回日本臨床細胞学会九州連合会学会. 2017, 7, 15 - 16. プログラム集 p24.
12. 北村捷, 甲斐敬太, 佐藤有記, 龍由希子, 中村光男, 安達真希子, 橋口真理子, 増田正憲, 高瀬ゆかり, 倉富勇一郎, 相島慎一：良悪性の鑑別が困難であった小児の顎下腺多形腺腫の 1 例. 第 33 回佐賀県臨床細胞学会地方会. 2017, 3, 4. プログラム集 p3.
13. 青木茂久：Fabry 病が疑われる IgA 腎症の 1 男児例. 第 18 回九州沖縄腎生検フォーラム. 2017, 7, 29. 抄録集.

14. 河田康祐：佐賀県の未熟児網膜症診療. 第 61 回九州ブロック学校保健・学校医大会平成 29 年度九州学校検診協議会（年次大会）. 2017, 8, 5 - 6. 抄録集.
15. 山本美保子, 米満伸久：肺腫瘍. 第 360 回スライドコンファレンス. 2017, 11, 11. 抄録集.
16. 市場正良, 小島昌一：健康・省エネ住宅の推進－住宅の断熱化と健康調査－. 室内環境学会九州支部 第 10 回研究発表会. 2017, 1, 27. 抄録集 13 - 14.
17. 高木佑介, 味志綾子, 松本明子, 市場正良：HbA1c の季節変動を考慮した健康診断や保健指導の重要性. 平成 29 年度日本産業衛生学会九州地方会学会. 2017, 7 - 14 - 15. 抄録集.
18. 川久保善智, 中野充, 竹下直美, 倉岡晃夫：三重津海軍所跡から出土した周産期人骨について. 日本解剖学会第 73 回九州支部学術集会. 2017, 10, 28. 第 73 回日本解剖学会九州支部学術集会抄録集：13.
19. 小山宏義, 大野憲五, 竹下直美：水死か溺死か. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会. 2017, 11, 24 - 25. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会抄録集：15.
20. 竹下直美, 川久保善智, 大野憲五, 小山宏義：佐賀城下町入口の橋跡でみつかったヒト頭蓋について. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会. 2017, 11, 24 - 25. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会抄録集：17.
21. 大野憲五, 川久保善智, 竹下直美, 小山宏義：佐賀市蛸久遺跡 2 区から出土した中世人骨の形質. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会. 2017, 11, 24 - 25. 第 67 回日本法医学会学術九州地方集会抄録集：18.
22. 柏戸佑介, 水木伸一, 澤部琢哉, 永野修司, 西坂浩明, 吉澤誠司, 吉澤滋, 都留智巳, 井上靖, 上田尚靖, 大田俊一郎, 末永康夫, 宮村知也, 多田芳史, 新納宏昭, 堀内孝彦：関節リウマチ患者における生物学的製剤投与中の感染症入院後の経過についての検討. 第 53 回九州リウマチ学会. 2017, 3, 11 - 12. 第 53 回九州リウマチ学会抄録集 P59.
23. 小野伸之, 井上靖, 井上久子, 上田尚靖, 押領司健介, 大田俊一郎, 大木泰孝, 永野修司, 澤部琢哉, 徳田悠希子, 植木尚子, 三宅勝久, 宮村知也, 吉澤誠司, 多田芳史：高齢者 ANCA 関連血管炎に対するリツキシマブ治療. 第 53 回九州リウマチ学会. 2017, 3, 11 - 12. 第 53 回九州リウマチ学会抄録集 P61.
24. 丸山暁人, 堺真梨子, 徳田悠希子, 貞永裕梨, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史：ミコフェノール酸モフェチル使用中に帯状疱疹を発症した SLE の 2 例. 第 53 回九州リウマチ学会. 2017, 3, 11 - 12. 第 53 回九州リウマチ学会抄録集 P72.
25. 堺真梨子, 貞永裕梨, 丸山暁人, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史：TNF α 阻害薬使用中に SLE を発症した 3 症例. 第 53 回九州リウマチ学会. 2017, 3, 11 - 12. 第 53 回九州リウマチ学会抄録集 P80.
26. 小荒田秀一, 小峰光徳, 堺真梨子, 貞永裕梨, 丸山暁人, 小野伸之, 尾形善康, 多田芳史：関節エコー完全寛解によるバイオフィリー寛解維持の長期予測. 第 53 回九州リウマチ学会. 2017, 3, 11 - 12. 第 53 回九州リウマチ学会抄録集 P84.

27. 小荒田秀一, 坪井雅彦, 古峯光徳, 尾形善康, 堺真梨子, 貞永裕梨, 丸山暁人, 小野伸之, 多田芳史: 関節エコーを用いた関節リウマチにおける生物製剤投与後の残存関節炎に対するセルトリズマブの有効性の検討. 第 54 回九州リウマチ学会. 2017, 9, 2 - 3. 第 54 回九州リウマチ学会抄録集 P86.
28. 木村俊一郎, 貞永裕梨, 丸山暁人, 堺真梨子, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史: 関節リウマチに伴う滑膜炎にて脳神経障害を来した 1 例. 第 54 回九州リウマチ学会. 2017, 9, 2 - 3. 第 54 回九州リウマチ学会抄録集 P87.
29. 丸山暁人, 小野伸之, 堺真梨子, 貞永裕梨, 小荒田秀一, 多田芳史: 炎症性筋炎における血清 I 型インターフェロン活性と自己抗体の関連. 第 54 回九州リウマチ学会. 2017, 9, 2 - 3. 第 54 回九州リウマチ学会抄録集 P102.
30. 福井翔一, 岩本直樹, 桑原綾子, 有信洋二郎, 多田芳史, 赤司浩一, 川上純: 高安動脈炎と巨細胞性動脈炎の末梢血サイトカインプロファイルの検討. 第 54 回九州リウマチ学会. 2017, 9, 2 - 3. 第 54 回九州リウマチ学会抄録集 P106.
31. 末永敦彦, 貞永裕梨, 堺真梨子, 丸山暁人, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史: ニボルマブ投与後に発症した大腿筋炎に対しステロイドが著効した 1 例. 第 54 回九州リウマチ学会. 2017, 9, 2 - 3. 第 54 回九州リウマチ学会抄録集 P108.
32. 八並由樹, 貞永裕梨, 堺真梨子, 丸山暁人, 小野伸之, 小荒田秀一, 多田芳史: ハイドロキクシロロキンおよびタクリムスの併用治療が有効であった突発性血小板減少性紫斑病の 1 例. 第 319 回日本内科学会九州地方会. 2017, 10, 29. 第 319 回日本内科学会九州地方会抄録集 P43.
33. 上床希久, 薬師寺祐介, 江里口誠, 河本和裕, 原英夫: ステロイド療法で認知機能と活動性アミロイド関連画像異常が改善した一例. 第 220 回日本神経学会九州地方会. 2017, 12, 16. 第 220 回日本神経学会九州地方会プログラム・抄録集 p23.
34. 平川治樹, 小宮一利, 栗原有紀, 中島千穂, 田中将英, 中村朝美, 高橋浩一郎, 木村晋也, 荒金尚子: 再々生検にて T790M 陽性を確認し得た EGFR 遺伝子変異陽性肺癌の 1 例. 第 57 回日本肺癌学会九州支部学術集会 第 40 回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 2017, 2, 24 - 25, 鹿児島. 抄録集.
35. 木塚遥菜, 安藤寿彦, 七田茂輝, 草場香那, 佐野晴彦, 板村英和, 下村光洋, 進藤岳郎, 久保田寧, 小島研介, 野出孝一, 木村晋也: 劇症型心筋症として発症した骨髄移植後の cGVHD の 1 例. 第 7 回日本血液学会九州地方会. 2017, 3, 11. 臨床血液, 58, 701.
36. 中尾真実, 山田麻里江, 山田尚友, 久保田寧, 木村晋也, 末岡榮三朗: B + O 血液型キメラにおいて不規則抗 B が疑われた一症例. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会第 64 回総会・第 85 回例会. 2017, 12, 16. 日本輸血細胞治療学会誌, 製本中.
37. 中島千穂, 安部友範, 木村晋也, 荒金尚子: 高感度 EGFR 遺伝子変異検出法における DNA 自動抽出法の有用性. 第 57 回日本肺癌学会九州支部学術集会 第 40 回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会. 2017, 2, 24 - 25, 鹿児島. 抄録集.

38. 貞松宏典, 井上周, 梅口仁美, 高橋浩一郎, 荒金尚子: 胃癌の肺転移により発症した緊張性気胸の一剖検例. 第 79 回日本呼吸器学会・日本結核病学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部 秋季学術講演会. 2017, 9, 22 - 23, 別府. 抄録集.
39. 田中将英, 高橋浩一郎, 貞松宏典, 早瀬百々子, 平川治樹, 小楠真典, 中村朝美, 小宮一利, 木村晋也, 荒金尚子: COPD 患者における心肺運動負荷試験 (CPET) の検討. 第 79 回日本呼吸器学会・日本結核病学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会九州支部 秋季学術講演会. 2017, 9, 22 - 23, 別府. 抄録集.
40. 田代宏樹, 高橋浩一郎, 辻百々子, 平川治樹, 栗原有紀, 安部友範, 中島千穂, 小宮一利, 田中将英, 中村朝美, 荒金尚子: 長期経過を観察できた Multicentric Castleman's Disease の一症例. 第 78 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部春季学術講演会. 2017, 3, 11, 福岡. 抄録集.
41. 嬉野博志, 進藤岳郎, 楠木靖史, 宮崎有紀, 小島裕人, 田中秀則, 佐治博夫, 川口淳, 木村晋也: 慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤の効果は KIR アリルと相関する. 第 15 回 日本組織適合性学会近畿地方会. 2017, 2, 4. MHC24 巻 1 号 29 頁.
42. 山田麻里江, 山田尚友, 中尾真実, 久保田寧, 木村晋也, 末岡榮三朗: 当院で作製した輸血検査 DVD を用いた地域への貢献について. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会第 64 回総会・第 85 回例会. 2017, 12, 16. 日本輸血細胞治療学会誌, 製本中.
43. 八並由樹, 小宮一利, 辻百々子, 栗原有紀, 平川治樹, 田中将英, 中村朝美, 高橋浩一郎, 荒金尚子: MET エクソン 14 スキッピング変異を認めた非小細胞肺癌の 2 症例. 第 78 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部 春季学術講演会. 2017, 3, 11, 福岡. 抄録集.
44. 吉永優, 田中将英, 栗原有紀, 小宮一利, 中村朝美, 高橋浩一郎, 荒金尚子: 急激な病状の悪化により生前診断が困難であった PTTM の一剖検例. 第 78 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部 春季学術講演会. 2017, 3, 11, 福岡. 抄録集.
45. 本郷玄, 矢島あゆむ, 夏秋政浩, 挽地裕, 野出孝一: 治療方針, タイミングに難渋した, 繰り返す消化管潰瘍出血を合併した不安定狭心症の一例. 第 24 回日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 九州・沖縄地方会/第 1 回冬季症例検討会. 2017, 1, 14. プログラム・抄録集: 46.
46. 田中敦史, 川口淳, 尾山純一, 野出孝一: 糖尿病治療薬の組合せの違いは頸動脈の IMT 進展度に影響する: PROLOGUE Study のサブグループ解析より. 第 122 回日本循環器学会九州地方会. 2017, 6, 24. プログラム: 25.
47. 末永敦彦, 柚木純二, 野上英次郎, 井上洋平, 坂本佳子, 下村光洋, 挽地裕, 田中厚寿, 野出孝一, 古川浩二郎: 新たな自己拡張型 EvolutR で施行した機械弁による僧帽弁置換術後の TAVI の 1 例. 第 122 回日本循環器学会九州地方会. 2017, 6, 24. プログラム: 32.
48. 七田茂樹, 安心院法樹, 東友梨恵, 金子哲也, 井上洋平, 長友大輔, 矢島あゆむ, 坂本佳子, 樋渡敦, 白木綾, 下村光洋, 浅香真知子, 小松愛子, 琴岡憲彦, 尾山純一, 挽地裕, 野出孝一: 心アミロイドーシスを疑ってピロリン酸シンチグラフィを施行した 5 例の検討. 第 122 回日本循環器学会九州地方会. 2017, 6, 24. プログラム: 44.

49. 安心院法樹, 長友大輔, 金子哲也, 井上洋平, 矢島あゆむ, 樋渡敦, 坂本佳子, 下村光洋, 浅香真知子, 小松愛子, 琴岡憲彦, 挽地裕, 古山浩二郎, 野出孝一: 診断に難渋し術中所見で診断に至った僧帽弁感染性心内膜炎の1例. 第122回日本循環器学会九州地方会. 2017, 6, 24. プログラム: 45.
50. 挽地裕: Newer Generation DES Resolute Onyx. 第42回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会. 2017, 7, 15. プログラム: 14.
51. 挽地裕: Resolute Onyx overview -What the Difference from current DES-. 第25回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 2017, 9, 8-9. ランチョン.
52. 後藤優季, 夏秋政浩, 金子哲也, 本郷玄, 井上洋平, 挽地裕, 野出孝一: Bentall 手術後急性期に両側冠動脈狭窄を認めた一例. 第25回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会. 2017, 9, 8-9. プログラム: 32.
53. 梶原正貴, 金子哲也, 夏秋政浩, 七田茂樹, 安心院法樹, 本郷玄, 井上洋平, 内野真純, 矢島あゆむ, 小松愛子, 琴岡憲彦, 挽地裕, 野出孝一: 心房リードの穿孔により気胸及び縦隔気腫を合併した1例. 第123回日本循環器学会九州地方会. 2017, 12, 2. プログラム: 51.
54. 島内浩太, 野上英次郎, 柚木純二, 桑野彰人, 迎洋輔, 三浦大介, 井上洋平, 坂本佳子, 挽地裕, 古舘晃, 高松正憲, 伊藤学, 田中厚寿, 西田誉浩: 緩徐に進行した弁逸脱に対して 2ndvalve で対応した EvolutR を用いた TAVI の一例. 第123回日本循環器学会九州地方会. 2017, 12, 2. プログラム: 38.
55. 後藤優季, 夏秋政浩, 金子哲也, 本郷玄, 井上洋平, 挽地裕, 野出孝一: Bentall 手術後急性期に両側冠動脈狭窄を認めた一例. 第123回日本循環器学会九州地方会. 2017, 12, 2. プログラム: 42.
56. 池田裕貴, 内海沙織, 片伯部幸子, 金谷晶子, 福成健一, 金谷誠司, 宿輪三郎, 池田裕次: ESD にて症状改善を得たボールバルブ症候群の胃病変2例. 第316回日本内科学会九州地方会. 2017, 1, 21. 抄録集.
57. 陣内寛, 陣内謙一, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 2 次性副甲状腺機能亢進症に対するエテルカルセチドの有効性. 第50回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
58. 山崎政虎, 中島明希, 前田篤宏, 前田麻木, 前田利朗, 橋本康平, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 血液透析患者の2型糖尿病治療におけるデュラグルチドの効果について. 第50回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
59. 竹下千紘, 松本圭一郎, 泉枝理子, 高島毅, 橋本康平, 野中康德, 福田誠, 山崎政虎, 宮園素明, 池田裕次: 脳出血で死亡した抗 GBM 抗体型糸球体腎炎の1例. 第50回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
60. 大家さつき, 橋本康平, 山崎政虎, 野中康德, 福田誠, 岸知哉, 宮園素明, 池田裕次: 陰茎部潰瘍を認めた血液透析患者の一例. 第50回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
61. 力武修一, 山崎政虎, 陣内唯, 中村恵, 明石道昭, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) による感染性心内膜炎を来した透析患者の一部検例. 第50回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.

62. 末永敦彦, 橋本康平, 七田茂輝, 山崎政虎, 野中康德, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: シベンゾリン中毒による低心拍出症候群に対して CHDF による全身管理を併用した一例. 第 50 回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
63. 中村恵, 陣内唯, 力武修一, 増本和之, 福田誠, 宮園素明, 池田裕次: 当院における重症下肢病変を有する透析患者の検討. 第 50 回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
64. 河野雅法, 富吉義幸, 北島聡, 福島達朗, 岸知恵, 中山正道, 谷川雅彦, 池田裕次, 酒見隆信: 剖検にて, 全身性アミロイドーシスと肺外乾酪性肉芽腫が明らかとなった透析導入間もない腎不全患者の 1 例. 第 50 回九州人工透析研究会総会. 2017, 12, 3. 抄録集.
65. 川内孝次郎, 坂田資尚, 下田良, 鶴岡ななえ, 白井慎平, 行元崇浩, 藤本一眞: 直腸 Pyogenic granuloma の 1 例. 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会・第 110 回日本消化器病学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集 104.
66. 乙木祐介, 白井慎平, 川内孝次郎, 行元崇浩, 鶴岡ななえ, 下田良, 坂田資尚, 藤本一眞: CA125 の高値を契機に発見された結核性腹膜炎. 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会・第 110 回日本消化器病学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集 153.
67. 里梨節, 川内孝次郎, 下田良, 坂田資尚, 鶴岡ななえ, 白井慎平, 行元崇浩, 藤本一眞: 内視鏡治療により根治しうる段階で発見された胃底腺型胃癌の 1 例. 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会・第 110 回日本消化器病学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集 162.
68. 白井慎平, 伊東陽一郎, 田中雄一郎, 山本甲二, 鶴岡ななえ, 坂田資尚, 下田良, 岩切龍一, 藤本一眞: 大腸癌との鑑別に苦慮した炎症性ポリープの 1 例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会・第 109 回日本消化器病学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集 113.
69. 秋山巧, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 村山賢一郎, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 戸山真吾, 塩山善之: 肝癌に対する炭素イオン線治療 (C-ionRT) の有用性. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (シンポジウム). 2017, 5, 19 - 20. 抄録集: 82.
70. 蒲池紗央里, 有尾啓介, 池田圭, 竹内祐樹, 松本耕輔, 山口太輔, 森崎智仁, 網田誠司: 当院における肝癌に対する PEI 症例の検討. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集: 125.
71. 北島陽一郎, 高橋宏和, 村山賢一郎, 濱岡和宏, 小野尚文, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三: ロイシンリッチアミノ酸含有食品を付加した運動療法が非アルコール性脂肪性肝疾患患者における線維化抑制に与える効果. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, suppl (3): A840.
72. 木村俊一郎, 窪津祥仁, 村山賢一郎, 西岡千佳, 吉岡航, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 甲斐敬太, 相島慎一, 江口有一郎: PSC との鑑別が困難であった胃異所性腺癌の 1 例. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会/第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集: 42.

73. 窪津祥仁, 野下祥太郎, 吉岡航, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 大枝敏, 江口有一郎, 安西慶三 : C型肝炎に対する DAA 治療と肝脂肪沈着の変化. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集 : 102.
74. 窪津祥仁, 大枝敏, 西岡千佳, 吉岡航, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : DAA 治療による HCV 排除と肝脂肪量の変化. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, supp (13) : A814.
75. 桑代卓也, 高橋宏和, 西岡千佳, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 大枝敏, 岩根紳治, 尾崎岩太, 安西慶三, 江口有一郎 : 肝線維化がソラフェニブの治療期間に及ぼす影響. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, supp (13) : A844.
76. 里梨節, 村山賢一郎, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : 生体肝移植待機中に *Clostridium perfringens* による腹膜炎を発症し死亡した 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集 : 160.
77. 城島昂太, 窪津祥仁, 桑代卓也, 秋山巧, 西岡千佳, 吉岡航, 岡田倫明, 大枝敏, 岩根紳治, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : 小腸転移から高度貧血をともなった小細胞癌の 1 例. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会/第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集 : 45.
78. 高橋宏和, 中原隆志, 今城健人, 江口有一郎, 安西慶三 : 直接作用型抗ウイルス薬による C 型肝炎治療は糖尿病を改善する. 第 55 回日本糖尿病学会九州地方会. 2017, 10, 13 - 14. 抄録集 : 62.
79. 高橋宏和, 田中賢一, 北島陽一郎, 安西慶三, 江口有一郎 : 非アルコール性脂肪性肝疾患における運動療法と血清バイオマーカーの探索. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会/第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (シンポジウム) . 2017, 11, 17 - 18. 抄録集 : 28.
80. 高橋宏和, 田中賢一, 江口有一郎 : Translational research による NAFLD における運動マーカーの探索. 第 42 回日本肝臓学会西部会 (シンポジウム) . 2017, 11, 30 - 12, 1. 抄録集 : A705.
81. 宅野結貴, 村山賢一郎, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎, 江頭秀哲, 野尻淳一 : 転帰の異なる脾動脈瘤破裂の 2 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集 : 160.
82. 中尾仁美, 松田やよい, 井上瑛, 井上佳奈子, 森仁恵, 山内寛子, 安西慶三 : デュラグルチドの有用性についての検討. 第 55 回日本糖尿病学会九州地方会. 2017, 10, 13 - 14. 抄録集 : 74.
83. 西岡千佳, 吉岡航, 窪津祥仁, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 井手貴雄, 相島慎一, 安西慶三, 江口有一郎 : EOB-MRI で肝細胞癌様の所見を呈した非アルコール性脂肪肝炎の肝切除例. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, supp (13) : A949.
84. 村山賢一郎, 小野尚文, 濱岡和宏, 江口尚久, 高橋宏和, 安西慶三, 大枝敏, 江口有一郎 : Shear Wave Elastography による C 型肝炎 DAA 治療前後の評価. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, supp (13) : A816.

85. 矢田ともみ, 岩根紳治, 西岡千佳, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三 : 当院における慢性肝炎患者の入院時症状の実態. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, supp (13) : A774.
86. 吉岡航, 西岡千佳, 窪津祥仁, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 相島慎一, 安西慶三, 江口有一郎 : 肝生検のサンプリングエラーが証明された非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の一例. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集 : 63.
87. 吉岡航, 秋山巧, 西岡千佳, 窪津祥仁, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三 : 肝臓に対する炭素イオン線治療 (C-ionRT) の有用性. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 58, supp (13) : A896.
88. 吉岡航, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 江口有一郎, 相島慎一, 安西慶三 : 進行性門脈血栓を契機に診断された膵未分化癌の一例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 抄録集 : 124.
89. 江口啓意, 岩永学, 松尾宗明, 佐々木綾子, 早坂清 : 当院で出生し先天性中枢性低換気症候群 (CCHS) と診断された 2 例. 第 77 回佐賀小児科地方会. 2017, 4, 23. 抄録集.
90. 樋口直弥, 熊本崇, 熊本愛子, 田代克弥, 前田寿幸, 松尾宗明 : 冠攣縮性狭心症を起こした Duchenne 型筋ジストロフィーの 1 例. 第 79 回佐賀小児科地方会. 2017, 12, 9. 抄録集.
91. 樋口直弥, 田代克弥, 熊本崇, 尾形善康, 松尾宗明 : 不全型川崎病で発症し治療抵抗性全身型若年性特発性関節炎 (sJIA) 様の病態へ移行した女児例. 第 78 回佐賀小児科地方会・第 202 回日本小児科学会長崎地方会合同地方会. 2017, 7, 30. 抄録集.
92. 平原恵子, 前田寿幸, 松尾宗明 : 脳波モニタリング中の LEV 静注が有効性の判定に有用であった Lennox-Gastaut 症候群の一例. 第 12 回日本てんかん学会九州地方会. 2017, 7, 8. 抄録集.
93. 古賀大介, 江口啓意, 富野広通, 西眞範, 松尾宗明, 太田光博 : 原発性免疫不全症との鑑別が困難であった再生不良性貧血の 1 例. 第 77 回佐賀小児科地方会. 2017. 4. 23. 抄録集.
94. 古賀有莉, 岩永学, 西眞範, 古賀大介, 江口啓意, 熊本崇, 熊本愛子, 田代克弥, 松尾宗明 : 心臓腫瘍で見つかった結節性硬化症の一例. 第 79 回佐賀小児科地方会. 2017, 12, 9. 抄録集.
95. 松尾宗明 : 佐賀の小児在宅医療の現状と課題. 第 79 回佐賀小児科地方会. 2017, 12, 9. 抄録集.
96. 峰松伸弥, 岩永学, 大塚泰史, 松尾宗明, 草野脩平, 東武昇平, 野口満, 津田聡子, 中橋弘顕, 津村圭介, 井上貴之, 福田篤久, 村守克己 : 出生前診断が得られた総排泄空遺残の一例. 第 78 回佐賀小児科地方会・第 202 回日本小児科学会長崎地方会合同地方会. 2017, 7, 30. 抄録集.
97. 中村拓自, 松尾宗明 : 視覚失認, 尿閉で発症した急性辺縁系脳炎の 13 歳女児例. 第 82 回日本小児神経学会九州地方会. 2017, 1, 8. 抄録集.
98. 中山愛子, 垣内俊彦, 松尾宗明, 藤本一眞 : 若年 H. pylori 除菌療法におけるボノプラザンの有用性および安全性の検討. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 抄録集.

99. 岡政史, 大塚泰史, 陣内久美子, 松尾宗明: サルファ剤によりステロイド依存状態から離脱できたアナフィラクトイド紫斑病の一例. 第 77 回佐賀小児科地方会. 2017, 4, 23. 抄録集.
100. 大塚泰史, 佐藤忠司, 岡政史, 大串栄彦, 陣内久美子, 松尾宗明: ADCK4 遺伝子異常によるステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の兄弟例. 第 78 回佐賀小児科地方会・第 202 回日本小児科学会長崎地方会合同地方会. 2017, 7, 30. 抄録集.
101. 白石さくら, 田島大輔, 渕上真穂, 中山愛子, 土井大人, 阿部淳, 辻功介, 尾形善康: 反復する耳下腺・頸部腫脹を契機に診断されたシェーグレン症候群の女性例. 第 79 回佐賀小児科地方会. 2017, 12, 9. 抄録集.
102. 富野広通, 樋口直弥, 熊本崇, 田代克弥, 松尾宗明: 高度房室ブロックに対して緊急ペーシング治療を行った Duchunne 型筋ジストロフィーの 1 例. 第 78 回佐賀小児科地方会・第 202 回日本小児科学会長崎地方会合同地方会. 2017, 7, 30. 抄録集.
103. 富野広通, 尾形善康, 須山ゆかり, 米良智子, 松尾宗明: 抗 MDA5 抗体陽性の間質性肺炎を合併した若年性皮膚筋炎の 1 例. 第 77 回佐賀小児科地方会. 2017, 4, 23. 抄録集.
104. 辻功介, 前田寿幸, 尾形善康, 松尾宗明, 西村真二, 在津正文, 江頭智子, 高柳俊光, 土井知己: 佐賀県内の基幹病院における小児時間外診療の現状報告, 佐賀県小児医療体制連絡会議. 第 77 回佐賀小児科地方会. 2017, 4, 23. 抄録集.
105. 濱田航平, 古舘晃, 古川浩二郎, 西田誉浩, 桑野彰人, 島内浩太, 木塚貴浩, 迎洋輔, 野上英次郎, 高松正憲, 伊藤学, 柚木純二: 肺動脈瘤に対し肺動脈人工血管置換術を行った一例. 第 123 回日本循環器学会九州地方会. 2017, 12, 2.
106. 桑野彰人, 野上英次郎, 古川浩二郎, 島内浩太, 迎洋輔, 古舘晃, 高松正憲, 伊藤学, 柚木純二, 田中厚寿: 膝窩静脈瘤が血栓形成の原因となり, 多臓器への血栓塞栓症をきたした一例. 第 110 回日本血管外科学会九州地方会. 2017, 8, 26.
107. 宮本詩子, 武田雄二, 堀晋一郎, 手石方崇志, 古川浩二郎: 術直前に低 Na 血症となった原発性肺癌の一例. 第 50 回日本胸部外科学会九州地方会総会. 2017, 7, 27 - 28.
108. 野上英次郎, 柚木純二, 七條正英, 迎洋輔, 三浦大介, 井上洋平, 坂本佳子, 古舘晃, 高松正憲, 下村光洋, 田中厚寿, 挽地裕, 古川浩二郎: 二尖弁 AS に対する Core Valve を用いた TAVI で経験した術中トラブルとその対処法. 第 122 回日本循環器学会九州地方会. 2017, 6, 24.
109. 島内浩太, 古舘晃, 桑野彰人, 迎洋輔, 野上英次郎, 高松正憲, 伊藤学, 柚木純二, 古川浩二郎: 先天性左肺無形成を有する大動脈弁閉鎖不全症の 1 例. 第 50 回日本胸部外科学会九州地方会総会. 2017, 7, 27 - 28.
110. 島内浩太, 野上英次郎, 柚木純二, 桑野彰人, 迎洋輔, 三浦大介, 井上洋平, 坂本佳子, 挽地裕, 古舘晃, 高松正憲, 伊藤学, 田中厚寿, 西田誉浩: 緩徐に進行した弁逸脱に対して 2ndvalve で対応した EvolutR を用いた TAVI の一例. 第 123 回日本循環器学会九州地方会. 2017, 12, 2.
111. 福地絢子, 下川尚子, 吉川正章, 江橋諒, 劉軒, 高口素史, 吉岡史隆, 緒方敦之, 井上浩平, 中原由紀子, 高瀬幸徳, 増岡淳, 原英夫, 阿部竜也: iNPH 症状で発症した晩発性膜性閉塞症 (LAMO: Late-onset aquaductal membranous occlusion) の 1 例. 第 125 回日本脳神経外科学会九州支部会. 2017, 3, 11. 抄録集.

112. 初瀬健太, 緒方敦之, 桃崎明彦, 坂本祐史, 井上浩平, 高瀬幸徳, 下川尚子, 中原由紀子, 増岡淳, 阿部竜也: Proximal protection にてステント留置術を行った鎖骨下動脈狭窄症. 第 127 回日本脳神経外科学会九州支部会. 2017, 10, 21. 抄録集.
113. 岩下英紀, 高瀬幸徳, 緒方敦之, 江橋諒, 増岡淳, 下川尚子, 中原由紀子, 井上浩平, 高口素史, 劉軒, 上床希久, 阿部竜也: 傍矢状静脈洞髄膜腫に対する塞栓術で良好な腫瘍縮小を認めた 1 例. 第 125 回日本脳神経外科学会九州支部会. 2017, 3, 11. 抄録集.
114. 岸本晏, 高口素史, 桃崎明彦, 江橋諒, 坂本祐史, 正島弘隆, 井上浩平, 緒方敦之, 高瀬幸徳, 下川尚子, 中原由紀子, 増岡淳, 阿部竜也: ドーパミン作動薬投与後に初発てんかん発作を生じた巨大プロラクチノーマの一例. 第 126 回日本脳神経外科学会九州支部会. 2017, 6, 17. 抄録集.
115. 桃崎明彦, 増岡淳, 下川尚子, 中原由紀子, 高瀬幸徳, 井上浩平, 緒方敦之, 高口素史, 正島弘隆, 坂本祐史, 岸本晏, 阿部竜也: 精神障害で発症したクッシング病の一例. 第 126 回日本脳神経外科学会九州支部会. 2017, 6, 17. 抄録集.
116. 並川裕貴, 緒方敦之, 井上浩平, 坂本祐史, 高瀬幸徳, 下川尚子, 中原由紀子, 増岡淳, 阿部竜也: 広頸中大脳動脈瘤に対して塞栓術を行った超高齢くも膜下出血の 1 例. 第 26 回日本脳神経血管内治療学会九州地方会. 2017, 9, 2. 抄録集.
117. 草野脩平, 永瀬圭, 藏田彩, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: ロボット支援下腹腔鏡下前立腺 全摘除術～腹腔内癒着症例に対する一工夫～. 第 75 回佐賀県泌尿器科懇話会. 2017, 5, 27.
118. 草野脩平, 東武昇平, 前田晃宏, 高原光平, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 野口満: 浸潤性膀胱癌に対する動注化学療法について. 日本泌尿器科学会第 82 回佐賀地方会. 2017, 9, 2.
119. 藏田彩, 寺田隆介, 西牟田雅人, 東武昇平: 水腎症を契機に見つかった多発後腹膜腫瘍の 1 例. 日本泌尿器科学会第 82 回佐賀地方会. 2017, 9, 2.
120. 前田晃宏, 草野脩平, 高原光平, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 佐賀大学医学部泌尿器科 2016 年の臨床統計. 日本泌尿器科学会第 82 回佐賀地方会. 2017, 9, 2.
121. 前田晃宏, 東武昇平, 草野脩平, 野口満: 当科における顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術の初期経験. 第 76 回佐賀県泌尿器科懇話会. 2017, 10, 7.
122. 永瀬圭, 東武昇平, 南里麻己, 有働和馬, 野口満, 大塚泰史, 江頭秀哲, 野尻淳一: 内視尿道切開術後の偽性動脈瘤に対する血管塞栓術の経験. 第 14 回九州小児泌尿器研究会. 2017, 2, 18.
123. 南里麻己, 永瀬圭, 草野脩平, 一番ヶ瀬優佳, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 当院における停留精巣診断の現状について. 第 75 回佐賀県泌尿器科懇話会. 2017, 5, 27.
124. 東武昇平: 高脂血症はロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術後の勃起機能と下部尿路症状に影響を与える可能性がある. 第 26 回日本性機能学会西部総会. 2017, 1, 14. プログラム 13.
125. 東武昇平, 永瀬圭, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 野口満, 溝端理恵, 岩永学, 大野康 治: 総排泄腔外反症による腹壁欠損に対するデュアルメッシュ使用による二期的腹壁閉鎖の試み. 第 14 回九州小児泌尿器研究会. 2017, 2, 18.

126. 有働和馬, 前田晃宏, 草野脩平, 高原光平, 柿木優佳, 柿木寛明, 南里麻己, 東武昇平, 野口満: ロボット支援前立腺全摘術における術前補助内分泌療法を試み. 日本泌尿器科学会第 82 回佐賀 地方会. 2017, 9, 2. 抄録集.
127. 石田知也, 島津倫太郎, 倉富勇一郎: 頸動脈小体腫瘍摘出術における術前栄養血管塞栓術の有用性について. 第 113 回日本耳鼻咽喉科学会佐賀県地方部会学術講演会. 2017, 12, 2.
128. 笹栗智子, 濱田献, 上村聡子, 平川奈緒美: 側臥位での肺切除術後に上肢の CRPS 様症状を呈した一例. 第 35 回九州ペインクリニック学会. 2017, 2, 25. プログラム・抄録: 29. 録: 42.
129. 合島怜央奈, 吉本怜子, 曹愛琳, 高イキ, 檀上敦, 清島保, 城戸瑞穂, 山下佳雄: 口腔扁平上皮癌細胞における温度感受性 TRPV4 チャンネルの機能解析. 九州地区口腔癌研究会第 21 回学術 講演会. 2017, 7, 7. プログラム・抄録集 14 頁.
130. 大橋順太郎, 森啓輔, 合島怜央奈, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 高齢者の口腔内に発症した Ewing 肉腫ファミリー腫瘍の 1 例. 日本口腔科学会第 50 回九州地方部会. 2017, 11, 25. プログラム・抄録集 3 - 4.
131. 隅康二, 中村由貴, 合島怜央奈: Piezocision for slow-moving tooth during orthodontic treatment. 第 12 回九州矯正歯科学会大会. 2017, 3, 18 - 19. プログラム・抄録集 75 頁.
132. 鶴島弘基, 押谷将之, 檀上敦, 山下佳雄, 吉岡泉: 経鼻挿管時に複数回のカフ損傷を生じた 1 例. 日本口腔科学会第 50 回九州地方部会. 2017, 11, 25. プログラム・抄録集 1 - 1.
133. 内田雄基, 森啓輔, 下平大治, 檀上敦, 重松正仁, 陣内重雄, 野口信宏, 山下佳雄: 上顎骨へのインプラント手術時の血管損傷を防止するための CT 血管造影と解剖研究. 公益社団法人日本口腔インプラント学会第 34 回九州支部学術大会. 2017, 1, 21 - 22. プログラム・抄録集 55 頁.
134. 内野加穂, 森啓輔, 湯浅主庸, 合島怜央奈, 靄岡祥子, 下平大治, 檀上敦, 山下佳雄: 当科における粘液嚢胞の臨床統計. 第 85 回 (公社) 日本口腔外科学会九州支部学術集会・第 108 回歯科臨床医リフレッシュセミナー. 2017, 7, 8. プログラム・抄録集 25 頁.
135. 吉武憲子, 下平大治, 合島怜央奈, 森啓輔, 檀上敦, 山下佳雄: マムシ草を誤食して口腔内浮腫を引き起こした小児の 1 例. 第 85 回 (公社) 日本口腔外科学会九州支部学術集会・第 108 回歯科 臨床医リフレッシュセミナー. 2017, 7, 8. プログラム・抄録集 15 頁.
136. 小網博之, 阪本雄一郎, 岩永幸子, 品田公太, 中山賢人, 松田知也, 櫻井良太, 太田美穂, 鳴海翔悟, 八幡真由子, 梅香満, 三池徹, 永嶋太, 岩村高志, 山田クリス孝介, 井上聡: 当院における高齢者に対する敗血症診療. 第 40 回佐賀救急医学会. 2017, 9, 2. 第 40 回佐賀救急医学会 p. 20.
137. 小野原貴之, 藤原紳祐, 小網博之, 阪本雄一郎: 佐賀県内離島における佐賀ドクターヘリ利用の現状と評価. 第 40 回佐賀救急医学会. 2017, 9, 2. 第 40 回佐賀救急医学会 p. 23.
138. 浦上宗治: S02 - 1 進化する抗菌薬 TDM ガイドライン 2016—使用する立場から見たガイドライン—バンコマイシンの適正使用と TDM ガイドラインに基づく臨床アプローチ. 第 87 回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第 60 回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第 65 回日本化学療法学会西日本支部総会. 2017, 10, 26 - 28. プログラム・抄録集 102 頁 (シンポジウム).

139. 丸尾浩希, 本田裕子, 城戸瑞穂, 村田祐造 : 2 型糖尿病モデルラット唾液腺における糖輸送体の分布. 日本解剖学会第 73 回九州支部学術集会. 2017, 10, 28. 抄録集.
140. 甲斐敬太, 北村捷, 中村光男, 相島慎一 : 細胞診領域におけるセルブロック法の意義と現状 : 当院におけるセルブロック作成の現状と課題. 第 33 回日本臨床細胞学会九州連合会学会. 2017, 7, 15 - 16. プログラム集 p24.
141. 北村捷, 甲斐敬太, 佐藤有記, 龍由希子, 中村光男, 安達真希子, 橋口真理子, 増田正憲, 高瀬ゆかり, 倉富勇一郎, 相島慎一 : 良悪性の鑑別が困難であった小児の顎下腺多形腺腫の 1 例. 第 33 回佐賀県臨床細胞学会地方会. 2017, 3, 4. プログラム集 p3.
142. 秋山巧, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 村山賢一郎, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 戸山真吾, 塩山善之 : 肝臓に対する炭素イオン線治療 (C-ion RT) の有用性. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. S3 - 07.
143. 城島昂太, 窪津祥仁, 桑代卓也, 秋山巧, 西岡千佳, 吉岡航, 岡田倫明, 大枝敏, 岩根紳治, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : 小腸転移から高度貧血をともなった小細胞癌の一例. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 研 96.
144. 窪津祥仁, 野下祥太郎, 吉岡航, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 大枝敏, 江口有一郎, 安西慶三 : C 型肝炎に対する DAA 治療と肝脂肪沈着の変化. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. WS3 - 06.
145. 窪津祥仁, 大枝敏, 西岡千佳, 吉岡航, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎 : DAA 治療による HCV 排除と肝脂肪量の変化. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A814.
146. 桑代卓也, 高橋宏和, 西岡千佳, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 大枝敏, 岩根紳治, 尾崎岩太, 安西慶三, 江口有一郎 : 肝線維化がソラフェニブの治療期間に及ぼす影響. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A844.
147. 木村俊一郎, 窪津祥仁, 村山賢一郎, 西岡千佳, 吉岡航, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 甲斐敬太, 相島慎一, 江口有一郎 : PSC との鑑別が困難であった胃異所性腺癌の 1 例. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会 / 第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 研 74.
148. 北島陽一郎, 高橋宏和, 村山賢一郎, 濱岡和宏, 小野尚文, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三 : ロイシンリッチアミノ酸含有食品を付加した運動療法が非アルコール性脂肪性肝疾患患者における線維化抑制に与える効果. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A840.
149. 村山賢一郎, 小野尚文, 濱岡和宏, 江口尚久, 高橋宏和, 安西慶三, 大枝敏, 江口有一郎 : Shear Wave Elastography による C 型肝炎 DAA 治療前後の評価. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A816.
150. 西岡千佳, 吉岡航, 窪津祥仁, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 井手貴雄, 相島慎一, 安西慶三, 江口有一郎 : EOB-MRI で肝細胞癌様の所見を呈した非アルコール性脂肪肝炎の肝切除例. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A949.

151. 大枝敏, 高橋宏和, 小川祐二, 今城健人, 米田正人, 小野正文, 兵庫秀幸, 川口巧, 藤井英樹, 西野謙, 角田圭雄, 田中斉祐, 川中美和, 鳥村拓司, 西原利治, 中島淳, 江口有一郎: B型肝炎ウイルス感染症における痒みの頻度多施設共同研究. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A788.
152. 里梨節, 村山賢一郎, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎: 生体肝移植待機中に *Clostridium perfringens* による腹膜炎を発症し死亡した 1 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 研 22.
153. 高橋宏和, 田中賢一, 江口有一郎: 生活習慣病関連肝疾患の基礎と臨床 Translational research による NAFLD における運動マーカーの探索. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A705.
154. 高橋宏和, 田中賢一郎, 北島陽一郎, 安西慶三, 江口有一郎: 非アルコール性脂肪性肝疾患における運動療法と血清バイオマーカーの探索. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会/第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. WS1 - 04.
155. 宅間結貴, 村山賢一郎, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 高橋宏和, 安西慶三, 江口有一郎, 江頭秀哲, 野尻淳一: 転帰の異なる脾動脈瘤破裂の 2 例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 研 23.
156. 矢田ともみ, 岩根紳治, 西岡千佳, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三: 当院における慢性肝疾患患者の入院時症状の実態. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A774.
157. 吉岡航, 秋山巧, 西岡千佳, 窪津祥仁, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三: 肝臓に対する炭素イオン線治療 (C-ionRT) の有用性. 第 42 回日本肝臓学会西部会. 2017, 11, 30 - 12, 1. 肝臓 (0451 - 4203) 58 巻 Suppl. 3, Page A896.
158. 吉岡航, 西岡千佳, 窪津祥仁, 桑代卓也, 秋山巧, 高橋宏和, 相島慎一, 安西慶三, 江口有一郎: 肝生検のサンプリングエラーが証明された非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の一例. 第 110 回日本消化器病学会九州支部例会/第 104 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 11, 17 - 18. 081.
159. 吉岡航, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 村山賢一郎, 秋山巧, 高橋宏和, 江口有一郎, 相島慎一, 安西慶三: 進行性門脈血栓を契機に診断された膵未分化癌の一例. 第 109 回日本消化器病学会九州支部例会/第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2017, 5, 19 - 20. 080.
160. 前間真弓, 林章浩, 池田弘典, 梶島久美子, 相原秀俊, 井手貴雄, 北村浩晃, 島津倫太郎, 江口有一郎: 下咽頭癌に対する化学放射線療法時の粘膜障害に亜鉛および EPA 含有経腸栄養剤投与が有効であった一例. 第 42 回九州代謝・栄養研究会. 2017, 3, 4. 外科と代謝・栄養 51 (4) : 199, 2017, 第 42 回九州代謝・栄養研究会抄録集 P19.
161. 尾崎岩太, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 小川康子, 福島雅子, 木道圭子, 佐藤武, 市場正良: 職業性ストレス簡易調査から見た仕事の満足度に関与する因子の検討. 第 47 回九州地区大学保健管理研究協議会. 2017, 8, 23 - 25. 第 47 回九州地区大学保健管理研究協議会報告書 p69 - 71.

162. 岡本純英, 上田泰子, 松尾恵子, 佐藤春菜, 福嶋倫子, 南志穂, 松尾完, 秋吉俊明, 長野純大, 山口敦巳: ART 調節卵巣刺激 high responder の対処法. 第 74 回九州・沖縄生殖医学会. 2017, 4, 9. 講演要旨集 p35.
163. 松尾完, 松久葉一, 秋吉俊明, 西島和俊, 森本正敏, 北嶋修司: ウサギ精子の凍結保存における大豆由来分別レシチンの有用性について. 第 35 回九州実験動物研究会総会・第 37 回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会合同開催. 2017, 11, 11 - 12. 九州実験動物雑誌, 33 : 53.
164. 松久葉一: 精神的ストレスによる血小板機能変化 (第 7 回若手勉強会). 第 35 回九州実験動物研究会総会・第 37 回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会合同開催. 2017, 11, 11 - 12. 九州実験動物雑誌, 33 : 45.
165. 西山博稀, 松永貴志, 吉田祐紀, 猪原哲, 徳山由佳, 寺東宏明: 水中キャビテーション・放電プラズマ併用型リアクタ装置の水処理効率の改善. 一般社団法人電気学会プラズマ・パルスパワー・放電合同研究会環境浄化技術. 2017, 10, 25 - 27. 抄録集.
166. 西山博稀, 松永貴志, 吉田祐紀, 猪原哲, 寺東宏明, 徳山由佳: 水中キャビテーション・放電プラズマ併用型リアクタ装置の効率改善. プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部 第 21 回支部大会. 2017, 12, 16 - 17. プラズマ核融合学会九州・沖縄・山口支部第 21 回支部大会研究発表論文集 87 頁.
167. 嬉野博志, 進藤岳郎, 楠木靖史, 宮崎有紀, 小島裕人, 田中秀則, 佐治博夫, 川口淳, 木村晋也: 慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤の効果は KIR アリルと相関する. 第 15 回 組織適合性学会近畿地方会. 2017, 2, 4. MHC 24 巻 1 号, 29 頁.

その他の学会

1. Miyake Y: Pathogenic fungi and bacteria modulate host immune responses through siglec family receptors. 5th ITAM workshop. 2017, 01, 20. abstract book.
2. 塩谷孝夫：改良ニスタチン穿孔パッチ法による心筋 CICR 誘発性膜電位ゆらぎの解析. 2017 年筋生理の集い. 2017, 12, 16. 東京慈恵会医科大学雑誌, 133, 掲載予定.
3. 王翀, 藤田亜美, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 楊帆, 熊本栄一：オレキシン B による脊髄膠様質 ニューロンの自発性抑制性シナプス伝達の促進. 平成 29 年度生理学研究所研究会「痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー」. 2017, 12, 14 - 15. 平成 29 年度生理学研究所研究会「痛みを中心とする有害状況適応の神経戦略バイオロジー」プログラム：31.
4. 王翀, 藤田亜美, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 平尾峻, 熊本栄一：成熟ラット脊髄膠様質ニューロンの自発性興奮性シナプス伝達に及ぼすオレキシン A とオレキシン B の作用. 平成 28 年度生理学研究所研究会「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」. 2017, 1, 30 - 31. 平成 28 年度生理学研究所 研究会「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」プログラム：19.
5. 王翀, 藤田亜美, 余婷, 馬郡信弥, 鈴木里佳, 平尾峻, 熊本栄一：オレキシン B はラット脊 髄膠様質ニューロンの興奮性シナプス伝達を促進する. 第 38 回脊髄機能診断研究会. 2017, 2, 4. 第 38 回脊髄機能診断研究会プログラム・抄録：15.
6. 余婷, 藤田亜美, 王翀, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 平尾峻, 熊本栄一：成熟ラット脊髄膠様質ニューロンにおける植物由来物質の膜過分極作用. 第 38 回脊髄機能診断研究会. 2017, 2, 4. 第 38 回脊髄機能診断研究会プログラム・抄録：15.
7. 余婷, 藤田亜美, 王翀, 鈴木里佳, 馬郡信弥, 楊帆, 熊本栄一：ラット脊髄膠様質の TRPA1 チャネルの植物由来物質による活性化の構造活性連関. 平成 29 年度生理学研究所研究会「第 13 回 TRP チャネル研究会～オルガネラ Ca²⁺＋シグナルの重要な媒介分子」. 2017, 6, 22 - 23. 平成 29 年度生理学研究所研究会「第 13 回 TRP チャネル研究会～オルガネラ Ca²⁺＋シグナルの重要な媒介分子」プログラム：22.
8. 橋口真理子, 甲斐敬太：子宮頸部粘膜下腫瘍. 第 355 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 1, 28. 抄録集.
9. 甲斐敬太：後腹膜腫瘍. 第 358 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 7, 8. 抄録集.
10. 甲斐敬太：胃腫瘍. 第 359 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 9, 9. 抄録集.
11. 甲斐敬太：肝腫瘍. 第 360 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 11, 11. 抄録集.
12. 青木茂久, 竹澤俊明, 芥川剛至, 山本美保子, 戸田修二：内視鏡的粘膜層剥離術後の食道狭窄を予防するコラーゲンビトリゲルパッチの開発. 第 5 回 TR 推進合同フォーラム・ライフサイエンス技術交流会. 2017, 11, 1. 抄録集.

13. 草野脩平, 永瀬圭, 藏田彩, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術～腹腔内癒着症例に対する一工夫～. 第 75 回佐賀県泌尿器科懇話会. 2017, 5, 27. 抄録集.
14. 永瀬圭: II. 治療に難渋した症例陰茎. 第 111 回九州泌尿器科連合地方会学術集. 2017, 5, 20. 抄録集.
15. 永瀬圭, 東武昇平, 南里麻己, 有働和馬, 野口満, 大塚泰史, 江頭秀哲, 野尻淳一: 内視尿道切開術後の偽性動脈瘤に対する血管塞栓術の経験. 第 14 回九州小児泌尿器研究会. 会 2017, 2, 18. 抄録集.
16. 南里麻己, 永瀬圭, 草野脩平, 一番ヶ瀬優佳, 有働和馬, 東武昇平, 野口満: 当院における停留精巣診断の現状について. 第 75 回佐賀県泌尿器科懇話会. 2017, 5, 27. 抄録集.
17. 東武昇平, 永瀬圭, 藏田彩, 南里麻己, 有働和馬, 野口満, 溝端理恵, 岩永学, 大野康治: 総排泄腔外反症による腹壁欠損に対するデュアルメッシュ使用による二期的腹壁閉鎖の試み. 第 14 回九州小児泌尿器研究会. 2017, 2, 18. 抄録集.
18. 西田裕一郎: 身体活動と血中サイトカインの関連. 第四回炎症と生活習慣病研究会. 2017, 2, 17. 抄録集.
19. 西田裕一郎: 肝疾患に対する身体活動の有効性. 第 2 回佐賀県北西部肝疾患・栄養・リハ研究会. 2017, 10, 6. 抄録集.
20. 高橋紀博, 市場正良, 圓藤陽子, 川澄八重子, 荒井久美子, 渡辺雅春, 廣瀬隆穂, 金村茂, 狩野雅洋, 濱野和可子, 町田聡, 高橋章, 木戸誠二郎, 関顯, 杉山浩貴, 宮澤貴磨呂, 山田菜緒子, 小川孝司: 尿中総三塩化物クロスチェックー労働衛生検査精度向上研究会報告ー. 第 45 回産業中毒・生物学的モニタリング研究会. 2017, 10, 6 - 7. 抄録集 22.
21. 小野伸之: 副鼻腔炎, 中耳炎を合併した ANCA 関連血管炎について. 第 24 回佐賀県アレルギー講習会. 2017, 2, 2. 抄録集.
22. 多田芳史: 関節リウマチ及び類縁疾患の診断と治療のポイント. 聖マリア病院地域医療支援講演会. 2017, 2, 27. 抄録集.
23. 多田芳史: アバタセプトの作用機序から見た安全性. 明日の関節リウマチ治療を考える会. 2017, 6, 29: 抄録集.
24. 小荒田秀一: 関節エコー完全寛解とバイオフィリー寛解. 関節エコーExpert Meeting in Fukuoka. 2017, 7, 14. 抄録集.
25. 小野伸之: ANCA 関連血管炎の病態と治療～KVAS コホートの経験から. Vasculitis Forum in Fukuoka 2017. 2017, 10, 13. 抄録集.
26. 小荒田秀一: 乾癬性関節炎の画像診断の基礎知識. PsA の画像診断を考える会. 2017, 11, 10. 抄録集.
27. 多田芳史: sJIA におけるマクロファージ活性化症候群の新分類基準は成人発症スティル病にも有効か?. 第 21 回ワイル研集談会. 2017, 11, 11. 抄録集.

28. 多田芳史：リウマチ・膠原病疾患の治療においてアダリムマブの特徴を生かすには. イムノロジーアドバンスフォーラム. 2017, 11, 21. 抄録集.
29. 小野伸之：当院で経験した MDA5 抗体陽性皮膚筋炎患者の臨床像およびその治療. 第 1 回九州膠原病難治性病態治療研究会. 2017, 12, 23. 抄録集.
30. 久保田寧：多発性骨髄腫治療の症例報告 1. 長崎血液セミナー. 2017, 6, 7. 抄録.
31. 久保田寧：当院における Elotuzumab の使用経験. 佐賀／久留米血液腫瘍カンファレンス. 2017, 9, 8. 抄録.
32. 久保田寧：貧血を主症状とする原発性骨髄線維症の一例. MPN Clinical Conference. 2017, 4, 27. 抄録.
33. 挽地裕：製品の安全性, 有効性, 適正な使用方法について. 第 56 回日本生体医工学会大会. 2017, 5, 3 - 5. Web プログラム.
34. 荒木紀匡, 高橋宏和, 小野正文, 兵庫秀幸, 角田圭雄, 江口有一郎, 安西慶三：非肥満者の NASH における肝線維化と膵 β 細胞機能との関連. 第 25 回西日本肥満研究会. 2017, 7, 15 - 16. 抄録集：10.
35. 河田望美, 高橋宏和, 井上瑛, 美奈川仁美, 山内寛子, 井上佳奈子, 松田やよい, 秋山巧, 岩根紳治, 江口有一郎, 安西慶三：非肝臓専門医における NFLD/NASH 診断の重要性. 第 25 回西日本肥満研究会. 2017, 7, 15 - 16. 抄録集：7.
36. 北島陽一郎, 高橋宏和, 窪津祥仁, 小野尚史, 江口尚久, 安西慶三, 江口有一郎：肝硬変における分枝鎖アミノ酸補充療法への血清アルブミン値の反応性と骨格筋脂肪化・生存予後の検討. 第 7 回肥満と消化器疾患研究会. 2017, 4, 19. 抄録集.
37. 高橋宏和：糖尿病・NASH に対する運動療法の多面的効果と臓器連関. 第四回炎症と生活習慣病研究会. 2017, 2, 17. 抄録集.
38. 高橋宏和, 田中賢一, 安西慶三, 江口有一郎：肝臓における運動効果の検討. 第 13 回酸化ストレスと肝研究会. 2017, 2, 25 - 26. 抄録集.
39. 高橋宏和, 中原隆志, 今城健人, 小木曾智美, 川中美和, 藤井英樹, 兵庫秀幸, 川口巧, 角田圭雄, 小野正文, 鎌田佳宏, 徳重克年, 西原利治, 中島淳, 安西慶三, 江口有一郎：C 型慢性肝炎治療における HbA1c の変化. 第 4 回肝臓と糖尿病・代謝研究会. 2017, 5, 20. 抄録集：S - 496.
40. 高橋宏和：脂肪肝診療の現在地と展望. 佐賀県南部医療圏肝炎治療研修会. 2017, 6, 26. 抄録集.
41. 高橋宏和：糖尿病診療に潜む慢性肝疾患への対応. 第 218 回川副アーベント. 2017, 6, 27. 抄録集.
42. 高橋宏和：運動惹起性アディポカインの探索. 第 9 回分子骨格筋代謝研究会. 2017, 7, 17. 抄録集.
43. 高橋宏和：肥満・糖尿病に対する運動療法と臓器連関. 第 42 回「筑豊糖尿病懇話会」勉強会. 2017, 9, 8. 抄録集.
44. 高橋宏和：糖尿病診断で NASH を見逃さないために. 平成 29 年度佐賀県肝炎医療コーディネーター・糖尿病療養指導士共同研究会. 2017, 10, 6. 抄録集.

45. 高橋宏和：肝硬変患者のサルコペニアと骨格筋脂肪に対する BCAA の有用性. 第 42 回日本肝臓学会西部会（ランチョンセミナー11）. 2017, 11, 30 - 12, 1. 抄録集
46. 一ノ瀬文男, 前田寿幸, 松尾宗明：HHV-6 脳症の 1 歳男児. 第 372 回福岡小児神経研究会. 2017, 5, 27. 抄録集.
47. 一ノ瀬文男, 前田寿幸, 松尾宗明：Down 症候群に合併した症候性 West 症候群の 8 か月男児. 第 374 回福岡小児神経研究会. 2017, 9, 9. 抄録集.
48. 一ノ瀬文男, 前田寿幸, 松尾宗明：O - 157 感染症による溶血性尿毒症症候群の経過中に可逆性後頭葉白質脳症を発症した 3 歳男児. 第 376 回福岡小児神経研究会. 2017, 12, 2. 抄録集.
49. 大串栄彦, 大塚泰史, 溝端理恵, 陣内久美子, 岡政史, 佐藤忠司, 野津寛大, 飯島一誠：X連鎖型女性 Alport 症候群の 2 例. 第 31 回九州小児ネフロロジー研究会. 2017, 7, 22 - 23. 日本小児腎臓病学会雑誌 30 (2) : 195, 2017.
50. 大塚泰史, 岡政史, 溝端理恵, 陣内久美子, 大串栄彦, 佐藤忠司, 東武昇平, 野口満, 松尾宗明：尿管ポリープによる間歇的水腎症の 2 例. 第 14 回九州小児泌尿器研究会. 2017, 2, 18. 日本小児泌尿器科学会雑誌 26 巻 1 号 : Page107, 2017.
51. 溝端理恵, 前田寿幸, 大塚泰史, 松尾宗明：多彩な合併症を呈し集中治療により救命し得た劇症型 A 群溶血性連鎖球菌感染症の 1 例. 九州・沖縄小児救急医学研究会. 2017, 7, 29. プログラム・抄録集 第 5 部 16.
52. 溝端理恵, 大塚泰史, 東武昇平, 岡政史, 大串栄彦, 陣内久美子, 野口満, 松尾宗明：Anti-VUR 後手術後に一過性偽性低アルドステロン症を繰り返した Prune belly 症候群の一例. 第 39 回日本小児体液研究会. 2017, 8, 26. プログラム・抄録集一般演題 2 - 8.
53. 田代克弥：佐賀県における小児期から生活習慣病予防健診—23 年分の結果解析とこれから. 第 12 回佐賀県小児生活習慣病予防研究会. 2017, 2, 11. 抄録集.
54. 田代克弥：不全型川崎病で発症し治療抵抗性の全身型若年性特発性関節炎様の病態へ移行した女児例. 第 16 回九州川崎病研究会. 2017, 5, 20. 抄録集.
55. 陣内久美子, 大塚泰史, 溝端理恵, 大串栄彦, 平原恵子, 岡政史, 垣内俊彦, 前田寿幸, 松尾宗明：可逆性後頭葉白質脳症を契機に診断した IgA 関連血管炎の一例. 第 24 回小児高血圧研究会. 2017, 8, 26. 抄録集.
56. 伊藤学：バイオ 3D プリンティング技術を用いた小口径細胞製人工血管の臨床開発. 第 5 回日本先進医工学ブタ研究会：医工学ブタの利用と見えてきた課題. 2017, 10, 13 - 14.
57. 伊藤学：組織工学技術を用いた Scaffold Free の血管組織構築. 第 4 回メタボリックネットワーク研究会. 2017, 1, 28.
58. 伊藤学：心臓血管外科領域における臓器再生への試み. 第 11 回九州医療センター地域医療研修会. 2017, 11, 11.
59. 高口素史：レベチラセタム注射剤使用経験からの考察. 第 33 回筑後・佐賀脳神経外科懇話会ビデオカンファランス. 2017, 2, 22. 抄録集.

60. 中原由紀子：佐賀大学における悪性脳腫瘍に対する科学療法の実際。脳腫瘍最新情報セミナー。2017, 2, 17. 抄録集。
61. 中原由紀子：高齢者の悪性脳腫瘍について。第 10 回佐賀脳腫瘍研究会。2017, 6, 28. 抄録集。
62. 中原由紀子：部分発作に対しフィコンパを使用した脳腫瘍の一例。佐賀県脳神経外科講演会。2017, 7, 14. 抄録集。
63. 緒方敦之：カテーテルで治す脳卒中。第 11 回佐賀県脳卒中市民公開講座。2017, 11, 12. 抄録集。
64. 劉軒, 高瀬幸徳, 緒方敦之, 江橋諒, 増岡淳, 下川尚子, 中原由紀子, 井上浩平, 高口素 史, 上床希久, 阿部竜也：プレタールを使用し良好な転帰が得られた破裂内頸動脈瘤の一例。第 8 回佐賀脳血管内治療懇話会。2017, 2, 16. 抄録集。
65. 島津倫太郎：胃酸逆流と耳鼻咽喉科疾患。第 10 回東海咽喉頭食道疾患研究会。2017, 5, 11.
66. 上村聡子, 笹栗智子, 平川奈緒美：合併症を持つ入院患者の腰痛症に対しブプレノルフィン貼付剤で疼痛コントロールを行った 3 症例の検討。佐賀痛みを考える会。2017, 10, 18. プログラム・抄録。
67. 山下佳雄：教育講演「顎骨再建後の口腔機能回復を目指して」。第 6 回佐賀インプラントセミナー。2017, 7, 22. 抄録集。
68. 山下佳雄：「周術期の口腔内を知る骨吸収抑制薬関連顎骨壊死について」。平成 29 年度地域連携口腔ケア研修会。2017, 8, 18. 抄録集。
69. 山下佳雄：「周術期口腔管理を改めて考える 口腔環境を整え、口腔機能を維持させるために」。口腔ケアセミナー in 佐賀（リフレケア）。2017, 9, 24. 抄録集。
70. 山下佳雄：「がん患者の口腔ケア」。第 5 回佐賀がんリハビリテーション研修会。2017, 10, 1. 抄録集。
71. 山下佳雄：「インプラント手術における合併症対策」。Nobel Guide コンセプトベーシックコース。2017, 10, 29. 抄録集。
72. 山下佳雄：（一社）口腔がん撲滅委員会「佐賀県における口腔がんの実態」。口腔がん撲滅シンポジウム。2017, 12, 3. 抄録集。
73. 三池徹, 小網博之, 阪本雄一郎：高濃度のアンチトロンビンは血小板機能と凝固機能に影響を及ぼすのか？（Point of care testing を用いた試み）。第 11 回日本血栓止血学会学術標準化委員会（SSC）2017 シンポジウム。2017, 1, 21. 抄録集。
74. 小網博之, 阪本雄一郎, 三池徹, 井上聡：敗血症 DIC に対する遺伝子組み換え AT 製剤の使用状況とその効果。第 11 回日本血栓止血学会学術標準化委員会（SSC）2017 シンポジウム。2017, 1, 21. 抄録集。
75. 山田クリス孝介：BestReviewerAward2016。日本生理人類学会第 75 回大会。2017, 6, 24-25. 抄録集。
76. 小網博之：ROTEM in Sepsis and DIC. Japan PBM Scientific Advisory Committee meeting。2017, 11, 6. 抄録集。

77. 浦上宗治：わが国における ICT と AST の現状と課題 薬剤師の立場から. 第 19 回国公立大学附属病院感染対策協議会総会. 2017, 10, 20. 抄録.
78. 浦上宗治：HIV/AIDS における服薬支援. 平成 29 年度 HIV 検査相談研修会. 2017, 7, 27. 抄録.
79. 浦上宗治：抗菌薬適正使用が実践される良質な feedback. 第 16 回広島 ICT 研修会. 2017, 7, 1. 抄録.
80. 浦上宗治：感染症薬剤師の臨床アプローチ～治療の本質に迫るための 3Tips～. 第 198 回鹿児島県病院薬剤師会研修会・第 18 回鹿児島県病院薬剤師会感染制御薬物療法対策講習会. 2017, 6, 10. 抄録.
81. 浦上宗治：専門薬剤師による感染症コンサルテーション. 平成 29 年度第 2 回明治薬科大学病院薬学コース特別講演会. 2017, 6, 3. 抄録.
82. 浦上宗治：感染症治療の考えかた・患者の診かた. 平成 29 年度第 1 回明治薬科大学病院薬学コース特別講演会. 2017, 5, 13. 抄録.
83. 橋口真理子, 甲斐敬太：子宮頸部粘膜下腫瘍. 第 355 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 1, 28. 抄録集.
84. 甲斐敬太：後腹膜腫瘍. 第 358 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 7, 8. 抄録集.
85. 甲斐敬太：胃腫瘍. 第 359 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 9, 9. 抄録集.
86. 甲斐敬太：肝腫瘍. 第 360 回スライドコンファレンス／日本病理学会九州・沖縄支部. 2017, 11, 11. 抄録集.
87. 龍由希子, 甲斐敬太：多臓器転移を来した扁平上皮への分化を伴う尿路上皮癌の 1 例. 好生館症例検討会. 2017, 4, 11. 抄録集.
88. 久米修二, 甲斐敬太：子宮頸部細胞診でクラスⅢ AGC と報告したが腺癌であった 1 例. 細胞診合同勉強会. 2017, 5, 9. 抄録集.
89. 中村光男, 甲斐敬太：「セミノーマと鑑別を要した精巣悪性リンパ腫の 1」例. 好生館症例検討会. 2017, 6, 13. 抄録集.
90. 北村 捷, 甲斐敬太：低悪性度粘表皮癌の 1 例. 細胞診合同勉強会. 2017, 7, 11. 抄録集.
91. 龍由希子, 甲斐敬太：副鼻腔に認めた未分化癌の 1 例. 好生館症例検討会. 2017, 9, 12. 抄録集.
92. 久米修二, 甲斐敬太：心嚢液中にまリモ状集塊で見られた扁平上皮癌の 1 例. 細胞診合同勉強会. 2017, 10, 10. 抄録集.
93. 中村光男, 甲斐敬太：胸水中に認められた扁平上皮癌の 1 例. 好生館症例検討会. 2017, 11, 14. 抄録集.
94. 檜崎さやか, 甲斐敬太：GIST と鑑別を要した神経鞘腫の 1 例. 好生館症例検討会. 2017, 12, 12. 抄録集.

95. 村山賢一郎, 高橋宏和, 北島陽一郎, 磯田広史, 野下祥太郎, 窪津祥仁, 吉岡航, 秋山巧, 小野尚史, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三: 肝硬変における糖代謝異常と骨格筋の関連. 第 42 回九州代謝・栄養研究会. 2017, 3, 4. 外科と代謝・栄養 (0389 - 5564) 51 巻 4 号, Page202.
96. 前間真弓, 林章浩, 池田弘典, 椎島久美子, 相原秀俊, 井手貴雄, 北村浩晃, 島津倫太郎, 江口有一郎: 下咽頭癌に対する化学放射線療法時の粘膜障害に亜鉛および EPA 含有経腸栄養剤投与が有効であった一例. 第 42 回九州代謝・栄養研究会. 2017, 3, 4. 外科と代謝・栄養 (0389 - 5564) 51 巻 4 号, Page199.
97. 祖川倫太郎: アファチニブの副作用に対する遺伝子多型の影響について. SAGA Lung Cancer Seminar. 2017, 6, 23. 抄録集.
98. 祖川倫太郎: 髄膜炎の治療薬について. 第 11 回佐賀県病院薬剤師会感染症研修会. 2017, 6, 24. 抄録集.
99. 尾崎岩太, Guo Jing, Md Manirjjaman, 田中賢一, 夏京合, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子: 腫瘍抑制遺伝子 PDCD4 の発現抑制は培養肝癌細胞の老化を誘導する. 第 24 回肝細胞研究会. 2017, 6, 30 - 7, 1. プログラム・抄録集 p64.
100. 城圭一郎, 西岡憲一, 北嶋修司, 松久葉一, 河野友宏, 古関明彦, 副島英伸: マウス Commd1 と Zrsr1 のゲノムインプリンティング機構の研究. 第 11 回日本エピジェネティクス研究会年会. 2017, 5, 22 - 23. 講演要旨集.
101. 松久葉一, 秋吉俊明, 松尾完, 塩見雅志, 森本正敏, 北嶋修司: ウサギにおける効率的な受精卵作製の試み. 第 35 回動物生殖工学会. 2017, 12, 2. プログラム・抄録集 p29.
102. 徳山由佳: 佐賀大学における研究設備有効利活用促進のための取組. 第 35 回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会技術発表会. 2017, 11, 10. 第 35 回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会プログラム集, 26 頁.
103. 栗山恵輔: 総合分析実験センター機器分析部門鍋島地区の教育支援について. 平成 28 年度佐賀大学技術研究会. 2017, 2, 28. 平成 28 年度佐賀大学技術研究会発表要旨集, 20 頁.

外部資金

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
教授	副島英伸	科学研究費助成事業	基盤研究 C (代表)	着床後に確立する体細胞性インプリント DMR の確立制御因子の同定と分子機構の解明	1,690
教授	副島英伸	科学研究費助成事業	基盤研究 C (分担)	間葉性異形成胎盤の診断・管理指針作成に関する研究	700
教授	副島英伸	日本医療研究開発機構	難治性疾患実用化研究事業(病態解明研究)(分担)	胎児発育不全で新規同定した遺伝子変異機能解析:エピゲノム脆弱性を背景とする新たな疾患概念の提唱と世界初のエピゲノム編集技術による治療法開発	650
教授	副島英伸	日本医療研究開発機構	難治性疾患実用化研究事業(オミックス解析拠点)(分担)	希少難病の高精度診断と病態解明のためのオミックス拠点の構築	2,500
教授	副島英伸	日本医療研究開発機構	難治性疾患実用化研究事業(医薬品等開発(ステップ 0))(分担)	ヒストン修飾酵素異常にともなう DNA メチル化異常の治療薬探索と簡易診断法の開発	6,110
教授	副島英伸	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)(分担)	先天異常症候群領域の指定難病等の QOL の向上を目指す包括的研究	800
教授	副島英伸	厚生労働科学研究費補助金	成育医療研究開発費 (分担)	原因不明先天異常・産科異常の総合診断体系の構築	2,000
講師	西岡憲一	科学研究費助成事業	基盤研究 C (代表)	ポリコームサイレンシングを制御する新規タンパク質複合体の解析	1,200
助教	東元健	科学研究費助成事業	基盤研究 C (代表)	Sotos 症候群の治療基盤確立のためのモデルマウス樹立と発症メカニズムの解明	1,300
助教	東元健	群馬大学生体調節研究所共同利用・共同研究拠点共同研究	通常課題 (代表)	間葉性異形成胎盤 (PMD) におけるゲノムインプリンティングの役割	300
准教授	布村聡	科学研究費助成事業	基盤研究 C (代表)	Perionitin によるマスト細胞の活性化とその制御機構の解明	1,690
准教授	布村聡	ノバルティスファーマ研究助成 2017	(代表)	免疫系ヒト化マウスを用いた IL-33 誘導性気道炎症における発症機序の解析	500
助教	小川雅弘	科学研究費助成事業	若手研究 B (代表)	ペリオスチンを基盤とした間接性肺炎における線維化機序の解明と新規治療薬の開発	1,300

助教	小川雅弘	ノバルティスファーマ研究助成2017	(代表)	気管支喘息関連分子であるペリオスチンの遺伝子発現調節機構の解明	500
研究助教	南里康弘	ノバルティスファーマ研究助成2017	(代表)	ペリオスチンのシグナル伝達機構の解明によるアレルギー性炎症に対する治療基盤の構築	500
教授	吉田裕樹	科学研究費助成事業	基盤研究 C (代表)	IL-27 を産生する新規制御性 T 細胞の分化と生理的機能の解析	1,950
教授	吉田裕樹	内藤記念科学奨励金	平成29年度研究助成金 (代表)	IL-27 を産生する新規制御性 T 細胞の分化と生理的機能の解析	3,000
教授	吉田裕樹	日本医療研究開発機構	感染症研究革新イニシアティブ (J-PRIDE) (分担)	赤痢アメーバ“含硫脂質代謝”を標的とする阻害剤探索—全容解明と治療薬開発にむけて—	1,000
教授	吉田裕樹	科学研究費助成事業	基盤研究 B (分担)	ダメージ関連分子パターン受容体の神経障害性痛における役割	130
教授	吉田裕樹	科学研究費助成事業	基盤研究 B (分担)	マラリア原虫感染における新規抑制性細胞 T _H 27 の誘導機構と防御免疫制御機序の解明	585
准教授	三宅靖延	科学研究費助成事業	基盤研究 C (代表)	病原性真菌による免疫抑制受容体を介した宿主免疫回避機構の解明と治療応用	2,210
准教授	三宅靖延	武田科学振興財団	医学系研究奨励 (代表)	シアル酸分解酵素を標的とした歯周病治療法の開発	2,000
助教	見市 (三田村) 文香	科学研究費助成事業	新学術領域研究 (領域提案型) 「脂質クオリティが解き明かす生命現象」・公募研究 (代表)	腸管寄生原虫“脂肪酸代謝”の特殊性の解明—寄生適応戦略について—	4,810
助教	見市 (三田村) 文香	科学研究費助成事業	若手研究 B (代表)	赤痢アメーバ“シスト形成”の分子機構の解明	1,950
助教	見市 (三田村) 文香	日本医療研究開発機構	感染症研究革新イニシアティブ (J-PRIDE) (代表)	赤痢アメーバ“含硫脂質代謝”を標的とする阻害剤探索—全容解明と治療薬開発にむけて—	14,950
助教	見市 (三田村) 文香	持田記念医学薬学振興財団	平成 29 年度研究助成金 (代表)	寄生虫疾患の病原体である”赤痢アメーバ”の創薬標的分子探索	3,000
助教	見市 (三田村) 文香	内藤記念財団	第11 回内藤記念女性研究者研究助成金 (次年度) (代表)	新規抗赤痢アメーバ薬創生のための赤痢アメーバ“シスト形成”分子機構の解明	2,000
助教	見市 (三田村) 文香	平成29年度長崎大学熱帯医学研究拠点	一般共同研究 (代表)	赤痢アメーバ“シスト形成”の制御機構の解明	450

助教	見市（三田村）文香	科学研究費助成事業	基盤研究 C（分担）	運動誘発性オートファジーにおける運動中および運動後の脂質代謝亢進の役割	200
助教	倉田里穂	科学研究費助成事業	若手研究 B（代表）	新規ベータセプト病感受性遺伝子 TRIM39 における IFN 制御機構	1,300
准教授	井原秀之	科学研究費助成事業	基盤研究 C（代表）	コアフコースによる高度機能化バイオ医薬品の開発プラットフォームの構築	2,340
助教	岡田貴裕	科学研究費助成事業	若手研究 B（代表）	マクロファージの糖鎖抗原の発現変動に基づく新規 NASH バイオマーカーの探索	1,820
助教	岡田貴裕	ニッポンハム食の未来財団平成 29 年度公募型研究助成事業	個人研究助成（代表）	糖鎖生物学的アプローチによる果実のアレルゲン性発現メカニズムの解明	1,992
教授	城戸瑞穂	科学研究費助成事業	基盤研究 B（代表）	歯一歯肉付着上皮を標的とした歯周病制御	4,160
教授	城戸瑞穂	科学研究費助成事業	挑戦的萌芽（代表）	メカノセンサーを標的とした新たな口腔粘膜バリア薬開発	1,820
教授	城戸瑞穂	科学研究費助成事業	基盤研究 C（分担）	メカノセンサー制御による象牙質・歯髄複合体形成機序の解明	130
教授	城戸瑞穂	科学研究費助成事業	基盤研究 C（分担）	メカノセンサーを基盤とした歯の発生メカニズムの解明	130
教授	城戸瑞穂	科学研究費助成事業	基盤研究 C（分担）	メカノセンサーによるマウス口蓋形成制御	130
准教授	村田祐造	科学研究費助成事業	基盤研究 B（分担）	ダメージ関連分子パターン受容体の神経障害	130
助手	西山めぐみ	科学研究費助成事業	研究活動スタート支援（代表）	メカノセンサーチャネル活性化は骨形成を促進する。	1,430
教務員	本田裕子	科学研究費助成事業	基盤研究 C（代表）	メカノセンサーによるマウス口蓋形成制御	2,600
教務員	本田裕子	科学研究費助成事業	基盤研究 C（分担）	ヘアケラチン K8 の機能解析—なぜ K8 の遺伝子変異は貧毛症を引き起こすのか	390
准教授	石渡 洋一	科学研究費助成事業	基盤研究 (C)	強相関電子系物質ナノ結晶の金属絶縁体転移の基本特性の解明と応用可能性の探索	900, 000
教授	海野 雅司	科学研究費助成事業	基盤研究 (C)	ラマン円偏光二色性分光を基盤とした生体分子科学における新しい計測法の開拓	1, 700, 000

准教授	猪原 哲	科学研究費助成事業	基盤研究○	パルス高電圧印加を利用した温帯果樹の休眠打破技術の構築	1,800,000
准教授	森貞 真太郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	高分子修飾シリカ粒子からなる自己集積膜の構造制御とメゾレンズアレイへの展開	1,500,000
助教	佐藤 善紀	科学研究費助成事業	若手研究(B)	過酷な動的腐食環境における耐食性材料の寿命予測	1,400,000
教授	渡 孝則	科学研究費助成事業	基盤研究 (C)	赤外線を可視光へ変換するセラミック蛍光体の高変換メカニズムの解明	500,000
教授	大津 康德	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	低気圧高密度均一プラズマ源のためのネオ磁場配位型リングホロー磁化放電の新展開	900,000
教授	大和 武彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	カリックスアレーンを基盤とするピコレベルでの生体機能物質識別蛍光センサーの開発	1,400,000
教授	北村 二雄	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	フッ素化反応の原料転換を目指した新規フッ素化反応の開発	1,100,000
教授	花本 猛士	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	フルオロメチル基とジフルオロメチル基を有する有機分子の合成研究	800,000
特任講師	藤澤 知績	科学研究費助成事業	若手研究(B)	Raman 光学活性に基づく生体内反応の立体構造ダイナミクスの観測	800,000
准教授	山岡 禎久	科学研究費助成事業	基盤研究 (B) (繰越分)	皮膚再建評価のための 2 光子光音響法による深部微小血管可視化	1,060,095
准教授	山岡 禎久	科学研究費助成事業	基盤研究 (B)	皮膚再建評価のための 2 光子光音響法による深部微小血管可視化	2,200,000

(5) センター教職員による業績および外部資金

原著論文

著者名	題目	雑誌名,巻,号,頁
Wang C, Nishijima K, Kitajima S, Niimi M, Yan H, Chen Y, Ning B, Matsuhisa F, Liu E, Zhang J, Chen Y-E, Fan J	Increased hepatic expression of endothelial lipase inhibits cholesterol diet-induced hypercholesterolemia and atherosclerosis in transgenic rabbits.	Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology 37 (7): 12882–1289, 2017.
Eui Jae Sung, Masasuke Ryuda, Hitoshi Matsumoto, Outa Uryu, Masanori Ochiai, Molly E. Cook, Na Young Yi, Huanchan Wang, James W. Putney, Gary S. Bird, Stephan B. Shears, and Yoichi Hayakawa	Cytokine signaling through Drosophila Mthl10 ties lifespan to environmental stress	Proceedings of the National Academy of Sciences, 13786–13791(December 26, 2017), vol. 114, no. 52
Masasuke Ryuda, Miku Tabuchi, Hitoshi Matsumoto, Takashi Matsumura, Masanori Ochiai and Yoichi Hayakawa	A gene-driven recovery mechanism: Drosophila larvae increase feeding activity for post-stress weight recovery	Archives of Insect Biochemistry and Physiology, Vol. 97, Issue 3, (2018)
Sayaka Iizasa, Ei'ichi Iizasa, Keiichi Watanabe, Yukio Nagano	Transcriptome analysis reveals key roles of AtLBR-2 in LPS-induced defense responses in plants.	BMC Genomics 18:995 (2017)
Yukio Nagano, Takashi Mimura, Nobuhiro Kotoda, Ryoji Matsumoto, Atsushi J. Nagano, Mie N. Honjo, Hiroshi Kudoh, Masashi Yamamoto	Phylogenetic relationships of Aurantioideae (Rutaceae) based on RAD-Seq	Tree Genetics & Genomes 14:6 (2018)

招待講演・特別講演

発表者	題目	学会(会議等)名
北嶋修司、松久葉一、西島和俊、森本正敏	ウサギにおける生施工学技術の現状と今後の課題（シンポジウム「生施工学技術における問題点とその克服に向けて」）	第 51 回日本実験動物技術者協会総会
松久 葉一	精神的ストレスによる血小板機能変化	第 35 回九州実験動物研究会

一般講演

発表者	題目	学会(会議等)名
Chen Y, Nishijima K, Chen L, Niimi M, Kitajima S, Liang J, Fan J	Macrophage-derived MMP-9 Enhances the Arterial Calcification and Progression of Atherosclerosis in Transgenic Rabbits.	AHA Scientific sessions 2017.
Matsuhisa F, Akiyoshi T, Matsuo K, Morimoto M, Niimi M, Fan J, Kitajima S	Comparison of cryoprotectants for ultra-rapid vitrification (Cryotop method) in rabbit embryos.	The 7th International Meeting on Rabbit Biotechnology.
Nishijima K, Watanabe G, Kitajima S, Basaki K, Fukuda Y, Komatsu Y, Yano M, Obata T, Matsuo Y, Matsuda Y, Seki S	Effect of inhibin antiserum administration and vulva color on superovulation in rabbit.	The 7th International Meeting on Rabbit Biotechnology.
Wang C, Nishijima K, Kitajima S, Niimi M, Yan H, Chen Y, Ning B, Matsuhisa F, Liu E, Zhang J, Chen Y-E, Fan J	Increased hepatic expression of endothelial lipase inhibits cholesterol diet-induced hypercholesterolemia and atherosclerosis in transgenic rabbits.	The 7th International Meeting on Rabbit Biotechnology.
Xianghe X, Shiraki M, Kamohara A, Nishioka K, Matsuhisa F, Kitajima S, Kukita T, Kukita A	Pmepa1 induced by bone components in osteoclasts regulates bone resorption Pmepa1 is specifically induced and expressed in bone-resorbing osteoclasts and regulate its function.	ASBMR 2017 Annual meeting.
城圭一郎、西岡憲一、北嶋修司、松久葉一、河野友宏、古関明彦、副島英伸	マウス Zrsr1 DMR の転写は卵ではメチル化を起こすが、体細胞ではメチル化を起こさない	第 40 回日本分子生物学会
Niimi M, Nishijima K, Kitajima S, Matsuhisa F, Satoh K, Fan J	Macrophage-derived matrix metalloproteinase-1 accelerates aortic aneurysm formation in transgenic rabbits	第 49 回日本動脈硬化学会
松尾 完、松久葉一、秋吉俊明、西島和俊、森本正敏、北嶋修司	ウサギ精子の凍結保存における大豆由来分別レシチンの有用性について	第 35 回九州実験動物研究会総会
松久 葉一	精神的ストレスによる血小板機能変化(第 7 回若手勉強会)	第 35 回九州実験動物研究会
城圭一郎、西岡憲一、北嶋修司、松久葉一、河野友宏、古関明彦、副島英伸	マウス Commd1 と Zrsr1 のゲノムインプリンティング機構の研究	第 11 回日本エビジェネティクス研究会
松久葉一、秋吉俊明、松尾 完、塩見雅志、森本正敏、北嶋修司	ウサギにおける効率的な受精卵作製の試み	第 35 回動物生施工学研究会
白石将平, 猪原哲 北嶋修司, 松久葉一	パルス電界印加によるウサギ精子の先体反応の誘導	平成 30 年電気学会全国大会
白石将平, 猪原哲 北嶋修司, 松久葉一	パルス電界印加によるウサギ精子の先体反応の誘導	第 19 回静電気学会春期講演会
○兒玉宏樹 1、溝口拓人 2、廣松将平 2、鳥井翼 2、中田弘太郎 3 (1 佐賀大学 総合分析実験センター、2 佐賀大学 理工学部、3 電力中央研究所)	滴定三次元蛍光測定による逐次 pH 抽出フルボ酸の特性評価	日本腐植物質学会 第 33 回講演会(山口大学)
徳山由佳	佐賀大学における研究設備有効活用促進のための取組	第 35 回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会技術発表会. 2017, 11, 10. 第 35 回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会プログラム集, 26 頁.
栗山恵輔	総合分析実験センター機器分析部門鍋島地区の教育支援について	平成 28 年度佐賀大学技術研究会. 2017, 2, 28. 平成 28 年度佐賀大学技術研究会発表要旨集, 20 頁.
寺東宏明, 徳山由佳, 澤尻昌彦, 保田浩志	DNA damage and the repair induced by low dose rate ionizing radiation.	2017 年度生命科学系学会合同年次大会: 第 40 回日本分子生物学会年会・第 90 回日本生化学会大会
寺東宏明, 徳山由佳, 澤尻昌彦, 保田浩志	低線量率放射線によって生じる細胞内 DNA 損傷の動態	日本放射線影響学会第 60 回大会. 2017, 10, 25-28.
徳山由佳, 森加奈恵, 平山亮一, 古澤佳也, 寺東宏明	重粒子放射線の直接作用により生じる変異解析と DNA 損傷分析.	日本放射線影響学会第 60 回大会. 2017, 10, 25-28.
森加奈恵, 真瀬田幹生	佐賀大学における研究設備運営体制の強化に対する取組み	2017 年度機器・分析技術研究会 in 長岡. 2017, 8, 29-30

西山博稀, 松永貴志, 吉田祐紀, 猪原哲, 徳山由佳, 寺東宏明	水中キャビテーション・放電プラズマ併用型リアクタ装置の水処理効率の改善	一般社団法人電気学会プラズマ・パルスパワー・放電合同研究会環境浄化技術, 2017, 10, 25-27, 抄録集
西山博稀, 松永貴志, 吉田祐紀, 猪原哲, 寺東宏明, 徳山由佳	水中キャビテーション・放電プラズマ併用型リアクタ装置の効率改善	1. プラズマ・核融合学会九州・沖縄・山口支部 第21回支部大会, 2017, 12, 16-17, プラズマ核融合学会九州・沖縄・山口支部第21回支部大会研究発表論文集, 87頁.
大後撰・大塚悠河・龍田勝輔	昆虫に対する芳香族アミノ酸誘導体の影響	九州病害虫研究会(第95回研究発表会) 2018年2月1日 菊南温泉ユウベホテル
大塚悠河・龍田勝輔	ハスモンヨトウ幼虫の塩による摂食阻害効果の検証	九州病害虫研究会(第95回研究発表会) 2018年2月1日 菊南温泉ユウベホテル
永野幸生、石動丸文子、神田康三	多重溶原菌におけるファージ誘発パターンの NGS による測定	NGS 現場の会第五回研究会 仙台・2017 年 5 月 22 日-24 日
松隈公孝、中川利嗣、石本慶一郎、神園直史、山本俊哉、永野幸生、福田伸二	ビワの熟期に関する量的形質遺伝子座 (QTLs)	園芸学会平成 29 年度秋季大会 江別市・2017 年 9 月 2 日-4 日
山本ちひろ、三村高史、松本亮司、永野幸生	ウンシュウミカンにおける早生 1 品種とそれに由来する極早生 2 品種の DNA 比較	園芸学会平成 29 年度秋季大会 江別市・2017 年 9 月 2 日-4 日
永野幸生、三村高史、古藤田信博、松本亮司、永野惇、本庄三恵、工藤洋、山本雅史	ミカン亜科の分子系統解析	園芸学会平成 29 年度秋季大会 江別市・2017 年 9 月 2 日-4 日
岡部春菜、永野幸生	カンキツにおける DNA のメチル化が接ぎ木苗形質のばらつきに及ぼす影響	園芸学会平成 29 年度秋季大会 江別市・2017 年 9 月 2 日-4 日
永野幸生	最先端ゲノム研究が佐賀大学で実施可能です！	平成 29 年度園芸学会九州支部大会 (第 57 回大会) 佐賀市・2017 年 9 月 20 日-21 日
白川篤史、永野幸生、有馬進、松本雄一	キュウリ属の野生種における RAD-seq を用いた SNP 探索及び解析方法の検討	第 12 回九州育種談話会 佐賀市・2017 年 12 月 8 日

外部資金

代表者氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額(千円)
北嶋修司	科学研究費補助金	基盤 C(代表)	ウサギにおける生殖工学基盤技術の確立	1,300
北嶋修司	科学研究費補助金	基盤 B(分担)	遺伝子改変ウサギモデルによる動脈硬化の発生におけるアポ蛋白 CIII の機能解析	1,000
北嶋修司	共同研究		効率的なウサギ受精卵作製法	300
新地 姉理華	科学研究費助成事業	奨励研究	佐賀大学における作業環境測定の自社測定に向けての合理化の検討	310
兒玉宏樹	共同研究		鉄理論による藻場育成プランテーションシステムの試作開発	100
永野幸生	(公財)浦上食品・食文化振興財団研究助成事業(H28-H30)		日本における山椒利用の体系化 ―遺伝的分類による食味特性・官能特性の特徴づけと食文化的考察―	3,000
永野幸生	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI		体感！「ゲノム研究」	300
永野幸生	平成 29 年度 連合農学研究科先進的研究推進事業	分担	「黒麹菌・白麹菌 研究拠点形成」に向けた網羅的遺伝子発現解析とネットワーク構築	2,700

